

平成 30 年度
中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年 間 報 告 書

平成 31 年 3 月
環境省 中部地方環境事務所
中部環境パートナーシップオフィス
(運営受託：一般社団法人環境創造研究センター)

目 次

0. 業務概要	1
1. 業務実施計画の作成及び公表	7
1.1. 作成・確定した第 5 期事業目標・事業計画	7
1.2. 作成・確定した平成 30 年度業務実施計画	12
1.3. 運営会議における業務実施計画等についての協議	19
1.4. 業務実施計画等のウェブサイトへの掲載	19
2. 運営会議の設置・開催	21
2.1. EPO 中部運営会議	21
2.2. 中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議	24
2.3. 運営会議における協議事項の業務への反映	28
3. 基本業務	31
3.1. 情報の収集・蓄積・発信に関する業務	31
3.2. 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務	36
3.3. 施設の維持・管理	45
4. 協働取組の促進のための業務	47
4.1. 協働コーディネーター育成事業の発展的展開	47
4.2. 持続可能な地域・社会の構築に向けた中間支援機能との連携強化	71
5. 中部地方ESD活動支援センター運営業務	79
5.1. ESD 活動を支援するための情報共有等	79
5.2. ESD 活動の支援等(中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議の開催)	87
5.3. ESD のネットワーク形成に関する業務	87
6. SDGsをツールとした同時解決事業における地域支援事務局業務	97
6.1. 審査委員会の支援	97
6.2. 採択団体と審査委員との連携	98
6.3. 採択団体の伴走支援	100
6.4. 環境省及び全国支援事務局との連携	101
6.5. 加速化事業採択案件に対する照会等対応	101
7. 環境教育・学習拠点における「ESD推進」のための実践拠点支援業務	103
7.1. 業務概要	103
7.2. 主な業務内容	110
7.3. 評価と総括	129
8. 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	137
8.1. 実施概要	137
8.2. 実施結果	137
9. 関係主体との連携及び協働に関する業務	175
9.1. 中部地方環境事務所との打合せ	175
9.2. 中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等	179
9.3. 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター(全国・地方)のネットワーク確保・強化	181
10. 外部資金を活用した事業	183
10.1. グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト	183
10.2. 地球環境基金	188
10.3. 愛知県コーディネート業務	189
11. 今後に向けて	191
11.1. 課題の整理	191
11.2. 今後の展開	193

0. 業務概要

1) 業務の目的

持続可能な社会を構築するためには、国民、民間団体等が行う環境保全活動並びにその促進のための環境保全の意欲の増進及び環境教育が重要であり、これらの取組を効果的に進める上で協働取組が重要である。「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（以下「環境教育等促進法」という。）」第 19 条において、「国は、国民、民間団体等が行う環境保全等を効果的に推進するため、情報提供や助言、交流機会の提供等を行う拠点としての機能を担う体制の整備に努めること」とされており、同法第 7 条で定める国の方針により、環境省では、協働取組を構築・促進するための中核的な担い手として「環境パートナーシップオフィス（以下「EPO」という。）」を全国に設置し、事業を実施しているところである。

また、「我が国における持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム実施計画（以下「ESD 国内実施計画」という。）」では、ESD 活動に取り組む様々な主体が参画・連携し、地域 ESD 活動推進拠点（以下「地域 ESD 拠点」という。）の形成並びに地域が必要とする取組支援及び情報・経験の共有を可能とするネットワーク機能の体制として ESD 活動支援センター（全国・地方）を整備することとされており、「ESD 推進ネットワークの構築に向けて（平成 28 年 3 月 ESD 活動支援企画運営準備委員会 文部科学省 環境省）」において、地方 ESD 活動支援センターの運営には、EPO を活用することとされている。

本業務は、環境教育等促進法の規定する国の役割及び ESD 国内実施計画の規定する ESD 推進ネットワーク構築の役割を果たすため、全国の EPO・地球環境パートナーシッププラザ（以下「GEOC」という。）及び ESD 活動支援センター（全国・地方）のネットワークを活用しつつ、中部地域の特性・事情を踏まえて各種事業を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動等を活性化させること、及び ESD を一層推進させることを目的として実施した。

併せて、環境教育等促進法に定義する協働取組として本業務を実施することにより、協働取組のあり方を示すことを副次的な目的として実施した。

2) 業務の内容

中部環境パートナーシップオフィス（以下「EPO 中部」という。）には、主に①持続可能な社会の実現に向けた地域の協働取組モデルの創出・支援、②持続可能な社会の構築に向けた ESD・SDGs の推進、③地域における中間支援機能の強化、④環境教育等促進法の普及・促進、⑤情報の提供・相談対応等、の 5 つの役割が地域において期待されている。

EPO 中部の第 5 期事業（平成 30 年 4 月から平成 33 年 3 月まで）においては、「動機づけ」と「見える化」の視点を重視して、①協働コーディネーター育成事業の発展的展開、②地域における持続可能な地域・社会の構築に向けた中間支援機能との連携強化を図ることとしており、このために「中部地方の協働・ESD・SDGs（持続可能な開発目標）の活動支援に資するツールとシステムの構築」及び「活動の質と量を拡充する EPO 中部としての方策の確立」を達成目標とした。

今年度は第 5 期事業の初年度となることから、上記役割を踏まえた目標達成に向けて、第 5 期としての達成目標及びその方針を明確にした上で、必要な業務を実施した。

3) 実施業務

- (1) 業務実施計画等の作成
 - ①第5期事業目標・事業計画の作成
 - ②平成30年度業務実施計画の作成
- (2) 運営会議の設置・開催
 - ①EPO 中部運営会議 (8名)
 - ・開催準備及び取りまとめ
 - ・会議の開催・運営(3回)
 - ②中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議 (6名)
 - ・開催準備及び取りまとめ
 - ・会議の開催・運営(3回)
- (3) 基本業務
 - ①情報の収集・蓄積・発信に関する業務
 - ②相談対応及び対話の体制の構築に関する業務
 - ③施設の維持・管理
- (4) 協働取組の促進のための業務
 - ①協働コーディネーター育成事業の発展的展開
 - ・協働コーディネーターのPRツールの作成
 - ・活動評価システムの構築に向けた検証(スタディ:3地域各1事例)
 - ・協働コーディネーター連絡会の開催(3地域各1回)
 - ②持続可能な地域・社会の構築に向けた中間支援機能との連携強化
 - ・活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用
 - ・中間機能との連携強化のためのフォーラムの開催(3地域各1回:20名)
 - ・協働取組促進のワークショップの実施(1回、15名、講師1名、環境事務所)
- (5) 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務
 - ①ESD活動を支援するための情報共有等
 - ・基本業務
 - ・PRツール(「ESD/SDGsポイント」チェックリストを含む)の作成・公開
 - ・PRツールの作成のワーキンググループの開催(3回、専門家3名、EPO中部)
 - ②ESD活動の支援等(中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議の開催:別途計上)
 - ③ESDのネットワーク形成に関する業務
 - ・全国センター主催会議等への出席及び資料提供
 - 企画運営委員会(2回、半日、東京)
 - ESD活動支援センター全国・地方連絡会(3回、半日、東京、1名旅費支給)
 - ESD推進ネットワーク全国フォーラム(1回、1日、東京)
 - ・ESD推進のダイアログ(対話の場)の開催(3地域各1回:20名、ゲスト2名)
 - ・ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催(1回、50名、ゲスト3名、市内)
 - ④全国 ESD センターとの連携、地域 ESD 拠点登録支援等
 - ・全国 ESD センター及び地方 ESD 活動支援センターとの連携
 - ・地域 ESD 拠点登録支援等
- (6) SDGs をツールとした同時解決事業における地域支援事務局業務
 - ①審査委員会の支援
 - ・ヒアリング
 - ・審査委員会の実施補助:審査委員会の開催(1回、審査委員4名、名古屋)

- ②採択団体と審査委員との連携
 - ・採択団体（1団体）との連絡・調整
 - ・採択団体・審査委員との連絡会開催（1回、審査委員4名、採択現地）
- ③採択団体の伴走支援
- ④環境省及び全国支援事務局との連携
 - ・定期報告・照会等対応
 - ・会議等への出席
 - 成果取りまとめ会議への出席（2回、各半日、東京、1名分旅費支給）
 - キックオフ会合（1回、1日、東京）
 - 同時解決事業外部評価委員会（1回、半日、東京）
- ⑤加速化事業採択案件に対する照会等対応
- （7）環境教育・学習拠点における「ESD推進」のための実践拠点支援業務
 - ①支援対象拠点へのフォローアップ
 - ・支援対象拠点との連絡会の実施（3拠点各2回、プラットフォームメンバー6名）
 - ・支援対象拠点への伴走支援（1拠点以上）
 - プラットフォーム会議（2拠点各2回：上記連絡会と兼ねる）
 - 評価会議（2拠点各1回）
 - ②全国事務局との連携
 - ・全国事務局からの依頼等対応
 - 定期報告・照会等対応
 - 成果取りまとめ作業部会（3回、半日、東京2回、近畿1回、1名旅費支給）
 - 成果共有会への発表者の選定・派遣（1回、半日、東京、1名旅費支給）
 - ・アドバイザー・ボード会議へのアドバイザー選定・推薦
 - アドバイザー選定・推薦（1名：愛教大、大鹿先生）
 - アドバイザーとの情報共有
- （8）環境基本計画に沿った環境教育支援業務
 - ①対象地域の関係主体におけるSDGsの理解等に関する現状把握
 - 富山地域行政・企業等の施策・活動とSDGsの関連調査（20事例）
 - ②対象自治体等向け勉強会（ワークショップ）の実施
 - 勉強会（ワークショップ）の実施（2回、10名、講師1名、富山市内）
 - 事後調査の実施
- （9）年間業務報告書等の作成
 - ①年間報告書
 - ②四半期報告書

4) 業務の実施概要 (2019年3月25日時点)

仕様書業務項目	業務内容		実施・開催等の進行状況		
1 業務実施計画作成	1-1	第5期事業目標・事業計画の作成	作成済み		
	1-2	平成30年度業務実施計画の作成	作成済み		
2 運営会議	2-1	EPO中部運営会議の開催・運営【3回開催】	第1回:5/29	第2回:10/9	第3回:1/29
	2-2	中部ESD企画運営会議の開催・運営【3回開催】	第1回:5/15	第2回:10/2	第3回:2/12
3 基本業務	3-1	HP(EPO、ESD)の更新維持管理	適宜実施	アクセス数(ページビュー数): EPO270,699件/ESD10,444件	
	3-2	メールマガジンの作成・発行	適宜実施	毎月1回発行	
	3-3	リーフレットの作成・配布(印刷1,000部)	作成済み	配布部数:約600部	
	3-4	照会・相談対応	適宜実施	相談対応件数:計44件(広報依頼等含めた場合138件)	
	3-5	対話の体制の構築	適宜実施	来館利用件数:計149件(来館者数:290人) メール・電話の相談・問合せ件数:計119件	
	3-6	施設の維持・管理(事業想定日数:240日程度)	適宜実施	事業実施日数:計279日	
4 協働取組の促進のための業務	4-1	活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用	情報収集→作成・完成		
	4-2	協働コーディネーター連絡会の開催【3回開催】	第1回:8/5	第2回:10/5	第3回:1/15
	4-3	協働コーディネーターのあり方の検討	4-2連絡会開催と併せて検討→「地域循環共生圏づくり研究会(仮)」の立ち上げ検討へ		
	4-4	協働コーディネーターのPRツールの作成	4-5発表事例で作成・完成→2/22WSで配布・ウェブ掲載		
	4-5	活動評価システムの構築に向けた検証(協働コーディネーターを活用したケーススタディの実施)【北陸・東海・長野から各1事例以上】	北陸事例実施	長野事例実施	東海事例実施
	4-6	中間支援機能との連携強化のためのフォーラム(対話の場)の開催【北陸・東海・長野で各1回開催】	第1回:8/4	第2回:10/5	第3回:1/15
	4-7	協働取組促進のためのワークショップの実施【1回開催】	2/22開催		
5 中部地方ESD活動支援センター運営業務	5-1	PRツール(センターの取組成果及び中部のESD/SDGs活動のPR)の作成・公開	5-3WGでの検討をもとに5-2を掲載して作成→1/25ESDフォーラムで配布、ウェブ掲載		
	5-2	「ESD/SDGsポイント」チェックリスト(仮称)の作成	5-3作成WGで検討→完成したものを5-1に掲載		
	5-3	上記チェックリスト作成のための専門家(3名程度)によるワーキンググループ開催【3回開催】	第1回:6/28	第2回:9/21	第3回:12/18
	5-4	ESD推進のためのダイアログ(対話の場)の開催【北陸・東海・長野で各1回開催】	第1回:8/6	第2回:10/13-14	第3回:1/18
	5-5	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回開催】	1/25開催		
	5-6	全国ESDセンター主催会議、イベント等への出席、資料作成対応等	第1回連絡会:5/10	第2回:10/18	第3回:1/9 等
	5-7	全国ESDセンター等との連携(情報提供・交換、アンケート実施対応など)	適宜実施		
	5-8	地域ESD拠点登録支援等	適宜実施	今年度、新たに計4拠点が登録	

仕様書業務項目	業務内容		実施・開催等の進行状況		
6 「同時解決事業」における地域支援事務局業務	6-1	審査委員会の支援(ヒアリングの実施、審査委員会の実施補助)	ヒアリング:5/18に2件実施、審査会:5/30実施		
	6-2	採択団体及び審査委員との連携(採択団体との連絡・調整、採択事業の進行管理)	適宜実施		
	6-3	採択団体及び審査委員との連絡会の開催【1回開催】	10/4開催		
	6-4	採択団体の伴走支援、事業計画、月次報告、中間報告書・ロードマップ等の作成支援	適宜実施 ※月次報告(採択団体):7月~毎月作成支援		
	6-5	環境省及び全国支援事務局への月次報告の提出・照会対応	適宜実施 ※月次報告(EPO):7月~毎月提出		
	6-6	関連会議等(全国)への出席、資料作成対応【キックオフ1回、連絡会議2回、外部評価委員会1回】	キックオフ8/7 連絡会議①7/6	連絡会議②12/19	評価委員会1/30
	6-7	加速化事業採択案件に対する照会等対応	適宜実施 計2件の照会対応あり		
7 環境教育・学習拠点における「ESD推進」のための実践拠点支援業務	7-1	支援対象拠点1拠点への伴走支援	2拠点(高校生事業・揖斐川事業)の伴走支援を適宜実施		
	7-2	支援対象拠点との連絡会の開催、インタビュー調査等を実施【連絡会3拠点各2回開催】	①高校生:6/6 ①揖斐川:6/25 ①泰阜村:7/2	②高校生:12/17 ②揖斐川:12/10	②泰阜村:1/8
	7-3	プラットフォーム会議及び評価会議の開催(プラットフォーム会議は上記連絡会と兼ねる)【プラットフォーム会議2回、評価会議1回】	①高校生:6/6 ①揖斐川:6/25	②高校生:12/17 ②揖斐川:12/10	高校生:12/17 揖斐川:12/10
	7-4	全国事務局からの定期報告作成・提出、照会等対応	第1回報告:7/5	第2回報告:9/5	第3回報告:12/5
	7-5	成果物作成に係る作業部会への出席、成果とりまとめに係る作業対応【作業部会3回開催】	第1回:5/9	第2回:9/12	第3回:12/20
	7-6	成果共有会の発表者選定と資料作成対応【成果共有会1回開催】	成果資料作成→2/18成果共有会で発表		
	7-7	アドバイザー・ボード会議への中部アドバイザー選定・推薦、中部地域アドバイザーとの情報共有	大鹿先生(愛教大)を推薦し、情報共有を適宜実施		
8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	8-1	対象地域の関係主体におけるSDGsの理解等に関する現状把握【20事例】	調査実施→とりまとめ		
	8-2	対象自治体等向け勉強会(ワークショップ)の開催【2回開催】	第1回:10/10	第2回:11/15	
	8-3	勉強会参加者への事後調査	8-2参加者を対象に調査実施→とりまとめ		
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1	事務所担当官と業務の責任者として定期的な打合せ・報告、資料作成対応	適宜実施	打合せ:毎月1回実施(4月・3月は2回実施)	
	9-2	中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等	適宜実施	有識者ヒアリング	業務報告・自己評価シート作成→外部審査会:2/13
	9-3	GEOC主催の全国EPO連絡会議、そのほか関連会議への出席	連絡会議:第1回6/18-19、第2回1/31	ブロック会議:第1回10/17、第2回2/14	SDGs人材研修事業報告会2/17
10	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務		適宜実施		
11 外部資金を活用した事業	11-1	グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト	日本NPOセンターのスキームに則り、全て実施済み(報告書提出済み)		
	11-2	地球環境基金	説明会:10/25→報告書提出済み	中部ユース大会:12/9	
	11-3	愛知県コーディネート業務	愛知県の仕様書に則り、適宜実施→21件実施済み(規定20件)→報告書を規定通り提出		

1. 業務実施計画の作成及び公表

1.1. 作成・確定した第5期事業目標・事業計画

1.1.1. 第5期達成目標

中部地方の協働・ESD・SDGsの活動支援に資するツールとシステムを構築し、活動の質と量を拡充するEPO中部としての方策を確立します。

1.1.2. 方針

- ESD/SDGsの意義とビジョン及びEPO中部の役割等、協働促進のための情報発信を継続的にを行います。
- EPO中部独自の協働・ESD・SDGsの活動支援ツール・システムとなる
 - ① 「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用
 - ② 「活動評価システム(活動効果やSDGs要素を可視化するシステム)」の構築・検証
 - ③ 「EPO中部・協働コーディネーター」の活用展開
 - ④ 「ESD/SDGsポイント」チェックリスト・ツールの作成・活用に「動機付け」と「見える化」を視点として取り組みます。
- 地域づくり活動に対する活動主体や中間支援組織等のニーズや課題を抽出する機会・場づくりを行い、ニーズ・課題等をEPO中部の業務へフィードバックします。

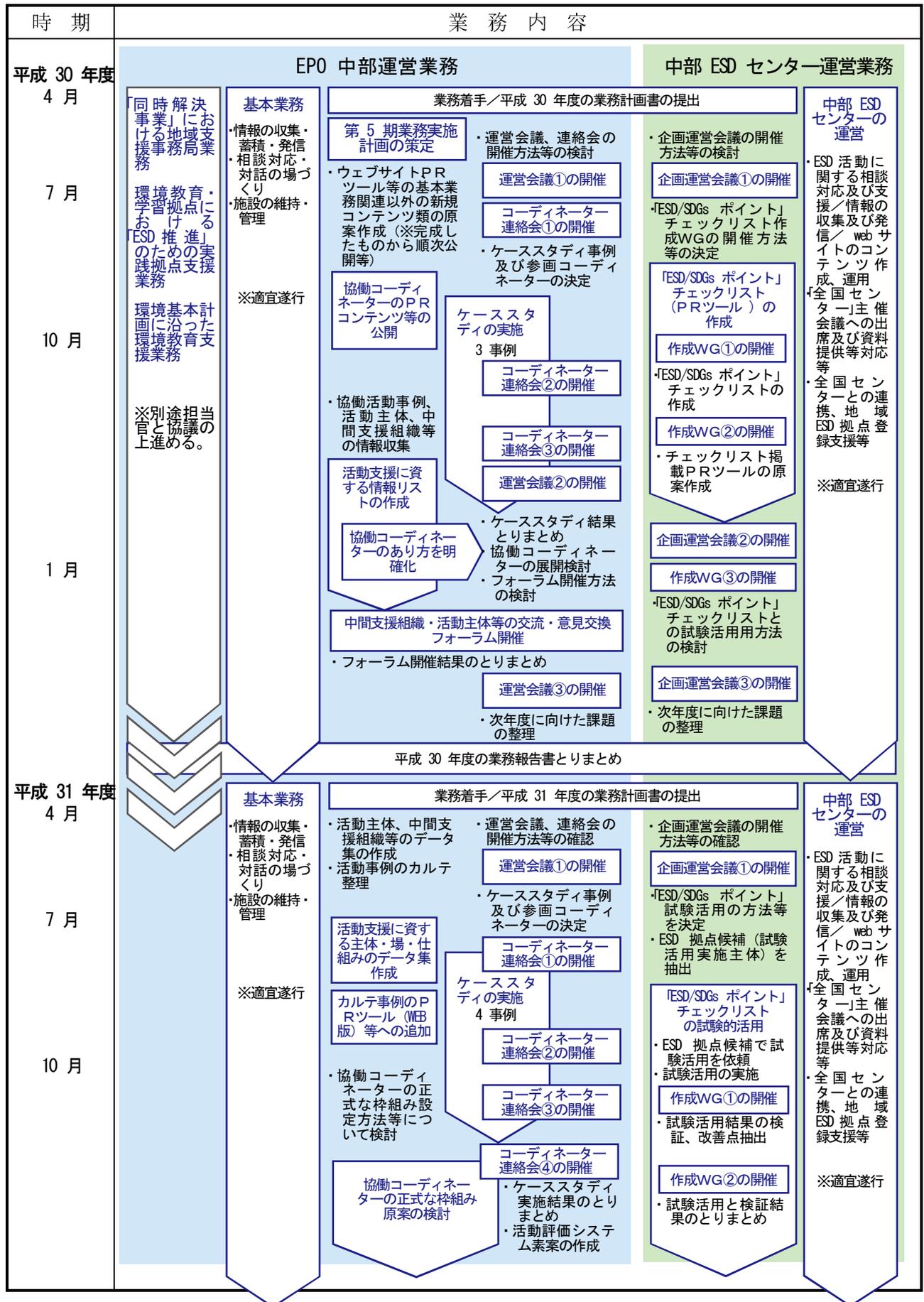
※ 上記①～④について、下記の「方針」に該当する場合は、末尾《 》内で記載している。

1.1.3. 3か年度（2018年度～2020年度）の目標、方針、事業

	目標	第4期までのEPO中部の蓄積を引き継ぎ、活用しながら、中部における協働促進のための拠点であるEPO中部のプレゼンス（存在感）を確保します。	
		方針	事業
平成30（2018）年度	● 従来の情報収集・情報発信に加えて、協働による取組みの効果・利点がアピールされる情報発信に取組ます。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動団体・活動事例及び協働コーディネーターの紹介・PRのためのコンテンツ・ツール（WEB及び印刷物）の作成。（※平成30年のみでなく第5期3年間継続して活動事例収集とPRコンテンツを作成・公開。） ・ 活動団体等の取組やお知らせが関係者以外にも広く認知されるよう、SNSなどの情報発信の展開方法について検討。
	● 協働コーディネーターを活用し、活動・協働の評価システム構築の素材・要素の抽出につなげるケーススタディを展開します。《②③》		<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働コーディネーターを活用したケーススタディを実施（※平成30・31年度の2年間で実施。）
	● 協働・ESD活動の支援に資する、中間支援組織などの主体、場、仕組み（制度）の把握を行います。《①》		<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間支援組織など活動支援に資する主体・場・仕組みの把握（リスト化を前提）。
	● その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働、ESD・SDGsに関連する活動主体や中間支援組織、協働コーディネーター及びEPO中部による交流と意見交換を目的としたフォーラムの開催。

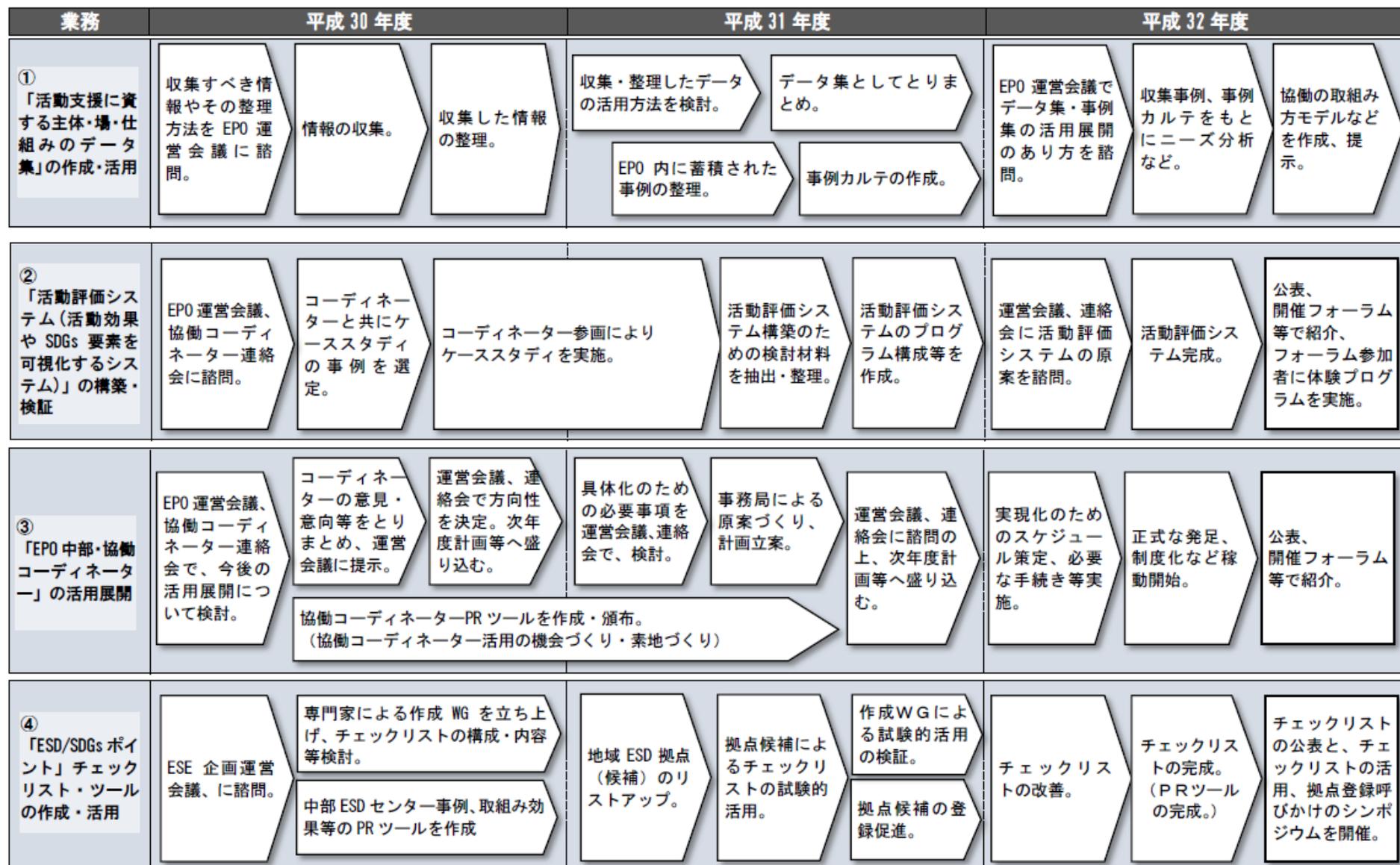
平成31 (2019) 年度	目標	中部における協働と ESD 及び SDGs の活動の拠り所、ポータルサイトとしての「EPO 中部」「中部 ESD センター」の有用性を確立します。	
		方針	事業
		<ul style="list-style-type: none"> ● 先進事例や中間支援組織など、協働及び、ESD・SDGs の取組の活動支援に資するデータ集を作成し、その活用のための仕組みづくりを行います。《①》 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度に作成した中間支援組織等のリストをもとに、ESD・SDGs 活動支援に資するデータ集の作成とそのデータベース化（関係団体・機関等の活用も念頭に）。
		<ul style="list-style-type: none"> ● EPO 中部の協働コーディネーターの正式な位置づけを明確化し、その体制整備の準備を進めます。《③》 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働コーディネーターの展開方策を決定し、その実現化に向けた原案づくりやスケジュール・計画等立案。
		<ul style="list-style-type: none"> ● 協働・SDGs の活動評価システム構築を目的としたケーススタディを展開し、評価方法やシステム構築方法等についての調査・研究を行います。《②》 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケーススタディを継続実施すると共に、協働コーディネーター参画のもと、協働・SDGs の活動評価システム構築に向けたケーススタディの検証作業を実施。
	<ul style="list-style-type: none"> ● その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり活動における支援ニーズや課題の抽出を目的とした「協働と ESD・SDGs 活動の効果・利点、及び、その“見える化”」をテーマにしたフォーラムを開催。 	
平成32 (2020) 年度	目標	協働・ESD 活動の質と量を拡充する EPO 中部の体制と機能を確認するため、活動支援と活動効果の明示化につながるシステムを構築します。	
		方針	事業
		<ul style="list-style-type: none"> ● 協働・ESD・SDGs の活動評価システムを構築・公開します。《②》 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度のケーススタディ検証結果をもとに、協働・ESD・SDGs の活動評価システムを構築。
		<ul style="list-style-type: none"> ● 「EPO 中部・協働コーディネーター」を正式な位置づけに基づく体制を発足させます。《③》 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働コーディネーターを EPO 中部として展開していくための体制等を構築・発足等し、公表。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動評価システムの完成、協働コーディネーター正式発足をお披露目するフォーラムを開催します。《②③》 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働・ESD・SDGs の活動評価システムと「EPO 中部・協働コーディネーター」の正式稼働、完成等を PR するフォーラムを開催。 ・フォーラムでは、活動評価システム体験会も併催。 	

1.1.4. 業務フロー



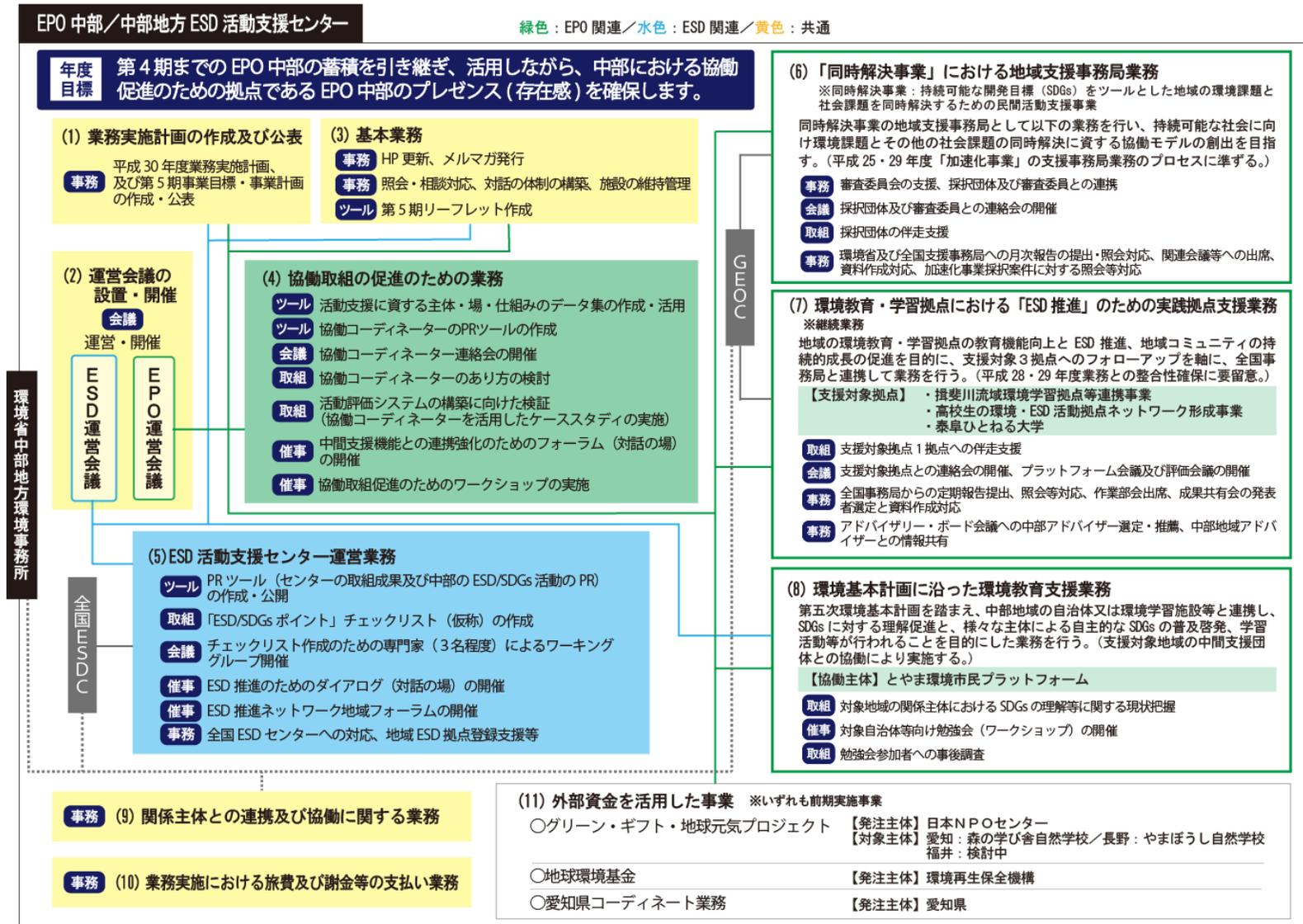
時 期	業 務 内 容	
平成 31 年度 1 月	<p style="text-align: center;">EPO 中部運營業務</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p>基本業務</p> <p>※適宜遂行</p> </div> <div style="width: 60%;"> <p>協働コーディネーターの正式な枠組み原案の検討</p> <p>・ 協働コーディネーター連絡会の検討結果など検討材料のとりまとめ</p> <p>・ フォーラム開催の企画検討</p> <p>協働コーディネーターとの交流フォーラム開催</p> <p>・ フォーラム開催結果のとりまとめ</p> <p>運営会議③の開催</p> <p>・ 次年度に向けた課題の整理</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>中部 ESD センター運營業務</p> <p>「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの試験的活用</p> <p>・ 「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの修正版原案の作成</p> <p>企画運営会議②の開催</p> <p>・ 次年度に向けた課題の整理</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">平成 31 年度の業務報告書とりまとめ</p>	<p style="text-align: center;">中部 ESD センター運營業務</p> <p>中部 ESD センターの運営</p> <p>※適宜遂行</p>
平成 32 年度 4 月 7 月 10 月 1 月	<p style="text-align: center;">業務着手/平成 32 年度の業務計画書の提出</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p>基本業務</p> <p>・ 情報の収集・蓄積・発信 ・ 相談対応・対話の場づくり ・ 施設の維持・管理</p> <p>※適宜遂行</p> </div> <div style="width: 60%;"> <p>協働コーディネーターの位置づけ等を正式に決定</p> <p>・ 協働コーディネーターの正式な位置づけのための作業</p> <p>活動評価システム構築作業</p> <p>・ 協働・SDGs 活動評価システムの完成に向けて作業を継続</p> <p>協働取組み方モデルの作成</p> <p>・ 中間支援組織に対するニーズの抽出・整理</p> <p>・ 活動団体に提示する協働の取組み方モデルの検討</p> <p>活動効果の見える化フォーラムの開催 (活動評価システムと協働コーディネーター制度の発表)</p> <p>・ フォーラム開催結果のとりまとめ</p> <p>運営会議③の開催</p> <p>・ 第 6 期展開に向けた課題の整理</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>企画運営会議①の開催</p> <p>・ 企画運営会議の開催方法等の確認</p> <p>「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの活用方法についての検討</p> <p>「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの完成</p> <p>・ 試験活用主体等に対し「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの活用と ESD 拠点登録の呼びかけ</p> <p>ESD シンポジウムの開催</p> <p>・ シンポジウム開催結果のとりまとめ</p> <p>企画運営会議③の開催</p> <p>・ 次年度に向けた課題の整理</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">平成 32 年度 (第 5 期) の業務報告書とりまとめ</p>	<p style="text-align: center;">中部 ESD センター運營業務</p> <p>中部 ESD センターの運営</p> <p>・ ESD 活動に関する相談対応及び支援/情報の収集及び発信/ web サイトのコンテンツ作成、運用</p> <p>・ 全国センター主催会議への出席及び資料提供等対応等</p> <p>・ 全国センターとの連携、地域 ESD 拠点登録支援等</p> <p>※適宜遂行</p>

第 5 期 3 か年における EPO 中部独自の協働・ESD・SDGs の活動支援ツール・システムの作成・構築の進め方



1.2. 作成・確定した平成 30 年度業務実施計画

1.2.1. 業務概要



環境省中部地方環境事務所

全国 ESD C

COMING

第 5 期 目標
中部地方の協働・ESD・SDGs の活動支援に資するツールとシステムと構築し、活動の質と量を拡充する EPO 中部としての方策を確立します。

1.2.2. 業務スケジュール

仕様書業務項目	業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 業務実施計画の作成及び公表	1-1 第5期事業目標・事業計画の作成	富田	作成	■エ・◆イ① 運営会議への提示	修正等→公開										
	1-2 平成30年度業務実施計画の作成	富田			リフレットへ反映										
2 運営会議の設置・開催	2-1 EPO中部運営会議の開催・運営【3回開催】	富田、原、清本	調整等	■第①回運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開		調整等		■第②回運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開	調整等		■第③回運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開	
	2-2 中部ESD企画運営会議の開催・運営【3回開催】	富田、原、清本	調整等	◆第①回運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開		調整等		◆第②回運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開	調整等		◆第③回運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開	
3 基本業務	3-1 HP(EPO, ESD)の更新維持管理	富田	前期までのフォーマット等に則り、月2回以上の更新を適宜実施												
	3-2 メールマガジンの作成・発行	富田	前期までのフォーマット等に則り、月1回以上の配信を適宜実施												
	3-3 リフレットの作成・配布	富田、原	構成案等を作成	運営会議に諮る	第5期計画を掲載した原稿作成		印刷→完成・公開	②運営会議に報告		適宜配布					
	3-4 照会・相談対応	富田、原、清本	適宜実施し、記録及び報告												
	3-5 対話の体制の構築	富田、原、清本	適宜実施し、記録及び報告												
	3-6 施設の維持・管理	富田	適宜実施												
4 協働取組の促進のための業務	4-1 活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用	富田、小松		構成案等を作成	データ収集・整理(リスト化)					収集情報の活用方法・発信方法等の検討					
	4-2 協働コーディネーター連絡会の開催【3回開催】	富田、小松		調整等	★第①回コーディネーター連絡会開催	コーディネーターのあり方の意見等整理		★第②回コーディネーター連絡会開催		★第③回コーディネーター連絡会開催					
	4-3 協働コーディネーターのあり方の検討	原、富田	検討方法の提示案等作成							次年度展開案等のとりまとめ					
	4-4 協働コーディネーターのPRツールの作成	富田、原		■エ①運営会議に諮る	構成概要等を作成	★①コーディネーター連絡会に提示		★②コーディネーター連絡会で報告	■エ②運営会議に報告・諮問等	■エ③運営会議に報告等					
	4-5 活動評価システムの構築に向けた検証(協働コーディネーターを活用したケーススタディの実施)【北陸・東海・長野から各1事例以上】	原、富田	実施企画案等を作成		ケーススタディ実施に向けた調整	ケーススタディ実施				フォーラム発表事例・ケーススタディ事例の原稿作成					
	4-6 中間支援機能との連携強化のためのフォーラム(対話の場)の開催【北陸・東海・長野で各1回開催】	富田、小松	各開催概要案等を作成		調整・準備	フォーラム1開催	調整・準備	フォーラム2開催		調整・準備	フォーラム3開催				
	4-7 協働取組促進のためのワークショップの実施【1回開催】	富田、原			※各フォーラム等の参加者アンケート→集計とりまとめ					調整・準備	WS開催				
5 中部地方ESD活動支援センター運営業務	5-1 PRツール(センターの取組成果及び中部のESD/SDGs活動のPR)の作成・公開	富田		構成案等を作成	WG②で検討			◆イ②会議に報告・諮問等	チェックリスト項目案、PRツール掲載原稿案を作成	WG③で確認			次年度の活用展開方法の検討		
	5-2 ESD/SDGsポイント「チェックリスト(仮称)」の作成	原	実施企画案等を作成		チェックリスト作成の進め方の整理	WG①で検討	方向性を整理								
	5-3 上記チェックリスト作成のための専門家(3名程度)によるワーキンググループ開催【3回開催】	原、小松		◆イ①運営会議に諮る		WG①開催		WG②開催		WG③開催					
	5-4 ESD推進のためのダイアログ(対話の場)の開催【北陸・東海・長野で各1回開催】	富田、小松	開催概要案等を作成		調整・準備	ダイアログ①開催	調整・準備	ダイアログ②開催		調整・準備	ダイアログ③開催				
	5-5 ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回開催】	富田、小松							調整・準備	フォーラム開催					
	5-6 全国ESDセンター主催会議、イベント等への出席、資料作成対応等	原、富田	適宜対応												
	5-7 全国ESDセンター等との連携(情報提供・交換、アンケート実施対応など)	原、富田	適宜対応												
	5-8 地域ESD拠点登録支援等	原、富田	適宜対応												

仕様書業務項目	業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
6 「同時解決事業」における地域支援事務局業務	6-1 審査委員会の支援(ヒアリングの実施、審査委員会の実施補助)	富田		ヒアリング実施 →とりまとめ	審査委員会の実施		★第①回コーディネーター連絡会開催		フォーラム2開催		※■エ: EPO中部連 ※★コ: 協働コーディネーター連絡会開催 ※丸数字: 第〇会	★第③回コーディネーター連絡会開催	中部ESD企画運営会議の略			
	6-2 採択団体及び審査委員との連携(採択団体との連絡・調整、採択事業の進行管理)	富田			採択団体決定	適宜対応										
	6-3 採択団体及び審査委員との連絡会の開催【1回開催】	富田				連絡会の開催について中部地方環境事務所、審査員と確認・調整			連絡会の開催							
	6-4 採択団体の伴走支援、事業計画、月次報告、中間報告書・ロードマップ等の作成支援	富田					採択団体の伴走支援(事業計画、月次報告、中間報告書、中期ロードマップ、事業報告書等の作成支援)を適宜実施									
	6-5 環境省及び全国支援事務局への月次報告の提出・照会対応	富田					適宜対応									
	6-6 関連会議等(全国)への出席、資料作成対応【キックオフ会1回、連絡会議2回、外部評価委員会1回】	富田						キックオフ会合への出席	※その他進捗のための連絡会議(2回)への出席				中間報告書の作成	提出	外部評価委員会への出席	
	6-7 加速化事業採択案件に対する照会等対応	富田				適宜対応										
7 環境教育・学習拠点における「ESD推進」のための実践拠点支援業務	7-1 支援対象拠点1拠点への伴走支援	新海、清本		適宜対応												
	7-2 支援対象拠点との連絡会の開催、インタビュー調査等を実施【連絡会3拠点各2回開催】	新海、清本			連絡会開催	インタビュー調査等			連絡会開催	インタビュー調査等						
	7-3 プラットフォーム会議及び評価会議の開催(プラットフォーム会議は上記連絡会と兼ねる)【プラットフォーム会議2回、評価会議1回】	新海、清本			プラットフォーム会議1				プラットフォーム会議2			評価会議				
	7-4 全国事務局からの定期報告作成・提出、照会等対応	新海、清本			進捗報告書の作成	提出	進捗報告書の作成	提出	進捗報告書の作成	提出						
	7-5 成果物作成に係る作業部会への出席、成果とりまとめに係る作業対応【作業部会3回開催】	新海、清本	編集方針、成果物の構成を報告		編集会議①	中間成果作成	編集会議②	中間成果作成	編集会議③							
	7-6 成果共有会の発表者選定と資料作成対応【成果共有会1回開催】	新海、清本									発表者選定資料作成対応		成果共有会			
	7-7 アドバイザー・ボード会議への中部アドバイザー選定・推薦、中部地域アドバイザーとの情報共有	新海、清本			アドバイザー選定・推薦、情報共有											
8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	8-1 対象地域の関係主体におけるSDGsの理解等に関する現状把握【20事例】	原、清本		協働団体と業務の進め方、調査方法等の検討	対象地域の関係主体におけるSDGsの理解等に関する現状把握調査の実施											
	8-2 対象自治体等向け勉強会(ワークショップ)の開催【2回開催】	原、清本			協働団体と勉強会の開催方法等について検討	調整等	勉強会1開催	調整等	勉強会2開催							
	8-3 勉強会参加者への事後調査	原、清本								事後調査の実施						
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1 事務所担当官と業務の責任者として定期的な打合せ・報告、資料作成対応	富田、原、清本	適宜対応(原則月1回以上の打合せを実施)													
	9-2 中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等	富田、原、清本	適宜対応													
	9-3 GEOC主催の全国EPO連絡会議、そのほか関連会議への出席	富田、原、清本	適宜対応													
10 業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務	富田、小松	適宜対応														
11 外部資金を活用した事業	11-1 グリーン・ギフト・地球元氣プロジェクト	清本	日本NPOセンターのスキームに則り、適宜実施													
	11-2 地球環境基金	清本、富田	2018年度中に実施される基金及び申請に関する説明会の開催支援、ユース大会開催支援													
	11-3 愛知県コーディネート業務	清本、原	愛知県の仕様書に則り、適宜実施													

1.2.3. 定量的な達成目標の設定及び役割分担

1.2.3.1. 達成目標の設定

仕様書業務項目	業務内容	直接アウトプット(事業でコントロール可能なアウトプット)			目標アウトプット(状況により変動の可能性のあるアウトプット) 参加者(数)、対象者(数)など	備考
		催事・発信	コンテンツ	システム		
1 業務実施計画の作成及び公表	1-1 第5期事業目標・事業計画の作成	EPO中部HP、中部地方ESDセンターHP掲載	第5期の業務実施計画(案)			
	1-2 平成30年度業務実施計画の作成	EPO中部HP、中部地方ESDセンターHP掲載	平成30年度の業務実施計画(案)			
2 運営会議の設置・開催	2-1 EPO中部運営会議の開催・運営【3回開催】	EPO中部運営会議(3回) (中部地方環境事務所会議室を想定)	資料、議事録		NPO/NGO、行政、企業等様々な主体8名の委員より適切なご意見をいただく。	
	2-2 中部ESD運営会議の開催・運営【3回開催】	E中部ESD運営会議(3回) (中部地方環境事務所会議室を想定)	資料、議事録		NPO/NGO、行政、企業等様々な主体6名の委員より適切なご意見をいただく。	
3 基本業務	3-1 HP(EPO、ESD)の更新維持管理	EPO中部HP(http://www.epo-chubu.jp) 中部地方ESDセンターHP(http://chubu.esdcenter.jp/)	更新情報ページ(月2回以上)		不特定閲覧者によるアクセス(EPO 244,000件程度、ESD600件程度)	目標アウトプットは過去の実績を参考に設定
	3-2 メールマガジンの作成・発行	メール	メールマガジン		メールマガジン登録者への発信(800人程度)	目標アウトプットは過去の実績を参考に設定
	3-3 リーフレットの作成・配布		リーフレット(A4フルカラー、1,000部)		不特定多数への配布 留め置き、送付	
	3-4 照会・相談対応	面談、電話、メール	照会・相談の記録簿等		不特定多数への対応(年間EPO500件程度、内ESD130件程度)	目標アウトプットは過去の実績を参考に設定
	3-5 対話の体制の構築	地域の各種協議会や地域活動等	参加報告		地域の各種協議会や地域活動等へのEPO/ESDスタッフの参加(12回程度)	月1回程度
	3-6 施設の維持・管理	EPO中部事務所の年間を通した維持、指定時間の開場				
4 協働取組の促進のための業務	4-1 活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用	EPO中部HP(http://www.epo-chubu.jp)	協働・ESD・SDGs活動支援材料(主体・場・仕組み(制度)抽出整理結果(支援情報リスト)	支援情報リストを活用したシステムSNS(プロトタイプ)		
	4-2 協働コーディネーター連絡会の開催【3回開催】	協働コーディネーター連絡会(北陸・東海・長野の各地域において各1回、3時間程度想定)	連絡会実施記録			
	4-3 協働コーディネーターのあり方の検討		協働コーディネーターの在り方の指針案検討結果		(協働コーディネーターの在り方の指針案)	
	4-4 協働コーディネーターのPRツールの作成		協働コーディネーターのPRツール		不特定多数への配布のため留め置き、送付	
	4-5 活動評価システムの構築に向けた検証(協働コーディネーターを活用したケーススタディの実施)【北陸・東海・長野から各1事例以上】	活動支援プログラム・ケーススタディ現場3地域(北陸、東海、長野)	ケーススタディ実施記録		SDGs活動評価システム(プロトタイプ)	
	4-6 中間支援機能との連携強化のためのフォーラム(対話の場)の開催【北陸・東海・長野で各1回開催】	フォーラム(北陸・東海・長野の各地域において各1回)	フォーラム開催記録		中間支援組織、活動主体、協働コーディネーター、各回20名程度	目標アウトプットは仕様書による
	4-7 協働取組促進のためのワークショップの実施【1回開催】	ワークショップ1回以上(1回4時間)	ワークショップ成果、実施記録		協働取組に関心のある行政、企業、NPO/NGO等 各回15名程度	目標アウトプットは仕様書による
5 中部地方ESD活動支援センター運営業務	5-1 PRツール(センターの取組成果及び中部のESD/SDGs活動のPR)の作成・公開		ESDセンターの取組成果・中部のESD/SDGs活動PRツール(部)			
	5-2 ESD/SDGsポイントチェックリスト(仮称)の作成		「ESD/SDGsポイント」チェックリスト(仮称)記入票	「ESD/SDGsポイント」チェックリスト(仮称)		
	5-3 上記チェックリスト作成のための専門家(3名程度)によるワーキンググループ開催【3回開催】	ワーキンググループ開催(3回程度、EPO中部オフィスを想定)	ワーキンググループ実施記録			
	5-4 ESD推進のためのダイアログ(対話の場)の開催【北陸・東海・長野で各1回開催】	ダイアログ開催(北陸・東海・長野の各地域において各1回以上)	ダイアログ開催記録		関係者 各20名程度の参加	目標アウトプットは仕様書による
	5-5 ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回開催】	ESD推進ネットワーク地域フォーラム開催(1回)	フォーラム開催記録		一般市民 50名程度の参加	目標アウトプットは仕様書による
	5-6 全国ESDセンター主催会議、イベント等への出席、資料作成対応等					
	5-7 全国ESDセンター等との連携(情報提供・交換、アンケート実施対応など)	全国センターとの電話や会合での情報交換	全国センター年次アンケート回答			
	5-8 地域ESD拠点登録支援等	面談、電話、メール	支援記録		ESD活動実践拠点登録新たに8拠点程度	目標アウトプットは地方センターに実績を参考に設定

仕様書業務項目	業務内容		直接アウトプット(事業でコントロール可能なアウトプット)			目標アウトプット(状況により変動の可能性のあるアウトプット)	備考
			催事・発信	コンテンツ	システム		
6 「同時解決事業」における地域支援事務局業務	6-1	審査委員会の支援(ヒアリングの実施、審査委員会の実施補助)	面談(電話)	応募団体へのヒアリング結果		参加者(数)、対象者(数)など 審査委員会への説明	
	6-2	採択団体及び審査委員との連携(採択団体との連絡・調整、採択事業の進行管理)	同時解決事業審査委員会	議事録			
	6-3	採択団体及び審査委員との連絡会の開催【1回開催】	現場における連絡会(1回)	進捗状況共有、助言記録		採択団体、審査委員の参加による情報交換	
	6-4	採択団体の伴走支援、事業計画、月次報告、中間報告書・ロードマップ等の作成支援	伴走支援(面談、電話、メール)	作成支援による事業計画、月次報告、中間報告、中期ロードマップ、事業報告書		採択団体のプロジェクト進行	
	6-5	環境省及び全国支援事務局への月次報告の提出・照会対応	メール、電話による照会対応				
	6-6	関連会議等(全国)への出席、資料作成対応【キックオフ会合1回、連絡会議2回、外部評価委員会1回】	全国採択団体会合【キックオフ会合1回、連絡会議2回、外部評価委員会1回】	依頼資料			
	6-7	加速化事業採択案件に対する照会等対応	電話、メールによる助言・進捗確認				
7 環境教育・学習拠点における「ESD推進」のための実践拠点支援業務	7-1	支援対象拠点1拠点への伴走支援	伴走による助言、対応など	伴走支援記録		対象拠点のプロジェクト進行	
	7-2	支援対象拠点との連絡会の開催、インタビュー調査等を実施【連絡会3拠点各2回開催】	支援対象拠点連絡会(2回×3地域)	調査結果		支援対象拠点(3地域)の参加による情報交換等	
	7-3	プラットフォーム会議及び評価会議の開催(プラットフォーム会議は上記連絡会と兼ねる)【プラットフォーム会議2回、評価会議1回】	プラットフォーム会議(支援対象拠点連絡会と兼ねる)2回、評議会1回			支援対象拠点(3地域のうち1地域選定)の参加による情報交換等	
	7-4	全国事務局からの定期報告作成・提出、照会等対応	電話、メールによる対応	全国事務局様式定期報告			
	7-5	成果物作成に係る作業部会への出席、成果とりまとめに係る作業部会【作業部会3回開催】	成果物作成作業部会参加(3回程度(東京都内2回、近畿地方1回))				
	7-6	成果共有会の発表者選定と資料作成対応【成果共有会1回開催】	成果共有会参加(1回)	発表者資料		対象成果発表者の発表	
	7-7	アドバイザー・ボード会議への中部アドバイザー選定・推薦、中部地域アドバイザーとの情報共有	アドバイザー・ボード会議参加			中部地域アドバイザー選定	
8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	8-1	対象地域の関係主体におけるSDGsの理解等に関する現状把握【20事例】		現状把握報告書		20事例程度の現状把握	目標アウトプットは仕様書による
	8-2	対象自治体等向け勉強会(ワークショップ)の開催【2回開催】	自治体向け勉強会(WS)を2回以上(富山県内)	WS開催記録		SDGsの理解促進に関心の高い自治体・企業の職員(10名程度想定)	目標アウトプットは仕様書による
	8-3	勉強会参加者への事後調査		職務(活動)への効果・影響、主体的学び発信への展開等、事後調査結果			
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1	事務所担当官と業務の責任者として定期的な打合せ・報告、資料作成対応	定期打合せ(月1回以上)	毎月の業務報告 環境省担当官の要望に応じた資料			
	9-2	中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等	全国EPO連絡会議、その他の進行管理会議・調整会議				
	9-3	GEOC主催の全国EPO連絡会議、そのほか関連会議への出席					
10	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務						
11 外部資金を活用した事業	11-1	グリーン・ギフト・地球元氣プロジェクト					
	11-2	地球環境基金					
	11-3	愛知県コーディネート業務					

1.2.3.2. 関係者の抽出（役割分担／プロジェクト個票の作成）

- 業務着手にあたり、フォーラム開催や活動評価システムの構築、「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの作成などの 11 の業務（プロジェクト）について、登壇者等の関係者の抽出とその役割分担、プログラム等実施内容などのプロジェクト個票を作成した。

【主なプロジェクト個票①：活動評価システム構築に向けた検証】

<p>個票No.4-5 平成 30 年度計画 ツール 会議 ■取組 催事 事務 ■EPO 中部 □ESD 活動支援センター</p>			
分類	4 協働取組の促進のための業務		
プロジェクト	活動評価システムの構築に向けた検証（協働コーディネーターを活用したケーススタディの実施）		
	表番号	業務内容	
	4-5	活動評価システムの構築に向けた検証（協働コーディネーターを活用したケーススタディの実施）	
仕様内容	協働・ESD・SDGs に関連する活動効果や活動における SDGs 要素を可視化する活動評価システムの構築に向けて、協働コーディネーターを活用したケーススタディ（協働コーディネーター参画による活動支援プログラム）を実施し、要素・材料の抽出と整理を行う。なお、ケーススタディの事例は、北陸・東海・長野の各地域から 1 事例以上選定すること。		
計画概要	協働・SDGs 活動評価システム構築のための事例・素材の集積を目的に、具体的なケーススタディとなる事例を協働コーディネーターからの紹介により北陸・東海・長野の各地域から各 1 事例を選定する。協働コーディネーター参画による活動支援プログラムとして対象事業を明示化する議論システムを活動評価のシステムとして構築し、ケーススタディを実施してシステムを検証する。検証の結果コーディネーターの専門家としての視点、活動者としての目線から得られる評価システム構築に向けた検討材料の抽出・整理を行う。		
関係者	協働コーディネーター、ケーススタディの対象となる取組み団体・個人		
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>ケーススタディにおいては、中部大学中部高等学術研究所が考案した「流域活動 SD 分析法」を元にした汎用型の「環境活動 SD 評価分析法」を構築し検証する。既存資料からキーワードを用いて活動要素を抽出し「SD 分析チャート」上で関連を可視化するとともに、活動当事者との熟慮により活動コンセプトを言語化して活動意義を明示する「持続可能性もがたり」（SD ストーリー）を作成する。そして団体の活動の中で参加者に SD ストーリーを伝えてもらうことにより、効率的な ESD 展開を図るシステムを構築する。</p> <p>具体的には、評価分析で 4 つの過程を踏むことにより、客観的、合理的に環境活動の可視化を行う。その際、熟慮の場として、客観性の向上と、活動当事者との合意形成を目的とした 2 回のワークショップを組み込む。また当事者が SDGs の評価結果として活動意義を参加者に説明するための「活動が持続可能性に貢献している物語（SD ストーリー）」を作成する。これらを組合せて ESD 教材とし、活動当事者が参加者に対して説明する際の資料とし、関係者のみならず、一般参加の市民や子供たちに持続可能性における活動意義を伝えることで ESD 展開を効率的に行う。</p>		
	<p>使用する可視化ツール 分析検討シート 分析構造チャート SDストーリー様式</p>		
備考	次年度からの ESD 取組み団体、組織、個人などを対象とした活用を想定する。		
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム
	活動支援プログラム・ケーススタディ現場 3 地域（北陸、東海、長野）	ケーススタディ実施記録	SDGs 活動評価システム（プロトタイプ）
			参加者（数）、対象者（数）

【主なプロジェクト個票②：「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト作成】

個票No.5-2、5-3

平成30年度計画 ■ツール ■会議 取組 催事 事務

□EPO 中部 ■ESD 活動支援センター

分類	5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務																																						
プロジェクト	「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）作成とワーキンググループ開催																																						
	表番号	業務内容																																					
	5-2	ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）作成																																					
	5-3	上記チェックリスト作成のための専門家（3名程度）によるワーキンググループ開催																																					
仕様内容	中部地方 ESD センターの取組成果及び中部の ESD/SDGs 活動の周知を目的とした PR ツールには「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）を掲載し、ESD 活動実践者等の活動の可視化を促進する。PR ツール作成のため、専門家（3名想定）を含めたワーキンググループを開催する（3回程度、EPO 中部オフィスを想定）。																																						
計画概要	<p>○「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）</p> <p>ESD 活動実施団体が自らの活動を振り返り、チェックして、SDGs に対する立ち位置を確認できるアンケート形式の記入票を想定する。活動主体自らが記入することにより、ESD 活動の意義を再確認することで効果的な活動の方向性を見出すとともに、自律性、関係性、有能感の刺激する動機づけにより、活動意欲の増進を促す。</p> <p>○ワーキンググループの開催</p> <p>ESD と SDGs の研究に携わる研究機関の専門家に依頼する。現場に即した具体的な議論を行っていただくこととし、実用性の高いツールとシステムの構築を目指す。</p>																																						
関係者	ワーキンググループメンバー案（運営委員会メンバーの関係者等から選定） 例）中部大学国際 ESD センター 准教授：古澤礼太、講師：景浦順子、研究員：川村信也																																						
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>○「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）イメージ</p>  <p>ESD活動の概要</p> <p>活動者・団体名: ○○水辺の会 環境守(かんきょうまもる)</p> <p>活動内容 ○○の水辺観察活動を通じて参加者に自然保護の大切さを考えてもらう活動を行っている。</p> <p>ESD活動分野とSDGsへの貢献</p> <p>17の目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標の現状</th> <th>今後の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1. 貧困撲滅</td><td></td></tr> <tr><td>2. 飢餓・食料</td><td></td></tr> <tr><td>3. 健康・福祉</td><td></td></tr> <tr><td>4. 教育</td><td>小中学校に参加してもらっている</td></tr> <tr><td>5. ジェンダー</td><td>高校生にリーダーになってもらいたい</td></tr> <tr><td>6. 水利用</td><td>水辺の保護の重要性を感してもらっている</td></tr> <tr><td>7. エネルギー</td><td></td></tr> <tr><td>8. 経済雇用</td><td></td></tr> <tr><td>9. インフラ等</td><td></td></tr> <tr><td>10. 国内外公正</td><td></td></tr> <tr><td>11. 都市</td><td></td></tr> <tr><td>12. 生産、消費</td><td></td></tr> <tr><td>13. 気候変動</td><td></td></tr> <tr><td>14. 海洋・海洋資源</td><td>海につながっていると感じてほしい</td></tr> <tr><td>15. 陸域自然</td><td>水辺周りの自然の観察</td></tr> <tr><td>16. 平和</td><td></td></tr> <tr><td>17. パートナリーシップ</td><td>○○小中学校と連携して観察会を実施</td></tr> </tbody> </table> <p>○ワーキンググループの開催イメージ</p> <p>第1回（7月頃）：作成目的、作成イメージの共有 第2回（9月頃）：プロトタイプ提示、内容吟味 第3回（12月頃）：原稿案・利用システムの確認、活用方法の検討</p>			目標の現状	今後の方向性	1. 貧困撲滅		2. 飢餓・食料		3. 健康・福祉		4. 教育	小中学校に参加してもらっている	5. ジェンダー	高校生にリーダーになってもらいたい	6. 水利用	水辺の保護の重要性を感してもらっている	7. エネルギー		8. 経済雇用		9. インフラ等		10. 国内外公正		11. 都市		12. 生産、消費		13. 気候変動		14. 海洋・海洋資源	海につながっていると感じてほしい	15. 陸域自然	水辺周りの自然の観察	16. 平和		17. パートナリーシップ	○○小中学校と連携して観察会を実施
目標の現状	今後の方向性																																						
1. 貧困撲滅																																							
2. 飢餓・食料																																							
3. 健康・福祉																																							
4. 教育	小中学校に参加してもらっている																																						
5. ジェンダー	高校生にリーダーになってもらいたい																																						
6. 水利用	水辺の保護の重要性を感してもらっている																																						
7. エネルギー																																							
8. 経済雇用																																							
9. インフラ等																																							
10. 国内外公正																																							
11. 都市																																							
12. 生産、消費																																							
13. 気候変動																																							
14. 海洋・海洋資源	海につながっていると感じてほしい																																						
15. 陸域自然	水辺周りの自然の観察																																						
16. 平和																																							
17. パートナリーシップ	○○小中学校と連携して観察会を実施																																						
備考	次年度からの本格運用に向け、ESD 取組み団体、組織、個人などを対象とした活用を想定する。																																						
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット																																				
	催事、発信	コンテンツ	システム																																				
	ワーキンググループ開催（3回程度、EPO 中部オフィスを想定）	「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）記入票 ワーキンググループ実施記録	「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）																																				
			参加者（数）、対象者（数）																																				

1.3. 運営会議における業務実施計画等についての協議

(1) 中部環境パートナーシップオフィス運営会議

	開催日	協議の実施
第1回会議	2018年5月29日	「第5期事業目標・事業計画」「平成30年度業務及びスケジュール」「平成30年度業務の評価指標」について協議を行い、内容についての了解を得た。
第2回会議	2018年10月9日	業務進捗に伴い「平成30年度業務及びスケジュール」を修正し、確定とした。
第3回会議	2019年1月29日	(※業務実施計画等についての協議なし。)

(2) 中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議

	開催日	協議の実施
第1回会議	2018年5月15日	「第5期事業目標・事業計画」「平成30年度業務、及びスケジュール」「平成30年度業務の評価指標」について協議を行い、内容についての了解を得た。
第2回会議	2018年10月2日	業務進捗に伴い「平成30年度業務、及びスケジュール」を修正し、確定とした。
第3回会議	2019年2月12日	(※業務実施計画等についての協議なし。)

1.4. 業務実施計画等のウェブサイトへの掲載

(1) EPO 中部ウェブサイト

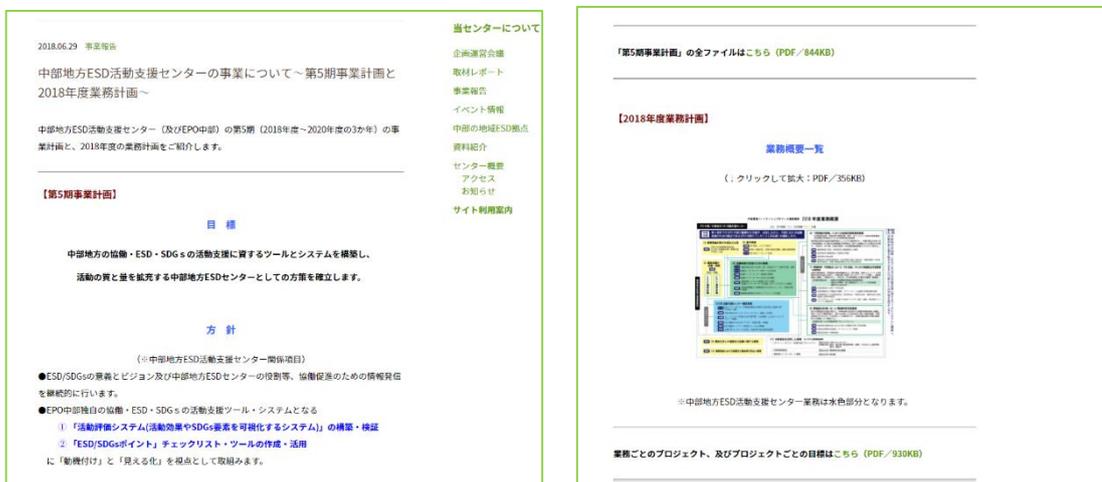
- EPO 中部ウェブサイトに、6月28日付で「第5期事業計画」と「2018年度業務実施計画」を掲載、公表した。



The screenshot shows the EPO Chubu website with a navigation menu and a main content area. The main content area is titled '第5期の目標と方針' (Goals and Policy for the 5th Period) and includes a sub-section for '第5期 (2018年度～2020年度) の方針' (Policy for the 5th Period (2018-2020)). It lists several key points, including the commitment to ESD/SDGs and the goal of creating a system for supporting activities. To the right, there is a sidebar with a '業務実施計画' (Business Implementation Plan) section, which includes a list of documents for the 5th period and 2018 fiscal year, such as the '第5期事業計画と2018年度業務実施計画' (PDF/844KB).

(2) 中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト

- 中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに、6月29日付で「第5期事業計画」と「2018年度業務実施計画」を掲載、公表した。



The screenshot shows the Chubu Regional ESD Activity Support Center website. The main content area is titled '【第5期事業計画】' (5th Period Business Plan) and includes a sub-section for '【2018年度業務計画】' (2018 Fiscal Year Business Plan). It lists several key points, including the commitment to ESD/SDGs and the goal of creating a system for supporting activities. To the right, there is a sidebar with a '業務概要一覧' (Business Overview List) section, which includes a list of documents for the 5th period and 2018 fiscal year, such as the '第5期事業計画' (PDF/844KB) and the '2018年度業務実施計画' (PDF/930KB).

2. 運営会議の設置・開催

- 「EPO 中部運営会議」「中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議」を全 3 回ずつ開催した。
- 開催にあたり、中部地方環境事務所が選定した委員（EPO 中部運営会議：8 名／中部地方 ESD 活動支援センター：7 名）への委嘱手続きを行い、事務局として必要な連絡調整等を行った。

2.1. EPO 中部運営会議

2.1.1. 第 1 回会議

(1) 日時

2018 年 5 月 29 日（火）13:00～14:45

(2) 会場

中部地方環境事務所 第 1 会議室

(3) 出席者

(委員)



氏名	所属	役職
新 広昭	金沢星稷大学経済学部	教授
千頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部	教授
松井 真理子	四日市大学総合政策学部	教授
田辺 友也	認定 NPO 法人まちづくりスポット	専務理事
加藤 義人	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社	執行役員
中里 茂	のと共栄信用金庫	顧問
永井 均	中部地方環境事務所	課長

※ 森山委員、山室委員は、都合により御欠席
(事務局) 一般社団法人環境創造研究センター 福井理事長、清本事務局長、原、富田
(中部地方環境事務所) 川合主査、西田主査

(4) 議事次第

- ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
- 運営会議設置要綱（案）について
- EPO 中部の平成 30 年度業務について
 - 第 5 期事業目標・事業計画
 - 平成 30 年度業務、及びスケジュール
 - 平成 30 年度業務の評価指標
- EPO 中部による主体的な個別業務について
- GEOC との連携による個別業務について
- 外部資金を活用した事業について
- その他

(5) 会議資料

- 資料 1：運営会議設置要綱（案）
資料 2：第 5 期事業目標・事業計画
資料 3：平成 30 年度業務、及びスケジュール
資料 4：平成 30 年度業務の評価指標
資料 5：EPO 中部による主体的な個別業務の概要
参考資料 1：仕様書概要

2.1.2. 第2回会議

(1) 日時

2018年10月9日(火) 15:30~17:30

(2) 場所

中部地方環境事務所第1会議室

(3) 出席者

(委員)



氏名	所属	役職
千頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部	教授
田辺 友也	認定NPO法人まちづくりスポット	専務理事
中里 茂	のと共栄信用金庫	顧問
森山 奈美	石川地域づくり協会	専任コーディネーター
山室 秀俊	(NPO法人)長野県NPOセンター	事務局長
永井 均	中部地方環境事務所	課長

※加藤委員、新委員、松井委員は、都合により御欠席
(事務局) 清本事務局長、原、富田
(中部地方環境事務所) 川合主査、西田主査

(4) 議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. EPO業務の実施報告
 - (1) 第1回協働フォーラムの開催について
 - (2) 第1回協働コーディネーター連絡会の開催について
 - (3) 今後のフォーラム等の開催予定について
 - (4) 協働コーディネーターのあり方について(協働コーディネーターの意見)
 - (5) 活動評価システム及びケーススタディ実施について
 - (6) EPO・ESDセンター(兼用の)リーフレットについて
 - (7) 協働コーディネーターPRツールについて
 - (8) 活動支援に資するデータ集について
 - (9) 外部資金事業等その他業務の進捗状況について
3. 意見交換
4. その他

(5) 会議資料

- 資料1: (資料2~6の) 議事要点及び結果報告概要等のまとめ
資料2: 第1回協働フォーラム開催結果報告
資料3: 第1回協働コーディネーター連絡会開催結果報告
資料4: これから開催予定のフォーラム等開催概要案
資料5: 活動評価システム構築に向けたケーススタディ実施と分析結果
資料6: 各種ツールの原稿案・素案等
参考資料1: 2018年度のEPO及びESDセンター業務一覧、スケジュール、実施状況

2.1.3. 第3回会議

(1) 日時

2018年1月29日(火) 14:00~16:00

(2) 場所

中部地方環境事務所第1会議室

(3) 出席者

(委員)



氏名	所属	役職
千頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部	教授
松井 真理子	四日市大学総合政策学部	教授
新 広昭	金沢星稜大学経済学部	教授
田辺 友也	認定NPO法人まちづくりスポット	専務理事
森山 奈美	石川地域づくり協会	専任コーディネーター
中里 茂	のと共栄信用金庫	顧問
加藤 義人	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	執行役員
永井 均	中部地方環境事務所	課長

※山室委員は、都合により御欠席

(事務局) 清本事務局長、原、富田

(中部地方環境事務所) 川合主査、西田主査

(4) 議事次第

- ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
- EPO業務の実施報告
 - 第2回協働フォーラム、協働ワークショップ(全1回)の開催状況について
 - 第2回・第3回協働コーディネーター連絡会の開催結果について
 - 「活動見える化プログラム」の構築について
 - 協働コーディネーターのあり方検討について
 - PRツール・データ集の作成について
 - その他/外部資金事業等その他業務の進捗状況について
- EPO中部の次年度展開案
 - 協働コーディネーターの活用展開について
 - 「活動見える化プログラム」構築の継続について
- 意見交換
- その他

(5) 会議資料

- 資料1: (資料2~6の) 議事要点及び結果報告概要等のまとめ
資料2: 第2回協働フォーラム開催結果報告
資料3: 第2回・第3回協働コーディネーター連絡会開催結果報告
資料4: 「活動見える化プログラム」ケーススタディ3事例の分析結果シート
資料5: EPO中部・(協働)コーディネーターの活用展開の検討
参考資料1: 2018年度のEPO及びESDセンター業務の実施状況
参考資料2: 第5期事業計画
参考資料3: EPO中部の活動評価について
参考資料4: ESDのためのSDGsポイントチェックリスト (ESDセンター業務)

2.1.4. ウェブサイト（EPO）への議事録掲載

- 運営会議・全3回それぞれの議事録は、今年度の会議設置要綱（中部地方環境事務所作成）と共に、EPO 中部ウェブサイトに掲載・公開した。

The screenshot shows the EPO website interface. At the top, there are navigation tabs for 'EPO中部とは', '活動内容', 'EPOアクション', and 'みんなのアクション'. Below this is a banner image with the text 'EPO中部とは'. To the right, there is a sidebar menu with two main sections: '規約' (Regulations) and '議事録' (Minutes). Under '規約', there are links for the 5th, 29th, and 28th sessions. Under '議事録', there are links for the 3rd, 2nd, and 1st sessions of the 2018 session, and for the 29th session's second and first halves.

2.2. 中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議

2.2.1. 第1回会議

(1) 日時

2018年5月15日（火）14:00～16:00

(2) 場所

中部地方環境事務所第1会議室

(3) 出席者

(委員)



氏名	役職	所属
伊藤 恭彦	副学長	名古屋市立大学 大学院人間文化研究科
杉浦 真理子	代表取締役	株式会社アクト
戸成 司朗	CSR 部長 (共同代表理事)	住友理工株式会社 (NPO 法人中部プロボノセンター)
彦坂 永利子	生涯学習課課長補佐	愛知県教育委員会
古澤 礼太	事務局長 (准教授)	中部 ESD 拠点協議会 (中部大学国際 ESD センター)
松本 謙一	ESD コーディネーター (教授)	北陸 ESD 推進コンソーシアム (金沢大学)
水谷 瑞希	助教	信州 ESD コンソーシアム (信州大学教育学部)
永井 均	課長	中部地方環境事務所

(事務局) 一般社団法人環境創造研究センター 福井理事長、清本事務局長、原、富田 (中部地方環境事務所) 川合主査、西田主査

(4) 議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. 企画運営会議設置要綱（案）について
3. 中部地方 ESD 活動支援センター（EPO 中部）の平成 30 年度業務について
 - (1) 第 5 期事業目標・事業計画
 - (2) 平成 30 年度業務、及びスケジュール
 - (3) 平成 30 年度業務の評価指標
4. 中部地方 ESD 活動支援センター（EPO 中部）による主体的な個別業務について
5. その他

(5) 会議資料

- 資料 1：運営会議設置要綱（案）
資料 2：第 5 期事業目標・事業計画
資料 3：平成 30 年度業務及びスケジュール
資料 4：平成 30 年度業務の評価指標
資料 5：EPO 中部による主体的な個別業務の概要
参考資料 1：仕様書概要

2.2.2. 第 2 回会議

(1) 日時

2018 年 10 月 2 日（火）14：00～16：00

(2) 場所

中部地方環境事務所第 1 会議室

(3) 出席者

(委 員)



氏名	役職	所属
伊藤 恭彦	副学長	名古屋市立大学 大学院人間文化研究科
杉浦 真理子	代表取締役	株式会社アクト
戸成 司朗	CSR アドバイザー (共同代表理事)	住友理工株式会社 (NPO 法人中部プロボノセンター)
彦坂 永利子	生涯学習課課長補佐	愛知県教育委員会
古澤 礼太	事務局長 (准教授)	中部 ESD 拠点協議会 (中部大学国際 ESD センター)
松本 謙一	ESD コーディネーター (教授)	北陸 ESD 推進コンソーシアム (金沢大学)
水谷 瑞希	助教	信州 ESD コンソーシアム (信州大学教育学部)
永井 均	課長	中部地方環境事務所

(事務局) 一般社団法人環境創造研究センター 福井理事長、清本事務局長、原、富田
(中部地方環境事務所) 川合主査、西田主査

(4) 議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. センター業務の実施報告
 - (1) 第 1 回 ESD 推進ダイアログの開催結果について
 - (2) 今後開催予定の催事について
 - (3) 「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの作成状況の報告について
 - (4) ESD/SDGs コンテンツ (上記・チェックリストを掲載する PR ツール) について

- (5) EPO・ESDセンター（兼用の）リーフレットについて
- 3. 意見交換
- 4. その他
- 5. 閉会

(5) 会議資料

- 資料1：（資料2～5の）議事要点及び結果報告概要等のまとめ
- 資料2：第1回 ESD ダイアログ開催結果報告
- 資料3：これから開催予定の ESD ダイアログ等開催概要案
- 資料4：「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト作成WGの検討結果（中間報告）
- 資料5：各種ツールの原稿案・素案等
- 参考資料1：2018年度の EPO 及び ESD センター業務一覧、スケジュール、実施状況
- 参考資料2：中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議設置要綱
- 参考資料3：中部ブロックの地域 ESD 拠点
- 参考資料4：他センターの特徴的な取組（北海道センターのアドバイザー派遣制度）

2.2.3. 第3回会議

(1) 日時

2019年2月12日（火）14：00～16：00

(2) 場所

中部地方環境事務所第1会議室

(3) 出席者

(委員)



氏名	役職	所属
伊藤 恭彦	副学長	名古屋市立大学 大学院人間文化研究科
杉浦 真理子	代表取締役	株式会社アクト
戸成 司朗	CSRアドバイザー (共同代表理事)	住友理工株式会社 (NPO 法人中部プロボノセンター)
古澤 礼太	事務局長 (准教授)	中部 ESD 拠点協議会 (中部大学国際 ESD センター)
松本 謙一	ESD コーディネーター (教授)	北陸 ESD 推進コンソーシアム (金沢大学)
水谷 瑞希	助教	信州 ESD コンソーシアム (信州大学教育学部)
永井 均	課長	中部地方環境事務所

※彦坂委員は、都合により御欠席

(事務局) 一般社団法人環境創造研究センター 福井理事長、清本事務局長、原、富田
(中部地方環境事務所) 西田主査

(4) 議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. センター業務の実施報告
 - (1) ESD ダイアログ、ESD ネットワークフォーラムの開催結果について
 - (2) 「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの作成について
 - (3) チェックリスト掲載 ESD/SDGs の広報ツールについて
3. センターの次年度展開案
 - (1) チェックリストの試行的活用（広報ツールの頒布）と改善
 - (2) その他（ダイアログ等催事、情報発信・広報関係、本企画運営会議の開催について）

4. 意見交換
5. その他
6. 閉会

(5) 会議資料

資料1：(資料2～5の) 議事要点及び結果報告概要等のまとめ

資料2：第2回ESDダイアログの開催結果報告

資料3：第3回作成WG議事概要

資料4：【事業所SDGs版 Vr. 1.20】ESDのためのSDGsチェックリスト(記入例)

資料5：ESDのためのSDGsチェックリストパンフレット(【一般向け/基本段階版チェックリスト】)

参考資料1：2018年度のEPO及びESDセンター業務の実施状況

参考資料2：第5期事業計画

参考資料3：EPO業務「活動見える化プログラム」

2.2.4. ウェブサイト(ESDセンター)への議事録掲載

- 企画運営会議・全3回それぞれの議事録は、中部地方ESD活動支援センターウェブサイトに掲載・公開した。

<p>2018年度第1回・中部地方ESD活動支援センター企画運営会議を開催</p> <p>日時：2018年5月15日(火) 14:00～16:00 会場：中部地方環境事務所・第1会議室 参加者：委員8名、事務局(中部地方ESD活動支援センター)4名、中部地方環境事務所2名 計14名</p>  <p>2018年度第1回となる企画運営会議を開催しました。 4月からESDセンターの運営団体が新しくなったこともあり、前年度での本会議での議論を継承しながら、どのように展開していくべきか、委員の皆さんにご議論いただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを活用したESDの戦略的な普及啓蒙の必要性 ・社会人向け、企業向けの普及啓蒙の重要性 ・開催イベント等についての関係者との情報共有のあり方 ・事務局提案「ESD/SDGsポイント」チェックリスト(仮称)の内容・作成方法(メンバー)・活用ケースの決定 <p>など、会議では、当センターがこれから業務に取り組むにあたり、重視すべきこと・留意すべきことについて多くの示唆をいただきました。</p> <p>【議事録】第1回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議の議事概要</p>	<p>2018年度第2回・中部地方ESD活動支援センター企画運営会議を開催</p> <p>日時：2018年10月2日(火) 14:00～16:00 会場：中部地方環境事務所・第1会議室 参加者：委員8名、事務局(中部地方ESD活動支援センター)4名、中部地方環境事務所2名 計14名</p>  <p>2018年度第2回目の企画運営会議を開催しました。 ここまで当センターが取り組んできた業務の実施内容・結果について事務局が報告を行った後、特に「ESD/SDGsポイント」チェックリスト(仮称)を中心に議論いただき、チェックリストの対象主体・活用場面等の想定、活動項目リストの内容・構成など、作成の根幹に関わるような重要な示唆・ご意見を多くいただきました。</p> <p>【議事録】第2回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議の議事概要</p> <p>事業報告 企画運営会議 > 2018年度第2回・中部地方ESD活動支援センター企画運営会議を開催</p>	<p>2018年度第3回・中部地方ESD活動支援センター企画運営会議を開催</p> <p>日時：2019年2月12日(火) 14:00～16:00 会場：中部地方環境事務所・第1会議室 参加者：委員7名、事務局(中部地方ESD活動支援センター)4名、中部地方環境事務所1名 計12名</p>  <p>2018年度第3回目の企画運営会議を開催しました。 今年度業務全体の実施状況などを報告し、完成した「ESD/SDGsチェックリスト」についての確認と今後の検証・改善に向けた議論を行ったほか、次年度に向けて今後どのようにチェックリストや広報展開を行っていくべきかなどについても議論いただきました。</p> <p>【議事録】第3回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議の議事概要</p> <p>事業報告 企画運営会議 > 2018年度第3回・中部地方ESD活動支援センター企画運営会議</p>
---	--	---

2.3. 運営会議における協議事項の業務への反映

2.3.1. EPO 中部運営会議の協議結果

会議	協議結果	その後の業務への反映
第1回 会議	<ul style="list-style-type: none"> EPO 業務、ESD 業務について確認：第5期事業計画、平成30年度業務実施計画の内容を確認。 県など自治体への EPO への協力の呼びかけをもっと展開した方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画、実施計画をウェブサイトで公開。 中部地方環境事務所が県の次長級会議等で呼びかけを実施。
	<p>【活動評価システムについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動のレベル、時系列、深化を分析する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 時系列分析を評価チャートの手順に加えた。
	<p>【協働コーディネーターのあり方検討について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働コーディネーターの多くは EPO 事業としては終了していると認識しているため、早めに継続について呼びかけを行った方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議後、速やかに協働コーディネーター21名への連絡調整を行った。（引き続き EPO 中部への協力・参画が可能か否かの確認、及び第1回連絡会の開催案内を送付。）
	<p>【中間支援に資するデータ集について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各県が公開する既存サイトなどが参考になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存サイト等の事例を調べ、既にあるイベント、助成金募集リンク集等ではない、自治体主催の NPO 等出展可能な環境イベントデータを収集することにした。
第2回 会議	<p>【協働コーディネーターのあり方検討について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 立法等に関わる制度づくりは難しい。 環境カウンセラーとの相違点の整理も必要である。 協働のみでなく SDGs のコーディネーターとしての位置づけもありえる。 協働コーディネーターの認知度向上も必要である。 類似資格等の制度調査も有用である。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議後、中部地方環境事務所が協働コーディネーターの位置づけ、環境カウンセラーとの相違点を整理した。EPO もこれに基づき、今後の展開案を作成した。 今後の展開案では、協働のみでなく SDGs 活用・地域循環共生圏構築の支援も協働コーディネーターの機能の中に位置づけた。 今後の展開案で、EPO の役割として協働コーディネーターの普及、別のコーディネーター制度事例の調査等の実施も位置づけた。
	<p>【活動見える化プログラム（活動評価システム）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来的にはウェブで公開（ダウンロード可能設定に）し、デザイン性にも留意したものになることを期待。 	<ul style="list-style-type: none"> 留意した上で構築を進めることとした。
第3回 会議	<p>【協働コーディネーターのあり方検討について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、協働コーディネーターの取組がブラッシュアップされていく必要がある。 協働コーディネーターが情報共有等を行えるネットワーク構築が重要となる。 EPO が協働コーディネーターの人件費等を確保する形にはならないことを各コーディネーターが理解しているか確認しておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 協働コーディネーターの会議体「地域循環共生圏づくり研究会（仮）」を設立予定であり、その中で取組事例等についての情報共有、研究も行っていく予定である。 次年度の展開開始時に、協働コーディネーターの位置づけ、留意事項を、事務局は確認する必要がある。
	<p>【活動見える化プログラムについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> チャートが複雑、わかりにくすぎる。 「評価」チャートもなっているが、評価であれば指標が必要になるのでは。 活動見える化プログラムが協働コーディネーターの共有ツールとなることを期待。 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムのあり方、チャートの使用方法などを整理した上で、どのようなチャートを構築すべきか検討を進める。
	<p>【広報展開について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェブサイトの充実化、検索ワードの設定の仕方などは重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度、ウェブサイトのリニューアルを含めた広報展開の検討を行う中で留意して進める。

2.3.2. 中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議の協議結果

会議	協議結果	その後の業務への反映
第1回 会議	<ul style="list-style-type: none"> イベントの企画等に関しては早めに関係者との情報共有が必要である。 企業、自治体を対象にした展開、環境教育以外の分野での展開も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 ESD ダイアログ等の催事について関係者との連絡調整を、会議後に速やかに行った。 ESD ダイアログの東海開催の企画を企業による ESD/SDGs をテーマに設定した。
	<p>【ESD/SDGs チェックリストについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> まずはターゲットを一つに絞って検討してみようか。 「気付き」のツールとなることを期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成WGの検討では、チェックリストのターゲット、活用方法等について検討を行い、中小企業を対象にしたものを作成することになった。 SDGs とのつながりに気付いていない団体・活動等がそれに「気付く」ツールとなることも、チェックリスト作成の目的の一つに位置づけた。
第2回 会議	<p>【ダイアログ、フォーラム等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ESD ネットワークフォーラムは、若手がトークセッション等するプログラムを期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> フォーラムでは、登壇者と会場客席側が交じってディスカッションを行う企画を盛り込んだ。
	<p>【ESD/SDGs チェックリストについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施者の意欲が削がれないよう A3・1 枚ほどのコンテンツで作成する。 リストのタテ軸の取組分野（項目）の構成には留意が必要である。 まずは作成し、それを試行してアンケート等実施して改善していったらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> A4 サイズ・全 4 頁のパンフレットの中面にリストを掲載した。 取組分野（項目）については、作成WGで中心議題として検討を行った。 四日市市主催の SDGs 講座で試行的に活用してもらい、記入者にアンケートを行い、その結果を作成WG、次回企画運営会議で提示し、検討材料とした。
第3回 会議	<p>【イベント、広報等の展開について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な世代による交流イベントの開催を期待したい。 イベント、新しく作成したツール等は記者投げ込みするなどパブリシティ活動も展開していく必要がある。 SNS 活用も重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度のイベントでは、ユースの発表・交流などの企画を検討する。 中部地方環境事務所を介して、必要に応じてリリース投げ込み等を実施していく予定である。 次年度の広報展開の検討の際に、SNS 活用も取り入れる。
	<p>【ESD/SDGs チェックリストについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 例示内容が国際的な視点で適当か否か検討が必要であり、人権分野も重視したツールとなっていくことを期待したい。 ゴール 1~17 の並びがわかりにくいいため、工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後のチェックリスト作成・改善の中で反映、或いは留意していく必要がある。 ゴール 17 項目がわかりやすくなるよう、特に初心者向けの【基本段階版】を改善する際には、EPO の「活動見える化プログラム」の SDGs 評価チャートのゴールの並びを盛り込むなど工夫する。

3. 基本業務

3.1. 情報の収集・蓄積・発信に関する業務

3.1.1. ホームページの更新及び維持管理

- EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターの各ウェブサイトについて、下表の通り、記事の投稿・掲載・更新を行った。

【EPO 中部 (<http://www.epo-chubu.jp>) 更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ				
		EPO アクション	みんなのアクション	スタッフあれこれ	EPO 中部とは(運営会議等)	その他
4月	4		1	1		2
5月	5	2	2	1		
6月	5	2	1	1	2	
7月	15	11	3	1		
8月	9	5	3	1		
9月	9	5	3	1		
10月	10	5	4	1		
11月	12	2	7	1	2	
12月	10	4	5	1		
1月	5	2	2	1		
2月	10	3	7	1		
3月	3		2		1	
計	97	41	40	11	5	2

【中部地方 ESD 活動支援センター (<http://chubu.esdcenter.jp/>) 更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ						
		センターからのお知らせ	企画運営会議	取材レポート	事業報告	イベント情報	中部の地域ESD拠点	その他
4月	2							2
5月	4					3		1
6月	8		1		1	4	2	
7月	5	3				2		
8月	6	1		1	1	3		
9月	2	1		1				
10月	6	1		1	2	2		
11月	7	1	1	1		2	2	
12月	3	2					1	
1月	3				2	1		
2月	3			2	1			
3月	2		1			1		
計	51	9	3	6	7	18	5	3

※ 両ウェブサイトとも「3月」の数値は3月25日時点で集計を行ったものである。

3.1.2. ウェブサイトのアクセス数について

- 各ウェブサイトへのアクセス数等は下記の通りである。
- EPO 中部ウェブサイトは、前年度までのアクセス数（ページビュー数）と比較して、全般的に減少しており年間で65,000 近く少なくなっている。
- 一方の中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトは、前年度開設されたばかり（前年 7 月に開設）であることから、年間でアクセス数が2倍近く増加している。
- EPO 中部ウェブサイトは12月・1月・3月のアクセス数（ページビュー数）が30,000 超と顕著に増加しており、6月・2月も20,000 超が多い。
- 12月・1月のアクセス数については、1月・2月に開催した東海地方での計5件のイベント告知記事を11月後半～12月にかけてウェブサイトに掲載し、更にEPO 運営団体・一般社団法人環境創造研究センターのフェイスブックページにも掲載したことがアクセス数増加の要因になったと考えられることから、SNS の活用がアクセス数増に有効となっていることがうかがえる。

【下表の各項目について】

- 訪問者数：サイトに1回以上アクセスを行ったユーザー／閲覧した人の数（一人が2回アクセスした場合は一人として集計）
- 訪問件数：訪問者がサイトにアクセスをした回数（一人が2回アクセスした場合は2件として集計）
- ページビュー数：閲覧されたサイト内のページの総数
- ページビュー数の平均：ここでは訪問者1人あたりが閲覧したページビュー数を算定

【EPO 中部ウェブサイト】

	訪問者数 (ユニーク数) (単位：人)	訪問件数 (単位：件)	ページビュー数（ページ）		前年度 ページビュー数 ^{※1}
				平均（ページ/人）	
4月	6,227	7,070	19,311	3.10	32,869
5月	5,895	6,573	18,382	3.12	37,951
6月	6,280	7,142	20,060	3.19	27,827
7月	5,377	6,150	18,763	3.49	19,752
8月	3,680	4,431	17,688	4.81	25,807
9月	2,925	3,607	14,795	5.06	34,714
10月	3,452	4,547	16,176	4.69	24,051
11月	2,484	3,182	16,289	6.56	18,034
12月	2,181	3,865	31,808	14.58	23,287
1月	2,623	4,425	39,694	15.13	31,568
2月	2,321	3,366	21,378	9.21	35,860
3月 ^{※2}	3,206	7,041	36,355	11.34	23,308
計	46,651	61,399	270,699	5.80	335,028

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

	訪問者数 (ユニーク数) (単位：人)	訪問件数 (単位：件)	ページビュー数（ページ）		前年度 ページビュー数 ^{※1}
				平均（ページ/人）	
4月	171	227	595	3.48	未開設
5月	211	294	857	4.06	未開設
6月	351	486	1,301	3.71	未開設
7月	204	359	795	3.90	684
8月	248	382	1,144	4.61	298
9月	246	353	818	3.33	295
10月	169	279	904	5.35	366

	訪問者数 (ユニーク数) (単位：人)	訪問件数 (単位：件)	ページビュー数 (ページ)		前年度 ページビュー数※1
				平均 (ページ/人)	
11月	239	344	1,085	4.54	325
12月	217	367	879	4.05	287
1月	251	347	841	3.35	362
2月	191	279	641	3.36	1,343
3月※2	131	220	584	4.46	897
計	2,629	3,937	10,444	3.97	4,857

※1：前年度ページビュー数：平成29年度業務報告書より（データはページビュー数のみ）

※2：両ウェブサイトとも今年度の「3月」の数値は3月25日時点で集計を行ったものである。

3.1.3. メールマガジンの作成及び発行

- 毎月第2火曜日に、メールマガジンを次の通り、発行した。
- 発行部数（購読登録者数）は多少ではあるが増減を繰り返しているが、770部～780部ほどの間でおよそ一定となっている。（参考：平成29年度登録数：781）

※発行メールマガジンのバックナンバーは、EPO中部ウェブサイトからのリンク閲覧が可能である。

月	号	発行日	発行部数	記事数・計	掲載記事数		
					冒頭部 (事務所コラム含む)	イベント情報	募集情報
4月	106号	4/10	779部	11	3	4	4
5月	107号	5/8	780部	10	1	4	5
6月	108号	6/12	782部	12	1	7	4
7月	109号	7/10	778部	18	5	10	3
8月	110号	8/14	778部	23	1	6	16
9月	111号	9/11	778部	19	3	9	7
10月	112号	10/9	775部	31	3	18	10
11月	113号	11/13	775部	22	4	9	9
12月	114号	12/11	773部	28	5	14	9
1月	115号	1/8	774部	27	7	14	6
2月	116号	2/12	775部	22	2	14	6
3月	117号	3/12	774部	21	5	11	5
計				244	40	120	84

※ 「冒頭部」の記事数は、中部地方環境事務所職員によるコラム記事を含めた、環境省及び中部地方環境事務所関連のトピック記事（目次前に掲載した記事）の数となっている。

3.1.4. リーフレットの作成及び配布

- 第5期EPO中部運営業務（中部地方ESD活動支援センターも含む）の活動等を広く周知するためのリーフレット（A4フルカラー、1,000部）を作成し、ウェブサイトにも掲載・公開した。
- 2018年10月に完成・発行し、2019年2月末現在において約500部を配布した。
- また、EPO中部ウェブサイトにも掲載・公開し、PDFファイルのダウンロードが可能になっている。
- リーフレットを各所で配布しはじめた10月以降は、「リーフレットを見たのですが」と電話連絡をしてきた人・団体からの相談、問合せ等が数件あった。

協働

持続可能な社会を構築するために
「協働」が重要になっています。

「環境パートナーシップオフィス」は、協働取組を構築・促進する中核的な担い手として、環境省が環境教育等促進法に基づき全国に設置しているものです。
その一つである「中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）」（2005年設置）は、中部エリアの協働促進に取り組んでいます。

EPO中部の主な役割

- ① 持続可能な社会の実現に向けた地域の協働取組モデルの創出・支援
- ② 持続可能な社会の構築に向けたESD・SDGsの推進
- ③ 地域における中間支援機能の強化
- ④ 環境教育等促進法の普及・促進
- ⑤ 情報の提供・相談対応等

第5期（2018年度～2020年度）では
「動機づけ」と「見える化」を視点として

第5期のEPO中部は、地域環境活動による効果の可視化を目指し、協働及びESD・SDGsの活動支援ツール・システムづくりに取り組んでいます。

- ① 「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用
- ② 「活動評価システム（活動効果やSDGs要素を可視化するシステム）」の構築・検証
- ③ 「EPO中部・協働コーディネーター」の活用展開
- ④ 「ESD/SDGsポイント」チェックリスト・ツールの作成・活用

全国のEPOネットワーク

EPO中部は7県の地域環境活動を支援しています。



アクセス

名古屋市営地下鉄・桜通線「丸の内」駅の5番出口から徒歩3分



住所：〒460-0003 名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4F

開館日：月曜日～木曜日 10:00～19:00

閉館日：土・日曜、祝日、お盆・年末年始の休業あり

※金曜日は情報収集・整理日です。（スタッフ不在により閉館の場合があります。）

中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

TEL: 052-218-8605 FAX: 052-218-8606
 Email: office@epo-chubu.jp
 Web: http://www.epo-chubu.jp/

中部地方ESD活動支援センター Education for Sustainable Development

TEL: 052-218-9073 FAX: 052-218-8606
 Email: office@chubuesdcenter.jp
 Web: http://chubu.esdcenter.jp/



2018.9 発行

EPO ESD

環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

中部地方ESD活動支援センター

環境省 中部地方環境事務所

ESD・SDGs

中部地方ESD活動支援センターは、
中部のESD活動及びSDGs達成を
目指す活動を支援しています。

ESDとは

Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育) です。
▶ ESDは「持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育」です。

ESDはSDGs達成の基盤として

ESDはSDGsの達成のための人づくり・地域づくり・ネットワークづくりの教育です。SDGsの「目標4」「ターゲット4.7」にも教育が位置づけられていますが、同時に、17のゴールすべての基盤に教育があると考えられています。

SDGsはESDの目標として

SDGsは「地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind)」ために設定されたゴール (目標) とターゲット (目標をより具体的に示した目標・具体的な課題) です。

SDGsとは

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) です。
▶ SDGsは2030年までの達成を目指して設定された、持続可能な世界を実現するための17ゴール・169ターゲットからなる国際目標です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



EPO中部／中部地方ESD活動支援センターは、
環境活動やESD・SDGsに関わる活動に取り組む皆さんをサポートしています。
持続可能な地域づくりに当施設をご活用ください。

情報が知りたい、情報を収集したい

「協働、ESD・SDGsに関する情報」
 「国や自治体などの環境保全、環境学習等に関する施策・計画」
 「全国の、地域の環境活動の動向」
 「ほかの地域や団体等の取組事例やイベント」
 などの資料やパンフレット等を入手できます。
 (一部資料は閲覧のみとなっています。)



相談・照会したい、紹介してほしい

環境保全活動や環境学習、ESD・SDGs、地域づくり・人づくり・ネットワークづくりなどに関する相談・照会を受け付けています。

◆例えば (実施)

- ・小学校での環境学習の講師役の紹介
- ・SDGsに関連するCSRイベントの企画
- ・地域住民との意見交換会への出席者の紹介 など



ちょっとした会議や打合せにも

ミーティングや資料閲覧などに、施設内のフリースペースをご利用いただけます。
 ※会議・打合せなどの長時間利用の場合は、事前にご連絡いただけますと幸いです。



広報したい、PRしてほしい

中部地方の環境活動やESDに関する活動についての情報発信をウェブサイト、メルマガなどで行っています。参加募集の広報を行いたいイベントや、広くPRしたい活動などがございましたら、情報をお寄せください。

◆EPO中部、中部地方ESD活動支援センターからの発信媒体
 EPO中部: <http://www.epo-chubu.jp/>
 中部地方ESD活動支援センター: <http://chubu.esdcenter.jp/>
 メルマガ: そらいろ通信 ~EPO-chubuメールマガジン~
 (毎月第2火曜配信)

「地域ESD活動推進拠点」の登録を受付中

学校現場・社会教育の現場では、さまざまな主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。そうした現場のESDを支援・推進する組織・団体等を「地域ESD活動推進拠点 (地域ESD拠点)」として位置づけています。地域のESDを支援・推進する団体の皆さんに「地域ESD拠点」として登録していただくことにより、ほかの拠点とも連携して「ESD推進ネットワーク」を構築すると共に、地域におけるESD活動の支援窓口となることが期待されています。
 ※登録の方法については、当センターにご相談、お問合せください。



3.1.5. 情報の収集・蓄積等

- 環境保全、協働の推進、ESD の推進等に資する情報を収集し、整理・蓄積を行った。（※送付されてきた広報依頼・配架依頼資料等含む。）
- 収集した情報（資料）については、下表の通り、リスト整理を行った。（※いずれの表も「3月」の数値は3月25日時点で集計を行ったものである。）

3.1.5.1. 資料・パンフレット類

【収集した資料の内容別分類】

	収集件数・計	啓発・パンフレットなど					報告書・書籍・白書など		その他	ネット検索した資料類
		森林・生物	環境教育・ESD	環境全般	ボランティア・NPO	その他パンフ	国・県・市町村	その他報告書等		
4月	33	5	10	10	3	1	1	1	2	19
5月	54	6	13	10	9	9	3	2	2	36
6月	38	4	8	16	4	3	2	1	0	81
7月	57	6	12	14	8	15	1	0	1	162
8月	18	2	3	10	2	0	0	1	0	41
9月	33	8	3	12	4	2	0	4	0	44
10月	51	8	3	27	3	5	0	0	2	58
11月	25	5	4	5	0	3	0	0	0	64
12月	12	1	2	2	1	2	0	1	1	7
1月	41	2	9	10	5	10	0	3	2	53
2月	25	2	5	5	4	5	0	1	3	18
3月	26	2	7	3	2	7	0	2	3	81
計	413	51	79	124	45	62	7	16	16	664

【収集した資料の発行元の分類】

	収集件数・計	行政	NPO	企業	その他
4月	33	14	13	5	1
5月	54	17	21	7	9
6月	38	24	7	2	5
7月	57	33	17	4	3
8月	18	6	6	4	2
9月	33	10	15	7	1
10月	51	18	22	8	3
11月	25	6	11	8	0
12月	12	3	6	2	1
1月	41	15	23	0	3
2月	25	11	11	1	2
3月	26	11	9	1	5
計	413	168	161	49	35

【入手後の対応】

	収集件数	配架	メルマガ掲載	ファイリング	在庫	その他
4月	33	30	2	1	2	0
5月	54	51	7	2	1	0
6月	38	36	0	1	0	0
7月	57	54	3	2	3	0
8月	18	16	6	2	0	0
9月	33	30	4	3	0	4
10月	51	31	5	21	0	0
11月	25	17	3	7	0	1
12月	12	10	1	2	0	0
1月	41	31	0	10	0	0
2月	25	20	0	5	0	0
3月	26	19	0	5	0	2
計	413	345	31	61	6	7

※ 一部はメルマガ掲載とその他対応方法とが重複しており、合計数は収集件数と合致しない場合がある。

3.2. 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務

3.2.1. 照会・相談対応

3.2.1.1. 照会・相談対応

- 相談者との面談や資料・情報収集、マッチング作業、照会先との連絡・調整などを要した照会・相談は、下記の通りである。
- 照会・相談対応については、中部地方環境事務所のフォーマットに則り、記入票を作成し、定期的に提出を行った。

【相談方法・相談主体別の相談件数】

	相談件数・計	相談方法			相談主体の分類					
		電話	メール	来所	初等・中等教育関係機関・ネットワーク・社会教育施設等	高等教育機関・学術研究機関・ネットワーク	地方自治体・行政_首長部局	公益法人_NGO_NPO等	企業等	その他
4月	4	2	2		1			1	2	
5月	5	2		3			2	2		1
6月	2		1	1		1		1		
7月	5	3		2	1		1	1	1	
8月	3	1		2	1		1		1	
9月	2			2			2			
10月	3	2		1			1	1		1
11月	3	2		1	1		1		1	
12月	7	2		5	1		2	2	1	1
1月	4	1	3	1			1		3	
2月	3	2		1	1				2	
3月	3		1	2			1		2	
計	44	17	5	21	6	1	12	8	12	3

【相談に対し EPO が行った支援内容の件数】

	相談件数・計	EPO による支援内容分類					
		政府の ESD 関連施策問い合わせ	教材・ツールの紹介	講師等人材紹介	研修・事業の企画運営	交流機会	その他
4月	4			2	1		1
5月	5	1	1	1		1	1
6月	2			1			1
7月	5		1		2		2
8月	3		1				2
9月	2				2		
10月	3			2	1		
11月	3		1				2
12月	7		1	1		1	4
1月	4			2			2
2月	3						3
3月	3				3		
計	44	1	5	9	9	2	18

※ いずれの表も「3月」の数値は3月25日時点で集計を行ったものである。

【具体の相談内容と EPO による対応内容】

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容
1	4/11	初等・中等教育関係機関・ネットワーク・社会教育施設等	・10月～11月頃にごみ減量をテーマに環境学習授業をやりたい。夏休みに講師派遣等について相談に行きたい。	・夏休みに再度詳細について相談を受けることで了解を得られた。 ・5月21日に今後の環境学習コーディネート業務については、県の環境学習プラザが統一して行うことになったため以降の相談については、プラザに連絡することとする。
2	4/24	企業等	・6月20日開催「環境ダイアログ」への出席メンバーとしてNPO等地域活動者、学生等若者を推薦・紹介してほしい。	・あいちサスティナ研究所に学生さんの推薦を依頼。 ・愛知県地球温暖化防止活動推進センターに職員または推進員の推薦を依頼。
3	4/25	企業等	・国連の持続可能な開発目標(SDGs)の「6. 安全な水とトイレを世界中に」と、「15. 陸の豊かさを守ろう」に関わる参加型の活動で、1～2時間程度の催事の企画を依頼したい。保全活動あるいは講演会への参加、出張講演など。	・海上の森での里山講座・散策のプログラムを紹介・提案。 ・海上の森担当者が6月1日のレクチャーについて承諾。以降は双方で調整してもらうこととした。
4	4/25	公益法人_NGO_NPO等	・富山県の女性団体「moribio」がイベントの広報をしたい。	・広報したい内容をメールで送っていただくよう連絡した。
5	5/9	その他	・平成29年度加速化事業の資料を入手したい。	・印刷物はないのでPDFを提供することにし、その旨お伝えした。
6	5/14	公益法人_NGO_NPO等	・10月の講演会について講師紹介を依頼したい。	・中部大の先生からメールアドレスを伺い直接連絡することを伝えた。 ・中部大学古澤先生から小原玲氏を推薦され、相手方に伝えた。 ・依頼者から小原氏が承諾したと連絡があり、以降は双方で調整するよう伝えた。
7	5/14	公益法人_NGO_NPO等	・市の廃棄物収集に絡む活動、外国人居住者のごみマナー問題についての問題意識と対応活動について、広げたいとして相談があった。	・自治体ごみ担当者は問題意識があるので、現活動を説明しつつ相談するとよいとアドバイス。事業化するためには企画書が必要なので何等かのメモをNPOの協力で作成してもらえばまたアドバイスすると回答。
8	5/15	地方自治体_行政_首長部局	・SDGsについて勉強したいので適当な資料が欲しい。	・環境省、外務省等のサイトを教示。
9	5/16	地方自治体_行政_首長部局	・浚渫・油回収船・青龍丸の活動内容をできるだけ広報したい。	・広報の媒体(ちらしなど)を送っていただければ、配架し、周知する旨を伝えた。
10	6/5	高等教育機関・学術研究機関・ネットワーク	・学校設定科目「ワールドスタディーズ」の一環の訪問ゼミで、7月後半から8月末までの夏休み期間を中心にEPOを訪問したい。テーマは「絶滅危惧種」とのこと。	・6/6学校側へ電話し、訪問内容を確認。必要があれば環境省の自然保護官など担当者へコンタクトすることを伝えると、生徒側に確認したいとのこと。 ・6/11学校側から正式依頼あり。環境省の絶滅危惧種担当部署等へ連絡、確認後に、日程調整を行う旨をメールで連絡した。 ・6/12環境省の野生生物課担当職員の連絡先を学校側へ連絡。以降は担当課と学校側で直接日程調整等を行うこととした。
11	6/18	公益法人_NGO_NPO等	・10/13に名古屋で開催される「第5回ESD日本ユース・コンファレンス」の広報についての協力と広報の方法について相談したいとのこと。	・6/18電話で相談依頼あり。6/19,20先方が来所することになり、日程調整を行った。 ・6/22先方が来所し、打合せを行った。ESDに取り組んでいる自治体、ESD拠点などを紹介し、広報チラシの送付先、コンタクトの方法などについて情報提供を行った。
12	7/4	企業等	・小型焼却炉の販売を行っている事業者から、環境に配慮した商品であるため、環境省の推奨がほしいとの相談を受けた。 ・併せて環境学習やボランティア活動に子ども達の参加を促したいとのこと。	・商品への環境省の推奨に関してはEPOでは対応いたしかねる旨を説明し、中部地方環境事務所へ確認する必要があると回答した。 ・環境学習については、愛知県内の学校を対象にしているとのことであったため、愛知県環境学習プラザを紹介した。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容
13	7/9	地方自治体・行政_首長部局	「あいち低炭素学習プラットフォーム(仮称)」について、登録者の活動実績等の登録方法、開設するサイトの名称・開設方法、NPO等への登録呼びかけ方法について相談された。	<ul style="list-style-type: none"> ・7/9に来所して相談を受けた。 ・登録方法については、登録項目を「検索キーワード」として抽出・整理することを提言した。 ・サイト名称については、聞いてすぐにどのようなサイトか連想されるわかりやすい名称案をいくつか提言した。 ・登録呼びかけについては、各自治体の市民活動支援センターへの呼びかけ、県登録のNPOの検索方法について提案した。
14	7/20	公益法人_NGO_NPO等	日進教育ファームを立ち上げたく、農水省の地域の魅力再発見食育推進事業(平成31年度の補助金)をねらいたい。地域資源としていろいろ取り組んでいるが、どのように立ち上げていったらよいか相談したい。その他、ESDやSDGsにからめた日進市の動きを背景として進めていきたい。なお、現地実動はNPO法人親育ネットワーク(黒田氏)、マネジメントを特定非営利活動法人Earth as Mother(村野氏)で担当している。	<ul style="list-style-type: none"> ・7/20に来所して相談を受けた。 ・次の2点について助言を行った。 (1)行政としっかり連携をとるうえで、日進市環境課と連携したほうがよい。 (2)多くの材料があるので、合理的に結び付けた企画書を作成したほうがよい。特に成果の見える化(例えば、意識の変化についてアンケートをとる等)に留意したほうがよい。
15	7/20	その他	ESDパスポートの手続きについて教えてほしい。	・当センターでは扱っていないため、ユネスコ協会へ照会するよう回答した。
16	7/20	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	幼稚園児たちが外遊び・プール遊びをする際に、熱中症の危険度をどのように確認したらよいかと問合せがあった。(厚労省の関係機関に電話をかけたところ、EPOの電話番号を教えられたとのこと。)	・環境省の熱中予防サイトがあることを伝え、「暑さ指数」「日常生活に関する指針」「運動に関する指針」等が掲載されていることをお知らせした。
17	8/7	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	秋の社会見学として、EPO中部の事務所を訪問したい。希望日・人数等は次のとおり。日時:11月1日(木)10:00-11:00 希望人数:1班か2班(5,6名~10名)一昨年にも社会見学で訪れた。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営団体が4月から変わっており、担当から今週中に一度ご連絡差し上げると回答。 ・同日、宮田中学校(サッサ様)から、他企業の見学で予定が埋まったため、今回の見学を見送る(来年また検討する)旨、連絡あり。
18	8/8	地方自治体・行政_首長部局	市ではわいわいフェスタというイベントを市民中心で行っている。ESDをかかげて3年目を迎えるが、ESD/SDGsが市民に浸透しない。今年度は終了した(4,300人の来場者あり)が、来年度に向けてESD関連のイベント中身について相談したい。なお、今年のイベントでは、出展者に、SDGsの目標について、どれにあてはまるのかを17種のカードから選んでもらう試みを行った。	<ul style="list-style-type: none"> ・8/8に来所して相談を受けた。 ・次の4点について助言等を行った。 (1)日進市長が示しているESD推進の基本方針をベースに、市民協働課としては、何をしたいのかを明確にする必要がある。 (2)ESDとイベントの関わりについて、「持続可能な社会(地域のすてきな未来のありよう)を実現するための人づくり」のひとつの手段として「わいわいフェスタ」がある、という認識が担当課の共通理解として前提にあるのか(あることが重要)。 (3)出展者が、自分の言葉で、SDGsにどう貢献しているかを市民に説明し、市民に理解してもらうこともESDとなるのではないか。 (4)出展者によるワークショップの企画はいいかがか。300人規模となると、労力・経費・事前準備の問題が出てくるので、1年目は実行委員によるワークショップ→2年目に出展者によるワークショップ、と2年がかりで発展させていくという方法もあるかと思う。 その他、参考として冊子等を提供した。 ・『環境保全からの政策協働ガイド』(環境省) ・『協働の現場』(GEOC)
19	8/28	企業等	役員を務める企業に、SDGsを説明、紹介したいため、それに適した資料をさがしたい。	・環境省「SDGs活用ガイド」(本編)(概要版)をお勧めし、5部ずつお渡しした。また、個人個人にSDGsへの理解を深めていただくために、「ナマケモノにもできるアクションガイド」(EPO内出力資料)を5部お渡しした。
20	9/3	地方自治体・行政_首長部局	わいわいフェスティバル検討委員会を立ち上げるにあたって、ESD/SDGsの理解から市民参加と協働を進める講演をお願いしたいとの要望あり。	・ただの勉強会だけでなく、実行委員や関係者が考える場づくりをワークショップなどで行ったらどうかと助言。9月20日に実施することとし、WSIに先立ち市民協働とSDGsについての話題提供を行った。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容
21	9/14	地方自治体・行政_首長部局	日進市の策定したESD推進基本方針を推進するにあたり、どのように取組みを進めるのがよいか、またEPO中部との連携をどのようにとることができるか、について意見交換を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・条例の枠組みにある持続可能なまちづくりのための市民参加を推進するには、市民の持続可能社会づくり能力を向上させる必要があり、そのためのESD推進が必要と指摘。また市の役割としてこうした枠組みを庁内意識として共有することが重要で、横ぐしのESD推進委員会を活用して職員教育を推進することが必要と指摘。 ・EPO中部との連携では、現在作成中のESD/SDGsチェックリストを紹介するとともに、今後ESD関連イベントに事例紹介をお願いした。当面機会をとりえて意見交換の場を作ることとした。
22	10/9	地方自治体・行政_首長部局	松阪市が主催するパートナーシップ会議で参加する活動主体を対象にした協働促進のための話題提供を依頼された。	<ul style="list-style-type: none"> ・10/9電話にて依頼があり、同日に登壇予定者本人が折り返しの電話を行い、10/31に松阪市側の担当者がEPOへ来所し、説明・打ち合わせを行うことになった。 ・10/30電話にて、講演を別途行うことになったため、今回は依頼を行わない旨の連絡があった。
23	10/12	その他	環境カウンセラー協会中部の研修会(12月7日)について、低炭素社会構築の内容で午後枠の登壇の依頼あり。	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的にワークショップのコーディネーターとしてCOOL CHOICEのワークショップを実施。
24	10/18	公益法人_NGO_NPO等	大学生・大学院生を環境系団体にインターンシップとして派遣することを行っており、派遣先を探している。EPO中部をインターンシップ派遣先としたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・10/18電話にて依頼あり。責任者から後日ご連絡させていただくと回答。 ・10/19担当者で電話で話し、内容について確認した上で、中部地方環境事務所、受託団体:環境創造研究センターに報告。引き受ける方向で10/22に連絡。 ・10/22財団側担当者が来館し、制度の詳細を説明いただくと共に正式に引き受ける旨の回答をした。 ※年明けに団体紹介用の原稿作成等の作業が発生する予定。その他、学生、財団、EPOで契約書のとりかわしあり。情報管理に関わる契約書を別途交わすことも可能。各団体へ支払われる50,000円の協力金については辞退した。 ・2/14メールにて正式な依頼、書類が届き、中部地方環境事務所に報告の上、エントリーシートを作成、2/21に提出した。 (4/19説明会参加予定。)
25	11/5	初等・中等教育関係機関_ネットワーク_社会教育施設等	食品ロスをテーマにした学習プログラムの実施を予定しており、学校周辺のスーパーへの取材等のコーディネートをお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・11/5電話で依頼あり。イオンなどの学校から日帰りできる範囲のスーパー等で、フードロス対策の取組を児童たちが取材したいとの相談を受けた。(ESD企画運営会議委員・水谷先生から紹介されたとのこと。) ・11/6イオンにメールで問合せ。同日中に、イオンのマックスバリュ長野(株)から電話をいただく。子ども向けの資料・教材はないが、フードロス、廃棄物ゼロに関わる取組を児童にお話することについては快諾いただけた。 ・11/6長野小学校へ電話し、上記についてお伝えすると共に、和田氏の連絡先をお伝えした。
26	11/16	企業等	名古屋市内でパナソニック主催のESD及びオリンピック・パラリンピックをテーマにしたセミナーを開催するため、愛知県の学校関係機関、日進市でESDに熱心に取り組んでいる団体などを紹介してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・11/16電話で問い合わせあり。 ・愛知県のユネスコスクール支援担当課である愛知県教育委員会生涯学習課、日進市環境課環境政策・ESD推進係を紹介した。また、開催セミナーの情報・チラシ等を当センター宛てに送付いただくようお願いしたところ、メールにてチラシ、イベント詳細を掲載したURLを送付いただいた。 ・11/19ESDセンターのウェブサイトにセミナー開催のお知らせ記事を掲載。先方に報告。今後機会があれば先方も協力したい旨の連絡をいただいた。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容
27	11/28	地方自治体・行政_首長部局	<p>国立公園で環境教育を取り入れた取組を展開したいため、ESDセンターに相談にのってほしい。</p> <p>ESDのことがよくわかっていないため、ESDについて教えてほしい。</p> <p>事務所では環境教育関連イベントなどをこれまでに開催しているが、クラフト作りワークショップ等を実施した場合でも、何をするとESDを行ったことになるのかがわからない。</p>	<p>・11/28電話で相談依頼あり。翌日に名古屋へ来られた際にEPO(ESDセンター)へ立ち寄っていただき、直接面談して、詳細をうかがうことになった。</p> <p>・11/29先方が来館されて面談。</p> <p>クラフト作りイベントなどでは、折り紙工作をするのみでなく、クイズ、アンケートを盛り込むなど、参加者が自分で考えるプログラム、パネル等を読んだ上で答えることになるプログラムを盛り込むといった工夫の方法をいくつか提案した。また、志賀高原BRの環境学習プログラムのESD事例などを紹介した。また、白山国立公園内のユネスコエコパーク、2つのジオパークの事務局の中には、地域の教育委員会、自治体等が構成団体となっているため、それら事務局とのネットワークづくりが学校(教育委員会)、地域とのネットワークづくりにもなる可能性があることを情報提供した。</p> <p>イベントを開催する際には、EPO(ESDセンター)も広報協力が可能であることをお伝えし、参考資料として、ESD関連パンフレット、環境学習プログラムづくりに関わるガイドブック等を提供した。</p>
28	12/4	公益法人_NGO_NPO等	<p>12/12開催SDGs講座(四日市市主催)のワークショップにおいて、ESDセンター作成中のSDGsポイントチェックリストを活用したい。</p>	<p>・12/4に来館し、12/12開催講座のワークショップ内容等について確認の打合せを行い、チェックリストを試行的に活用することになった。講座参加者にチェックリスト、使い方ガイドと共に、アンケートを配布していただけたことになった。</p> <p>・12/11配布資料の準備を行い、先方へ送付した。</p>
29	12/10	公益法人_NGO_NPO等	<p>揖斐川流域において持続可能な地域づくりに関する調査を今後展開して具体化につなげていきたい。</p> <p>各種基金等に申請しているが、どのような資金獲得方法があるか、調査方法や方向性についてどのようにするのがよいか助言等いただきたい。</p>	<p>・12/10直接面談して話をうかがった。内容的に第5次環境基本計画の重要テーマである地域循環共生圏づくりに相当する話であり、今後国としても様々な事業が出てくる可能性があるため、情報感度を上げておくべき。すでに相談を持ち掛けている経済の研究者を含め、協働して取り組む地域の調査プラットフォームを整備するところからはじめたらどうか。揖斐川流域全体の統計データを収集するとともに、懇意の特定の基礎自治体(垂井町など)をターゲットとしたSDGs的統計資料調査を行うことを当初の行動目標として、最終的に素晴らしい成果が出ることをアピールしたらどうか。地域循環共生圏全国ブロック会議で配布された新規事業に関する資料を参考資料として提供した。</p> <p>・12/25環境省の「地域経済循環分析ツール」についてDLのできるURLをメールでお知らせしたところ、御礼メールをいただいた。</p>
30	12/10	地方自治体・行政_首長部局	<p>・長野県の環境教育事業(信州環境カレッジ事業)に対する助言をいただきたい。</p> <p>・今後、この事業を普及していくために必要なこと、NPO法人など様々な主体を巻き込んでいくために必要なこと、学校への普及に必要なことなどを相談したい。</p>	<p>・12/10電話、メールで相談内容についてご連絡いただき、12/14に名古屋へ来られる際に、EPOへ立ち寄ることになった。</p> <p>・12/14来館されて、環境教育プログラムを学校側に展開していただくためには、コーディネート、マッチングが必要であること、NPO等による開催講座の登録促進には地域のNPO活動支援センター等のネットワークを活用することなどを伝え、愛知県コーディネート業務関連の資料などを参考資料として提供した。</p>
31	12/11	企業等	<p>・車などの排気騒音の環境省の規制基準とその測定方法(条件)などを教えてもらえる窓口をおしえてほしい。</p>	<p>・12/11中部地方環境事務所から本省担当部署(環境省水・大気環境局大気生活環境室)と電話番号、関連資料パンフレットを教えてもらい、先方へお伝えした。(パンフレットは既に手元にあるとのことだったが、)担当部署へ電話をして問い合わせしてみるとのご回答をいただいた。</p>
32	12/19	地方自治体・行政_首長部局	<p>・「協働コーディネーター」について概要がわかる資料等はないか。</p>	<p>・12/19電話による照会あり。12/20再度電話予定。</p> <p>・12/20に電話があり、趣旨について再度説明いただいた上で来訪された。関連するパンフレット、資料、1/15開催・協働フォーラムの開催案内チラシ等を提供した。</p>

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容
33	12/21	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	(※リーフレットを見て連絡) ・5月に津市内の学校関係者が集まる総会があり、会議後にユネスコスクールについて講演して下さる講師を派遣してもらうことは可能か。ユネスコスクール登録が1校しかないため、ユネスコスクールが増えていくことを目的とした講演内容を希望。	・12/21電話で問合せ。可能であると回答。また、外部の講師を招聘した場合の謝金の相場を聞かれ、環境省の規定額を例としてお伝えした。 ・3/12電話で照会あり。依頼内容について再度説明された。 ・3/13折り返し電話。講演内容と主催者ニーズの詳細を聴き取り。ユネスコスクールを増やしたいのが最大の動機とのこと。登録申請等の内容であれば経験者(夕張市には多いとのこと)をお願いする方法もあると助言。当方で行う場合はESDの一般論やユネスコスクール概要、活動事例の紹介にとどまる旨説明。先方内部でもう一度求める内容の詳細を明確にすること。
34	12/26	その他	(※リーフレットを見て連絡) ・ESDに関連して今後の展開について相談したい。 ・今後の自身のネットワークづくりにESDセンターがどのように協力できるのか確認したいとのこと。	・12/26電話で挨拶に伺いたい旨の連絡をいただいた。また、少し相談もあるとのこと。 ・12/27来所。EPO、ESDセンターとして協力できる内容について紹介した。
35	1/9	地方自治体_行政_首長部局	・2/22地域環境活動促進セミナーへの参加を検討している。環境分野に明るくないため、ワークショップに参加しても内容についていけるか、周りに迷惑がかからないか等、事前に様子をうかがっておきたい。	・1/9電話による照会あり。参加いただくことに特段問題ないと思われるが、ワークショップの進行や様子について、後日担当からお話しさせていただくと回答した。 ・1/10電話で特に環境に関する知識等なくても参加に問題はないことをお伝えした。
36	1/21	企業等	・3月15日開催・地域住民との意見交換会への出席メンバーとしてNPO等地域活動者1-2名を推薦・紹介してほしいとの連絡があった。	・2/1に推薦したい環境活動団体の方へ依頼、快諾いただき、関連資料の送付等行った。 ・2/6に事業者へ推薦者の情報を連絡。 ・2/7学生さんの参加者がいないため追加して推薦いただきたい旨の新たな相談依頼。 ・2/8中部大学で参加希望者があり、事業者へ連絡。そのほかにも同大学で参加希望が増える可能性があり、直接応募の遣り取りを行っていただくことになった。 ・3/4に完成冊子が届いた。
37	1/23	企業等	・愛知県発行のESD冊子に中部地方ESD活動支援センターを掲載・紹介したいため、その原稿確認等の依頼。	・1/23に電話、メールで依頼あり。1/30までに原稿確認とのこと。中部地方環境事務所に連絡し、掲載可否についてうかがった。 ・1/24特に修正等の必要がない旨を先方に連絡。 ・1/28先方から返信があり、完成後に完成した冊子を送付いただけるとのこと。 ・
38	1/24	企業等	・環境保全活動に取り組んでいる市民活動団体等を紹介してほしい。 ・岐阜県委託業務で環境学習体験ツアーを企画する際に、環境学習の講師を務めるNPOもしくは有識者等を紹介してほしい。	・1/24電話で依頼があり、詳細をうかがうため、同日に打合せを設定した。 ・NPO・有識者の紹介は可能であり、具体的にテーマ等が決定した際に、どのような団体・人を知りたいか照会連絡がほしいと伝えた。岐阜県の二人の協働コーディネーターや、ぎふNPOセンターなどがあることを紹介した。 ・1/30に再度、相談したいことがあるとの連絡があり、2/6来館。具体的に日程、テーマ、講師及び関連資料(参加者への配布資料とバスの中で鑑賞する動画資料)等について相談された。 ・2/6環境省による「プラスチック問題への取組」の話についての可否を、中部地方環境事務所へ確認。 2/7揖斐川流域での里山の循環の話について、協働コーディネーター・河合氏に連絡。 ・両ツアー講師候補とも引き受け可能であるとのことを事業者へ連絡。河合氏とは直接遣り取りを行っていただくことになった。 ・2/13河合氏から、日本旅行さんと直接連絡を取り、調整中との報告をいただいた。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容
39	2/5	初等・中等教育関係機関・ネットワーク・社会教育施設等	<p>・①学校のESD活動について、県に提出する報告書をまとめているところであるが、報告書にEPO中部の名前を掲載してもよいか。</p> <p>・②新年度のESD活動について、検討を進めているところであるが、今後、相談の窓口となっていた担当者名・役職等を教えてほしい。</p> <p>※内容が固まってきたら(～年度末頃)、改めて連絡を入れさせていただく。</p>	<p>・2/5に電話で照会あり。昨年4月より受託団体が変わっている旨伝える。また、照会内容については、確認のうえ明日以降ご連絡差し上げる旨伝えしたが、内容が固まってから先方から連絡が入ることになった。</p>
40	2/5	企業等	<p>・象牙を売る時の手続きはどうしたらよいか。</p>	<p>・2/5に電話で照会あり。環境省のWebページに象牙の取引についての記載があることと、登録手続きの問合せ先として、 (一財)自然環境研究センター〔電話：03-6659-6018〕をご案内した。</p>
41	2/14	企業等	<p>・SDGsをテーマにしたセミナーやワークショップを開催したいと考えており、連携してくれる企業・団体等の紹介も含めて相談したい。</p>	<p>・2/14来所したが担当者不在のため、2/20再度来所。</p> <p>・旅行会社として実施したいことをヒアリングし、企業(特に中小企業)によるSDGsをテーマにしたネットワークづくりやセミナー等開催に関する情報提供を行った。また、持続可能な地域づくりとつながるESDと観光とを結びつけた展開を期待する旨のディスカッションを行った。</p>
42	3/12	企業等	<p>(※GEOCに連絡したところ、EPO中部を紹介された。)</p> <p>・水をテーマにした社会貢献活動をしたいとの相談を受けており、パートナーシップを組めるNPO団体等の紹介を依頼された。</p>	<p>・3/12電話で照会あり。GEOCに照会したところ、EPO中部を紹介され、電話をされた。明日以降、こちらからご連絡差し上げると回答。</p> <p>・3/13電話で概要を伺い、その後、事業者担当者から直接連絡があり、来館日の日時設定を行った。</p> <p>・3/18来所して具体的にどのような活動、どのようなNPO団体等と連携するかがあった。はじめから活動等に本格的に参加する形でなく、ネットワーク団体主催イベント等に参加して、連携できる団体とつながりを持つ、または協働コーディネーターを活用して地域貢献活動をコーディネートしていただく方法などを紹介した。一度、具体的にどのような方向性で展開するか社内確認・検討していただくことになった。</p> <p>・3/25メールにて協働コーディネーターとの面談を希望する連絡があり、愛知・岐阜4名のコーディネーターに相談・面談の可否について確認連絡を行った。</p>
43	3/18	地方自治体・行政_首長部局	<p>・市内職員を対象にしたESDアンケートの実施を検討しており、その内容について相談したい。</p>	<p>・3/18来所して、市のESD推進基本方針に則り、アンケート調査の目標等を整理した上で、設問設計案等について一緒に検討を行った。</p>
44	3/22	企業等	<p>・CSR活動の一環として、SDGsゴール12に関連して海岸での清掃活動等行う予定であり、名古屋圏で活動している団体を紹介してほしい。</p>	<p>・3/25メールにて問合せがあり、藤前干潟クリーン大作戦、22世紀奈佐の浜プロジェクトについてメールで紹介した。その後、先方から連絡があり、紹介したウェブサイト等へ直接問合せをされることになった。</p>

3.2.1.2. その他の問合せ対応等

- 相談者との面談や資料・情報収集などを要しなかったその他の相談・問合せ等も含めた相談・問合せ件数は、2019年3月25日時点で138件である(※上記の相談対応についての記載も含む)。
- その多くがイベント等の参加者募集広報に関する協力依頼であり、EPO中部/中部地方ESD活動支援センターのウェブサイトやメールマガジンに掲載・発信するなどの対応を行った。
- その他、情報収集・資料収集や会議・打合せ利用など、相談対応以外の来館が126件あった。

相談・問合せ件数：年間・計 138 件（2019 年 3 月 25 日時点集計）

月	件数	相談・問合せ内容
4 月	9 件	<ul style="list-style-type: none"> ・日中韓環境相会合ユースフォーラム募集、愛知学長懇話会サステナビリティ企画委員会の広報依頼 ・ごみ減量をテーマにした環境学習授業の講師派遣依頼 ・愛知県ユネスコスクール支援会議の委員について委員招聘依頼 ・名古屋市民 NPO から問合せ ・祖父江のホタルを守る会（稲沢市）：11 月に稲沢市制 60 周年記念事業での基調講演講師の紹介依頼 ・企業の地域住民意見交換会「環境ダイアログ」の参加メンバー（地域活動者、学生等）推薦の依頼 ・企業から SDGs をテーマにした CSR 事業の企画について相談 ・富山県団体から広報協力依頼 ・企業から 5 月中の CSR 活動の企画相談
5 月	17 件	<ul style="list-style-type: none"> ・企業から CSR 活動のマッチング依頼 ・来所して資料・パンフ等収集したいとの連絡 ・平成 29 年度加速化事業報告書の入手依頼 ・ESD アワード 2018 の広報協力依頼 ・NPO が来所してあいさつ、資料収集 ・環境イベントの広報依頼 ・NPO からの問合せ ・企業からの講師依頼に対する連絡調整 ・浚渫・油回収船の広報に関する相談 ・同時解決事業ヒアリング団体からの業務委託に関する問合せ ・ESD 関連イベントの広報依頼 ・森林環境教育関係団体の情報収集依頼 ・企業による意見交換会参加者の推薦依頼 ・養成研修講座の案内 ・ワークショップ開催の広報依頼 ・基金団体から助成の募集情報の広報依頼 ・ワークショップの広報協力の正式依頼
6 月	10 件	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習講師養成講座の広報依頼 ・聞き書き甲子園 協力的市町村公募の広報依頼 ・名古屋市立の高校から訪問ゼミの依頼 ・名古屋市立の高校から「絶滅危惧種」についての訪問ゼミの正式依頼 ・「ESD 環境学習プログラム研修会」広報依頼 ・「第 5 回 ESD 日本ユース・コンファレンス」広報の打合せ依頼 ・「第 5 回 ESD 日本ユース・コンファレンス」広報の調整 ・「第 5 回 ESD 日本ユース・コンファレンス」広報の方法についての相談対応 ・中部圏地域創造ファンド（CRCDF）フォーラムの広報依頼 ・中部大学開催の ESD 発表会の広報依頼
7 月	8 件	<ul style="list-style-type: none"> ・商品等に対する環境省の推奨認定を得る方法について問合せ ・環境学習、ボランティア活動への参加促進について問合せ ・愛知県環境学習プラットフォームの登録方法、開設サイト等についての相談 ・NPO 団体から ESD に関わる相談のための来所日程を調整 ・教育ファーム立ち上げの相談 ・ESD パスポートの手続きについて問合せ ・熱中症の危険度の確認方法について問合せ ・NPO からイベントの広報協力依頼
8 月	9 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニコミ誌の配架依頼 ・自治体から来年度の ESD 事業について相談 ・江南市立中学校から社会見学希望の問合せ ・自治体から来年度の ESD 事業について相談 ・「いきものログ」の広報依頼 ・セミナー開催広報について協力依頼 ・ESD センター後援申請者によるイベント参加依頼と来館アポイントの連絡 ・ESD センター後援イベント主催団体からイベント出席と広報の協力依頼 ・ESD センター後援イベント主催団体が来館し、イベント出席と広報協力の打合せ
9 月	7 件	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体から SDGs 関連イベントの開催方法について相談 ・メルマガの登録方法、登録申込についての問合せ ・自治体による ESD 展開について相談・意見交換 ・環境コンテストイベントの広報協力依頼 ・ユース環境活動発表イベントの広報協力依頼 ・後援イベント申請団体から取組説明の日程調整連絡

月	件数	相談・問合せ内容
		・NPO からイベントについて広報依頼
10月	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・後援イベント申請団体のイベント参加者決定の報告とご挨拶、交流会開催の広報依頼 ・モニタリング環境調査の広報依頼 ・自治体からパートナーシップ会議での協働促進をテーマにした話題提供の依頼 ・研修会への登壇依頼 ・SDGs イベント参加者募集の広報依頼 ・自治体施設がセミナー開催の広報依頼 ・学生インターンシップ受入れ可否について問合せ ・環境インターンシップ事業について確認 ・環境インターンシップ事業について打合せ説明
11月	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市内の小学校から食品ロスの調査に関するコーディネート依頼 ・ESD 拠点からユネスコスクールフォーラムの広報依頼と情報収集のため来館 ・長野市内の小学校と小売事業者との連絡調整 ・海外派遣研修の広報依頼 ・ボランティア協会から助成団体募集の広報協力依頼 ・企業主催 ESD イベントの広報依頼 ・シンポジウムの広報協力依頼 ・国立公園での環境教育を取り入れた取組に関する相談依頼の連絡 ・国立公園で ESD を取り入れた環境教育の取組展開について相談
12月	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な地域づくりに関わる調査方法について相談 ・長野県の環境教育事業について相談連絡 ・車などの排気騒音に関わる窓口についての問合せ ・長野県の環境教育事業の今後の展開に関する相談 ・「協働コーディネーター」に関する資料の問合せ連絡 ・「協働コーディネーター」に関連した資料・情報の提供依頼 ・ユネスコスクール団体から講演講師紹介の問合せ連絡 ・化学物質リスクアセスメント講習会の広報協力依頼 ・大学院生から ESD の展開に関する相談連絡
1月	15件	<ul style="list-style-type: none"> ・主催フォーラムについて問合せ連絡 ・2/22 協働ワークショップをメルマガで紹介したい旨の問合せ ・主催セミナーについての問合せ (5件) ・愛知県事業について広報協力依頼 ・2/22 セミナー登壇講師について問合せ (研修会講師としての依頼の可否確認) ・企業から地域住民との意見交換会の参加者の推薦依頼 ・来館の可否についての問合せ ・愛知県作成・発行の ESD 冊子に掲載する中部地方 ESD 活動支援センター紹介記事の原稿確認依頼 ・環境学習ツアーの講師等の紹介依頼 ・コツメカワウソ飼育の許可の取り方、窓口について問合せ ・旅行会社から相談のためのアポイント連絡
2月	21件	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市内の中・高校から報告書への EPO 中部の名前掲載の可否と来年度活動の窓口の照会 ・象牙を売る手続きについての問合せ ・シンポジウムの広報協力依頼 ・旅行会社が環境学習ツアーについて相談 ・旅行会社が環境学習ツアー企画のため対象地域の NPO 等の紹介等相談 ・企業から地域住民との意見交換会の参加者について学生の参加者の紹介を追加依頼 ・主催セミナーについての問合せ (3件) ・協働コーディネーター関連イベントの広報依頼 ・旅行会社から SDGs 関連イベント開催についての相談連絡 ・コンテスト・イベントの広報依頼 ・環境インターンシップ事業の正式エントリーの確認連絡 ・ダイオキシンの窓口について問合せ ・旅行会社が SDGs に関わる取組展開について相談 ・環境インターンシップ事業説明会についての連絡 ・講座開催についての広報協力依頼 ・ビル空調システム導入に関わる助成金窓口の問合せ ・EPO 打合せスペース利用の申込連絡 (2件) ・EPO での作業利用の申込連絡
3月	15	<ul style="list-style-type: none"> ・地域循環共生圏関係事業の確認連絡 ・水をテーマにした NPO 団体の紹介要請連絡 ・ユネスコスクール関係団体からの確認連絡 ・地域循環共生圏づくりプラットフォームの申請方法について問合せ

月	件数	相談・問合せ内容
		<ul style="list-style-type: none"> ・水をテーマにした社会貢献活動の照会・相談 ・ESD やユネスコスクールについての講演依頼 ・地域 ESD 拠点に登録するメリット・デメリット等についての問合せ ・立ち上げたばかりの NPO から EPO がどんなことをしてくれる施設かとの問合せ ・水をテーマにした社会貢献活動について来所して相談 ・自治体から職員対象の ESD アンケートの内容作成について来所して相談 ・修正に伴う環境情報誌の返送依頼 ・自治体からの相談・来所希望 ・企業から SDGs ゴール 12 に関連する GSR 活動実施のための海岸清掃活動団体の照会の問合せ ・環境インターンシップ制度の説明会実施に関する確認連絡 ・協働コーディネーターとの面談依頼
計	138 件	※相談・問合せ以外の来館：126 件

3.2.2. 対話の体制の構築

3.2.2.1. 会議等への招聘・委嘱等

- ・ EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターが招聘された会議等は下記の 3 主体である。
- ・ 下記については、会議出席のほか、事務局、他の委員等との打合せなども適宜行った。

	主体	名称	会議回数	職名	EPO 中部／中部 ESD センター参画者
1	名古屋市	「なごや環境デー」実行委員会	1 回	委員	顧問 児玉剛則
2	愛知県	愛知県ユネスコスクール支援会議	3 回	委員	ESD 責任者 原理史
3	信州大学	信州 ESD コンソーシアム通常総会	1 回	構成団体	統括 清本三郎

3.2.2.2. EPO 中部による後援

- ・ 今年度、EPO 中部の後援申請が 1 件あった。

申請主体（行事主催者）：一般社団法人環境創造研究センター
 申請行事：日・中・韓国国際シンポジウム「改めて「空気の大切さ」を考える」
 行事開催日：2018 年 12 月 6 日

- ※ 中部地方 ESD 活動支援センターによる後援については、ESD 活動支援センター（全国センター）が申請先の手続き主体になっているため、「5.3.5 全国 ESD センターとの連携、地域 ESD 拠点登録支援等」の項目で整理した。



3.3. 施設の維持・管理

3.3.1. オフィスの防火・防災管理

- ・ 防火・防災管理については、法規定に則り、常勤スタッフが「防火・防災管理者」講習を受講した上で消防計画書等を作成の上、管轄消防署への届出を行った。
- ・ また、防火・防災に関わる身のまわりのチェックを定期的（週 2 回程度）に実施しているほか、7 月 13 日にはビル内一斉の防火・防災検査が実施され、ビル管理会社を通して所轄消防署へ検査結果の届出を行った。
- ・ いずれの届出書類も「防火管理台帳」による保管を行っており、また、各種届出等関係書類は、中部地方環境事務所へも提示・確認を行っている。

3.3.2. 施設の運営状況・利用状況等

- 施設の運営状況、利用状況については、業務実施日数（イベント運営等の外勤等含め、スタッフの実働があった日数）は2019年3月25日時点で279日、施設の開館日数は228日である。
- 同様に、来館件数とメール・電話による問合せ件数の合計は計264件であった（このうち相談対応に該当するものは138件／前項3.2.1に記載）。
- 前年度の開館日数、来館者数、スタッフ体制数と比べて、今年度の実績はいずれも下回る数となっており、EPO内での会議・打合せ実施数等が少なかったことなどが要因と考えられる。
- EPOが外部者による利用の可能な施設であることが認知されていないため、EPOの施設利用のPRを積極的に展開する必要がある。

業務実施日数：279日

（※開館日以外のイベント運営、取材等業務を実施した日数を含めた年間の総日数）

【施設の運用状況・使用状況等】

	業務実施日数・計 (日)	開館日数・計 (日)	来館者数・計(人)		来館件数・計		メール・電話による 問合せ件数(件)		スタッフ体制・計	
				日平均 (人/日)		日平均 (人/日)		日平均 (件/日)		日平均 (人/日)
4月	20	20	30	1.5	18	0.9	9	0.5	53	2.7
5月	22	20	33	1.7	20	1.0	14	0.7	52	2.6
6月	23	20	31	1.6	10	0.5	9	0.5	71	3.6
7月	22	20	18	0.9	10	0.5	6	0.3	61	3.1
8月	25	18	13	0.7	9	0.5	5	0.3	51	2.8
9月	19	18	24	1.3	10	0.6	5	0.3	57	3.2
10月	27	21	31	1.5	17	0.8	6	0.3	63	3.0
11月	31	20	9	0.5	7	0.4	7	0.4	58	2.9
12月	21	19	52	2.7	22	1.2	7	0.4	62	3.3
1月	21	19	17	0.9	9	0.5	15	0.8	64	3.4
2月	23	19	18	0.9	10	0.5	18	0.9	54	2.8
3月	25	14	15	1.1	8	0.6	13	0.9	43	3.1
計	279	228	291	1.3	150	0.7	114	0.5	689	3.0

※ 「3月」の数値は3月25日時点で集計を行った。

【前年度実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
開館日数	20	20	22	20	18	20	21	20	20	19	19	21	240	21.8
昨年実績	20	19	22	20	19	20	20	20	19	19	20	22	240	21.8
来館者数	49	39	56	45	38	36	50	59	35	39	12	43	501	45.5
日平均	2.5	2	2.5	2.3	2.1	1.8	2.4	3	1.8	2.1	0.4	2		
昨年実績	59	49	32	29	43	48	35	36	11	28	31	50	451	41.0
スタッフ体制	57	80	84	71	62	69	94	94	94	89	75	82	951	86.5
日平均	2.9	4	3.8	3.6	3.4	3.5	4.5	4.7	4.7	4.7	2.7	3.9		
昨年実績	70	72	79	72	80	93	89	94	94	95	97	100	1035	94.1

平成29年度実施報告書（3月1日～31日）より

4. 協働取組の促進のための業務

4.1. 協働コーディネーター育成事業の発展的展開

4.1.1. 協働コーディネーターのPR ツールの作成

- 協働及び協働コーディネーターの取組事例等を紹介するためのコンテンツ・ツールとして、次の冊子（A 4 サイズ・全 20 頁／表紙・ウラ表紙含む・フルカラー）を作成した。
- 掲載した協働コーディネーターの取組事例については、今年度で開催した協働フォーラム（項目 4.2.3 参照）に登壇して事例発表を行った協働コーディネーター 8 名の事例を記事原稿に整理した。
- 完成した冊子は、協働取組推進のためのワークショップ・セミナー（項目 4.2.4 参照）で受講参加者に配布したほか、EPO 中部ウェブサイトにて掲載、公開した。

【作成原稿】



1 協働について

■ 第五次環境基本計画と協働

「第五次環境基本計画」（2018年4月閣議決定）では、「地方公共団体、事業者や地域住民が連携・協働して、地域の特性を的確に把握し、それを踏まえながら、地域に存在する資源を持続的に保全、活用する取組を促進する」としています。様々な主体の「協働」に基づく、持続可能な地域づくりを推進するものです。

■ EPO中部と協働コーディネーター

EPO中部では、第4期（2015～2017年度）の事業期間において、中部における地域環境活動の協働促進を目的として、「協働コーディネーター」の育成支援を展開しました。中部の7つの県（富山県・石川県・福井県・長野県・愛知県・岐阜県・三重県）から、計21人の協働コーディネーターを招聘し、協働コーディネーターの役割、技能等についての研究・研修を実施しました。

■ 地域循環共生圏と協働コーディネーター

第五次環境基本計画において「地域循環共生圏」の構築が示されました。これを受け、EPO中部では、第5期（2018～2020年度）において、協働やSDGs活用を含めた地域環境活動を支援・促進することとし、地域の人材である協働コーディネーターの活躍方を検討しました。

第5期からも16名の協働コーディネーターが引き続き、EPO中部への協力を継続いただくことになり、2018年度のEPO中部「協働コーディネーター連絡会（全3回）」の会議を経て、「地域循環共生圏づくり研究会（EPO中部）」を2019年度に立ち上げることになりました。協働による地域循環共生圏づくり、研究会としてどのように取り組み、どのような支援が可能か検討していく予定です。

地域循環共生圏

「第五次環境基本計画」では、各地域がその特性を活かした強みを発揮し、地域ごとに異なる資源が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、それぞれの地域の特性に応じて近隣地域等と地域資源を補完し支え合う「地域循環共生圏」を創造していくことが求められているとしています。

また、「平成30年度 環境・循環型社会・生物多様性白書」では、地域の強み・弱みを客観的に分析・把握するための考え方や、地域循環共生圏の具体化に向けて、地域の再生可能なエネルギー資源、自然資源、循環資源等を活用した取組などを紹介しています。

●地域循環共生圏の概念図

○各地域がその特性を活かした強みを発揮
 ー地域資源を活かし、自立・分散型の社会を形成
 ー地域の特性に応じて補完し、支え合う

里山保全体験を通した障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

平成30年度持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業に採択された中部エリアの事業

環境では、地域における環境課題への取組を、SDGsを活用することにより他の社会課題の取組と統合的に進めることで、それぞれの課題との関係の深化、ステークホルダーの拡大、課題解決の加速化等を促進することを目的に「平成30年度持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」を実施しています。

平成30年度の中部エリアの事業として、長野県飯山市の里山ウェルネス研究会による林福連携の取組が採択されました。飯山市で活動する様々なステークホルダーの協働により、次の地域課題の解決を目指し、事業を展開しています。

- 里山ウェルネスが解決を目指す地域課題
 - ①環境課題：森林保全のために間伐された木材利用が滞らない
 - ②社会課題：障がい者雇用支援の不足
 - ③経済課題：冬期の林業及び林業従事者等の収入減少
- 最終目標（解決した地域の状況）
 - 木材利用による、地域内の人々と障がい者が雇用、社会連携できる仕組み、場所を作ることができ、里山保全だけでなく、様々な分野で障がい者が働きやすくなり、住みやすい地域になる。事業と障がい者雇用を活用した林福連携、SDGsの成果もとりとれる。
- 事業によって目指す6つのSDGs
 - 3 気候変動に具体的な対策を
 - 4 質の高い雇用を創出
 - 5 豊かになりつつも格差をなくす
 - 8 質の高い雇用を創出
 - 11 住み続けられるまちづくりを
 - 12 つくばない、減らす、リサイクル
 - 13 気候変動に具体的な対策を

障がい者雇用して間伐材の加工を行って生業品として事業で収益づけられている「ログファイヤー」（丸太のクワツ）

2 EPO中部で活躍中の「協働」コーディネーター

■ EPO中部・協働コーディネーターの皆さん

第5期（2018～2020年度）のEPO中部では、16名の協働コーディネーターが引き続き、EPO中部の活動にご協力いただきながら、各地で活躍しています。

地域	名前	所属先等
富山県	茶木 勝	株式会社ティ・フリー・コミュニケーションズ 代表取締役
	中川 透	緑の国自然エネルギー推進協議会
	堺 勇人	環境市民プラットフォームとやま 副事務局長
石川県	中里 茂	環境カウンセラー
	太田 雅之	一般社団法人能登定住・交流機構（株）30名の森プランナー兼デザイナー
福井県	芝垣 圭太	のと共栄信用金庫ふるさと創生部 次長
	日租 佳政	水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局（福前市農政課）
長野県	中島 阿児	NPO法人WACおばま 理事、NPO法人若狭くらしに水会 理事
	山室 秀俊	特定非営利活動法人長野県NPOセンター 事務局長
愛知県	山田 勇	特定非営利活動法人えんのわ、特定非営利活動法人わおん
	蒲 和宏	「なごや環境大学」実行委員会 事務局長
岐阜県	坂本 竜児	NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム、とよたエコライフセンター
	野村 典博	特定非営利活動法人森と水辺の技術研究会 理事長
三重県	河合 良太	NPO法人泉亨・能登理事兼事務局長、NPO法人地域の未来・支援センター 地域コーディネーター
	寺田 卓二	環境教育ネクストステップ研究会 代表
福井県	川北 輝	特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター 副代表理事

協働、共働の「協働」コーディネーター

■ 協働コーディネーター連絡会の開催

協働コーディネーターの皆さんが集まる場として「協働コーディネーター連絡会」を2018年度に3回開催しました。会議では、協働コーディネーターの取組の方向性や「活動見える化プログラム」について検討し、2019年度に「地域循環共生圏づくり研究会（EPO中部）」を立ち上げることが決まりました。



第2回協働コーディネーター連絡会での様子

■ 協働コーディネーターの皆さんの取組をご紹介します

EPO中部主催・協働促進のためのフォーラムにおいて、2018年度にEPO中部は「協働促進のためのフォーラム」を開催し、協働コーディネーターによる取組・活動紹介を行いました。2018年度のフォーラムは、北陸、信州、東海で各1回・計3回開催し、計8名のコーディネーターにご登壇いただきました。

2019年度以降も同様のフォーラム等を開催し、コーディネーターの皆さんに取組・活動を紹介する場を設けていく予定です。

フォーラム	事例／協働コーディネーター
第1回 北陸（金沢）	「コロナをシンボルとした福井県越前市における里山保全の協働取組」 日租 佳政 氏（福前市農政課のクワツリ共済会） 「地域課題に対する金融機関との協働取組の創出」 中島 茂 氏（環境カウンセラー）
第2回 信州（長野）	「SDGsでつなぐローカルパートナーシップ」 堺 勇人 氏（富山県立大学COCコーディネーター） 「FPOでつなぐ自治組織とNPO-地域資源の再発見と災害に強いまちづくり」 山室 秀俊 氏（特定非営利活動法人長野県NPOセンター事務局長）
第3回 東海（名古屋）	「こどもたちがもっと元気に輝く地域をめざして」 山田 勇 氏（特定非営利活動法人えんのわ/特定非営利活動法人わおん） 「地域課題の解決に向けた多様な主体による協働取組」 野村 典博 氏（特定非営利活動法人森と水辺の技術研究会理事長） 「高品質へのインフラを広げる（四日市市での実証から）」 寺田 卓二 氏（環境教育ネクストステップ研究会代表） 「とよたエコライフセンターの取組」 坂本 竜児 氏（NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム）



第1回（金沢開催）フォーラム 第2回（長野開催）フォーラム 第3回（名古屋開催）フォーラム

第1回協働促進のためフォーラム (2018年8月5日開催) での講演内容より

EPO中部コーディネーター
日和田佳政氏 (越前市農政課コウノトリ共生室)

コウノトリをシンボルとした
福井県越前市における里地里山の
保全再生の協働取組

国の特別天然記念物であるコウノトリは、越前市民にとって忘れられない物語を紡いだ鳥です。昭和45年にくらべし約半分のコウノトリが旧田生市に飛来し、「コウちゃん」と名付けられ地元の子供達により観察と保護が行われました。しかし、衰弱していた「コウちゃん」は翌年に捕獲され、兵庫県の新潟場に送られました。この時、飼育場のスタッフと地元の子供達の間で、「必ずコウノトリを越前の空に返す」という約束が交わされました。その後「コウちゃん」は、兵庫県のコウノトリ飼育場で1羽の子を産み、その命は孫に繋がるコウノトリの野生復帰に貢献しました。

コウノトリは豊かな生態系がある環境でないと生き生きと育ち、生きものとの共生のパフォーマンスであるといわれています。市では子どもたちの約束を果たすため、生きものとの共生と持続可能な地域づくりを目的し、「コウノトリが舞う里づくり構想」を平成22年策定。また平成24年に策定した実施計画と合わせ、「コウノトリが舞う里づくり戦略」として推進してきました。

県や市など行政によるコウノトリ定着推進に向けた取組が進む一方で、「市民との協働の実践」によるコウノトリが舞う里づくりも、戦略の3つの方針のもと展開されています。

その一つ、里地里山の保全再生では、行政、地元農家・業者、地域活動団体、研究機関など関係主体がそれぞれ役割を担いながら、休耕田トープや水田魚道の増設などの田んぼの自然再生を着実に進めています。また、JA地元農家などにより環境調和型農業が推進され、中でもコウノトリが反す農法は、そのコメを用いたお菓子や日本酒などの新商品が開発・販売されブランド化が進んでいます。学びあひ交流においても、行政・市民・事業者がメディアが連携してグラウンツリズムや環境学習を展開しています。

このような背景から、福井県は兵庫県との協力のもと平成22年から、越前市内でのコウノトリの飼育・繁殖試験が始まりました。平成22年から野外への放鳥が実施されるようになり、平成23年には、市内に野外コウノトリが飛来するようになり、平成25年には、白山地区に飛来する野外個体に県内で51年ぶりとなる産卵が確認され、これまでの活動の成果が窺われました。

越前市での取組は、意識して「協働」に取り組んでいこうというよりも、やってみたら協働になっていたといえるかもしれません。市民との協働がうまく進められた理由には次の3つのポイントがあると考えています。

- ①行政に、コウノトリという物語、シンボルとなししっかりした存在があった。
- ②市民の方々のコウノトリに対する関心が強く、地域のつながりも強かった。
- ③メディア (県内の7~8割のシェアを占める福井新報社) の協力が非常に大きな力になった。

今後の協働の課題としては、民間企業とのつながりの強化と、いかに経済的効果を生みだしていくかであると考えています。

5

第1回協働促進のためフォーラム (2018年8月5日開催) での講演内容より

EPO中部コーディネーター
中里茂氏 (環境カウンセラー・のとも共済信用金庫顧問)

地域課題に対する金融機関との
協働取組みの創出

石川県の能登半島は、2011年に「能登の里山田舎」として日本で初めて「世界農業遺産」に認定された自然環境に恵まれた地域です。しかし、その一方で能登では人口の減少、高齢化が進み、耕作放棄地の増加や森林の荒廃など、多くの地域課題を抱えています。そこで、自然豊かな能登の魅力を広く発信し、地域資源を活かし、人を呼び込むことにより、地域課題の解決を目指した取組が行われています。

地域課題の解決には、「ヒト」「モノ」「カネ」の問題が付随します。特に事業を進める際には「カネ」の問題は避けて通れません。そこで金融機関が人によって解決できることもあります。地域の中に社会貢献・環境保全に取り組んでいる、取り組みたいと考えている企業・人がいます。その人たちに資金がまわっていく仕組みがあれば「ヒト」「モノ」「カネ」が活用されることになり、地域課題、環境問題も改善していくはずです。

石川県七尾市に本店のある創業1915年の「のとも共済信用金庫」は、CSRに対する考えを『地域社会の持続的な発展のため、地域社会が抱える様々な課題に対して金融機能を通じて、積極的に関わることが必要である』とし、環境に関しては環境保全活動を支援していくことが、企業の社会的責任(CSR)である』とコミットメントしています。事例としては、職員たちが中野登町の石動山で年々2回「樹木・枝打ち」や「下刈り」などの森林整備活動を行っているほか、環境関連金融商品として環境保全活動のための「能登の森づくり定期預金 森づくりクーポン付『やまもり』」や電気使用量の削減率を単に反映させる「省エネ生活応援定期預金(節電リワード)」、節電設備設置に伴う借入利率の還元や金利を優遇する「省エネ住宅ローン(節電リワード)」などを販売しています。

今、石川県のEPO中部・協働コーディネーター3名(中里茂のほか、太田雅之氏、志村圭太氏)は、石川県七尾市の南大谷地区で、金融機関と協働して地域の発展と交流人口の拡大を図るグラウンツリズム活動に携わっています。地域課題の解決に力を入れているのとも共済信用金庫や地元自治体、商工会議所、特定・任意・交通機関等が事業を支援しており、協働コーディネーターは資金活用や支障と事業支援、移住・定住や交流サポートなどの事業展開を行っています。

この南大谷地区でのグラウンツリズム活動を成功事例とすることにより、活動支援のスキームを能登のほかの地域にも波及させ、地域課題である人口の減少や自然環境の改善に取り組む、能登全体の里山田舎より良いものにしていきたいという想いがあります。さらに、このプロジェクトをモデル事業として確立させ、県内のみならず同じような地域課題を抱えている中部エリアにも波及させていくことができると考えています。

6

第1回協働促進のためフォーラム (2018年8月5日開催) での講演内容より

EPO中部コーディネーター
堺勇人氏 (富山県立大学COCコーディネーター)

SDGsでつなぐ
ローカルパートナーシップ

2018年6月にSDGsを達成するため、富山県の市民団体、企業、大学、個人等のメンバーが集まって結成したローカルパートナーシップ「一般社団法人富山市民プラットフォーム」と「一般社団法人富山市民プラットフォームとやま」(略称:PECとやま)が設立されました。

富山県では、毎年、環境イベント「アースデイ富山」が開催されており、多くの企業や団体が参加していますが、イベントの間はその日限りのものとなりがちです。そのため「アースデイ富山」関係者は、地域に定着した取り組みを展開したいという思いを抱くようになりました。

2016年に富山で行われた環境大い会にあわせ、「環境市民フォーラム」が開催されました。フォーラムで話し合ったことは「環境市民宣言」としてまとめられ、その中には、市民プラットフォームの立ち上げなども盛り込まれました。そして、2017年には市民プラットフォーム設立を目指す準備会が発足しました。

準備会では11回ペースで会合を開いて検討を重ねてきたが、なかなか方針がまとまらず、市民プラットフォームの設立は断念しました。しかし、SDGsを前面に出したところ、企業など新たなメンバーが参加するようになり、準備会も資金繰りや事業性も重視する会へと変化しました。また、地球環境基金の助成金申請にも採択され、3年間でSDGsの普及啓発とパートナーシップ構築に取り組みることになり、「一般社団法人富山市民プラットフォーム」が設立されることになりました。

SDGsを前面に打ち出したことにより、プラットフォーム設立のニーズがテレビで放送され、特番として放送した番組もありました。マスコミ関係のほか、企業や自治体、学校、市民団体、IT系企業、若者など、多様なステークホルダーが関心を示し、人・物事・資金が集まりやすくなり、パートナーシップ構築の基盤にもなりました。7月の設立記念セミナーには110名が集まり、うち約40名が企業で、特に企業の関心の高さがうかがえました。さらに、2018年に富山県が「SDGs未来都市」に選定され、SDGsの推進に推進することになり、行政によるSDGsへの関心も高くなっています。

PECとやまの設立を通して、多くの分野のパートナーが集まる仕組みを作ることができました。今後は、パートナーシップ構築を目指した活動を中心に、展開していくことができると考えています。

7

第2回協働促進のためフォーラム (2018年10月5日開催) での講演内容より

EPO中部コーディネーター
山室秀俊氏 (特定非営利活動法人長野県NPOセンター事務局長)

ドローンがつなぐ自治組織とNPO
～地域資源の再発見と
災害に強い集落づくり

2014年11月の神城新層地では、長野市平井地区も家屋などに多くの被害が発生しました。大きな災害があった際に発生する可能性のある集落が、国内に27箇所存在することも明らかになりましたが、この地帯をきっかけに、元々ドローンを活用した環境調査などを行っていたNPO法人eco-log & eco-liverが同地区での災害対策に問題意識をもり、長野県NPOセンター(中間支援組織・20年前に設立)がその相談を受けることになりました。

既存の長野市の防災マップは、集落内を詳細に確認することができないものであったため、地元自治会の平井地区住民自治協議会と協働して、ドローンを活用した集落単位の防災マップを作成することになりました。しかし、そのための予算を自治協議会や確保することが難しかったことから、NPO側で助成金を取得しました。

初年の2015年度は、ワークショップを4回開催して2つの集落の防災マップを作成しました。ワークショップでは、まずドローンによる空撮動画を見ました。既存の防災マップでは確認できなかった自分たちの住む一戸一戸が見えてくる動画を見て、参加者(住民)の関心はいついかに高まりました。その後も専門家を招いて平井地区の地盤・地質、自然環境などについての解説を聞いた後、ドローンの画像をもとに集落内を実際に歩いて、危険箇所を確認してマップ落とし及び作業などを行いました。

集落内を歩いて実地確認を行った際には、1700年代に発生した神光寺地帯の痕跡を確認することもでき、そのおかげで、従来の避難場所より安全な場所へと変更することができました。また、ワークショップを重ねた末に完成した防災マップには、避難経路や避難場所のみならず、集落の歴史的なポイントや魅力のあるポイントなども記載し、「見てもらう」ための工夫も凝らしました。

取組の1年目は集落単位の防災マップ作成の大切さが地区の住民に認識され、2年目は自治協議会自身で予算を確保し、9つの集落の防災マップが作成されました。防災マップづくりを通して地域住民には当事者としての目標が育ち、自分たちのことは自分たちでやらねばならない意識が芽生えました。そして、4年目からは住民自治協議会が助成金の確保から主体的に取り組むようになり、NPOは協力する例に変わり、地域が主導的な立場で展開する、本来「協働」の形になりました。

8

第2回協働促進のためフォーラム (2018年10月5日開催) での講演内容より

EPO中部コーディネーター

山田 勇氏 (特定非営利活動法人えんのわ/特定非営利活動法人おんわ)

子どもたちが もっと元気に輝く地域をめざして

現在、複数のNPOの活動に関わっていますが、そのうちの1つNPO法人おんわの活動では、子どもたちが元気に輝く地域づくりを目指し、①体験の機会を増やすこと、②地域の課題に前向きに取り組む大人を増やすことを重視した活動を展開しています。

おんわでは市民の事業の「子どもお祭り」や子どものリーダー養成講座の企画運営などに取り組んでいます。「子どもお祭り」は、2日限定で子ども達が住み手となる疑似的な「街」を市の施設・市民交流センター内に設置するイベントです。参加する子ども達は入居者として、仕事をし、給料を得て税金を納め、様々なお祭りを行います。これは卒業したり、市長・議員を決める選挙を行ったりと、街と社会をよりよいものにしていくための仕組みを疑似体験します。イベントを通して、子どもたちの自主性を刺激すると共に、自分たちの街づくりに積極的に関わるようになってほしいという思いがあります。

また、おんわでは、小さな子どもたちが気軽に参加できる森づくり活動「森カフェプロジェクト」を展開しています。森カフェプロジェクトは、地域の里山を活用した自然体験を通して地域の人々のつながり、原動力をつくり、森を大人が楽しめる場に、平日に未就園の子どもを連れて来られる子育て支援の場にしていきたく、おんわの想いで取り組んでいます。森カフェは、地元市以外でも「あそびの家づくり」(長野県松川市主催の自然体験や外遊型のプログラム)や同業アンプスあそびの公園で開催してきましたが、さらに拡充していきたいためには「ひと・もの・場所」の課題に対応していく必要があります。「ひと」については、森カフェコーディネーター養成講座を実施しているため、受講者がそれぞれの地域で森カフェを展開するようになればと期待しています。「もの」についてはメーカーの協力・協賛を得たり、助成金の活用などで道具等の確保が可能です。「場所」については、空き家バンクの森版を現在、長野県に提案しているところです。今後も行政、企業、自治体と協力しながら、カフェのように気軽に訪れる森をさらに増やしていきたいと考えています。

協働で大切なことは、「1+1=2」を目指すことであると考えています。そのために、まず自分から動いて、おんわや提案をするようにしています。お互いの立場や専門性をもつ環境をうまく取り組み、「できない」とすぐに見切りをつけるのではなく「どうしたらできるだろうか」と一緒に考え、それを積み重ねていくことで良好な関係を築くことが重要です。話し合いを重ねながら進んでいく活動することにより「1+1>2」となり、協働はさらに強化されるものになります。



第3回協働促進のためフォーラム (2019年1月15日開催) での講演内容より

EPO中部コーディネーター

野村 典博氏 (特定非営利活動法人森と水辺の技術研究会理事長)

地域課題の解決に向けた 多様な主体による協働取組

「DREAMSolar どん太陽の恵みプロジェクト」(正式名称: 岐阜市北野阿蘇一般廃棄物処分場大規模太陽光発電設置事業地域貢献活動)は、一般廃棄物処分場跡地の再生地帯において、民間で活用するための事業を岐阜市が公募したことからはじまりました。NPO法人森と水辺の技術研究会は、応募事業者となるダイワリースに「多様な主体が協働で、環境都市岐阜を目指す」事業を提案し、結果、それが選定されてプロジェクトがスタートしました。

プロジェクトでは、ダイワリースが太陽光発電所を設置して岐阜市三輪北地域の500~600世帯へ電力を供給するとともに、その利益で市内の子どもたちを対象にした環境教育プログラムの提供や、講師への謝金支払などによる環境教育支援や部活動支援、それに、市民による草の根の環境活動の支援、自然エネルギーの普及活動などを展開しています。プロジェクトの目的自体は、長良川をはじめとする岐阜市の豊かな自然環境を次代につなげ、残すことですが、その実現には市民の気持ち、共有、「出たが回」という意識のもとでの行動が重要となります。そこで、学校の環境教育や市民の活動などにおける課題の整理を行ったところ、学校における環境教育の指導者・資料の確保、市民・若者の環境活動における活動資金の確保、市民への普及啓発などが課題となっていることがわかりました。そのため、プロジェクトの中で、トータルな低・民間資金による支援の仕組みづくりと、市民の当事者意識の醸成に取り組んでいくことになりました。

現在のプロジェクトの仕組みは、事務局である森と水辺の技術研究会がダイワリースへの計画提示・報告を行い、ダイワリースからの活動資金を得て、次のような各種支援を展開する流れになっています。

- 小中学校へ
 - ・環境教育の講師派遣 (謝金支払) や教材手配等の支援
 - ・岐阜の自然科学系の部活 (2校) へ
 - ・活動資金の提供 (年間)
 - ・草の根の市民活動へ
 - ・活動資金の提供 (申請は1校程度) など

このプロジェクトにより、従来そうでないと言われていた増地帯を活用し、事業者のみでなく、岐阜市全体に利益還元される仕組みを協働で創り出すことができました。さらに、現在では、岐阜市やダイワリース、森と水辺の技術研究会のほか、岐阜市青年自然の家、岐阜市内の小中学校、高校・環境団体などの協力が得られるようになっており、多様な主体が協働で動かすプロジェクトになっています。

地域課題の解決に向けた 多様な主体による協働取組

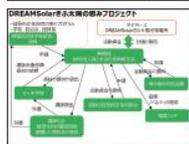


Table with project details and financial information.

第3回協働促進のためフォーラム (2019年1月15日開催) での講演内容より

EPO中部コーディネーター

寺田 卓二氏 (環境教育ネクストステップ研究会代表)

異分野ヘウイングを広げる (四日市市での実践から)

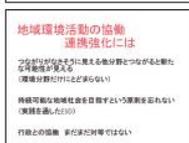
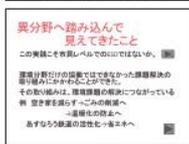
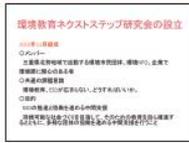
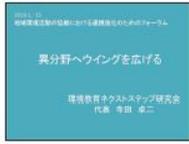
環境教育ネクストステップ研究会は、環境教育とESDを広めるにはどうしたらよいかという共通の課題意識をもつ環境市民団体、環境NPO、企業など環境に関心のある人たちが集まり、2015年11月に結成されました。メンバーが、自分たちだけでなく色々な主体が協働して取り組む必要があると感じていたことから、「持続可能な社会づくりを目指して、そのための教育を自ら推進するとともに、多様な団体の協働を進める中間支援を行うこと」を研究会の目的にしました。

最初の1年半は、①四日市市とエコパートナー (市と協働で環境学習・活動を行う主体) / ②四日市市と環境未来館開設に併せてスタートした制度) による「協働のしめくり」に関する提言、③四日市市版ESDカレンダーの作成、④河川環境団体の協働支援などを展開しました。ESDカレンダーはESD推進校を指定して活用するという新たな動きを断念しましたが、ほかの2つの取組は成果らしい成果を生み出すには至りませんでした。

しかし、2017年度に市選出議員を依頼し、企業と協働コーディネーター養成講座「のぞ」の開催、市面談に協立立つ」では、受講した市民から4つの提案が生まれ、また、講座の企画に際し、研究会は市に対し、講座が生まれた提案を何らかの形で次年度以降に支援し続けてほしいと要望していました。そして現在、3つの提案が事業として取り組まれています。

- 障がい者スポーツ「ポッチャリ」の用具づくり
 - 現在は社協の取組となり、企業・ポッチャリ協会の支援も加わる。
- 空き家の有効活用や身辺を整頓しておく重要性の啓発
 - 提案者が研究会に入会して市へ事業提案、今年度で連続講座を実施。
- 四日市市あすなろ鉄道交通弱者支援
 - 提案者の団体が市に事業提案、半年度から事業実施。

当初はよくわかっていなかった大人社会でのESDの進め方ですが、環境以外の異分野へも踏み込んでいくことで、わかってきたことがあります。実践こそが市民レベルのESDであり、取組を続けることがESDであるということです。環境分野と無関係に思える空き家問題や鉄道の活性化も、ゴミ削減や省エネにつながっています。また、異分野へ取組を広げると、環境分野の協働とは異なる課題解決の方法にも携わることがあります。持続可能な地域社会を目指すという原則は忘れずに、他の分野の取組にもつながることにより、協働にも新たな可能性が生まれます。



第3回協働促進のためフォーラム (2019年1月15日開催) での講演内容より

EPO中部コーディネーター

坂本 竜児氏 (NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム)

とよたエコライフセンターの取組

とよたエコライフセンターは、市民のエコライフ全般に関する相談窓口であり、同センターの業務をNPO法人エコデザイン市民社会フォーラムが受託しています。業務内容は、日常的な市民の相談窓口、とよたエコポイントに関する申請やスマートハウス・次世代自動車の補助金申請の受付、エコライフセミナーの開催、専門相談会やとよたエコポイント出張交換会の開催、エコライフに関する啓発電子の作成などがあるほか、環境活動のマッチング (企業と市民団体) にも取り組んでいます。

平成29年度は、豊田市版スマートハウス (太陽光、HEMS、蓄電池) の普及を中心とした事業展開を試みました。住宅展示場や環境学習施設において、「スマートハウスの有用性」や「上手なエネルギーの付き合い方」といったテーマでセミナーや専門相談会を実施しました。参加者の声を聞くうちに、省エネ設備が整っていない既築住宅に住まわれている方にこそ、省エネ普及の必要性があると感じました。

そこで、平成30年度は、「住まいの熱のコントロール (断熱・断熱)」をテーマに事業を展開することになりました。また、固定価格買取制度 (FIT制度) の買取義務期間が終了する2019年問題にも着目し、FIT制度が終了する世帯を対象に、専門相談会を実施しました。「住まいの熱のコントロール (断熱・断熱)」をテーマにしたセミナーは、3回の連続講座にすることで、参加者により深い知識を身に付けてもらう仕組みを作りました。「DIY断熱リフォーム塾」と題し、「住宅省エネに関するセミナー」、「空き家の断熱リフォーム体験」「自宅の断熱改修を計画作成」の3段階に分けて実施しました。参加者の中には、セミナー終了後、実際に自宅の床や窓を断熱リフォームした人もおり、断熱の大切さを伝えることができた実感しています。

FIT制度に関する専門相談会は、制度概要についての説明や今後の対応策についての提案などを全体説明したあと、ブース形式での個別相談を実施し、参加者の疑問解決に努めました。

これらのセミナーや専門相談会を実施するにあたり、多くの市内事業者や団体に講師やアドバイザーを務めてもらうことで、地域の連携・協力を得て進めることができました。今後も地域住民や地元事業者や団体など多くのパートナーと連携を進めながら、とよたエコライフセンターとしてエコライフの普及に努めていきたいと考えています。

とよたエコライフセンターの取組

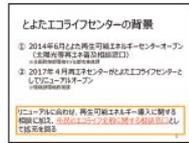


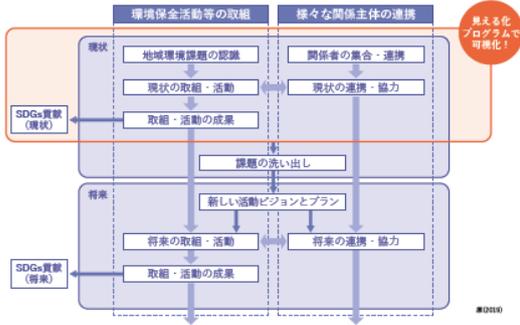
Table with project details and financial information.

3 EPO中部が構築中！ 複雑な協働取組を可視化する「活動見える化プログラム」

いろいろな地域で問題解決のため行われている協働取組は、多くのステークホルダーが関係しており、活動が多岐に渡っています。そのため担当者が把握している範囲はその一部でしかなかったり、全体を説明することが難しいことも少なくありません。また実施していた取組が思わぬところに連携していたり、まったく別の分野に関係していることに気が付かないこともあります。特に現在注目されているSDGsを念頭に置いた取組は、地域における持続可能性の社会の構築に不可欠で、実践している協働取組がどのように貢献しているかを認識することが重要です。

EPO中部では協働取組の支援のため、「活動見える化プログラム」を構築しています。これは協働・ESD・SDGsに関連する活動効果や活動におけるSDGs要素を可視化するためのツールと手順をまとめたものです。このプログラムの実践を通じて、対象となる活動がどのような経緯で行われてきたか、現在どのように連携して行われているか、SDGsにどのように関わっているか、など「可視化」することで活動当事者は内容を改めて認識することができます。その結果として、協働の取組を発展させ、関係者の今後の取組に活かしていただければと考えています。

■ 環境保全活動等の協働取組、変革のプロセスに役立てる

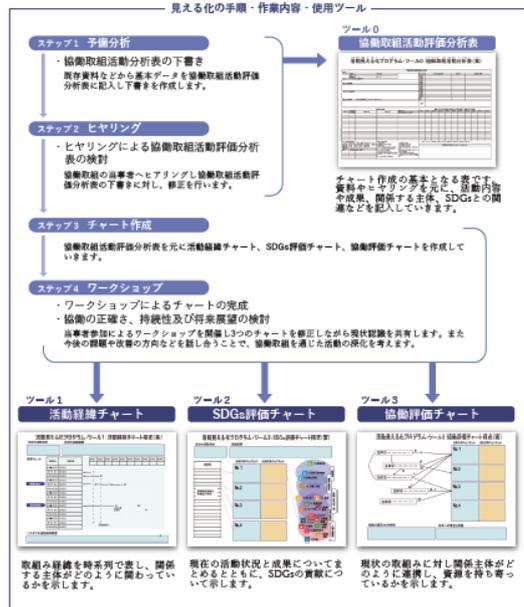


複雑な協働取組の現場を三つのチャートで「見える化」します

- 活動経緯チャート
- SDGs評価チャート
- 協働評価チャート

■ 「活動見える化プログラム」の手順と様式

このプログラムは下のような手順を基本としています。「協働取組活動評価分析表」に記入した内容を元に、「活動経緯チャート」、「SDGs評価チャート」、「協働評価チャート」を作成していきます。この過程で、プログラム実施者やヒヤリングやワークショップを行い、取組を行っている当事者と熟慮しながら、活動内容の俯瞰的な気づきや理解を支援します。



★ EPO中部では、今後も協働コーディネーターとともに実証研究を行いながらプログラムを改善していきます。このプログラムを使ってみたいと思われる方はEPO中部までご相談ください。

■ 協働コーディネーターが関わる取組を「見える化」しました

協働取組の見える化について、実際に現場にかかわる事例をケーススタディとして取り上げ、結果をフィードバックして反映、改良しながらプログラムの構築を行いました。



事例1 コウトリが舞う里づくり

【きっかけ (当初の目的)】
越前市は、国の天然記念物コウトリと古くから縁があり、複数回の飛来実績から、コウトリをシンボルとした地域環境の保全活動を行うこととなり、平成23年には「コウトリが舞う里づくり構想」が策定されました。

【活動概要】
越前市ではコウトリが舞う里づくりについて、その意義を多くの方にご理解いただき市民、各種団体、行政などの幅広いネットワークを構築し、里地・里山の保全再生と活用を進めています。

- チャートを見ると…** (協働評価チャート：p17参照)
- コウトリをシンボルとして生息環境の保全を通じた、里地、里山の保全、環境教育、環境に配慮したコメづくりと地産地消、などの様々な活動を展開している様子がわかります。SDGsへの貢献は「15.陸域自然」はもちろんですが、「16.水衛生利用」、「2.食料」、「4.教育」、「12.消費・生産」など様々な目標に貢献しています。
 - 協働では越前市や福井県などの行政の支援を得て、市民、農家、企業、教育機関など様々な主体が「コウトリが舞う里づくり推進協議会」や「越前市西部地区コウトリ共生推進連絡協議会」などで調整しながら活動していることがわかります。

事例2 (NPO)エコデザイン市民社会フォーラム

【きっかけ (当初の目的)】
楽しみなながら豊田市民のエコライフを広げるために、2017年4月に「とよた再生可能エネルギーセンター」をリニューアルし、「とよたエコライフセンター」を開設しました。

【活動概要】
再生可能エネルギー導入に関する相談に加え、市民のエコライフ全般に関する相談窓口として活動しています。専門家相談会、エコライフセミナーなどを通じて、ハード(太陽光、HEMS、蓄電池、次世代自動車等)、ソフト(市民の行動変容)の両面から普及啓発・アドバイスを実施し、市民のライフスタイル転換を支援しています。直近では、とよたエコポイント出張商品交換会や断熱DIYリフォーム塾(3回連続講座)、固定価格買取制度終了後(不FIT)の相談会等を実施しています。

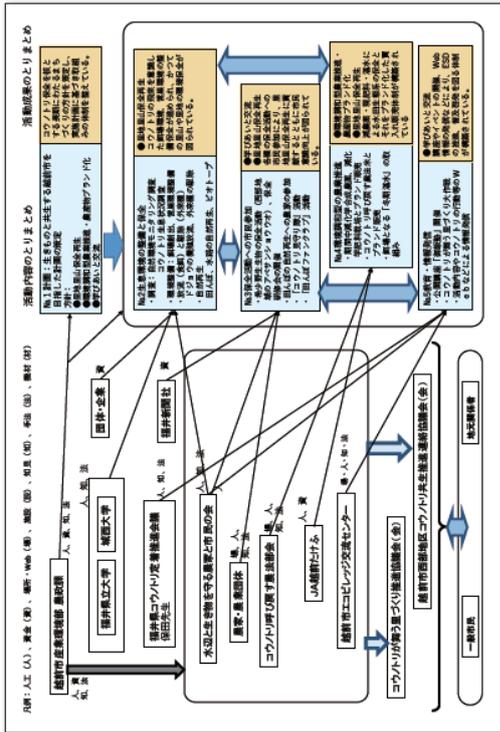
- チャートを見ると…** (SDGs評価チャート：p18参照)
- 経験豊富なキースタッフの関与が「とよたエコライフセンター」の開設に大きな役割を果たしています。ハード、ソフトの両面で市民を支援するために工務店や電気設備などの専門事業所と連携をとっている他、エコポイントを介して子育てや農家とも連携しています。「7.エネルギー」や「13.気候変動」が当初の貢献目的でしたが、エコポイントを介した地域経済循環で「3.福祉」、「8.経済雇用」、「10.国内外公正」などにも寄与していると考えられます。

国連持続可能な開発目標 (SDGs) の17のゴール

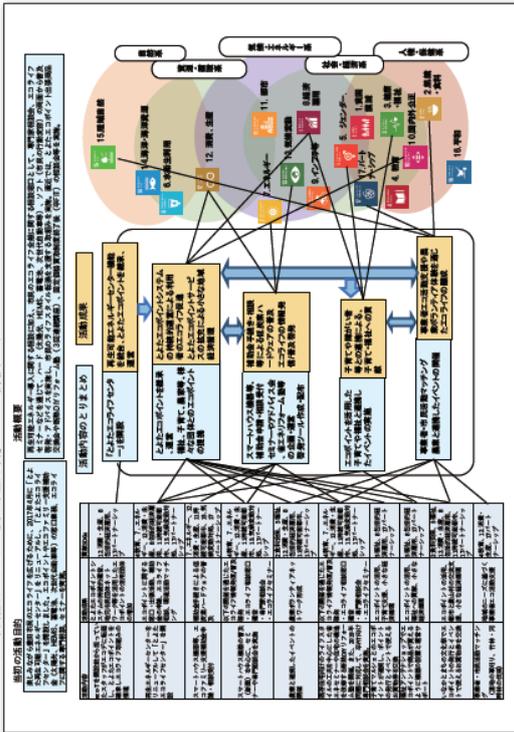
SDGsは2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

1. 貧困をなくそう
2. 健全な食料システムを確保し、栄養改善を促進する
3. 健康的な生活を確保し、福祉を促進する
4. すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代エネルギーへのアクセスを確保する
8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ジョブ・ポートフォリオ)を促進する
9. 強靱(レジリエント)なインフラ構造、包摂的かつ持続可能な産業の促進及びイノベーションの推進を図る
10. 各国内及び各国間の不平等を是正する
11. 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する
12. 持続可能な生産消費形態を確保する
13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
14. 持続可能な開発のために海が豊かになり、持続可能な形で利用される
15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の防止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
16. 平和と公正のための包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを確保し、あらゆるレベルにおいて効果的で包摂的なガバナンスのあり方を確立する
17. 持続可能な開発のためのパートナーシップを強化する

▼「コウノトリが舞う重づくり(福井県越前市)の協働評価チャート



▼「エコデザイン市社社会フォーラム(愛知県豊田市)のSDG6評価チャート



【ウェブサイトへの掲載 (EPO)】 <http://www.epo-chubu.jp/epo/4075.html>

EPO中部・協働コーディネーターの紹介冊子が完成

EPO中部製作・発行の冊子「協働による地域循環共生圏づくり～EPO中部・協働コーディネーターの紹介～」が完成しました。
構成は下記の通りです。

- (1)協働について
- (2)EPO中部で活躍中の「協働」コーディネーター
- (3)EPO中部が構築中！複雑な協働取組を可視化する「活動見える化プログラム」(全20頁)

- こんな方はぜひご参照ください。
 - ・協働コーディネーターにお願いしたいことがある方
 - ・協働に取り組みにあたり専門家によるお手伝いを希望される方
 - ・事業や活動等の現状分析を行ってみたい方
 - ・事業や活動等の今後の展開を考えるための検討材料がほしい方 などなど

- 本冊子をご覧になって、もし「EPO中部・協働コーディネーター」の招聘や「活動見える化プログラム」実施などに興味をもたれましたら、ぜひEPO中部へお問い合わせください。

冊子のダウンロードはこちら (PDF/4MB)



2019年02月26日(火)

[協働](#) [協働コーディネーター](#) [業務報告](#)

ネットワーク
イベント
助成金
募金
協働コーディネーター
協働
EPOネットワーク
スタッフ紹介
業務報告
年度を終えて
GGP
年度はじめのあいさつ
ESD教材
5月
GGPT
おしらせ
協働&ESD
EPO
同時解決事業
SDGs
参加者募集
月別アーカイブ
2019年2月
2019年1月

4.1.2. 「活動見える化プログラム」（活動評価システム）の構築に向けた検証

4.1.2.1. 構築のためのケーススタディ実施について

- 協働・ESD・SDGs に関連する活動効果や活動における SDGs 要素を可視化する活動評価システムの構築に向けて、協働コーディネーターを活用したケーススタディを実施した。
- ケーススタディは下記の3事例で、いずれも協働フォーラム（項目 4.2.3 参照）の中で、活動見える化プログラムの紹介を兼ねた事例のワークショップを実施した。

事例 1

コウノトリが舞う里づくり

（福井県越前市）

※協働コーディネーターの日和氏が分析協力。

分析結果→第1回協働フォーラムで紹介、及び第2回運営会議で提示

事例 2

同時解決事業・里山保全体験を通じた障がい者雇用促進

（長野県飯山市）

※SDGsを活用した同時解決事業の中部採択事業

分析結果→第2回協働フォーラムで紹介、及び第2回運営会議で提示

事例 3

とよたエコライフセンターの取り組み

（愛知県豊田市）

※協働コーディネーターで活動者の坂本氏自身によるプログラム実施を試行。

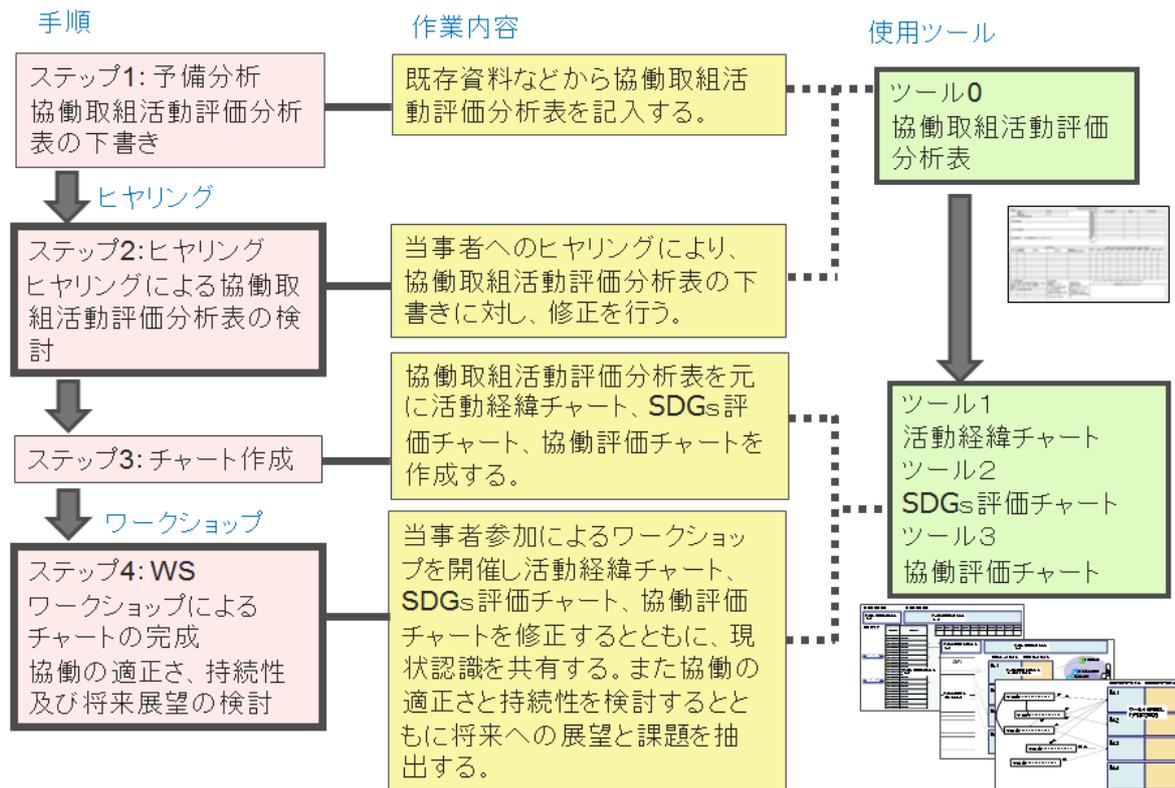
分析結果→第3回協働フォーラムで紹介、及び第3回運営会議で提示

- なお、事例1は、協働コーディネーター・日和氏が関わる事例であり、日和氏の協力を得てチャート作成及び作成のためのヒアリングを実施したほか、事例1の紹介を行った協働フォーラムにおいても日和氏及び事例関係者に登壇いただき、ワークショップを実施した。
- 事例3は、協働コーディネーター・坂本氏が関わる事例であり、同様に坂本氏の協力を得てチャート作成及び協働フォーラムでのワークショップ実施などを行った。

4.1.2.2. 今年度構築した「活動見える化プログラム」（活動評価システム）

- 活動評価システムについては、構築検討及びケーススタディを実施する中で、名称「活動評価システム」を、より内容に即した名称として「活動見える化プログラム」に変更することに、10月9日開催・EPO 中部運営会議においても同様の諮問を行い、委員から了解を得て確定した。
- ケーススタディの実施結果と共に、作成したチャートをEPO 中部運営会議、協働コーディネーター連絡会に諮問し、助言等を得て改良を重ね、下記の手順による『現状の可視化』をするチャートを構築した。

(1) 活動見える化プログラムの構築・実施の手順



(2) 構築したツール1～ツール3

- 次ページ以降にケーススタディ3事例のチャートを掲載。

※ 事例1：コウノトリが舞う里づくりについては、ツール2：SDGs評価チャート、ツール3：協働評価チャートのみの分析となっている。（事例1の分析結果を協働フォーラム、EPO中部運営会議で検討した際に、フォーラム参加者、運営会議委員から活動経緯の分析の重要性についての指摘があり、これをうけて事例2以降で「ツール1：活動経緯チャート」も作成することになった。）

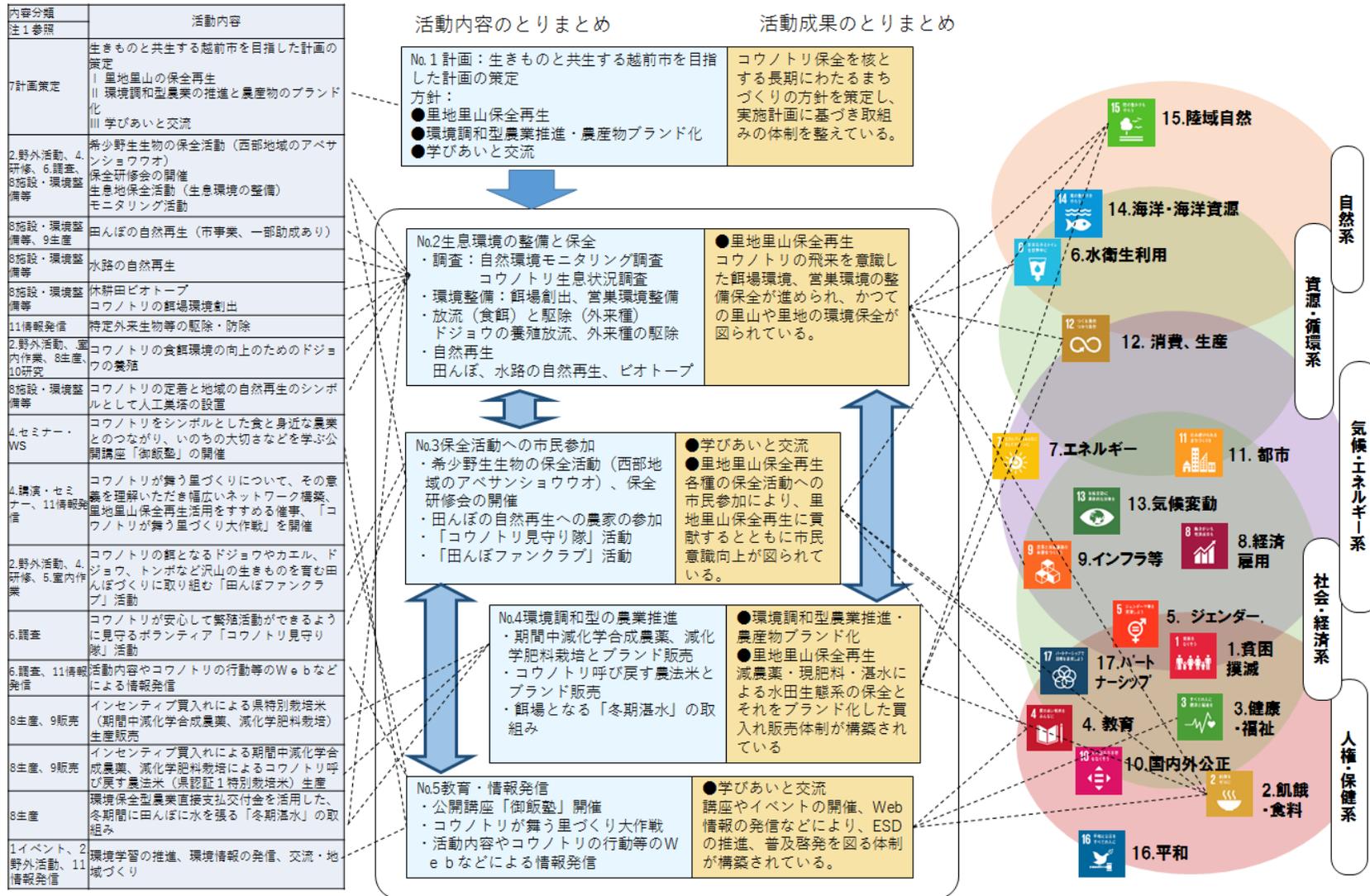
事例1：コウノトリが舞う里づくりのツール2【SDGs 評価チャート】

当初の活動目的

越前市は、国の天然記念物コウノトリと古くから縁があり、複数回の飛来実績から、コウノトリをシンボルとした地域環境の保全活動を行うこととなり、平成23年には「コウノトリが舞う里づくり構想」が策定された。

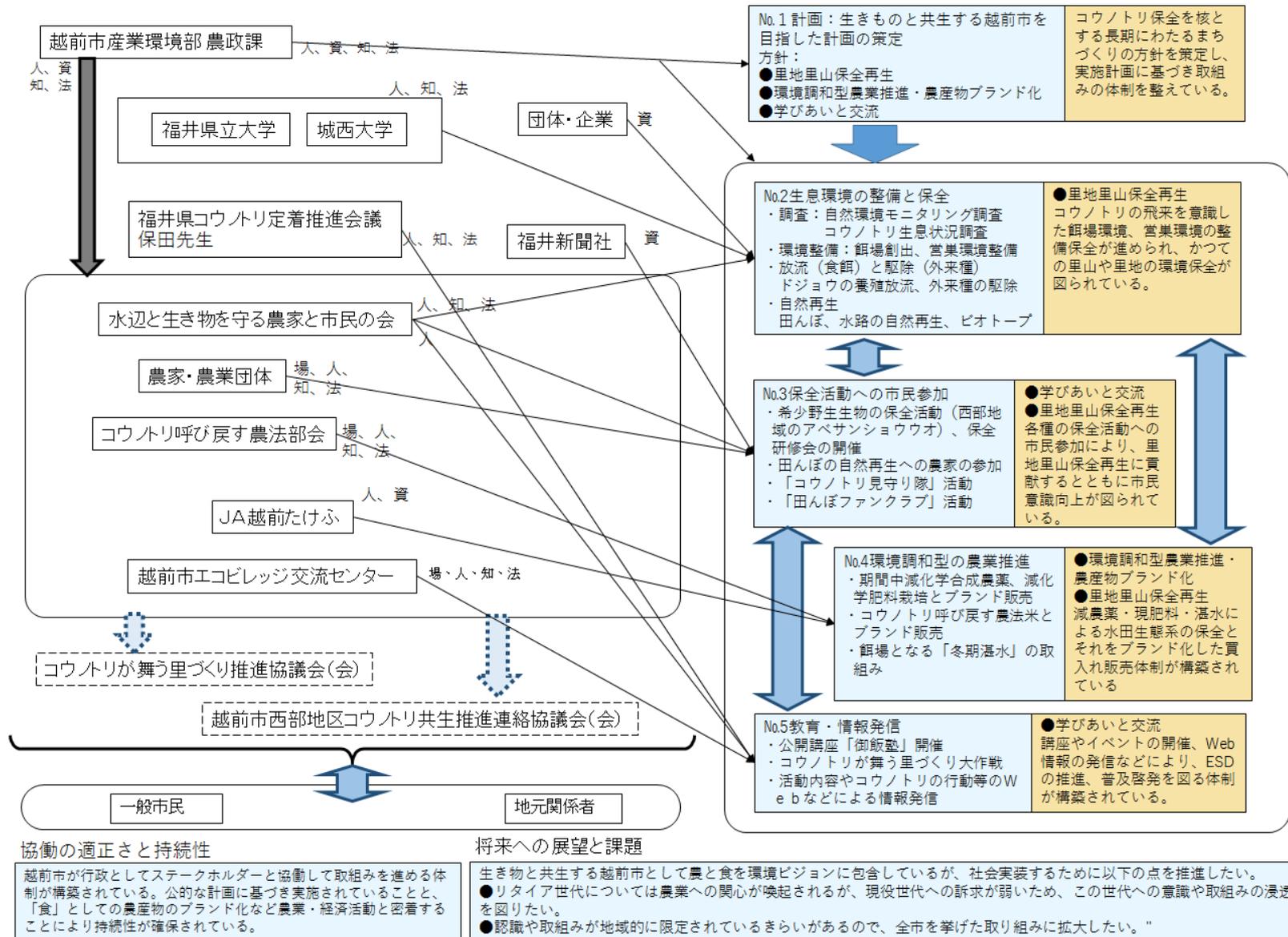
活動概要

越前市ではコウノトリが舞う里づくりについて、その意義を多くの方にご理解いただき市民、各種団体、行政などの幅広いネットワークを構築し、里地里山の保全再生と活用を進めている。



事例1：コウノトリが舞う里づくりのツール3【協働評価チャート】

凡例：人工（人）、資金（資）、場所・Web（場）、施設（設）、知見（知）、手法（法）、機材（材）



事例2：同時解決事業・里山保全体験を通じた障がい者雇用促進のツール1【活動経緯チャート】

当初の活動目的

長野県飯山市は、過疎化・高齢化に伴い、里山の整備をする人が減っている上に、豪雪地帯ということもあり、冬の期間、林家や林業従事者の収入が無くなってしまふという課題を抱えている。また障害者計画で政策推進を図ってきたが、就労支援の実習先確保等が課題となっている。

当初の活動課題

- ①森林保全のために間伐された木材利用が進まない
- ②障がい者雇用支援の不足
- ③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少

重要トピック



これまでの活動経緯

ネットワークによるコミュニティ再生活動を行ってきた「NPO法人エコロジーオンライン」、飯山コンシェルジュとして街に居ながらの山や森の中への体験教室なども行う「御宿飯山館」、森林整備・環境教育・間伐材活用等の活動を展開し新型丸太トーチを開発した「フォレストデザイン」、精神障がい者の方の共同生活による生活援助・社会交流のための施設運営を行う「NPO法人ここから」が2018年3月に「里山ウェルネス研究会」を設立。森林整備・活用や環境教育等の取組みと障がい者福祉の取組みの連携を目指した研究を開始。2018年7月に環境省「持続可能な開発目標 (SDGs) 活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定。

事例2：同時解決事業・里山保全体験を通じた障がい者雇用促進のツール2【SDGs 評価チャート】

当初の活動目的

長野県飯山市は、過疎化・高齢化に伴い、里山の整備をする人が減っている上に、豪雪地域ということもあり、冬の期間、林家や林業従事者の収入が無くなってしまおうという課題を抱えている。また障害者計画で政策推進を図ってきたが、就労支援の実習先確保等が課題となっている。

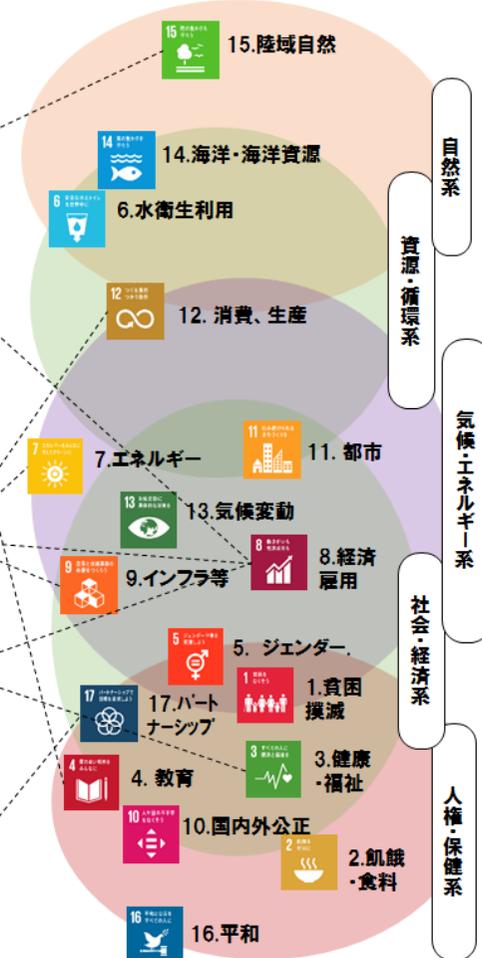
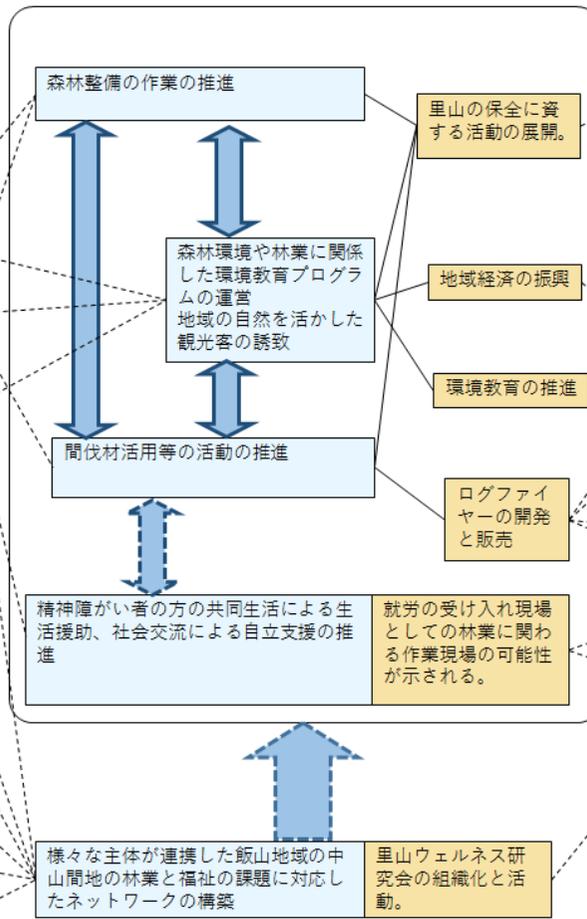
活動概要

「エコロジーオンライン」のネットワーク構築機能、「御宿飯山館」のコンシェルジュ機能、「フォレストデザイン」の森林活動ノウハウ、「NPO法人ここからが」の精神障がい者支援ノウハウを活かした林福連携事業のプログラムを検討中。2018年9月18日に第1回協議会を開催。

活動内容	活動成果	貢献SDGs
ネットワーク活用によるコミュニティ再生	環境とコミュニティをベースとした他分野にまたがる様々なプロジェクトとアクティビティの創造	17. パートナーシップの活性化
精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流のための施設運営	精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流による自立支援	3. 健康・福祉
NPO法人フォレスト工房もくりを設立	森林整備、環境教育、間伐材活用等の活動を展開	4. 教育、8. 持続経済、13. 気候変動、15. 陸域生態系
飯山コンシェルジュ街に居ながらの山や森の中への体験教室	地域への来訪者増、中山間地への親しみに寄与	4. 教育、8. 持続可能経済、15. 陸域生態系
フォレストデザイン設立：森林整備、環境教育、間伐材活用等の活動を展開	奥信濃いやま里山体験等環境教育プログラムの運営、「いいやまの家」施設整備、丸太トーチログファイアー開発・生産・販売	4. 教育、8. 持続可能経済、13. 気候変動への対応、15. 陸域生態系
里山ウェルネス研究会設立	環境省に申請書を提出	17. パートナーシップの活性化
環境省「持続可能な開発目標（SDGs）活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定	2年間の研究等の活動について環境省と請負契約	17. パートナーシップの活性化
同時解決キックオフ会議参加（東京GEOC）	主要スタッフが環境省の事業方向性について共通理解を得る。	17. パートナーシップの活性化
協議会プレ会議開催	地元関係者が環境省の事業方向性について共通理解を得る。	17. パートナーシップの活性化
第1回協議会開催	活動内容について関係者の合意形成が図られる。	17. パートナーシップの活性化

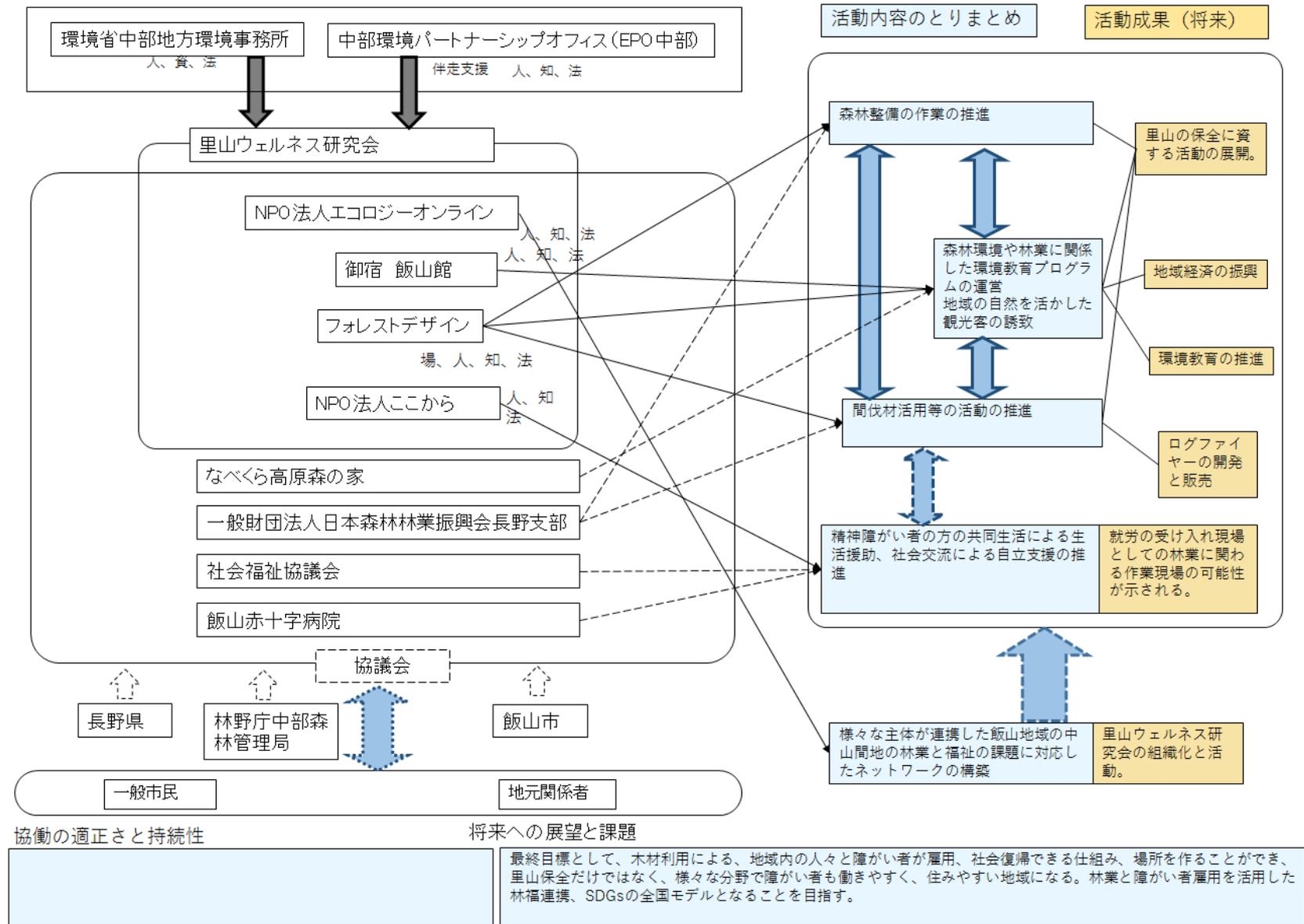
活動内容のとりまとめ

活動成果（将来）



事例2：同時解決事業・里山保全体験を通じた障がい者雇用促進のツール3【協働評価チャート】

凡例：人工（人）、資金（資）、場所・Web（場）、施設（設）、知見（知）、手法（法）、機材（材）



事例3：とよたエコライフセンターの取組のツール1【活動経緯チャート】

当初の活動目的

楽しみながら豊田市民のエコライフを広げるために、2017年4月に「とよた再生可能エネルギーセンター」をリニューアルし、「とよたエコライフセンター」を開設しました。エコポイントやエコファミリー支援補助金（太陽光、HEMS、蓄電池、次世代自動車等）の窓口業務、エコライフに関する専門相談、セミナーを実施。

当初の活動課題

市民のライフスタイルをCO2の排出が少なくなる暮らし（=エコライフ）に転換するために、市民目線で啓発活動を行う。また、とよたエコポイントの普及、利用促進を行う。

重要トピック

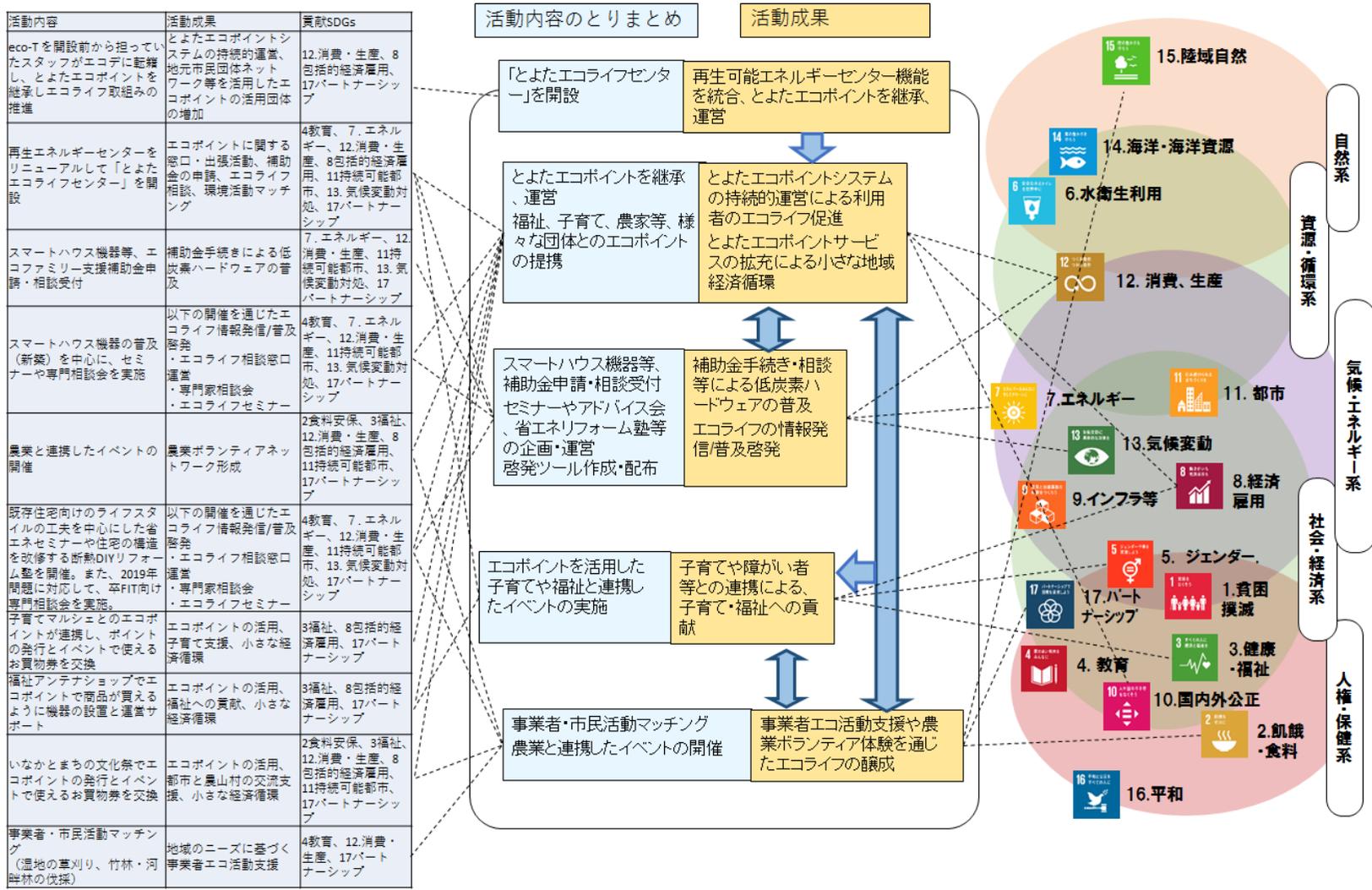
活動期日	活動内容	とよたエコライフセンター取組み											施設①	施設②	施設③	会①		
		主体① エコデザ	主体② EXPO協会	主体③ 協賛協力	主体④ 市環境課	主体⑤ エコ人	主体⑥ 市未来課	主体⑦ 設備業者	主体⑧ 夢農人	主体⑨ 農山村 ネット	主体⑩ コネット	主体⑪ きらり						
2003年10月	エコデザイン市民社会フォーラム発足	人	資、人	資、人														
2005年3月	エキスポエコマネー社会実験（～11月）	人	資、人	資、人														
2007年6月	豊田環境学習施設（eco-T）開設 2009年よりエコ人が受託				資、人	人							場、設、材					
2009年6月	とよたエコポイント制度開始	人			資、人													場
2011年	いなかとまちの文化祭開催											場、法、材						場
2014年6月	とよた再生可能エネルギーセンター開設										資、人			場				
2017年1月	eco-Tを開設前から担っていたスタッフがエコデに転籍し、とよたエコポイントを継承しエコライフ取組みの推進	人、知			資、人													場
2017年4月	再生エネルギーセンターをリニューアルして「とよたエコライフセンター」を開設	人、知			資、人													場
	スマートハウス機器等、エコファミリー支援補助金申請・相談受付	人、知			資、人													場
	スマートハウス機器の普及（新築）を中心に、セミナーや専門相談会を実施	人、知			資、人													場
	農業と連携したイベントの開催	人、知							人、場、法、材									場
2018年4月	既存住宅向けのライフスタイルの工夫を中心とした省エネセミナーや住宅の構造を改修する断熱DIYリフォーム塾を開催。また、2019年問題に対応して、FIT向け専門相談会を実施。	人、知			資、人													場
	子育てマルシェとのエコポイントが連携し、ポイントの発行とイベントで使えるお買物券を交換	人、知										場、設、材						場
	福祉アンテナショップでエコポイントで商品が買えるように機器の設置と運営サポート	人、知											場、設、材					場
	いなかとまちの文化祭でエコポイントの発行とイベントで使えるお買物券を交換	人、知										場、法、材						場
	事業者・市民活動マッチング（湿地の草刈り、竹林・河畔林の伐採）	人、知			資、人													場

これまでの活動経緯

エコデは、市民のライフスタイル変換を促すため、愛知万博を見据えエキスポエコマネー（環境地域通貨）を構築、運用することを目的に2003年10月より活動開始。2005年の万博後、金山にエコマネーセンターを設置して、愛知県、名古屋市、リニモ沿線都市とエコマネーを運用（2017年終了）、豊田市ではシステムを利用して、とよたエコポイントを運用。一方、2007年豊田市環境学習施設（eco-T）が開設され、(NPO)とよたエコ人プロジェクトが運営し、来館や環境学習等でポイントを発行。2017年1月キースタッフが転籍し、2017年4月「とよたエコライフセンター」の開設と同時に現在の活動に取り組む。

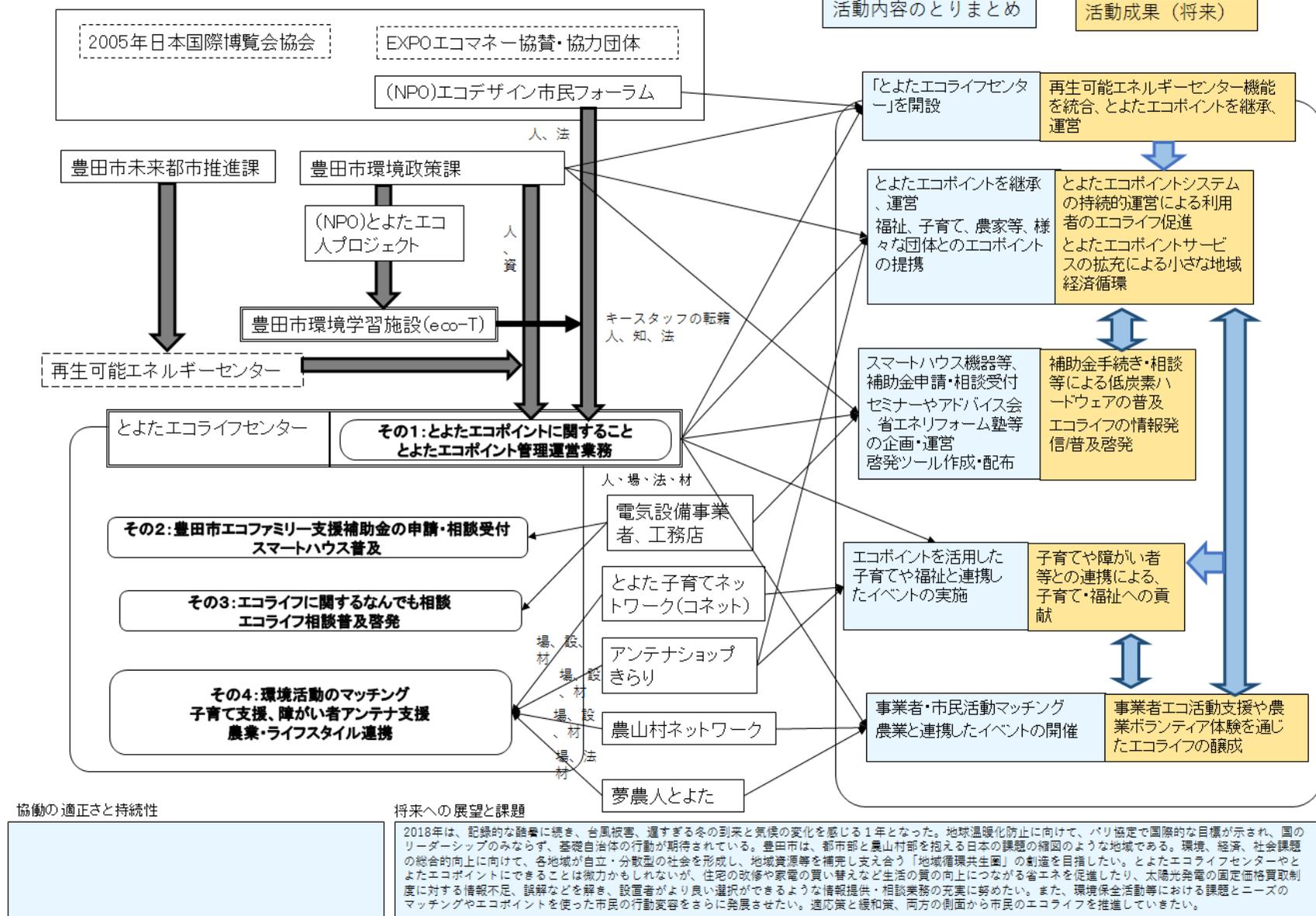
事例3：とよたエコライフセンターの取組のツール2【SDGs 評価チャート】

当初の活動目的	活動概要
楽しみながら豊田市民のエコライフを広げるために、2017年4月に「とよた再生可能エネルギーセンター」をリニューアルし、「とよたエコライフセンター」を開設しました。エコポイントやエコファミリー支援補助金（太陽光、HEMS、蓄電池、次世代自動車等）の窓口業務、エコライフに関する専門相談、セミナーを実施。	再生可能エネルギー導入に関する相談に加え、市民のエコライフ全般に関する相談窓口として、専門家相談会、エコライフセミナーなどを通じて、ハード（太陽光、HEMS、蓄電池、次世代自動車等）、ソフト（市民の行動変容）の両面から普及啓発・アドバイスを実施し、市民のライフスタイル転換を支援する取組みを実施。直近では、とよたエコポイント出張商品交換会や断熱DIYリフォーム塾（3回連続講座）、固定価格買取制度終了後（卒FIT）の相談会等を実施。



事例3：とよたエコライフセンターの取組のツール3【協働評価チャート】

凡例：人工（人）、資金（資）、場所・Web（場）、施設（設）、知見（知）、手法（法）、機材（材）



4.1.2.3. 「活動見える化プログラム」に対する協働コーディネーター等からの意見

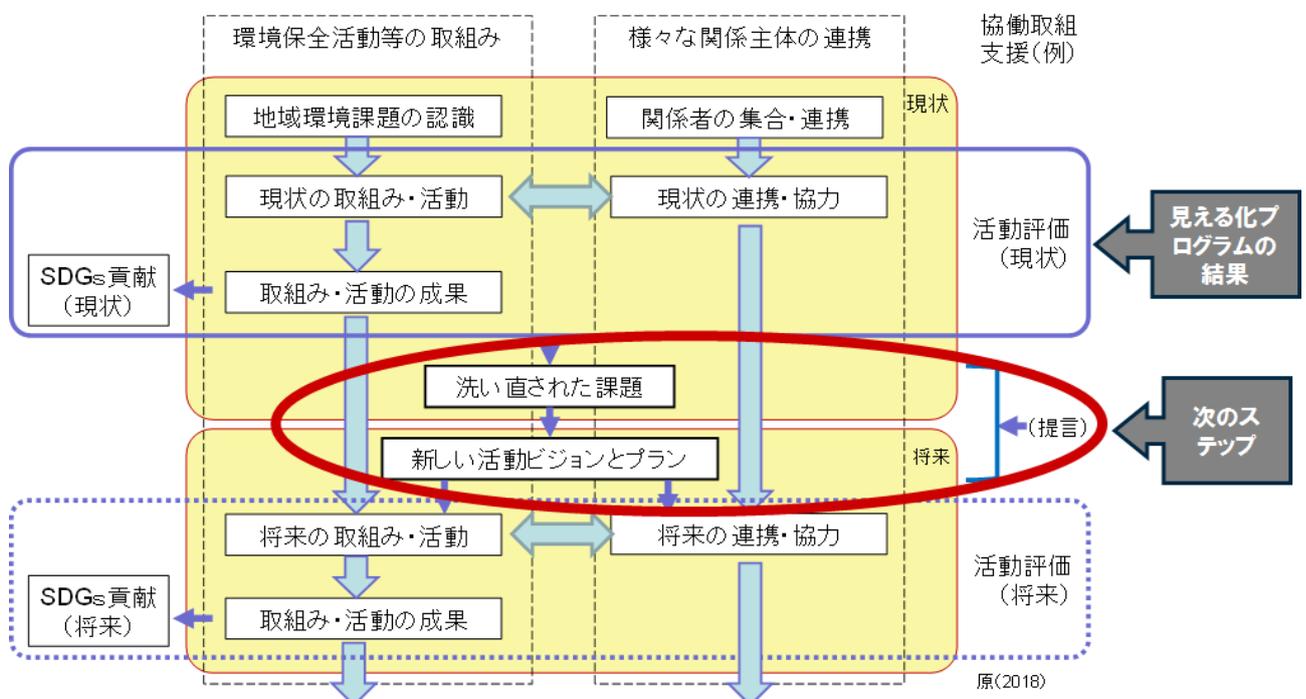
- 協働コーディネーター、協働フォーラム参加者からは「活動見える化プログラム」に対し、下記の意見が提示された。

- 自分が取り組んでいる業務を見える化プログラムで分析評価してみたいと思った。
- 見える化プログラムを自身の活動評価と、一般市民向けに発信できるよう、簡単に分かりやすいものにもすべきと感じた。
- 行政職員、協働コーディネーターにとっては、活動（事業）の内容を把握する上で、役立つツールであるが、一般市民にはわかりにくいシートである。
- 「成果」については、何らかの指標が必要ではないか。
- 指標については、小規模・草の根の活動（事業）では成果を数値で示すと、小さな数値になる。そうした成果だけを見て、不要な活動（事業）と判断されるのではといった懸念も感じる。
- 見える化プログラムのチャート作成にどれだけの時間が必要なのか。作成の労力対効果について十分検討する必要がある。
- SDGs との関連づけはよいが、その次のステップこそが大切である。

- さらに、EPO 中部運営会議の委員から同様の指摘等があったことを受けて、「活動見える化プログラム」構築のための今後の展開について事務局で次項目の検討を行った。

4.1.2.4. 次のステップに向けて

- 今年度に構築した活動見える化プログラムの評価チャート及びその構築手順については、現状の活動を分析していることにとどまるものであり、分析を行った協働取組や地域環境活動等において、分析結果をどのように活用していくかの検討が必要であるとの指摘がEPO 中部運営会議の場などで提示された。
- これらの指摘・意見等を受けて、事務局は下図をEPO 中部運営会議に提示し、図中の「次のステップ」に該当する検討を次年度以降に取り組む提案をして、了解を得た。



4.1.3. 協働コーディネーター連絡会の開催

- 協働コーディネーターの位置付けと地域における活動基盤形成等の検討に資するため、協働コーディネーター連絡会を下記の通り、開催した（北陸・東海・長野の各地域において各1回、3時間程度）。
- 第4期までにEPO中部が育成支援していた21名（7県×3名）の協働コーディネーターのうち、16名が引き続きEPO中部への協力が可能との回答をいただき、この16名を対象に「協働コーディネーター連絡会」（全3回）開催の呼びかけを行った。

4.1.3.1. 第1回連絡会

(1) 日時

2018年8月5日（日）13:30～16:30

(2) 場所

金沢勤労者プラザ 405 研修室（石川県金沢市）

(3) 出席者

13名

（協働コーディネーター）

（敬称略）



年度	地域	名前	所属	役職
29	富山	堺 勇人	環境市民プラットフォームとやま	副事務局長
28	福井	日和 佳政	水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局 （越前市農政課）	
28	長野	山室 秀俊	特定非営利活動法人長野県 NPO センター	事務局長
28	愛知	坂本 竜児	NPO 法人エコデザイン市民社会フォーラム とよたエコライフセンター	
27	石川	中里 茂	環境カウンセラー	
27	岐阜	野村 典博	特定非営利活動法人森と水辺の技術研究会	理事長
27	愛知	蒲 和宏	「なごや環境大学」実行委員会	事務局長

（EPO 中部運営委員） 新 広昭（金沢星稜大学経済学部 教授）

協働コーディネーター・山室氏、中里氏はEPO中部運営委員でもある。

（オブザーバー） 西田清紀（環境省中部地方環境事務所環境対策課 主査）

（事務局担当） EPO 中部 清本三郎、原 理史、富田夏子、小松朋美

(4) プログラム

13:30～ 1. アイスブレイク or 自己紹介(20分)

13:50～ 2. EPO 中部の第5期3年間及び平成30年度事業の説明(20分)

14:10～ 3. 協働コーディネーターの枠組み・方向性の検討

・事務局による課題提示と論点整理(30分)

14:40～ *** 休憩(10分)***

14:50～ ・論点ごとの意見交換(20分)

15:10～ ・結果の共有(15分)

15:25～ ・全体討論(15分)

15:40～ 4. 地域環境活動の活動評価システム構築に向けて

・前日開催・協働フォーラムで実施した「活動評価分析ワークショップ」の紹介(20分)

16:00～ ・全体意見交換(20分)

16:20～ 5. 事務連絡等(10分)

16:30～ 終了

(5) 会議資料

- 資料 1 開催案内・開催概要・プログラム
- 資料 2 協働コーディネーター 第 5 期リスト
- 資料 3 EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターの実施事業
- 資料 4 協働コーディネーターの枠組み・方向性の検討—事務局による課題提示と論点整理—
- 資料 5 活動評価システムについて
- 資料 6 第 5 期 EPO 中部 協働コーディネーター連絡会(第 2 回)開催について
- 資料 7 参加者アンケート

4.1.3.2. 第 2 回連絡会

(1) 日時

2018 年 10 月 5 日 (金) 10:30～13:30

(ランチミーティング 12:30～13:30)

※13:30～第 2 回協働フォーラムに参加

(2) 場所

もんぜんぷら座 会議室 304 (長野県長野市)

(3) 出席者

14 名

(協働コーディネーター)

(敬称略)

年度	地域	名前	所属	役職
29	富山	堺 勇人	環境市民プラットフォームとやま	副事務局長
29	福井	中嶋 阿児	NPO 法人 WAC おばま NPO 法人 若狭くらしに水舎	理事 理事
29	長野	山田 勇	特定非営利活動法人えんのわ 特定非営利活動法人わおん	
28	長野	山室 秀俊	特定非営利活動法人長野県 NPO センター	事務局長
28	愛知	坂本 竜児	NPO 法人エコデザイン市民社会フォーラム とよたエコライフセンター	
27	愛知	蒲 和宏	「なごや環境大学」実行委員会	事務局長
27	三重	寺田 卓二	環境教育ネクストステップ研究会	代表

(EPO 中部運営委員) 協働コーディネーター・山室氏は EPO 中部運営委員でもある。

(オブザーバー) 環境省中部地方環境事務所環境対策課

永井 均課長、西田 清紀主査、川合 学主査

(事務局担当) EPO 中部 清本三郎、原 理史、富田夏子、小松朋美

(4) プログラム

10:30～ 1. アイスブレイク or 自己紹介(10 分)

10:40～ 2. 協働コーディネーターの枠組み・方向性の検討(40 分)

- ・協働コーディネーターの概念の明確化
- ・実施論
- ・EPO の枠組みとして期待すること

11:20～ *** 休憩(10 分)***

11:30～ 3. 地域環境活動の活動評価システム構築に向けて(50 分)

- ・改称の件:「活動見える化プログラム」
- ・8/4 開催フォーラムで実施した「活動評価分析ワークショップ」、10/5 の午後開催フォーラムで実施予定の「活動評価分析ワークショップ」についての紹介
- ・全体意見交換



12:20～ 4. 事務連絡等(10分)

12:30 終了

(5) 会議資料

- 資料 1 開催案内・開催概要・プログラム
- 資料 2 協働コーディネーター 第 5 期リスト
- 資料 3 <参考資料>前回会議等における協働コーディネーターの皆さんのご意見
- 資料 4 ケーススタディ(事例 1、2)のワークショップに基づく手法の構築
- 資料 5 コウノトリが舞う里づくり(コウノトリをシンボルとした福井県越前市における里地里山の保全再生の協働取り組み):SDGs 評価チャート(修正版)、協働評価チャート(修正版)、協働取組活動評価分析表
- 資料 6 里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業:活動経緯チャート(案)、SDGs 評価チャート(案)、協働評価チャート(予想図)(案)
- 資料 7 第 5 期 EPO 中部 協働コーディネーター連絡会(第 3 回)開催について
- 資料 8 参加者アンケート

4.1.3.3. 第 3 回連絡会

(1) 日時

2019 年 1 月 15 日 (火) 10:00～13:00

(ランチミーティング 12:00～13:00)

※13:30～第 3 回協働フォーラムに参加

(2) 場所

ウインクあいち 会議室 1309 (愛知県名古屋市)

(3) 出席者

17 名

(協働コーディネーター)

(敬称略)

年度	地域	名前	所属	役職
29	福井	中島 阿児	NPO 法人 WAC おばま NPO 法人 若狭くらしに水舎	理事 理事
29	長野	山田 勇	特定非営利活動法人えんのわ 特定非営利活動法人わおん	
28	福井	日和 佳政	水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局 (越前市農政課)	
28	長野	山室 秀俊	特定非営利活動法人長野県 NPO センター	事務局長
28	岐阜	河合 良太	NPO 法人泉京・垂井 NPO 法人地域の未来・志援センター	理事兼事務局長 地域コーディネーター
28	愛知	坂本 竜児	NPO 法人エコデザイン市民社会フォーラム とよたエコライフセンター	
27	富山	茶木 勝	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ	代表取締役
27	石川	中里 茂	環境カウンセラー	
27	岐阜	野村 典博	特定非営利活動法人森と水辺の技術研究会	理事長
27	愛知	蒲 和宏	「なごや環境大学」実行委員会	事務局長
27	三重	寺田 卓二	環境教育ネクストステップ研究会	代表

(EPO 中部運営委員) 協働コーディネーター・山室氏、中里氏は EPO 中部運営委員でもある。

(オブザーバー) 環境省中部地方環境事務所環境対策課

西田 清紀主査、川合 学主査

(事務局担当) EPO 中部 清本三郎、原 理史、富田夏子、小松朋美



(4) プログラム

- 10:00～ 1. アイスブレイク or 自己紹介(5分)
- 10:05～ 2. 協働コーディネーターの枠組み・方向性の検討
・事務局による課題提示と論点整理(10分)
・論点ごとの意見交換(20分)
・結果の共有(10分)
・今年度の議論の整理に向けた全体討論(10分)
- 10:55～ *** 休憩(10分)***
- 11:05～ 3. 地域環境活動の活動評価システム構築に向けて
・18/10/5 開催フォーラム、19/1/15(連絡会当日・午後)開催フォーラムで紹介する
「活動見える化プログラム」事例について(20分)
・全体意見交換(25分)
- 11:50～ 4. 事務連絡等(10分)
- 12:00 終了

(5) 会議資料

- 資料1 開催案内・開催概要・プログラム
- 資料2 協働コーディネーター 第5期リスト
- 資料3 EPO 中部協働コーディネーター活用展開イメージ
- 資料4 EPO 中部・(協働)コーディネーターの活用展開の検討
- 資料5 [参考資料]第1回ブロック会議研究会(2018/10/17)
- 資料6 ケーススタディ(事例1～3)のワークショップに基づく手法の構築
- 資料7 とよたエコライフセンターの取組み:活動経緯チャート(案)、SDGs 評価チャート(案)、協働評価チャート(案)、協働取組活動評価分析表
- 資料8 地域環境活動促進セミナー 地域循環共生圏のための「協働」戦略を考える(チラシ)
- 資料9 参加者アンケート

4.1.3.4. 協働コーディネーター連絡会における協議の結果について

(1) 連絡会における全体を通しての議題

- 全3回の連絡会では、主に下記の2つの議題についてディスカッションを行った。

<ul style="list-style-type: none">● 協働コーディネーターのあり方(EPO中部による活用展開のあり方)の検討● 「活動見える化プログラム」の活用検討(協働コーディネーターによる活用ツールとしての検討)
--
- 「活動見える化プログラム」に対する協働コーディネーターの意見は、前項・4.1.2.3.の通りであり、協働コーディネーターの活用ツールとして、協働コーディネーター自身による分析を試行し、改善していくことで了解を得た。

(2) 第1回連絡会での協議(ヒアリング)

- 協働コーディネーターのあり方の検討については、第1回連絡会で協働コーディネーター自身による協働コーディネーターに対する考え・意向等をヒアリングした結果、次の意見があった。

【協働コーディネーターとしての立場】

- ◆ 所属が行政機関、大学などで任期がある場合には、任期後も協働コーディネーターの継続が可能であるか否かは個々に異なってくる。
- ◆ 協働コーディネーターは社会に認知されていないため、肩書きとして用いることは少ない。しかし、自身の取組・活動が協働コーディネーターであるとの自覚・認識はある。

【協働コーディネーターとは】

- ◆ 未来に向け、課題（変革）に挑戦し続けられる人材
- ◆ 地方では、地域で何かを変えようとするときに発生するギャップに対して関係者同士をつなぎ（協働し）解決できる人材
- ◆ 地域の課題を、みなが分かる言葉に翻訳して伝えることのできる人材実務の一つがコミュニケーション
- ◆ プレイヤーではなくプレイヤー同士をつなぎ役割を担う人
- ◆ つなぎ・触媒のようなもの
- ◆ 活用されるスキルを持っている必要がある
- ◆ ひとつのフォーマット・定義のみで一括りにすることは難しい

【協働コーディネーターの仕組み等のあり方に対して】

- ◆ 「劣化する支援」の存在に留意する必要がある（社会課題の独占化、弱者の困窮を自己顕示の材料に利用するケースがみられる）。
- ◆ 例えば技術士倫理などのように、協働コーディネーターであることの「前提」部分がしっかりと整理される必要がある。
- ◆ 協働コーディネーターは活動を継続的、持続可能なものとするコーディネートを行うため、その機能には、①価値観の醸成、普及・啓発と②ビジネス化 の二つがあるのでは。

【アンケートの自由記入欄より】

- ◆ 環境カウンセラーのように一定の要件で名のれるように。
- ◆ コーディネート（SDGs）の視点が入ると、活動の幅が広がる。
- ◆ 活動資金、コーディネーターの生活費向上、協働コーディネーターの持続可能性の確保への留意。
- ◆ （希望）協働コーディネーターのあり方は、普及啓発と事業化についてスポットをあててまとめて欲しい。

（3）第2回連絡会での協議とEPO中部運営会議における議論の結果

- 第2回連絡会では、協働コーディネーターのあり方を検討する上で、下記に留意する必要があるとの意見が提示された。

- ◆ 本業に任期のあるケースあり。所属先・肩書きではなく個人への招聘が必要では。
- ◆ 普及・啓発が必要；「協働コーディネーター」の知名度が低い→肩書きとしては使えない→行政からオファーが得られない。
- ◆ ビジネス・事業としての成立性が不確か；生業・職能としてのあり方、謝金のみでない報酬の確保が難しい実情あり。
- ◆ 協働コーディネーターの前提・要件の整理が必要（倫理の明確化、“劣化する支援”への留意）。
- ◆ 協働コーディネーターのスキル向上も必要。

（4）第3回連絡会での協議

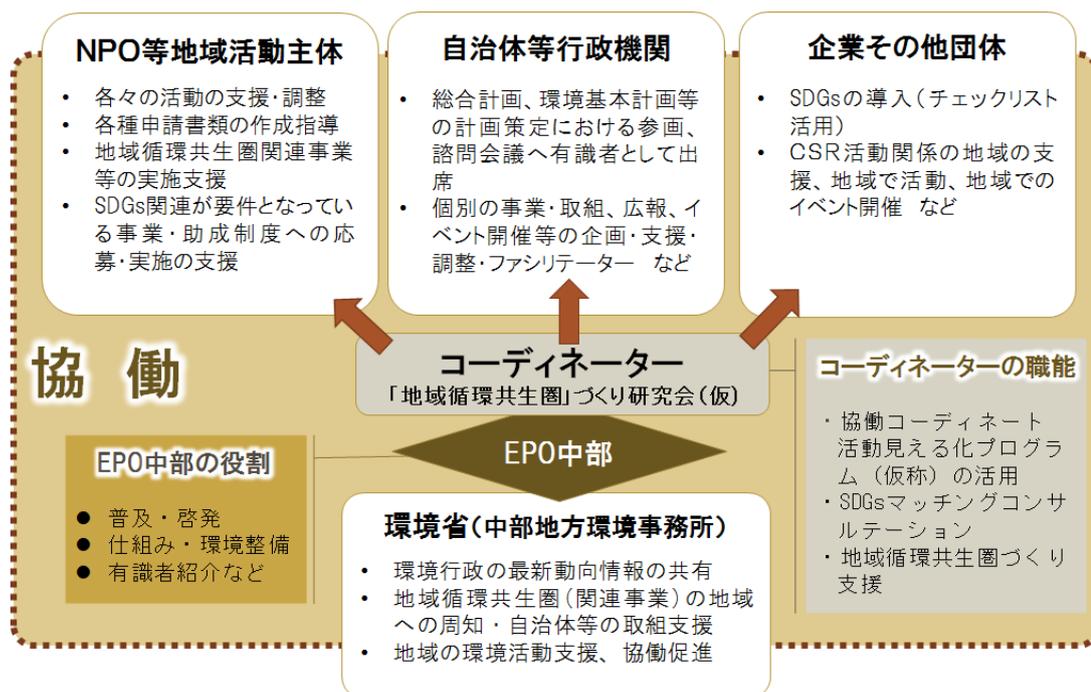
- EPO中部事務局は、第1回・第2回連絡会での協議、EPO中部運営会議での議論をうけて、第3回連絡会で下記のEPO中部コーディネーターの展開イメージと展開スケジュール案を提案した。

- その結果、出席した協働コーディネーターから概ね肯定的に理解いただけたことから、第3回 EPO 中部運営会議にも同案の諮問を行った。
- 運営会議では、EPO 中部が協働コーディネーターの人的費等を確保するわけではないことを個々のコーディネーターに確認した上で展開するよう進言があったが、展開案については概ね理解いただくことができた。

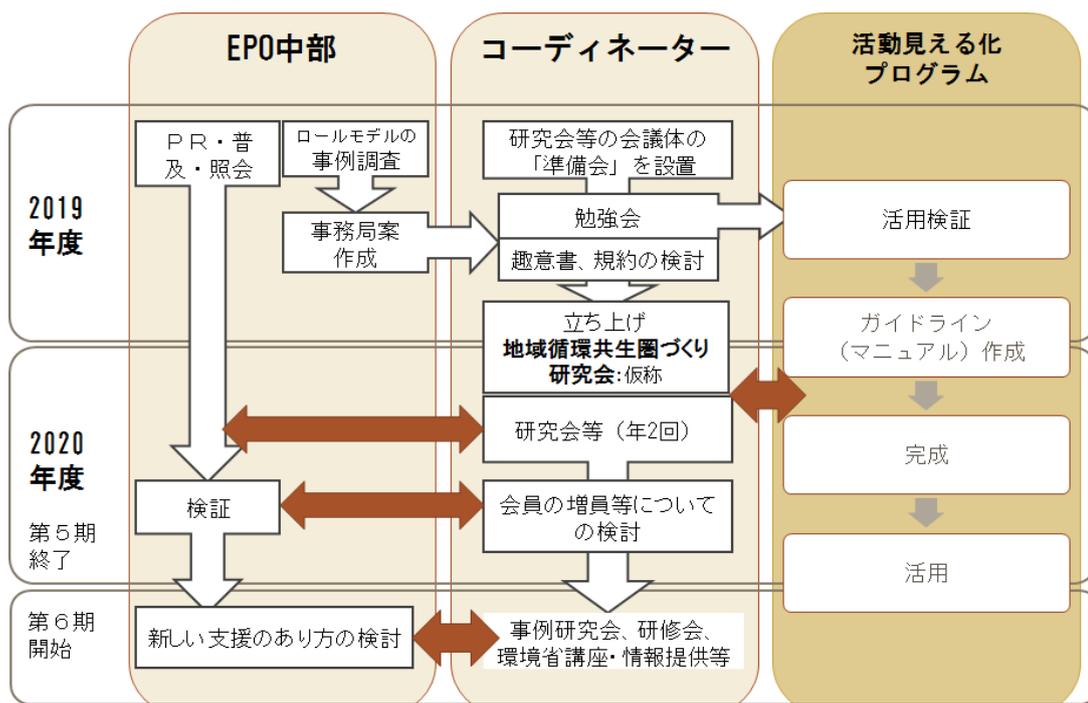
4.1.3.5. 協働コーディネーターの活用展開について

- 全3回の協働コーディネーター連絡会の検討結果として、次の展開案をもとに、今後も検討を進めることになった。

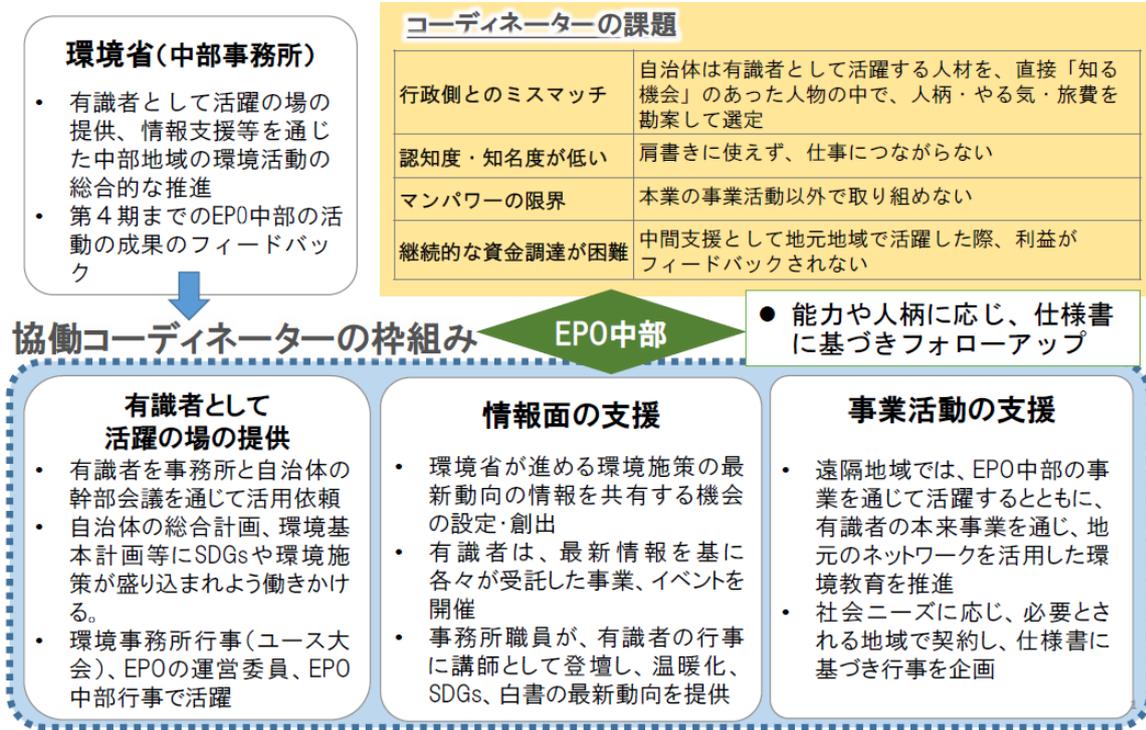
【EPO 中部コーディネーターの展開案イメージ】



【今後の進め方イメージ】



中部事務所の協働コーディネーター支援イメージ

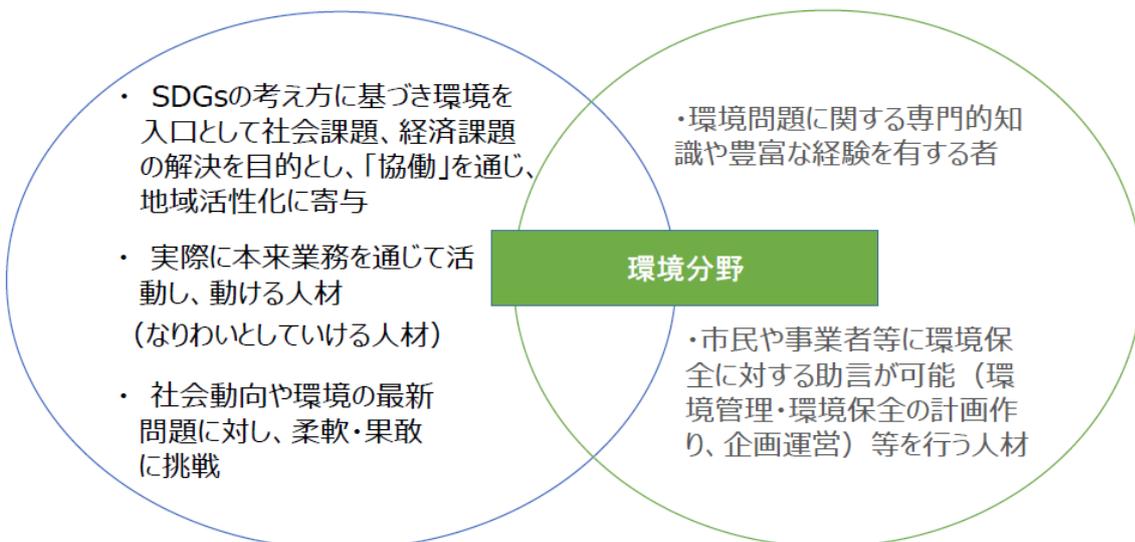


役割のすみ分け

(参考)

協働コーディネーター

環境カウンセラー



4.2. 持続可能な地域・社会の構築に向けた中間支援機能との連携強化

4.2.1. 活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用

- 中部管内7県における協働・ESD・SDGs 活動の支援につながる材料（主体・場・仕組み（制度））の抽出と整理を行い、それらに関する情報・素材等を収集し、リスト化するにあたり、NPO 等が出展可能な自治体主催の環境イベント等のデータ収集を行った。
- 収集した環境イベント等データは、次の抽出項目で、エクセルファイルによるリストを作成した。

【抽出項目】

● イベント名
● 環境イベント/それ以外：環境コーナー等設置の有無
● NPO 等の出展要項等の有無
● 開催時期
● 問合せ先

【収集した環境イベント等データ件数】

	自治体数		2019年3月時点 抽出イベント数
	県	市町村	
富山県	1	15	12
石川県	1	19	5
福井県	1	17	8
長野県	1	77	15
愛知県	1	54	61
岐阜県	1	42	26
三重県	1	29	11
計	7	253	138

【出展可能な環境イベントのデータ集：愛知県リスト（1/4 ページ）】

NPO等が出展できる環境イベント等【愛知県】(2019年3月時点調査)										
No.	自治体	名称	開催	その他 環境関連の 出展の有無	主催(構成)	NPO等の出展について		開催時期 (2019年度の開催日)	問合せ先	イベント内容等の参考URL
						有無	要項等URL			
1	愛知県	Let's エコアクション in AICHI	●	有	愛知県	有		2018年11月17日(土)・18日(日)	愛知県環境部環境活動推進課 TEL:052-954-6208 FAX:052-954-6204	https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/kococoon03.html
2	愛知県	第5回三河湾大感謝祭	●	有	愛知県	有		2018年10月28日(日)	愛知県環境部環境活動推進課 TEL:052-954-6220 FAX:052-954-6220	https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaki/3/0mkawawam-kanshasai.html
3	愛知県	生き生き金魚フェア2018	●	無	愛知県、社会福祉法人愛知県社会福祉協議会	有	http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kore/0000082515.html	2018年10月6日(日)	愛知県健康福祉部高齢福祉課 TEL:052-951-6285 社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 〒460-0001 愛知県庁1階 TEL:052-212-3994	https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kore/0000086339.html
4	愛知県	あいち住まいフェア2018	●	有	愛知ゆめとある住まい推進協議会、中日新聞社、中部経済新聞社	有		2018年10月11日(木)～13日(土)	あいち住まいフェア2018事務局 (中部経済新聞社 専断部内) TEL:052-561-9133 愛知ゆめとある住まい推進協議会 TEL:052-264-4022 FAX:052-264-4041 E-mail:info@chukyo.or.jp	https://www.chukyo-news.co.jp/housing/
5	名古屋市	環境フェア2018	●	有	「環境フェア2018」実行委員会	有	http://www.kankyoday.com/commen/pdf/people_npo2018.pdf	2018年9月15日(土) ※中央行事	「環境フェア2018」実行委員会事務局 (名古屋環境情報センター) TEL:052-972-3994 FAX:052-972-4134	http://www.kankyoday.com/
6	名古屋市	第6回「ほらマツチ」なごや～あなたにマツチしたボランティアを見つけよう！～	●	無	名古屋市、名古屋市社会福祉協議会	有	http://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/news/20180417.html	2018年9月23日(土)	名古屋市環境情報センター TEL:052-228-8078 FAX:052-228-8078 E-mail:nvpo@news.nvpo.city.nagoya.jp	http://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/news/20180506.html
7	千種区	第29回千種区民まつり	●	無	千種区民まつり実行委員会	有		2018年9月30日(日) ※全朝のみの中止	千種区役所庶務課地域推進室地域力推進係 TEL:052-753-1823 FAX:052-753-1824 E-mail:7531821@chikusa.city.nagoya.jp	http://www.city.nagoya.jp/chikusa/category/21-3-5-0-0-0-0-0-0.html
8	東区	平成30年度「なごやかまつり」ひがし	●	無	名古屋市東区	有		2018年10月21日(日)	東区役所庶務課地域推進室地域力推進係 TEL:052-934-1123 FAX:052-935-8886 E-mail:9341123@higashi.city.nagoya.jp	http://www.city.nagoya.jp/higashi/page/0000111288.html
9	北区	平成30年度「きたきたフェスタ」	●	有	北区区民まつり実行委員会	有		2018年10月21日(日)	北区役所庶務課地域推進室地域力推進係 TEL:052-917-6433 FAX:052-914-5752 E-mail:9176432@hita.city.nagoya.jp	http://www.city.nagoya.jp/kitas/page/0000111427.html
10	西区	第38回西区民まつり「なごや」ふれあい18 もーやこお菓子まつり2018	●	—	名古屋市西区	有		2018年10月14日(日)	西区役所庶務課地域推進室安心・安全で快適なまちづくり企画係 TEL:052-523-4225 FAX:052-522-3994 E-mail:5234225@nishi.city.nagoya.jp	http://www.city.nagoya.jp/nishi/page/0000110895.html
11	中村区	第29回中村区民まつり	●	—	名古屋市中村区	有		2018年10月27日(土)	中村区役所庶務課地域推進室地域力推進係 TEL:052-459-5322 FAX:052-459-5325 E-mail:4595322@naka.city.nagoya.jp	
12	昭和区	平成30年度昭和区民まつり	●	—	昭和区民まつり実行委員会	有		2018年10月28日(日)	昭和区役所庶務課地域推進室地域力推進係 TEL:052-735-3824 FAX:052-735-3829 E-mail:7353824@showa.city.nagoya.jp	http://www.city.nagoya.jp/showa/page/0000110537.html
13	瑞穂区	瑞穂区民まつり2018	●	有	瑞穂区民まつり実行委員会	有		2018年8月4日(土)	瑞穂区役所庶務課地域推進室地域力推進係 TEL:052-852-9303 FAX:052-852-9306 E-mail:8529302@miho.city.nagoya.jp	http://www.city.nagoya.jp/miho/page/0000110766.html
14	熱田区	平成30年度「ぎやうい」秋まつり	●	—	熱田区民まつり実行委員会	有		2018年10月14日(日)	熱田区役所庶務課地域推進室地域力推進係 TEL:052-663-9494 E-mail:6639420@atsuta.city.nagoya.jp	http://www.city.nagoya.jp/atsuta/page/0000110338.html
15	中川区	平成30年度中川区区民まつり	●	有	中川区区民まつり実行委員会	有		2018年10月28日(日)	中川区役所庶務課地域推進室地域力推進係 TEL:052-363-4322 FAX:052-362-6503 E-mail:3634319@nakaagawa.city.nagoya.jp	http://www.city.nagoya.jp/nakagawa/page/0000112997.html
16	港区	港区区民まつり～みなと遊楽フェスタ2018～	●	無	港区区民まつり実行委員会	有		2018年11月3日(土)	港区役所庶務課地域推進室地域力推進係 TEL:052-654-9924 FAX:052-651-6179 E-mail:6549921@minato.city.nagoya.jp	http://www.city.nagoya.jp/minato/page/0000112742.html
17	南区	第34回南区区民まつり	●	—	名古屋市南区	有		2018年11月18日(日)	南区役所庶務課地域推進室地域力推進係 TEL:052-823-9225 FAX:052-811-6360 E-mail:8239222-02@minami.city.nagoya.jp	http://www.city.nagoya.jp/minami/page/0000112269.html

4.2.2. 情報発信方法等の検討（第3回 EPO 中部運営会議への諮問案）

- 前項目・データ集については、第2回 EPO 中部運営会議において、更新方法にも留意した上でウェブ掲載等行うようアドバイスがあった。
- 事務局は、今回収集したデータ集の公開を含め、今年度に作成した協働コーディネーターPR ツールの公開及び協働コーディネーターの PR 展開を行っていくために、EPO 中部のウェブサイトのリニューアルを中心とした広報展開のあり方の検討と、次年度に実施する下記の提案を第3回 EPO 中部運営会議に提示した。

情報発信・広報関係について

■ 2018年度にEPO中部独自の人材活用・ツール作成を実施

- 協働コーディネーター
- 活動見える化プログラム
- 中間支援に資するデータ集

▼ ▼ ▼

**EPO中部ウェブサイトのリニューアルを含めた
EPO中部の広報計画・広報戦略の検討の必要性**

- また、第3回 EPO 中部運営会議では委員から、SNS の活用についても進言があった。
- ※ 現在、EPO 中部、中部地方 ESD 活動支援センターとも SNS は開設していないが、運営受託団体である一般社団法人環境創造研究センターのフェイスブックページにおいて、主催フォーラム等のイベント情報のみ投稿を行った。（試験的な投稿であるため、投稿主以外のコメント投稿等は不可の設定とした。）

4.2.3. 中間機能との連携強化のためのフォーラムの開催

- 中間支援組織や活動主体を対象に、協働コーディネーターとの交流と意見交換の場とすることを目的としたフォーラムを開催した（北陸・東海・長野の各地域で各1回、20名程度、3時間程度）。

4.2.3.1. 第1回協働フォーラム

(1) 日時

2018年8月4日（土）13:30～16:30

(2) 場所

金沢勤労者プラザ 101 研修室（石川県金沢市）

(3) 参加者

23名

(4) プログラム

13:30～ 1. ごあいさつ(10分)

環境省中部地方環境事務所

EPO 中部:第5期3年間及び平成30年度事業の説明

13:40～ 2. 地域環境活動事例の紹介(20分×3事例)

・越前市農政課コウトリ共生室 日和 佳政 氏

・環境カウンセラー 中里 茂 氏

・富山県立大学 COC コーディネーター 堺 勇人 氏



- 14:40～ 3. 意見交換(10分)
 ・地域環境活動事例について
 ・協働取組の課題や展望について
- 14:50～ *** 休憩(10分)***
4. 活動分析ワークショップ(対象:越前市のコウトリ保全活動)
- 15:00～ ・EPO 中部によるワークショップの狙いと対象事例の分析チャート案の提示(30分)
- 15:30～ ・分析チャート案に対する対象事例活動当事者との意見交換(20分)
- 15:50～ ・活動当事者以外の参加者を加えた全体討論(20分)
- 16:10～ 5. まとめ(10分)
- 16:20 終了

(5) 配布資料

- 資料1 開催概要・プログラム
- 資料2 EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターの実施事業
- 資料3 コウトリをシンボルとした福井県越前市における里地里山の保全再生の協働取り組み
- 資料4 地域課題に対する金融機関との協働取組みの創出～過疎地域における移住・創業応援～
- 資料5 SDGs でつなぐローカルパートナーシップ
- 資料6 協働取組の支援としての活動評価 活動評価システムの構築・実施の手順(案)
- 資料7 参加者アンケート
- 資料8 『コウトリが舞う里づくり戦略〔概要版〕』(冊子)
- 資料9 『人も生き物も元気な里地里山』(冊子)
- 資料10 『みんなでミライ PEC TOYAMA』(リーフレット)

4.2.3.2. 第2回協働フォーラム

(1) 日時

2018年10月5日(金) 13:30～16:30

(2) 場所

もんぜんぷら座 会議室 304 (長野県長野市)

(3) 参加者

23名

(4) プログラム

- 13:30～ 1. ごあいさつ(5分)
 環境省中部地方環境事務所
- 13:35～ 2. 地域環境活動事例の紹介(20分×2事例)
 ・特定非営利活動法人長野県 NPO センター事務局長 山室 秀俊 氏
 ・特定非営利活動法人えんのわ／特定非営利活動法人わおん 山田 勇 氏
- 14:15～ 3. 活動分析ワークショップ
 ・分析対象事例:長野県飯山市の里山保全体験を通じた障がい者雇用促進
 ※環境省の持続可能な開発目標(SDGs)活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための
 民間活動支援事業の採択事業
 対象事例の紹介:大和田 正勝 氏(里山ウェルネス研究会)
- 14:35～ *** 休憩(15分)***
- 14:50～ 活動分析ワークショップ(つづき)
 ・EPO 中部によるワークショップの狙いと対象事例の分析チャート案の提示(30分)
 ・分析チャート案に対する対象事例活動当事者との意見交換(20分)



・活動当事者以外の参加者を加えた全体討論(20分)

16:00～ 4. まとめ(20分)

16:20 終了

(5) 配布資料

資料1 開催概要・プログラム

資料2 ドローンがつなぐ自治組織とNPO ～地域資源の再発見と災害に強い集落づくり～

資料3 こどもたちがもっと元気に輝く地域に

資料4 里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

資料5 (仮)活動見える化プログラム 活動評価分析ワークショップ

資料6 事例チャート〔活動経緯チャート、SDGs 評価チャート、協働評価チャート(予想図)]案

資料7 参加者アンケート

4.2.3.3. 第3回協働フォーラム

(1) 日時

2019年1月15日(火) 13:30～16:30

(2) 場所

ウインクあいち 会議室 1302 (愛知県名古屋市)

(3) 参加者

31名



(4) プログラム

13:30～ ごあいさつ(5分)

環境省中部地方環境事務所

13:35～ 講演(30分)

「協働の可能性と課題」

千頭 聡 氏(日本福祉大学 国際福祉開発学部教授)

14:05～ 地域環境活動事例の紹介(20分×3事例)

事例1:地域課題の解決に向けた多様な主体による協働取組

野村 典博 氏(特定非営利活動法人森と水辺の技術研究会理事長)

事例2:異分野へウイングを広げる(四日市市での実践から)

寺田 卓二 氏(環境教育ネクストステップ研究会代表)

事例3:とよたエコライフセンターの取り組み

坂本 竜児 氏(NPO 法人エコデザイン市民社会フォーラム)

15:05～ *** 休憩(10分)***

15:15～ 活動分析ワークショップ(60分)

対象事例:とよたエコライフセンターの取り組み

・ワークショップの狙いと対象事例の分析チャート案の提示

・分析チャート案に対する対象事例活動当事者との意見交換

・活動当事者以外の参加者を加えた全体討論

16:15～ まとめ(15分)

16:30 終了

(5) 配布資料

資料1 開催概要・プログラム

資料2 協働の可能性と課題

- 資料 3 地域課題の解決に向けた多様な主体による協働取組
- 資料 4 異分野へウイングを広げる
- 資料 5 とよたエコライフセンターの取り組み
- 資料 6 (仮)活動見える化プログラム 活動評価分析ワークショップ
- 資料 7 とよたエコライフセンターの取組み:活動経緯チャート(案)、SDGs 評価チャート(案)、協働評価チャート(案)、協働取組活動評価分析表
- 資料 8 参加者アンケート

4.2.4. 協働取組促進のワークショップの実施

- 地域において協働による取組を促すため、協働取組に関心のある行政、企業、NPO/NGO 等を対象とするワークショップを実施した（1回4時間、15名程度）。

(1) 日時

2019年2月22日（金）13:00～17:00

(2) 場所

環境省中部地方環境事務所 第1会議室

(3) 参加者

25名



(4) プログラム

13:00～ 開会の挨拶(10分)

13:10～ 話題提供 1(30分)

未来に向けた地域循環共生圏 一coming年度の環境省の重点施策一
環境省中部地方環境事務所(主査 西田 清紀)

13:40～ 話題提供 2(10分)

EPO 中部による「協働」支援の取組展開
中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部 富田夏子)

13:50～ 講演(50分)

多様な主体をつなぎ、変革を促す:チェンジエージェント機能を核とした中間支援
講師:島岡 未来子 氏(早稲田大学研究戦略センター准教授)

14:40～ (休憩 10分)

14:50～ ワークショップ「地域循環共生圏」を目指した施策課題を考える(110分/休憩等含む)

ファシリテーター(EPO 中部・協働コーディネーター)

坂本 竜児 氏(NPO 法人エコデザイン市民社会フォーラム)

河合 良太 氏(NPO 法人泉京・垂井 理事兼事務局長)

蒲 和宏 氏(「なごや環境大学」実行委員会 事務局長)

山室 秀俊 氏(特定非営利活動法人長野県 NPO センター 事務局長)

日和 佳政 氏(水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局)

16:40～ まとめ 講師・島岡未来子氏による講評(15分)

16:55 閉会

(5) 配布資料

資料 1 プログラム

資料 2 第五次環境基本計画に基づく地域循環共生圏

資料 3 第5期・EPO 中部による「協働」支援の取組

資料 4 多様な主体をつなぎ、変革を促す:チェンジエージェント機能を核とした中間支援

資料 5 「H26 年度協働取組加速化事業最終報告書」より抜粋

- 資料 6 個人記入用ワークシート
- 資料 7 参加者アンケート
- 資料 8 協働による地域循環共生圏づくり ～EPO 中部・協働コーディネーターの紹介～
- 資料 9 『環境保全からの政策協働ガイド～協働をすすめた行政職員にむけて～』

【広報用開催案内チラシ】



4.2.5. フォーラム等の参加者アンケート結果より

- 4つのフォーラム及びセミナーの参加者を対象にしたアンケートでは、いずれも肯定的な選択肢の回答者が多く、参加者は開催内容・結果を好意的に評価していることがうかがえる。
- 参加者同士の交流については、「まあまあできた」が多く、特に第3回フォーラムでは会場（客席）側との質疑応答の時間がそれほど多く確保できなかったことから、「あまりできなかった」「ほとんどできなかった」が一定数いる結果になっている。
- 一方で、開催目的が「協働の進め方を具体的に検討する」ことであった協働取組促進ワークショップについては、ほかの参加者との交流が「十分にできた」と答えた回答者が多い。
- 協働取組促進ワークショップでは、参加者同士、参加者と協働コーディネーターで名刺交換を行っているほか、開催後にもコンタクトをとった協働コーディネーターからの報告があり、協働への理解と共に、協働コーディネーターの認知にもつなげることができた。
- また、今後、協働コーディネーターをPRしていくにあたり、コーディネーターとフォーラム等参加者との交流を積極的に盛り込むことが考えられる。

【フォーラム等参加者アンケートの集計結果】

※設問の中で回答者の数が多いものほど濃色の網掛けになっている。

	●今回の催事はいかがでしたか					●討議・意見交換等でほかの参加者と十分に交流できましたか				
	良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	十分にできた	まあまあ	あまり	ほとんどできなかった	無回答
180804開催 協働フォーラム① (n=8)	1	7	0	0	0	0	6	0	1	1
181005開催 協働フォーラム② (n=9)	5	4	0	0	0	2	4	1	0	2
190115開催 協働フォーラム③ (n=25)	10	15	0	0	0	1	10	7	6	1
190222開催 協働WSセミナー (n=14)	12	1	0	0	1	9	4	0	0	1

	●今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか				●協働・ESD・SDGs等に今後も積極的に取り組む必要があると感じさせる内容でしたか				
	あった	なかった	どちらともいえない	無回答	協働やESD・SDGsをもっと積極的に取り組んでいきたいと感じられる内容だった	これまでの取組方を続けていけば充分だと思える内容だった	協働やESD・SDGs、協働に取り組む必要性・重要性をあまり感じられない内容だった	よくわからない	無回答
180804開催 協働フォーラム① (n=8)	5	0	2	1	7	0	0	0	1
181005開催 協働フォーラム② (n=9)	5	0	3	1	7	1	0	0	1
190115開催 協働フォーラム③ (n=25)	19	0	5	1	21	2	0	2	0
190222開催 協働WSセミナー (n=14)	13	0	1	0	14	0	0	0	0

	●活動評価分析ワークショップの内容が理解できましたか					●活動評価分析ワークショップが、今後のあなたの活動・取組に役立つ・活用できると感じましたか				
	理解できた	まあまあ	あまり	まったく理解できなかった	無回答	活用できると思った	場合によっては活用できると思った	あまり役に立つことはないと思った	活用する機会はまだ多くないと思った	無回答
180804開催 協働フォーラム① (n=8)	0	7	1	0	0	2	5	0	0	1
181005開催 協働フォーラム② (n=9)	3	5	0	0	1	2	6	0	0	1
190115開催 協働フォーラム③ (n=25)	6	18	1	0	0	8	16	1	0	0

	●地域の人たちが協力して、その地域の環境保全活動に取り組むことは地域コミュニティの活性化にもつながるので重要だと思いますか					●大人にも子どもにも、環境保全について理解を深めるための環境教育や環境学習は重要だと思いますか				
	大変そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	無回答	大変そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	無回答
190222開催 協働WSセミナー (n=14)	13	1	0	0	0	13	1	0	0	0

【参加者の感想等（自由記入欄より）】

■ 協働フォーラムの参加者

- ◆ 市民を当事者として参加させていくプログラムが参考になった。一緒に向かう目標は「意味ある目標」として設定できるようにしたい。
- ◆ 事例発表がとても良かった。活動内容を拝聴し、レベルのギャップを感じた。今後初心にかえって勉強したい。
- ◆ 協働に携わる職員は本フォーラムに参加すべきだと思った。
- ◆ 協働を進めるにあたって、協働の意味や必要性を全体で共有していくことが、課題解決および活動の継続に重要であると感じた。

■ 協働取組促進ワークショップの参加者

- ◆ 協働のプロセスを理解することで、実施にあたり何が不足しているのかを明確化させることができた。
- ◆ 行政、企業、NPO、住民、大学等専門家の関わり方がよく分かりました。
- ◆ 是非、帰って具体的な案件でトライします。
- ◆ 同じ悩み、地域課題があり、人の事業を考えるにあたり、自分のヒントになった。
- ◆ 他市の現状や対応について知ることが出来た。

5. 中部地方ESD活動支援センター運営業務

5.1. ESD活動を支援するための情報共有等

5.1.1. PRツール（「ESD/SDGsポイント」チェックリスト（仮））の作成・公開

- 中部地方ESD活動支援センターの取組成果及び中部のESD/SDGs活動の周知を目的としたPRツール（「ESD/SDGsポイント」チェックリスト（仮））を「ESD/SDGsチェックリスト」として作成した。
- なお、作成にあたっては、「ESD/SDGsポイント」チェックリスト（仮称）の作成検討を行うワーキンググループ（次項目参照）による検討を行った。
- 「ESD/SDGsチェックリスト」はA4・全4頁・フルカラーの「ESD/SDGsパンフレット」と、A4・全4頁・モノクロの「ESD/SDGsチェックリスト」の2組を作成し、それぞれ単独での活用も可能となるよう作成した。
- 「ESD/SDGsチェックリスト」は、今年度に作成した2種類のチェックリストの【基本段階版】【事業所SDGs版（案）】のうち、【基本段階版】をパンフレット「ESD/SDGsチェックリスト」に掲載している。

※ 次ページ以降に、「ESD/SDGsパンフレット」「ESD/SDGsチェックリスト（基本段階版）」を掲載。

中部地方ESD活動支援センター

中部地方ESD活動支援センターは、2017年度に開設された8つの地方センターの1つで、ESD活動支援センター(全国センター)や地方自治体、地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)等と連携し、ESD推進ネットワークの一角を構成する役割を担っています。当センターは、これからもESD・SDGsに関わる活動に取り組む皆さんをサポートしてまいります。

中部地方ESD活動支援センターが2018年度に開催した3つの「ESD推進のためのダイアログ」

1. ユネスコスクールの交流

北信越ユネスコスクール交流会2018 北陸における協働取組みフォーラム
2018年4月6日 第1回/北越(石川富山金沢市で開催)

第1回は、北信越のユネスコスクールの小中学校の教師を中心に60名が参加し、学校でESDに取り組む上での課題などを共有するディスカッションを行いました。



2. ユネスコエコパークの活用

ユネスコエコパークにおける交流と協働によるESDの推進
2018年10月13日~14日 第2回/豊州(北野黒山/内田)で開催

第2回は、ESDと生物圏保存地域(ユネスコエコパーク、Biosphere Reserves: BR)をテーマに開催し、1日目のフォーラムでは全国のBR協議会関係者や地元の教育関係者など55名が参加して、「ユネスコエコパークでESDをどう推進するか」をテーマに議論を行いました。2日目は「志賀高原ユネスコエコパーク環境学習プログラム」のデモンストレーションを体験するエクスカーションを実施し、志賀高原の豊かな自然と共に、当地の歴史、文化、暮らしにまつわるエピソードも学ぶ、ESDプログラムを体験しました。



3. 企業による持続可能な地域づくりへの貢献

SDGs時代における企業・地域の人材育成
2019年1月14日 第3回/東海(愛知県名古屋で開催)

第3回は、SDGsと企業の人材活用・人材育成をテーマに開催しました。愛知・岐阜・三重の各県から企業に参画いただき、本業の中で、持続可能な地域づくりに貢献している取組・活動を紹介していただきました。



発行 環境省中部地方環境事務所

中部地方ESD活動支援センター



中部地方ESD活動支援センター
〒460-0003 名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4F
T E L 052-218-9073
F A X 052-218-8606
E-mail office@chubuesdcenter.jp
U R L https://chubuesdcenter.jp

中部地方ESD活動支援センター 持続可能な社会実現に向けた人づくり



あらゆる場面で持続可能な社会を推進するためには「人づくり」が不可欠です。そのためのESD(持続可能な開発のための教育)を推進するには、SDGsと活動との関連性を仲間などで話し合い、自分たちにとっての取組を共有することが大切です。

ESD(Education for Sustainable Development/持続可能な開発のための教育)は、「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」ともいわれています。

SDGs(Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標)は、2030年までの達成を目指して設定された、持続可能な世界を実現するための17ゴール・169ターゲットからなる目標です。

地域にとってのSDGsに向けた人づくり

SDGsは国際目標ですが、地域的な目標としても捉えられます。地域には行政や市民、NPO等による様々な取組があります。そうした「地域課題」の解決・対応のための取組を支える人たちが、17ゴールのとのつながりを意識することがESDの第一歩です。

企業にとってのSDGsに向けた人づくり

環境・社会の問題、情勢など、企業を取り巻く状況は常に変化しており、企業によるリスクの把握・対応が重要となっています。社会が抱える課題が包括的に網羅されているSDGsを原動力とする従業員を養成することは、企業にとって、リスク管理やビジネスチャンスの活用にも欠かせません。

地域資源の活用

地域によるESD-SDGsの実践では、「地域資源の活用」が重要とされています。代表的な地域資源には、たとえば、世界遺産、無形文化遺産、農業遺産、それに里地里山等々があり、中部エリアにもそれらの認定地等がたくさんあります。また、「第5次環境基本計画」では、経済社会活動において地域資源の活用の重要性が位置付けられています。

地域資源には、その地域のエネルギー、自然資源や都市基盤、産業集積等に加えて、文化、風土、組織・コミュニティなど様々なものが含まれます。経済社会活動は、これらの地域資源を土台として生み出されています。地域が持続可能であるためには、経済社会活動によって地域資源が損なわれないようにしなければなりません。地域資源が損なわれることで地域の持続可能性に阻害が生じた例としては、大気や水等の自然資源が汚染され、地域の人々が重要な被害を受けた公害がその典型と言えます。逆に、地域資源の質の向上が、経済社会活動の向上につながる可能性があります。

(農林省「第5次環境基本計画」の「地域課題の解決に資する地域循環共生圏」の創設の章より)

地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)



地域ESD拠点は、ESD活動支援センター(全国・地方センター)や他の拠点同士と連携して各地域・各分野で取り進められるESDを様々な形で支援し、「ESD推進ネットワーク」の中で中核的な役割を果たしていただく組織・団体等です。地域でのESD実践において、地域ESD拠点と連携した活動が各地で展開されています。また、地域のESD実践の支援を目指す組織・団体は、ぜひ、地域ESD拠点へご登録ください。

名称	所在地・URL
① 石川県ユネスコ協会	石川県金沢市 http://unesco.exblog.jp/
② 一般社団法人 長野県環境保全協会	長野県長野市 http://nace.main.jp
③ 信州ESDコンソーシアム	長野県長野市 http://esdnagananoz.org/
④ 名古屋ユネスコ協会	愛知県名古屋市中村区 http://www.unesco.or.jp/nagoya/
⑤ 「なごや環境大学」実行委員会	愛知県名古屋市中区 http://www.n-kd.jp/
⑥ 一般社団法人 日本体験学習研究所	愛知県名古屋市中区 http://jlel.jp
⑦ 豊橋ユネスコ協会	愛知県豊橋市 http://www.unesco.or.jp/toyohashi/
⑧ 岐阜県ユネスコ協会	岐阜県岐阜市 http://www.unesco.or.jp/gifuken/index.html
⑨ 環境教育ネクストステップ研究会	三重県四日市市 http://ee-nextstep.com/index.html
⑩ 中部ESD拠点協議会(申請中)	愛知県春日井市 http://chubu-esd.net/

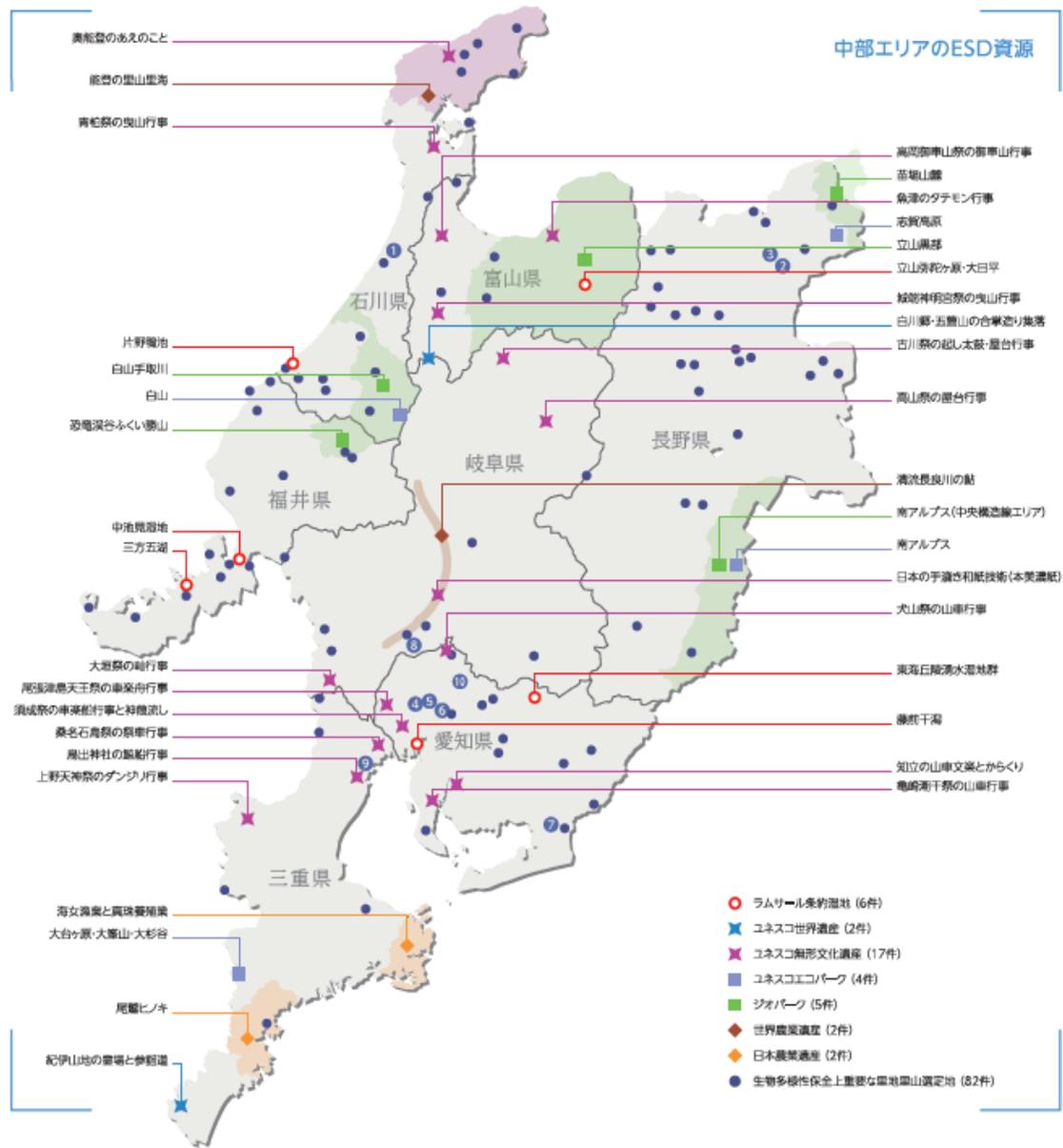
地域ESD拠点の登録方法

地域ESD拠点への登録を希望される場合には、ESD活動支援センター(全国・地方)から、登録申込の様式を取得し、必要事項を記載して資料とともに下記のメールアドレスまで提出願います。

ESD活動支援センター(全国センター)

東京都渋谷区神宮前5丁目53-67 コスモス青山地下1階
T E L 03-6427-9112
E-mail kyoten@esdcenter.jp
U R L <https://esdcenter.jp/kyoten/>

中部エリアのESD資源



【ESD/SDGs チェックリスト】

クイズに答えて あなたの「SDGsわかってる度」レベル を判定してみよう!

クイズ監修：古澤礼太(IPU東大が環境ESDセンターを創設、中環ESD委員協議会事務局)

- Level 1**
- Q1. SDGsを日本語で何と言いますか?**
 ① 持続可能な開発のための教育 ② 持続可能な開発目標 ③ 持続可能な開発のための2030アジェンダ
- Q2. SDGsの達成目標(ゴール)はいくつありますか?**
 ① 8個 ② 12個 ③ 17個
- Q3. SDGsはいつまでに達成されることをめざしていますか?**
 ① 2025年 ② 2030年 ③ 2050年
- Q4. 持続可能な開発のために調和が求められる3つの要素とは何ですか?**
 ① 動物・植物・人間 ② 開発・生産・消費 ③ 環境・社会・経済
- Level 2**
- Q5. SDGsは何の略語ですか?**
 ① Sustainable Development Goals ② Sustainable Deep Governments ③ Society Development Goals
- Q6. SDGsのなかで、地球温暖化問題を取り扱うゴールは何番ですか?**
 ① ゴール3 ② ゴール13 ③ ゴール16
- Q7. SDGsのゴールを細分化した具体的なターゲットはいくつありますか?**
 ① 84個 ② 169個 ③ 321個
- Q8. SDGsは何の取り組みの後継プログラムですか?**
 ① 国連持続可能な開発のための教育の10年 ② 国連ミレニアム開発目標 ③ 国連生物多様性の10年
- Level 3**
- Q9. SDGsのなかで、防災・減災問題を取り扱うゴールは何番ですか?**
 ① ゴール4 ② ゴール8 ③ ゴール11
- Q10. SDGsのなかで、食料の安全保障や農業の持続可能性を取り扱うゴールは何番ですか?**
 ① ゴール2 ② ゴール6 ③ ゴール11
- Q11. 「三河湾のアサリ漁獲量の減少」の問題を、いくつかのSDGsゴールと関連させて考えることができますか?**
 ① 1個 ② 2~5個 ③ 6個以上
- Q12. 企業にとってSDGsはどのようなものとお考えのが適当ですか?**
 ① 規制により企業活動を後退させる足かせのようなもの ② 1つのSDG目標に取り組みだけで企業イメージをアップできる便利なツール ③ 課題解決のための製品・サービス開発や社会的責任を高めるビジネスチャンス

【クイズの答え】 Q1② Q2③ Q3③ Q4③ Q5① Q6② Q7② Q8② Q9③ Q10② Q11③ Q12③(正解は多いほどよい) Q12③

いくつ正解しましたか?

Level-3以上で正解があったというあなたは、SDGsマニアです。そんなあなたは、これからもぜひSDGs活用を周囲に広めていってください。

発行：環境省中部地方環境事務所・中部地方ESD活動支援センター

原稿案

ESDのためのSDGsポイントチェックリスト

あなたが働いている職場では何を行っていますか? 何をサービスしていますか? どんな形で地域社会とお付き合いをしていますか?

様々な事業活動は、すべてが地域や経済などを通じて社会に、そして世界につながっています。あらゆる生産物やサービス、その他の事業はその創造活動を通じて社会から世界に貢献していると言えます。その究極の目標がSDGs(未来のための17の世界目標)です。SDGsは2015年に国連で採択され、世界で取り組むことになっています。世界市民の一員として自分の団体や事業所がこうした目標に貢献していくことが重要となります。

まずは、自分が働いている事業所がSDGsのどの目標に対してどのように関わっているかを考えてみましょう。

あなたの職場はどんな活動をしていますか

あなたは事務職でしょうか。営業担当でしょうか。設計や企画担当かもしれません。自分の立場から職場の組織を見た時に、社会に対してどのように貢献しているかを書き出してみましょう。

たとえば… 例1: 昨年度に営業車を電気自動車に変え、エネルギーにかかる経費が削減できた。地球環境によりよくなった。

例2: 昨年度に社屋の屋根の一部をソーラーパネルに変え、エネルギーにかかる経費を削減でき、さらに売電も可能になった。未利用エネルギーの活用が促進された。

例3: わが社では薪ストーブを販売することで地球温暖化防止に貢献している。

例4: 里山の学校を運営しているので、環境教育に貢献している。

こうした取組は「必ず」SDGsに貢献しています。その貢献の度合いを「ESDのためのSDGsポイントチェックリスト」を使って確かめてみましょう。

チェックリストの使い方

① 日常の取組を確認しよう

- ・ 団体や組織の日常の活動を思い起こし、分野ごとの「取組項目」に当てはめてみましょう。当てはまらない場合は、「その他」の欄を使ってください。
- ・ 取組内容を具体的に簡潔に「取組内容」に記入しましょう。

② SDGsとの関連からポイントチェックをしてみよう

- ・ それぞれの取組とSDGs目標との関連をチェックし、次のようにポイントを与えます。

最も関連のあるSDGs目標	最大1項目 × 3ポイント
ある程度関連のあるSDGs目標	最大2項目 × 2ポイント
少し関連のあるSDGs目標	最大5項目 × 1ポイント

※ チェックリストのうちグレーの欄は、取組とSDGsが関連している可能性が高いと考えられる項目です。取組によっては他にも関連する項目がある可能性がありますので、自分の判断で記入してください。

- ・ 横の列を合計した結果を、右の合計欄に記入します。その数字は、1つの取組におけるSDGsへの貢献量と多様性の指標となります。

- ・ 縦の列を合計して、下の合計欄に記入します。その数字は、それぞれのSDGsに対する取組深度の指標となります。

③ SDGsへの貢献内容を確認しよう

- ・ 取組項目と関連するSDGs目標を選んだ理由を、右端の欄に簡単に記入してください。その理由が、SDGsに貢献している内容となります。(書ききれない時は欄外にメモ書きしてください。)

【簡易なチェックの方法】… 簡単にチェックを行うには、それぞれのSDGsの該当する欄に✓を記入し、縦列の合計欄に✓の数を記入してください。

➡ このように確かめることで、自分の職場が社会へ、そして世界につながっていることがわかると思います。今後、SDGsにより貢献するためにはどのようにしていけばよいか、この結果をもとに周りの人と考えてみましょう。

5.1.2. PR ツール作成のワーキンググループの開催

5.1.2.1. 開催概要

- PR ツール作成のためのワーキンググループ（以下、作成WG）を全3回開催した。

(1) 委員構成

氏名	所属	役職
古澤 礼太	中部大学国際 ESD センター	准教授
曾我 幸代	名古屋市立大学人文社会学部	准教授
川村 真也	中部大学国際 GIS センター	研究員

ファシリテーター：中部地方 ESD 活動支援センター 責任者 原 理史

オブザーバー：環境省中部地方環境事務所

事務局担当：中部地方 ESD 活動支援センター

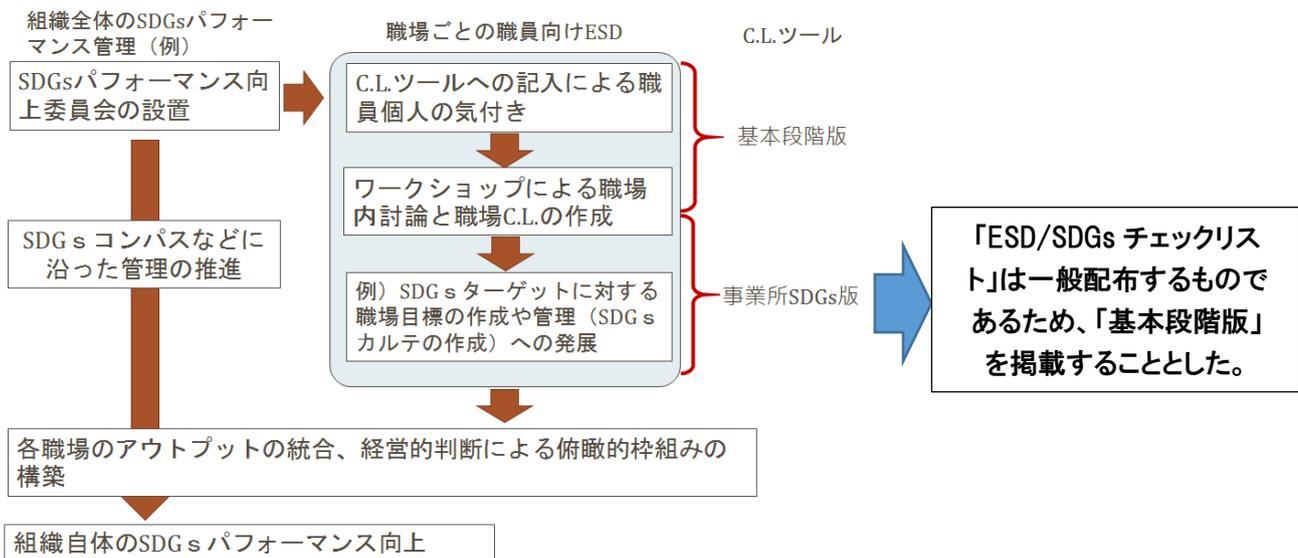
(2) 開催概要

	開催日	協議・検討項目
第1回	6月28日	作成目的、作成イメージの共有 (主な論点：背景認識共有、事例と他の活動の動き、ターゲットの焦点化と活用場面)
第2回	9月21日	プロトタイプの提示、内容吟味 (主な論点：使用感、目的の達成予想、その他)
第3回	12月18日	「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト活用場面、チェックリスト修正案の考え方、試行テストについて

5.1.2.2. 作成WGの検討結果

- ターゲットは事業と SDGs との関連性を自覚していない中小企業を主な対象とし、まずは「やってみる」ことから始められる気付きのためのA3・1枚のツールとして作成した。
- 点数評価はつけない項目チェックのみを行う方法を「手引き」として整理した。
- 自ら活動内容を考えられる余地を増やすとともに様々な企業の職員が気付ける形で「業務」の中で行っているものと「CSR」的に行っているものに項目を分類した。
- 企業パフォーマンス向上のための SDGs 教育のワークショップを意識し、重要な活動を自分の言葉で「物語る」ための欄を追加した。

【SDGs パフォーマンス向上のための ESD プログラム（試案）】



【事業所 SDGs 版 (案)】

ESDのためのSDGsチェックリスト ver.1.20 記入例

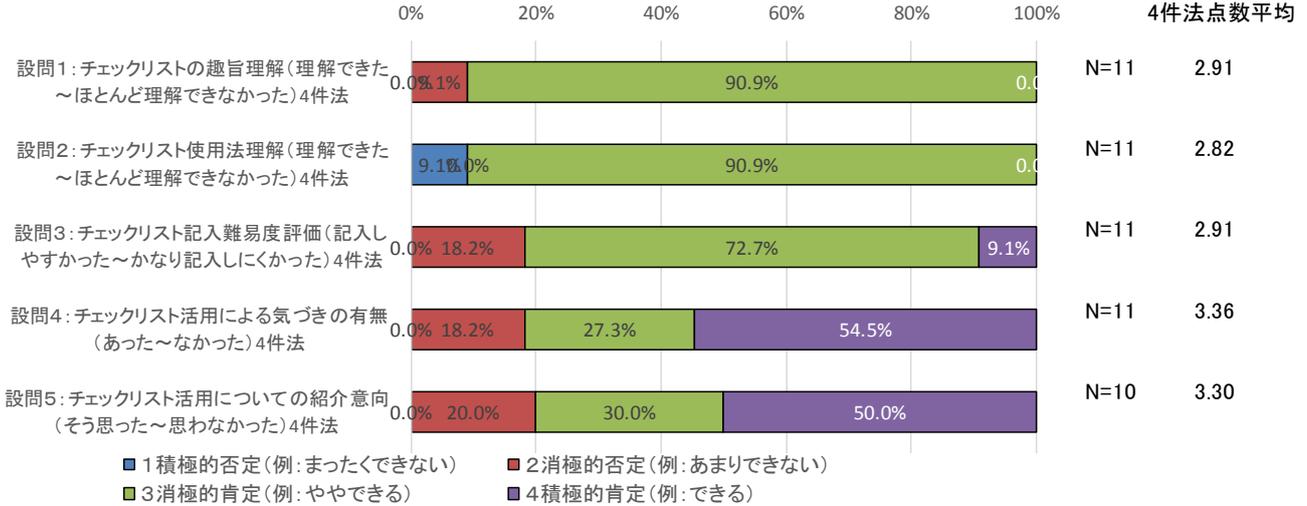
OSDGs目標との関連チェック:①最も関係するSDGs目標(3点×最大1)、②ある程度関係するSDGs目標(2点×最大2)、③少し関係するSDGs目標(1点×最大5) ○取り組み内容が関係するSDGs目標を選んだ理由:複数のSDGsが関係する場合は、それぞれの理由を右端の欄にご記入ください。				目標	SDGs目標との関連チェック!																				
取組み分野(経団連10)	取組み分野	具体的な項目(難解版)	具体的な項目(平易版)	取組み内容(例)	備考(含まれる関連テーマ)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">製品・サービス社会貢献</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">製造・調達・企業経営</p>	第1章 持続可能な経済成長と社会的課題の解決	①持続可能な経済成長と社会的課題の解決	商品・サービスの品質と安全性確保、持続可能で強靱な社会インフラの開発・維持、イノベーションによる持続可能な経済成長、など。	自動車タイヤ技術に応用した介護ベッド開発 自社商品の耐久度調査の徹底 廃品回収とリサイクルシステムの導入			3							2	1	2		1							
	第8章 社会参画と発展への貢献	②社会参画と発展への貢献	経営理念に沿った社会貢献活動・CSRの推進、地域社会の幅広い分野・立場の人々との交流を通じた相互信頼の獲得、従業員のボランティア活動支援、など。	名古屋女子マラソンへのボランティア参加登録 中山間地への自社小水力発電機の寄付 半田市潮火祭りへの協賛金拠出				3			2								2						
	第5章 消費者・顧客との信頼関係・第3章 公正な情報開示、ステークホルダーとの建設的対話	③消費者・顧客との信頼関係、公正な情報開示	商品・サービスの適切な情報提供、消費者・顧客への誠実対応、責任ある生産と消費、フェアトレード、など。	同業者業界団体への原産地表示の徹底啓発 顧客の苦情電話の内容を社内回覧し日々改善 フェアトレード名古屋認定の飲食店		1	1							3											
	第7章 環境問題への取り組み	④環境問題への取り組み	サプライチェーンを含む企業活動を通じた低炭素社会の構築、循環型社会の形成、生物多様性の保全、など。	年に一度の漂着人工ゴミ清掃活動実施 LED電球への交換 自社ビル建築時の自主的環境アセスメント実施															3						
	第6章 働き方の改革、職場環境の充実・第4章 人権の尊重	⑤働き方の改革、職場環境の充実、人権の尊重、人材育成	多様な人材(外国人含む)の就労推進、差別や不合理な格差のない雇用管理、ワークライフ・バランスの推進、など。	社員食堂に多国籍料理の日を制定 PC打ち込み作業を福祉事業所へ外部委託 社員研修にリラクゼーションデーを設定																1			1		
	第9章 危機管理の徹底	⑥危機管理の徹底	組織的な危機管理体制の整備、サイバーセキュリティの確保、災害発生時に備えた体制の構築、など。	被災時に工場を地域住民の避難所として開放 被災時のサプライチェーン確保のシミュレーション実施 反社会的勢力との関係断絶の徹底																					
	第2章 公正な事業慣行、第10章 経営トップの役割と本意章の徹底	⑦公正な事業慣行とガバナンス	透明性の高い経営体制、企業倫理の徹底、持続可能なサプライチェーンの構築、など。	サプライチェーン(途上国)の児童労働、森林伐採、海洋汚染等の実施 社員無記名アンケートによる経営改善 社訓「あてになる人間育成」の朝礼での復唱							2														
	合計						3	2	6	2	3	3	5	9	1	3	8	10	2		3		2	62	

5.1.3. 作成したチェックリストの試験的活用

- チェックリスト【基本段階版】を、2018年12月12日に開催された三重県四日市市主催 SDGs 講座イベントで試行的に記入依頼し、記入者にはアンケート調査も実施した。
- その結果を作成WGの検討材料として提示した。
- アンケート結果より、チェックリストが有意義なものであると実感されていることがうかがえ、自由記入欄では、「世の中をよくするためのチェックリストだと思う」との意見をいただいた。
- アンケート結果は作成WGにも提示して検討を行った結果、今年度は活用レベルを配慮した【基本段階版】を作成し、その発展型として【事業所 SDGs 版（案）】を作成することが検討された。

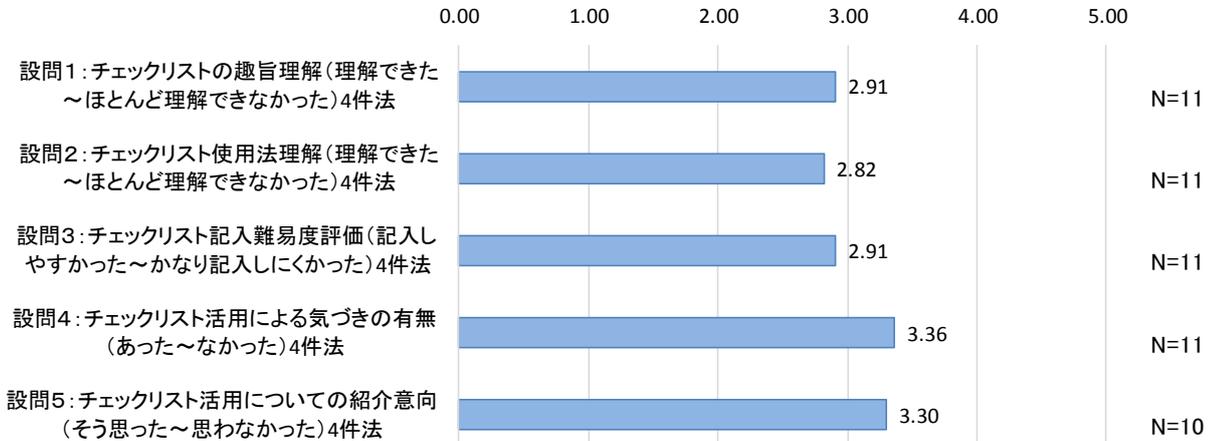
【四日市市主催 SDGs 講座イベントのチェックリスト記入者アンケートの結果】

選択肢(4件法)を1積極的否定～4積極的肯定の4段階で表示



意識水準

4件法を点数化した平均値



5.2. ESD活動の支援等(中部地方ESD活動支援センター企画運営会議の開催)

- 本報告書「2.2 中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議」を参照。

5.3. ESDのネットワーク形成に関する業務

5.3.1. ESD活動支援センター(全国センター)主催会議等への出席及び資料提供

- ESD活動支援センター(以下、全国センター)が開催する会議やイベントへの出席、資料提供・確認等作業依頼等に、下記の通り、対応した。

区分	回/開催日	対応状況
企画運営委員会	第1回 第2回	<ul style="list-style-type: none"> • 地方センターを代表して今年度は四国センターが出席することになった。 • 第2回会議開催に際し実施された地方センターの会合に出席した。 • 各会議前後に送付されてきた関係資料、議事録等の確認を行った。
連絡会	第1回/ 5月10日	<ul style="list-style-type: none"> • 出席。 • 開催にあたり、依頼のあった業務実施予定表等を作成・提出した。
	第2回/ 10月18日	<ul style="list-style-type: none"> • 出席。 • 開催にあたり、依頼のあった業務実施状況表等を作成・提出した。
	第3回/ 1月9日	<ul style="list-style-type: none"> • 出席。 • 開催にあたり、依頼のあった業務実施状況表、教育機関との連携状況報告資料等を作成・提出した。
全国フォーラム	11月30日 -12月1日	<ul style="list-style-type: none"> • 中部地方 ESD 活動支援センターとして出展、ポスター等を展示。 • スタッフの一人が「分科会1：学校と地域ですすめる ESD」のコメントーターとして登壇した。



全国フォーラム(11月30日~12月1日)出展の様子

中部地方ESD活動支援センターの2018年4～10月における活動



1日目・フォーラム

1日目のフォーラムでは、立教大学ESD研究所長・ESD活動支援センター長の阿部治先生と、志賀高原BR協議会・信州大学教育学部助教の水谷瑞希先生のご講演の後、「ユネスコエコパークでESDをどう推進するか」をテーマにグループ・ディスカッションを実施。全国のBR協議会、地元の教育関係者等を中心に、55名が参加して活発な議論を行いました。

2日目・志賀高原BR環境学習プログラムのデモンストレーション

2日目は晩秋を迎えつつあった志賀高原BRで環境学習プログラムのデモンストレーションを実施。ガイドさんの案内・解説付きで生態系や地質学的に特長的なポイントを巡り、森や生きものについて学びました。ガイドさんは豊かな自然を活用しつつも同時に安全に取り組んできた当地の歴史・文化等についても多岐にわたるお話しを交えながら、エコを楽しく学びました。ログラフづくりの工夫が随所に感じられました。



ESDと生物圏保存地域(ユネスコエコパーク、Biosphere Reserves: BR)をテーマにしたESD推進ダイアログ(第2回/信州)を10月13日・14日に志賀高原BR(長野県山ノ内町)で開催しました

実践	課題	期待
<ul style="list-style-type: none"> 能力に合わせる 発見し、いかに 「ESD」を知り、 「自然」を愛する 「人・自然・未来」共生 外部に出る活動 他事業との連携 地産地消 スリ・モニター 集約の意義 課題解決 	<ul style="list-style-type: none"> ESDへの知名度 地元でもっと長く知ってもらいたい イベントをやる 企業とのつながり エクスカーション 新しいことほめること プログラム 一般向けの普及 地域のネットワーク 高校への連携 ESDのわかりやすさ 	<ul style="list-style-type: none"> 語り 郷土愛 地域活性化 語り エコパークの機能 自然と人間の共生 持続可能な社会

グループ・ディスカッションで抽出された意見を水谷先生がホワイトボードにまとめたもの。



落ちていたシラカンバ(白樺)の苗をガイドさんが拾い、乾燥しやすく燃えやすい性質があること、長野県北信地域では火の避火・送り火に用いていることなどを説明。



ガイドさんに促されて覗き込んだ岩の下にはヒカリゴケが。



志賀高原BR環境学習プログラムの野が実トレッキングのコースの一部を散策。

8月6日に金沢市でESD推進ダイアログ(第1回/北陸)「北信越ユネスコスクール交流会2018 北陸における協働取組みフォーラム」を開催しました



参加者は、北信越のユネスコスクールの小中学校の教師を中心に60名。
前半は、ESD活動支援センター副センター長の鈴木克徳氏による講演。SDGs未来都市に選定された富山市の取組紹介、南砺市立福野小学校の授業実践事例の紹介を実施。
後半は、ESDに取り組む中での課題や悩みなどを話し合うグループ・ワーキングを実施。同じ北信越地域でも、地域や学校の規模などの違いで異なる課題があり、参加者同士でそうした課題や対応策などを共有するディスカッションを行ったところ、非常に好評でした。参加者アンケートでは、「課題を共有できて不安が軽くなった」「他の参加者の話が参考になった」などの感想が寄せられ、「来年も開催してほしい」という声もたくさんいただきました。



SDGs時代における企業・地域の人材育成

2019年11月18日(金) 13時30分

会場：ウインクあいち 16階60分 開催費13002

参加者募集

●講義●
SDGs時代における企業・地域の人材育成
戸成 司朗氏(住友理工株式会社 CSRアドバイザー)

●企業との取組紹介●
愛知の中山間地・豊田市稲武地区での兼業への取組みと企業の役割
藤田 幸史朗氏(トヨタ工業株式会社 代表取締役社長)

地域工務店だからこそ「人(社員/お客様/職人)」を育てる
石橋 常行氏(ただまり一七株式会社 代表取締役社長)

(タイトル未定)
藤枝 正史氏(株式会社 代表取締役)

●ディスカッション●
SDGs時代のESD推進における企業・団体・行政などの役割を考える
総合アプリデータ 藤原 史(中部地方ESD活動支援センター)

テーマ1: 地域のESDにおいて企業・団体・行政などができること
テーマ2: 企業・団体・行政などの組織内におけるESD推進に必要なこと
テーマ3: 地域におけるSDGs社人とはどんな人材か

●講師●
戸成 司朗氏(住友理工株式会社 CSRアドバイザー)

中部地方ESD活動支援センター
Center for Sustainable Development

2019年11月18日に名古屋市中区でESD推進ダイアログ(第3回/東海)を開催します

“地域に寄与する人材としての社員”を育み、持続可能な地域づくりに貢献する企業が登壇

5.3.2. ESD 推進ダイアログ（対話の場）の開催

- 中部地域における ESD 推進ネットワークの基盤形成・人材育成に資するためのダイアログを開催した（北陸・東海・長野の各地域において各 1 回以上、各 20 名程度、半日程度）。

5.3.2.1. 第 1 回 ESD 推進ダイアログ

（1）日時

2018 年 8 月 6 日（月）13：30～16：30

（2）場所

金沢勤労者プラザ 101 研修室（石川県金沢市）

（3）参加者

60 名

（4）プログラム

13:30～ 1. 開会

開会挨拶：北陸 ESD 推進コンソーシアム事務局

13:35～ 2. 報告：ESD・ユネスコスクールを巡る最新の動向

ESD 活動支援センター 副センター長 鈴木克徳 氏

14:00～ 3. 2030 年を見据えた SDGs 未来都市の実現に向けて

富山市環境政策課 課長代理 東福光晴 氏

14:25～ 4. 小学校の授業実践

5 年総合『福野大好き われら 37 名+1 プロモーションビデオを作ろう』の実践から
南砺市立福野小学校〈ユネスコスクール〉 立野文州 氏

14:45～ *** 休憩(15分)***

15:00～ 5. スモールグループによる討議・発表準備

16:00～ 6. 各グループからの発表

16:20～ 7. 閉会

閉会挨拶：環境省中部地方環境事務所

16:30 終了



（5）配布資料

資料 1 プログラム

資料 2 ESD・ユネスコスクールをめぐる最新の動向

資料 3 2030 年を見据えた SDGs 未来都市の実現に向けて

資料 4 地域が好きで友達を大切にすあったかい子供の育成を目指して

—5 年総合「福野大好き われら 37 名+1 プロモーションビデオを作ろう」の実践から—

資料 5 学校資料(平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書)

資料 6 参加者アンケート

5.3.2.2. 第 2 回 ESD 推進ダイアログ

（1）日時

フォーラム：2018 年 10 月 13 日（土）14：30～17：30

環境学習プログラムのデモンストレーション

：2018 年 10 月 14 日（日）9：00～12：00

（2）場所

志賀高原総合会館 98、志賀高原 B R（長野県山ノ内町）



(3) 参加者

フォーラム参加者：55名

デモンストレーション参加者：20名



(4) プログラム

第1日目:フォーラム

14:30～ 1. 開会の挨拶(5分)

14:35～ 2. 話題提供(40分)

ESDの推進にむけたユネスコエコパークへの期待

立教大学教授、同ESD研究所長、ESD活動支援センター長 阿部 治 氏

15:15～ 3. 活動事例報告(20分)

志賀高原ユネスコエコパークにおけるESDの推進について

志賀高原BR協議会/信州大学教育学部助教 水谷 瑞希 氏

15:35～ (休憩15分/グループ・ワーキングの準備)

15:50～ 4. グループ・ワーキング(ディスカッション40分+発表準備10分)

16:40～ 5. グループの発表(発表30分+振り返り10分)

17:20～ 6. 閉会の挨拶(5分)

17:30 7. 終了

第2日目:環境学習プログラムのデモンストレーション

09:00～ オリエンテーリング

10:00～ バス移動

10:30～ 環境学習プログラム体験

11:30～ バス移動

12:00 終了

(5) 配布資料

資料1 プログラム

資料2 ESDの推進にむけたユネスコエコパークへの期待

資料3 志賀高原ユネスコエコパークにおけるESDの推進について

資料4 勝山市のESD

資料5 只見町の取組について

資料6 みなかみ町の自然を活かしたまちづくり～ユネスコエコパーク×ESD～

資料7 平成29年度ユネスコスクール年次報告書

資料8 参加者アンケート

(参考資料) ユネスコエコパーク(志賀高原・只見・白山・みなかみ)パンフレット等

5.3.2.3. 第3回ESD推進ダイアログ

(1) 日時

2019年1月18日(金) 13:30～16:30

(2) 場所

ウインクあいち 会議室1302 (愛知県名古屋市)

(3) 参加者

28名



(4) プログラム

13:30～ 開会の挨拶(5分)

13:35～ 講演(20分)

SDGs 時代における企業・地域の人材育成

住友理工株式会社 CSR アドバイザー 戸成 司朗 氏

13:55～ 企業の取組紹介(20分×3事例)

愛知の中山間地・豊田市稲武地区での兼業への取組みと企業の役割

トヨタケ工業株式会社 代表取締役社長 横田 幸史朗 氏

地域工務店だからこそ「人(社員/お客様/職人)」を育てる

ひだまりほーむ株式会社 鷲見製材 代表取締役社長 石橋 常行 氏

排水処理施設の維持管理業から地域環境総合アドバイザーへ

株式会社東産業 社長直轄 CSV 課 責任者 榊枝 正史 氏

14:55～ ***休憩 10分***

15:05～ ディスカッション(45分)

SDGs 時代の ESD 推進における企業・団体・行政などの役割を考える

ファシリテーター:原 理史(中部地方 ESD 活動支援センター)

テーマ1:地域の ESD において企業・団体・行政などができること

テーマ2:企業・団体・行政などの組織内における ESD 推進に必要なこと

テーマ3:地域における SDGs 社会人とはどんな人材か

15:50～ 講評(10分)

住友理工株式会社 CSR アドバイザー 戸成 司朗 氏

終了

(5) 配布資料

資料 1 プログラム

資料 2 INABU BASE PROJECT—稲武で「遊ぶ」「働く」を考えて実践する

資料 3 地域工務店だからこそ「人」を育てる

資料 4 排水処理施設の維持管理業から地域環境総合アドバイザーへ

資料 5 参加者アンケート

資料 6 主催イベント(1/25)チラシ

5.3.3. ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

(1) 日時

2019年1月25日(金) 13:30～16:30

(2) 場所

ウインクあいち 会議室 1302 (愛知県名古屋市)

(3) 参加者

48名

(4) プログラム

13:30～ 1. 開会の挨拶(5分)

13:35～ 2. 基調講演(30分)

ESD/SDGs をめぐる最新の動向 ～SDGs 達成に向けた ESD の挑戦～

ESD 活動支援センター副センター長 鈴木 克徳 氏

14:05～ 3. 活動紹介(20分×3事例)



地域 ESD 拠点: ESD と SDGs の呼応 そして SD へ

環境教育ネクストステップ研究会代表 寺田 卓二 氏

自治体: 日進市における ESD の取り組み ~「ESD」をキーワードとした人づくり~

日進市市民生活部環境課環境政策・ESD 推進係長 水野 洋佑 氏

協働主体: SDGs でつなぐローカルプラットフォーム

PEC とやま副事務局長/富山県立大学 COC コーディネーター 堺 勇人 氏

15:05~ (休憩 10 分)

15:15~ 4. ESD ネットワーク交流セッション(60 分)

SDGs 時代の ESD ネットワークへの期待

パネリスト: ESD 活動支援センター副センター長 鈴木 克徳 氏

環境教育ネクストステップ研究会代表 寺田 卓二 氏

日進市市民生活部環境課環境政策・ESD 推進係長 水野 洋佑 氏

PEC とやま副事務局長/富山県立大学 COC コーディネーター 堺 勇人 氏

コーディネーター: 中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史 氏

16:15~ 5. 統括(15 分)

名古屋市立大学大学院人間文化研究科副学長 伊藤 恭彦 氏

16:30 6. 終了

(5) 配布資料

資料 1 プログラム

資料 2 ESD/SDGs をめぐる最新の動向 ~SDGs 達成に向けた ESD の挑戦~

資料 3 ESD と SDGs の呼応 そして SD へ

資料 4 日進市における ESD の取り組み ~「ESD」をキーワードとした人づくり~

資料 5 SDGs でつなぐローカルプラットフォーム

資料 6 交流セッションのための想定資料 SDGs 時代の ESD ネットワークへの期待

資料 7 中部地方 ESD 活動支援センター 持続可能な社会実現に向けた人づくり

資料 8 参加者アンケート

【広報用開催案内チラシ】

The image shows three promotional flyers for ESD events. The first flyer is for a symposium on August 6th at Kanazawa Labor Plaza. The second flyer is for a symposium on October 13th at the ESD Center. The third flyer is for a symposium on January 25th at Wainkai. Each flyer includes the event title, date, time, location, and a list of speakers and topics.

5.3.4. フォーラム等の参加者アンケート結果より

- 4つのダイアログ及びフォーラムの参加者を対象にしたアンケートでは、いずれも肯定的な選択肢の回答者が多く、参加者は開催内容・結果を好意的に評価していることがうかがえる。
- 参加者同士の交流については、「まあまあできた」が多かったが、ESD 推進ネットワーク地域フォーラムについては、「あまりできなかった」も多く、ディスカッションの時間をもう少し長くするなど工夫が必要と考えられる結果になっている。
- また、自由記入欄への回答においても同様に、交流、ディスカッション等の時間を充実する声がみられ、今後のプログラム等の企画立案の際には留意が必要と考えられる。

【フォーラム等参加者アンケートの集計結果】

※設問の中で回答者の数が多いものほど濃色の網掛けになっている。

	●今回の催事はいかがでしたか					●討議・意見交換等でほかの参加者と充分に交流できましたか				
	良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	充分にできた	まあまあ	あまり	ほとんどできなかった	無回答
180806開催ダイアログ① (n=40)	22	17	1	0	0	14	20	2	0	4
181013開催ダイアログ② (n=35)	19	15	0	1	0	7	23	5	0	0
190118開催ダイアログ③ (n=13)	9	4	0	0	0	4	6	1	0	2
190125開催ネットワークフォーラム (n=38)	22	14	0	0	2	1	15	12	4	6

	●今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか					●ESD・SDGs等に今後も積極的に取り組む必要があると感じさせる内容でしたか				
	あった	なかった	どちらともいえない	無回答		協働やESD・SDGsをもっと積極的に取り組んでいきたいと感じられる内容だった	これまでの取組方を続けていけば充分だと思える内容だった	協働やESD・SDGs、協働に取り組む必要性・重要性をあまり感じられない内容だった	よくわからない	無回答
180806開催ダイアログ① (n=40)	29	0	10	1		28	9	1	1	1
181013開催ダイアログ② (n=35)	28	0	6	1		27	1	1	1	5
190118開催ダイアログ③ (n=13)	9	3	1	0		10	1	0	1	1
190125開催ネットワークフォーラム (n=38)	28	2	6	2		24	8	1	2	3

【参加者の感想等（自由記入欄より）】

■ ダイアログの参加者

- ◆ ESDは何のためのものなのか、よく分からなかったが、SDGsを達成するための人材を育成するためのものだと聞き、考えがはっきりとしました。
- ◆ 他地域の取組、それに向かう意識や課題を共有できたのは大きな収穫でした。
- ◆ 学校にいと学校の教員としか話す機会がほとんどないのが現状ですので、今日のように様々なセクターの主体的に活動している方と意見交換ができるのはありがたいです。
- ◆ 広くESDを広げていくには、教育だけでなく、行政、研究、各種団体、企業等のネットワークを構築していく必要があると感じました。
- ◆ 自分達の会社の取組もESD、SDGsにつながっていることがわかった。つながりをPRしていくことのメリットも学ぶことができ充実したものだった。広い視野で俯瞰できる人材になりたいと思えました。

■ ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの参加者

- ◆ ESD を推進するには、教育委員会（市レベルの行政）とのコラボが不可欠との思いを改めて感じる。「啓発から実践へ」をテーマに活動のあり方を考えているところですが、本日のようないろいろな主体の皆様の事例紹介は大変参考になります。SDGs と ESD は親和性が高いので、是非、総合的な取組みを考えていきたい。
- ◆ ESD と SDGs の関係がぼやっとしたところがありましたが、今回かなりはっきりしてきました。
- ◆ 交流の場が少なく残念。どんな団体の方々が参加しているのか不明なので、ターゲットは何処にあるのかな？と感じた。学生（特に教員を志す学生）と社会人（企業）をつなぐ機会を設けてはどうか？
- ◆ パネルディスカッションの進め方が興味深かった。時間が少なく問題提起にとどまった感がある。

5.3.5. 全国 ESD センターとの連携、地域 ESD 拠点登録支援等

5.3.5.1. 全国 ESD センター及び地方 ESD 活動支援センターとの連携

- 今年度中に中部地方 ESD 活動支援センター（及び ESD 活動支援センター）の後援名義使用申請は下記のものがあり、全国センター発行の後援申請対応マニュアルに則り、全国センターと情報共有等連携しながら、手続き確認等を進めた。
- また、後援申請のあった行事については、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト（及び EPO 中部ウェブサイト）で広報協力を行った。

【後援名義申請】

申請主体	申請日	申請行事		
		名称	開催日	開催場所
公益財団法人 五井平和財団	5月2日	第5回 ESD ユース・コンファレンス	10月13日～ 14日	邦和セミナープラザ
NPO 法人自然体験 活動推進協議会	8月3日	全国自然体験活動指導者研究集会 (全国キャラバン)	11月30日～ 12月2日	国立信州高遠青少年自然 の家
			12月14日～ 16日	国立立山青少年自然の家
国際自然保護連合 日本委員会	8月20日	東山動植物園タイムカプセル プロジェクト2018	11月11日	名古屋市東山動植物園
特定非営利活動法人 日本ジオパーク ネットワーク	9月18日	第12回日本ジオパークネットワーク 全国研修会	11月15日～ 17日	福井県勝山市教育会館 など
愛知教育大学	9月25日	(日本/ユネスコパートナーシップ 事業) 愛知県ユネスコスクール指導 者研修会	12月14日	ウインクあいち (愛知県産業労働センタ ー)
信州 ESD コンソーシアム	12月10日	信州 ESD コンソーシアム成果発表& 交流会	1月26日、 2月2日	信州大学松本キャンパス

5.3.5.2. 地域 ESD 拠点登録支援等

- 中部ブロックでは、今年度中に、4つの地域 ESD 拠点が新たに登録された（この4拠点を含め、中部ブロックは計9拠点が登録）。
- 登録申請に対しては、全国センター発行の後援申請対応マニュアルに則り、全国センターと情報共有等連携しながら、手続き・確認等を進めた。

【新規登録された中部エリアの地域 ESD 拠点】

信州 ESD コンソーシアム	2018年5月登録
豊橋ユネスコ協会	2018年5月登録
石川県ユネスコ協会	2018年6月登録
岐阜ユネスコ協会	2018年12月登録

5.3.5.3. 地域 ESD 拠点等のイベントへの参画・協力

- 地域 ESD 拠点への支援として、中部地方 ESD 活動支援センターのウェブサイトに「中部の地域 ESD 拠点」コーナーを新設し、9 拠点の紹介（及び ESD 活動支援センターウェブサイト内の 9 拠点リストへのリンク設定）ページを新たに設けた。



- 同コーナーにおいて、2018年6月に拠点の一つ「環境教育ネクストステップ研究会」から「ESDの現状調査と推進策の研究 報告書」が届いたことから、この報告書の紹介記事を掲載した。
- また、後援申請のあった下記の催事に参画・参加するなどして、イベントについては取材レポートを作成し、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに掲載した。

	名称	開催日	参加及び結果報告
1	ESD コンソーシアム愛知 : ESD・SDGs 交流会	8月28日	・一般申込による参加 ・ESD ウェブサイトに取材レポート掲載
2	日進市わいわいフェスティバルの検討会	9月20日	・ESD と SDGs の話題提供（講師） ・ESD ウェブサイトに取材レポート掲載
3	愛知県ユネスコスクール交流会	10月20日	・一般申込による参加 ・ESD ウェブサイトに取材レポート掲載
4	東山動植物園タイムカプセルプロジェクト 2018	11月11日	・後援主体（中部地方 ESD 活動支援センター）として参加 ・ESD ウェブサイトに取材レポート掲載
5	SDGs フォーラム・中部サステナ政策塾 2018 年度成果発表・交流会	2月2日	・一般申込による参加 ・ESD ウェブサイトに取材レポート掲載
6	岐阜県ユネスコ協会 第2回 ESD パスポート体験発表会	2月24日	・後援主体（中部地方 ESD 活動支援センター）として参加 ・ESD ウェブサイトに取材レポート掲載

6. SDGsをツールとした同時解決事業における地域支援事務局業務

6.1. 審査委員会の支援

6.1.1. ヒアリングの実施

- 「平成 30 年度持続可能な開発目標（SDGs）をツールとした地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業（以下、「同時解決事業」）」の地域支援事務局業務の一環として、5月18日に、事業への応募を行った2団体へのヒアリングを実施した。
- ヒアリング結果については、所定の「ヒアリング報告シート」にとりまとめ、中部地方環境事務所へ提出した。

【ヒアリング対象団体（応募団体）】

応募団体名	団体所在地（ヒアリング実施地）	ヒアリング実施日時
滴水の会	長野県小諸市山浦	5月18日11時00分～実施
里山ウェルネス研究会	長野県飯山市大字豊田	5月18日15時00分～実施

6.1.2. 審査委員会の実施補助

- 中部地方環境事務所が開催する同時解決事業審査委員会に出席し、記録の作成、説明の補助を行うとともに議事録を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

(1) 日時

2018年5月30日（水）14:00～16:00

(2) 場所

中部地方環境事務所・第1会議室

(3) 出席者

(審査委員)

島岡 未来子	早稲田大学 研究戦略センター	准教授
松井 純	株式会社三重ティーエルオー	取締役副社長
戸成 司朗	住友理工株式会社（NPO 法人中部プロボノセンター）	CSR 部長（共同代表理事）

※花井委員は都合により欠席（審査は別途実施）。

(中部地方環境事務所) 永井課長、川合主査、西田主査

(EPO 中部) 清本、原、富田



(4) 議事次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 審査方法等の説明
 - (2) 審査における委員の視点の統一
 - (3) 審査
 - (4) 審議
 - (5) 審査結果の確認
 - (6) その他
- 3 閉会

(5) 会議資料

- 資料1：平成30年度持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業（申請書）
- 資料2：書類確認及びヒアリング報告シート
- 資料3：平成30年度持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業 審査委員会設置要綱
- 資料4：平成30年度持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業 審査シート
- 参考資料1：全国アドバイザリー委員会で示された論点
〈参考〉平成30年度持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業 公募要領

6.2. 採択団体と審査委員との連携

6.2.1. 採択団体との連携

- 7月26日に実施した事務局打合せ、関係団体メンバーを交えたワークショップの実施以降、採択団体である「里山ウェルネス研究会」と連携し、採択事業の進行管理及び必要な連絡・調整を適宜実施した。

6.2.2. 連絡会の開催

- 採択団体及び審査委員との連絡会として10月4日に視察連絡会を開催し、審査委員及び全国支援事務局等への連絡調整なども行った。
- 開催結果については、実施結果報告資料として取りまとめを行ったほか、ウェブサイトにも開催概要の掲載を行った。

(1) 日時

2018年10月4日（木）13:00～15:30

(2) 場所

いいやま里の家（飯山市大字豊田） / 飯山市福祉センター・会議室（飯山市本町）

(3) 出席者

21名

（審査委員）

島岡 未来子	早稲田大学 研究戦略センター	准教授
松井 純	株式会社三重ティーエルオー	取締役副社長
戸成 司朗	住友理工株式会社（NPO 法人中部プロボノセンター）	CSR 部長（共同代表理事）

※花井委員は都合により欠席。

（オブザーバー）

環境省 大臣官房環境経済課民間活動支援室 長谷川学室長補佐

環境省 中部地方環境事務所環境対策課 永井均課長、西田清紀主査、川合学主査

GEOC 江口健介

（里山ウェルネス研究会）

事務局4名（大和田、上岡、宮澤、余頃）、

飯山林福協議会メンバー（※意見交換から参加）6名

（事務局担当） EPO 中部 清本、原、富田

(4) デモンストレーション

13:00~14:00 いいやま里の家

- 1 ごあいさつ
- 2 自己紹介
- 3 2カ年事業計画の説明
- 4 デモンストレーション



(5) 意見交換

14:30~15:30 飯山市福祉センター・会議室

- 1 ごあいさつ
- 2 協議会メンバーの紹介
- 3 同時解決事業、協働について
- 4 先生方による講評
- 5 全体による意見交換
- 6 終了



6.3. 採択団体の伴走支援

6.3.1. 伴走支援の実施

- 採択事業が円滑に実施されるよう、目標の設定や助言、地域内外で活動する関係主体や拠点施設等の巻き込み等、必要な伴走支援を行った。
- 主な伴走支援は下記の通りである。

実施日等	支援内容	作成資料等
7月26日 事務局打ち合わせ	採択団体の事務局メンバーに対し、同時解決事業の主旨説明、全国支援事務局への提出物・提出スケジュールなどを説明	<ul style="list-style-type: none"> 事務局資料として、左記の説明資料（→採択団体による関係主体等への説明資料にも活用） 審査委員の意見をとりまとめた資料
上記打合せと併せて関係者によるワークショップ	上記事務局メンバーと併せて、そのほか採択事業の関係者と共に、課題共有のためのワークショップ（ディスカッション）を実施	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ説明資料 記入票（A1表） ワークショップの実施結果を整理した表
8月27日 協議会プレ会議	協議会メンバーに対し、SDGsについて概説するとともに同時解決事業との関連性について説明	<ul style="list-style-type: none"> SDGs説明資料
9月18日 第1回協議会	10/4開催・視察連絡会に向けて、協議会メンバーの事業に対する疑問点等を把握するためのアンケートを実施	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダー・アンケート調査票 アンケートで記入された記述内容を整理した表
10月4日 現地視察連絡会（第2回協議会）	現地視察連絡会・後半の意見交換を第2回協議会と位置づけて開催	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換用資料（ステークホルダー・アンケート結果、協働評価チャート（EPO中部「活動見える化プログラム」分析結果シートの一部等）
10月5日 協働フォーラム	事務局メンバーによるEPO中部主催フォーラムへの登壇、事例発表（※協働コーディネーター等から意見をいただいた。）	<ul style="list-style-type: none"> 活動見える化プログラムの分析結果シート （※前項目「4.1.2 活動見える化プログラムの構築に向けた検証」に掲載したもの）
10月29日 第3回協議会	（※協議会にはEPOは別件業務のため出席できなかった。）	<ul style="list-style-type: none"> 上記の活動見える化プログラムの分析結果シートを外部への活動説明用資料として提供
（中間評価会議に向けて）	中間評価会議に向けた提出資料、スケジュールの確認・連絡 事務局連絡会の日時設定のための連絡調整	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価会議で進捗状況説明用資料として、仕様書記載項目をもとにした進捗状況記入シートを作成（採択団体に記入・返送するよう依頼）
2月5日 事務局連絡会	中間評価会議での指摘事項を団体側に伝達 今年度の実施状況の確認と次年度の展開について協議	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価会議における指摘事項及び、指摘事項をうけて今後の展開についての検討案の説明資料を作成 次年度の取り掛かり時に協議会メンバーでも上記を検討・共有することを確認
2月18日	障がい者雇用に取り組む事業者のヒアリングに同行	<ul style="list-style-type: none"> 関連する制度の活用、障がい者による作業の段取り等について補足して聴き取り EPO中部、中部地方活動支援センター発行のリーフレット、ESD/SDGsパンフレット・チェックリスト、協働パンフレットを事業者を提供
3月8日	採択団体主催の報告会（セミナー）に出席 業務完了報告書、次年度展開に関する事務局打ち合わせを実施	<ul style="list-style-type: none"> 参加者にSDGsバッジを提供 業務完了報告書に盛り込むべき内容を整理した業務実施状況共有表を提示

6.3.2. 事業計画等の作成支援

- 採択団体が作成する事業計画、月次報告、中間報告書、中期ロードマップ、事業報告書等の作成支援として、採択団体が作成した所定の「2ヵ年事業計画」に対し、必要な修正指示等を行った上で、8月末に全国支援事務局へ提出した。

6.4. 環境省及び全国支援事務局との連携

6.4.1. 全国支援事務局への月次報告等の提出、照会対応

- 全国支援事務局へ8月末に採択団体が作成した「2カ年事業計画」を提出し、8月以降からは採択団体及びEPO中部が記入・提出する所定の書式による月次報告を作成し、毎月10日までに提出を行った（※採択団体の月次報告は毎月5日までにEPOへ提出）。
- 月次報告に対する全国支援事務局からの指摘を採択団体側へ伝えるなど、必要な連絡調整を適宜行った。
- また、全国支援事務局ウェブサイトに掲載される活動紹介記事の原稿を作成し、提出した。

【全国支援事務局ウェブサイトに掲載された作成原稿】

中部



里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

里山ウェルネス研究会
 里山ウェルネス研究会は、「①森林保全のために間伐された木材利用が進まない」「②障がい者雇用支援の不足」「③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少」の3つの地域課題の同時解決を目指しています。自然豊かな長野県飯山市で、地元の間伐材を活用した丸太ローソク「ログファイヤー」等の生産において、障がい者と林家・林業従事者の取組（作業）を組み合わせる仕組みづくりに取り組みます。地域の様々な主体と協働して、林福連携による新たな展開を図り、里山保全、さらには持続可能な地域づくりへとつなげていきます。

事業資料・成果物

事業計画
2カ年事業計画

▲トップに戻る

6.4.2. 関係会議への出席

- 本事業の全国支援事務局運営による関連会議として、下記の会議が開催され、いずれにもEPO中部担当者が出席した。

【関係会議】

区分	会議	開催日	出席状況等
情報共有・成果とりまとめ会議 (全2回)	第1回事業形成会議	7月6日	出席
	第2回事業形成会議	12月19日	出席
キックオフ会合(全1回)	全国キックオフ	8月7日	採択団体と共に出席
外部評価委員会(全1回)	同時解決事業中間評価会議	1月30日	中部地方環境事務所と共に出席

6.5. 加速化事業採択案件に対する照会等対応

- 中部地域における加速化事業採択案件に対する照会等への対応として、2件の問合せがあった。
- 1件は大学院生から、加速化事業の報告書の入手方法について電話での問合せがあり、PDFファイルによる提供が可能と回答した。（※メールで送付する旨をお伝えしたが、その後の連絡はなかった。）
- 2件目は、加速化事業についての問い合わせではないが、来館者から「竹林伐採」に関わる取組について尋ねられ、2016年度の加速化事業の一つである「伊勢竹鶏物語～3Rプロジェクト～」を紹介した。また、中部エリアの加速化事業の協働事例を紹介するパンフレット「そうだ！協働してみよう。」を提供した。

7. 環境教育・学習拠点における「ESD推進」のための実践拠点支援業務

7.1. 業務概要

7.1.1. 業務の目的

環境教育の成果を持続可能な社会につなげるためには、環境教育等促進法の基本理念が示すとおり、「環境の保全と経済・社会の統合的成長という観点から、教育を通じて地域が活力を持つこと」が重要である。

本業務においては、「地域の環境教育・学習拠点の教育機能を向上させ、ESDを推進し、地域コミュニティの持続的成長を促すこと」を目的とし、平成28年度中部地域におけるESD推進のための先導的拠点整備業務、及び平成29年度環境教育・学習における「ESD推進」のための実践拠点支援業務において、支援対象とした3地域の拠点（以下、「支援対象拠点」という。）のフォローアップと伴走支援等を、環境省が設置する全国事務局と連携し行った。

●平成28年度中部地域における「ESD推進」のための先導的拠点整備業務の支援対象拠点

- 泰阜ひとねる大学（長野県下伊那郡泰阜村）
- 揖斐川流域環境学習拠点等連携事業（三重県/岐阜県）

●平成29年度環境教育・学習における「ESD推進」のための実践拠点支援業務の支援対象拠点

- 揖斐川流域環境学習拠点等連携事業（三重県/岐阜県）
- 高校生の環境・ESD活動拠点ネットワーク形成事業（愛知県）

今年度は、伴走支援の対象となる拠点を、

- 揖斐川流域環境学習拠点等連携事業（三重県/岐阜県）
- 高校生の環境・ESD活動拠点ネットワーク形成事業（愛知県）

の2拠点とし、「泰阜ひとねる大学」については、自走ができつつあるため、事業後の状況を把握する作業を行った。

泰阜ひとねる大学 連絡会



揖斐川流域環境学習拠点等
連携事業



高校生の環境・ESD活動拠点
ネットワーク形成事業



【主な業務スケジュール】

	揖斐川流域環境学習拠点等 連携事業	高校生の環境・ESD 活動拠点 ネットワーク形成事業	泰阜ひとねる大学	全国事務局との連携
4月				アドバイザー候補提出・確定
5月	10日(木) アドバイザー、パートナー団体打合わせ	1日(火) アドバイザー、パートナー団体打合わせ ・昨年度参加校へのヒアリング	10日(木) アドバイザー、パート ナー団体と打合 わせ	9日(水) 第1回編集ワーキング会議
6月	25日(月) 第1回支援プラットフォーム会議 ・ツアー企画作成、訪問拠点に依頼	6日(水) 第1回支援プラットフォーム会議 9日(土) あいちの未来クリエイト部 2018 キックオ フミーティング/第1回交流会 21日(木) 愛知県立松平高等学校の取材 ・ネットワーク参加校(8校) 依頼		事業計画書提出
7月	・ツアー広報開始	3日(火) 愛知県立知立東高等学校の取材	2日(月) 第1回連絡会	・定期報告(第1回)
8月	・参加高校説明 ・参加者募集協力団体への説明	20日(月) 愛知県立佐屋高等学校視察ツアー/ 第2回交流会	今年度のスケジ ュールおよびプログ ラム等ヒアリング	
9月	・訪問拠点あいさつ・説明 ・他ツアー準備	ネットワーク参加校の今年度のスケジュール、プログ ラム等ヒアリング		・定期報告(第2回) 12日(水) 第2回編集ワーキング会議
10月				
11月	3日(土・祝) 揖斐川流域上流域ESDツア ー	17日(土) 第3回交流会		・成果とりまとめ作成作業
12月	10日(月) 第2回支援プラットフォーム会議 ・評価会議	17日(月) 第2回支援プラットフォーム会議・評 価会議		・成果とりまとめ確認作業 ・定期報告(第3回) 20日(木) 第3回編集ワーキング会議
1月		13日(土) 教員のための博物館の日 in 愛知教育大学 1日 博物館/第4回交流会	8日(火) 第2回連絡会	・成果とりまとめシート提出
2月		報告書作成		18日(月) 成果共有会 成果とりまとめ最終版提出
3月				報告書提出

7.1.2. 業務概要

7.1.2.1. 3地域の拠点（支援対象拠点）のフォローアップ

①支援対象拠点との連絡会

(ア) 泰阜ひとねる大学

<第1回 連絡会>

日時：平成30年7月2日（月）18:00～19:30

場所：泰阜村役場 第2会議室

出席者：11名

<第2回 連絡会>

日時：平成31年1月8日（火）17:30～19:00

場所：泰阜村役場第2会議室

出席者：11名

※「揖斐川流域環境学習拠点等連携事業」と「高校生の環境・ESD活動拠点ネットワーク形成事業」においては、伴走支援を行ったため、支援プラットフォーム会議及び評価会議を実施した。

②支援対象拠点への伴走支援

(ア) 揖斐川流域環境学習拠点等連携事業

支援プラットフォーム会議(計2回)・評価会議の協議を踏まえ、必要な伴走支援業務を担った。

<第1回支援プラットフォーム会議>

日時：平成30年6月25日（月）13:30～15:30

場所：EPO 中部

出席者：12名

<第2回支援プラットフォーム会議>

日時：平成30年12月10日（月）13:00～15:00

場所：EPO 中部

出席者：12名

<評価会議>

日時：平成30年12月10日（月）15:00～16:00

場所：EPO 中部

出席者：12名

<揖斐川上流域「あれあれ」体験ワンディツアー>

日時：平成30年11月3日（土・祝）

訪問先：揖斐川歴史民俗資料館/揖斐川町の森（旧坂内村）・坂内公民館/徳山ダ

ム・徳山会館

参加者：39名

(イ) 高校生の環境・ESD活動拠点ネットワーク形成事業

支援プラットフォーム会議(計2回)・評価会議の協議を踏まえ、必要な伴走支援業務を担った。

<第1回支援プラットフォーム会議>

日時：平成30年6月6日（水）18:30～20:30

場所：EPO 中部

出席者：11名

<第2回支援プラットフォーム会議>

日時：平成30年12月17日（月）13:00～15:00

場所：EPO 中部

出席者：12名

<評価会議>

日時：平成30年12月17日（月）15:00～16:00

場所：EPO 中部

出席者：11名

<他、伴走支援した取組>

●あいちの未来クリエイイト部 2018 キックオフミーティング/第1回交流会

日時：平成30年6月9日（土）10:00～15:00

場所：中日新聞社

参加者：64名

●教員のランチミーティング

日時：平成30年6月9日（土）12:00～13:00

場所：中日新聞社

参加者：11名

●愛知県立松平高等学校の取組取材

日時：平成30年6月21日（木）10:00～15:00

場所：愛知県立松平高等学校体育館

参加者：2名

●愛知県立知立東高等学校の取組取材

日時：平成30年7月3日（火）10:00～15:00

場所：知立市立知立南小学校

参加者：2名

●愛知県立佐屋高等学校視察ツアー/第2回交流会

日時：平成30年8月20日（月）13:00～16:30

場所：愛知県立佐屋高等学校

参加者：52名

●第3回交流会

日時：平成30年11月17日（土）10:00～15:30

場所：アスナル金山・ばんちゃんのLiberty House セミナールーム

参加者：47名

●日本生物教育学会・教員のための博物館の日 in 愛知教育大学1日博物館

日時：平成31年1月13日（日）11:00～17:00

場所：愛知教育大学第一共通棟

参加者：48名

●第4回交流会

日時：平成31年1月13日（日）15:45～17:20

場所：愛知教育大学第一共通棟 215 講義室

参加者：70名

7.1.2.2. 全国事務局との連携

①アドバイザー候補・選定

平成28年度、29年度に続き、愛知教育大学教授の大鹿聖公氏を候補として、推薦し、選定された。

②定期報告の作成等

全国事務局が指定したフォーマットに基づき、支援対象拠点のうち伴走支援を行う「揖斐川流域環境学習拠点等連携事業」「高校生の環境・ESD 活動拠点ネットワーク形成事業」の定期報告の作成・提出、照会等に対応した。定期報告については、7月、9月、1月の計3回提出した。

また、3月には、3事業それぞれにおけるEPOの支援内容等を整理したとりまとめ資料などを提出した。

【環境教育・学習拠点における「ESD推進」のための実践拠点支援事業概要とりまとめ】

県	拠点	拠点名	EPOによる支援状況 H28 H29 H30	拠点名	拠点名	拠点名	拠名の課題	課題解決のためのESD実践機能強化のための取組及び伴走支援のポイント		
								機能	取組	具体的なEPOの支援内容
長野県	泰阜ひとねる大学	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ＜体制強化＞ ・体系化したカリキュラム、スキームを運営する体制の創出 ＜ツール開発＞ ・体系化したカリキュラム、スキームの構築。 ＜ネットワーク構築＞ ・体系化したカリキュラム内容を豊かにするネットワークの構築。 ＜人材育成＞ ・泰阜村が抱える課題の解決を担う人材の育成 	体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ・関係する主体（ステークホルダー）が参加する会議の定期的継続的実施。 ・年間カリキュラム作り及び実施を担う主体の形成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議運営の支援（会議内容の可視化、論点整理、会議協議内容のフィードバック）
							ツール開発	<ul style="list-style-type: none"> ・年間カリキュラムの作成と実施。 ・広報パンフレットの作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元住民、学生へのヒアリング実施。 ・ヒアリング結果のフィードバックによる本取組の評価検証。 ・泰阜ひとねる大学のパンフレット作成。 	
							ネットワーク構築	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点事業に参加可能な主体の発掘と依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加可能な主体の提案。 ・ネットワークの有効性の可視化。 ・関係性の変容の図化。 	
							人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年間カリキュラムへの地元住民、都市部学生の参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した学生、地元住民のヒアリングによる、学びの効果把握と学びの可視化支援。 ・報告会実施支援など。 	
岐阜県 三重県	揖斐川流域連携拠点	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ＜体制強化＞ ・「流域」視点による上流・中流・下流の拠点間をつなぐESD活動を実施する運営体制の創出 ＜ツール開発＞ ・「流域」視点による共通教材と教材を活用したプログラムの作成 ＜ネットワーク＞ ・「流域」単位での持続可能な地域づくり、流域内循環社会を担う人づくりのためのネットワーク形成 ＜人材育成＞ ・「流域」の価値を理解した流域単位での持続可能な地域づくりを担う人材の育成 	体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材の作成やツアー・フォーラムの実施を通しての揖斐川流域連携拠点の体制づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流域の環境学習施設等拠点への説明。 ・教材作成、ツアー実施支援。 ・流域の自治体、教育委員会等への事業説明、参加依頼等。 ・会議の設計、運営、会議内容のフィードバック。
							ツール開発	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材の作成。 ・世代間連携・多様なメニューによるツアー・フォーラムの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材作成に当たっての拠点及び自治体の意向調整。 ・教材の活用方法についてヒアリング。 ・教材活用のための企画・運営支援。 ・実施したツアー・フォーラムの参加者からのフィードバックの可視化と共有。 ・広報パンフレットの作成。 	
							ネットワーク構築	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習拠点拠点、流域のNPOや学校、自治体など有効なネットワークに必要なステークホルダーの参加促進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの有効性の可視化と新たな主体のネットワークへの積極的参画の支援。 ・関係性の変容の図化（可視化）。 	
							人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「流域」視点による持続可能な地域づくりを担う人材育成のための共通教材を活用したツアー・フォーラムの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材作成及びツアー・フォーラム実施の際の、ESD・SDGsの視点と手法の導入及び評価・検証。 ・ツアー・フォーラムに参加者の意識変容の把握と共有。 	
愛知県	高校生の環境・ESD活動拠点ネットワーク	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ＜体制強化＞ ・次世代の発想とアイデア、地域住民の知識や経験、自治体施策などを重ねた持続可能な地域づくりを可能にする学習の場の継続的実施。 ・次世代を中心とした活動主体の創出。 ＜ツール開発＞ ・高校の活動を、高校間連携、高校と地域間連携によって実践できる仕掛けづくり。 ＜ネットワーク構築＞ ・次世代の連携による次世代を核とした持続可能な地域づくりに取り組むネットワークの形成。 ・高校と地域の社会教育施設とのネットワークの形成。 ・中部地域における高校間ネットワークの形成。 ＜人材育成＞ ・高校生の、地域の持続可能性について考える力、行動する力の育成。 ・高校の活動を通じての、地域住民の持続可能な地域づくりへの参加促進。 	体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ・本拠点ネットワークの有効性を共有。 ・継続するための運営体制について協議の場の設置、アンケートを実施。 ・先進地視察、高校間の交流会、社会教育施設担当者とのコミュニケーションの場の設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議設計と会議運営、会議内容の可視化とフィードバック。 ・評価アンケートの実施。 ・高校生・教員へのアンケートの実施。
							ツール開発	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察、高校間の交流会、社会教育施設担当者とのコミュニケーションの場の設置。 ・小中学校での出前授業。 ・企業でのプログラム実施等連携による学びあいの仕掛けづくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画・運営実施支援。 ・アンケート及びヒアリング実施。 ・学びあいの効果検証と改善案の作成・提案。 ・パンフレット作成。 	
							ネットワーク構築	<ul style="list-style-type: none"> ・高校間連携による拠点ネットワーク機能の強化 ・高校と地域間（企業や社会教育施設等）連携による拠点ネットワーク機能の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの活用方策の検討。ネットワークの有効性の可視化。 ・拠点ネットワークに参加いただきたい主体の提案と依頼支援。 ・関係性の変容の図化（可視化）。 	
							人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会や発表、お互いの活動を評価する場づくり ・ワークショップ等参加型対話型学習の場づくり ・他校や社会教育施設の取り組みを知る場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生間のコミュニケーション形成の支援。 ・会議ファンレションを担い、高校生のポテンシャルを引き出す会議設計と支援。 ・参加型対話型学習、意見交換会の支援。 ・高校生、教員を対象にアンケートを実施し変容について把握・可視化。 ・プラトフォームメンバーのヒアリング、評価検証作業において、高校生・教員の変容の共有等。 	

③編集ワーキング会議

全国事務局が設置した編集ワーキング会議に3回出席した。

＜第1回編集ワーキング会議＞

日時：平成30年5月9日（水）13:00～15:00

場所：地球環境パートナーシッププラザ

出席者：2名

＜第2回編集ワーキング会議＞

日時：平成30年9月12日（水）13:00～15:00

場所：地球環境パートナーシッププラザ

出席者：2名

＜第3回編集ワーキング会議＞

日時：平成30年12月20日（木）13:00～15:00

場所：地球環境パートナーシッププラザ

出席者：2名

④成果とりまとめ作業等

本業務の支援対象拠点の成果等をまとめ、全国事務局が指定したフォーマットに記述し、提出した。

⑤成果共有会への参加

全国事務局が主催の、本業務に関する成果報告会に参加した。

＜成果共有会＞

日時：平成31年2月18日（月）13:00～16:00

場所：City Labo Tokyo 東京スクエアガーデン6階 京橋環境ステーション内

出席者：4名（EPO 中部関係者）

7.1.2.3. 実施体制

中部環境パートナーシップオフィス 担当 2名（清本三郎 新海洋子）

アドバイザー 大鹿 聖公氏（愛知教育大学 理科教育講座 教授）

＜パートナー団体＞

- 泰阜ひとねる大学 特定非営利活動法人グリーンウッド自然体験教育センター
- 揖斐川流域環境学習拠点等連携事業 特定非営利活動法人泉京・垂井
- 高校生の環境・ESD活動拠点ネットワーク形成事業 愛知県環境部環境活動推進課

7.1.3. 今年度事業の成果と今後の課題

今年度は、2年目となる「高校生の環境・ESD活動拠点ネットワーク形成事業」と、3年目となる「揖斐川流域環境学習拠点等連携事業」の伴走支援を行った。また、「泰阜ひとねる大学」については、その後のフォローアップを実施した。

「泰阜ひとねる大学」においては、泰阜村が持つ教育力のもとに作り出した、地域住民と名古屋短期大学の学生等の学びあいにより相互の変容をもたらすESDスキームが、より効果的に活用され、地域住民や学生のニーズをより満たすESD活動が実践されていた。

スキームをベースに、対象者の関心や感性、学びあいの相互作用によって多様な学習メニューが開かれ、より効果的な学びや気づきをもたらしていた。外部資源を多様な形で投入することによって、地域コミュニティの持続的成長に必要な教育的要素を可視化（教材ツール等を作成）することができた。継続性とさらなる可能性、自走力を目の当たりにした。

「揖斐川流域環境学習拠点連携事業」においては、1年目に作成した教材と2年目に実施したツアーとフォーラムの成果の活用をベースに、今年度の伴走支援プログラムとして、中下流の小中学生を対象に上流域を訪問するツアーを行った。本ツアーにおいては、昨年度参加した高校生が案内役を担った。

高校生の学習効果を小中学生に活かすという世代間連携の有効性を検証することができ、揖斐川流域に地域間連携、世代間連携という縦軸横軸の空間を生み出すことができた。

「高校生による環境・ESD活動拠点ネットワーク形成事業」においては、高校生が作成した地域課題をテーマにした環境学習プログラムや環境活動を媒体に、高校間、高校と地域間の交流会を数度行い、高校が地域の核となり、高校生が地域課題の改善や地域の持続可能性を作り出す担い手、重要な人材であることを明確化した。

フォローアップ調査、伴走支援を行う上で重視したことは、

- ① 蓄積した成果を活かした次の展開を生み出すことで、地域にどの程度の影響を及ぼすことができるか
- ② そのために、どのような新しいステークホルダーの参加を得るか
- ③ 地域に根づく ESD 人材づくりのスキームをいかに作るか
- ④ 自走できる仕組みをどう作るか

である。

事業アドバイザー、各事業に参加した拠点、プラットフォームメンバーと十分協議をし、支援内容の改善を重ね、取り組んだ。3 拠点それぞれの特性を生かし、最も有効である方策を選び、伴走支援を展開した。多様な価値観を持つ多様な世代と評価・検証・改善を繰り返し、既成にとらわれないアグレッシブなチャレンジを行った。

3 拠点の共通の取組は、すでに行われている環境教育・学習をうまくつなぎ、相乗効果を高め、地域の特色や資源、ポテンシャルを有効に使い、地域の課題の改善、地域の持続可能性を取り戻す作業、担う人材の育みを可能にする仕組みづくり、ネットワーク拠点づくりを展開したことである。

しかし、今年度伴走支援をした2拠点については、まだ自走には至っていない。事業成果と効果を基盤に、地域の持続性を生み出す人材を根付かせていくか、拠点ネットワークとしてどのように発展し、存在し続けるかが問われている。生み出したスキームや基盤、効果・成果を有効にアレンジし、関わる人々の拡充が求められている。さらには、この取組の目的が地域を持続可能にする人材の育成であることをより多くの人に伝え、当事者意識を持った人々が主体となって、さらに効果的な取組を仕掛けていくことが次の展開として必要である。

7.2. 主な業務内容

7.2.1. 泰阜ひとねる大学へのフォローアップ（支援対象拠点との連絡会の実施）

7.2.1.1. アドバイザーとの打合わせ

日時：平成 30 年 5 月 10 日（木）16:00～17:30

場所：EPO 中部

出席者：大鹿 聖公氏（愛知教育大学教授/本事業アドバイザー）

神田 浩史氏（特定非営利活動法人泉京・垂井 副代表）

清本 三郎（EPO 中部）

新海 洋子（EPO 中部）

【実施内容】

- 今年度の本事業の説明と「泰阜ひとねる大学」の事業内容等の近況について共有した。

7.2.1.2. 連絡会の参加メンバー

異動等で若干の変更はあるが、平成 28 年度の参加メンバーを中心に構成した。新たに泰阜村住民の参加を得た。

※敬称略

	氏名	所属
1	辻 英之	NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター 代表理事
2	宮島 康夫	泰阜グリーンツーリズム研究会
3	山崎 笙吾	泰阜村村づくり振興室 村づくりコーディネーター
4	小黒 あかり	泰阜村 地域おこし協力隊
5	福田 適子	NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター 主任
6	岡本 美吹	泰阜村役場住民福祉課
7	林 幸治	泰阜村住民
8	茶谷 淳一	学校法人桜花学園名古屋短期大学現代教養学科 学科長・教授
9	大鹿 聖公	愛知教育大学教授 本事業中部アドバイザー

7.2.1.3. 連絡会の開催

<第1回 連絡会>

日時：平成 30 年 7 月 2 日（月）18:00～19:30

場所：泰阜村役場 第2会議室

出席者：11 名

連絡会メンバー8 名、中部地方環境事務所 1 名、

EPO 中部 2 名（清本・新海）



【実施内容】

- 平成 28 年度のふりかえり、平成 29 年度の事業等の報告を行った。
- 基本スキームに基づき、今年度の事業案、スケジュールを共有し、意見を交わした。
- 現状における課題の共有、課題改善のために今年度何をするか意見交換をした。

【成果】

会議ファシリテーターを担い、平成 28 年度に実施した事業の成果の再認識作業と、平成 29 年度の活動をふりかえった。現状の課題を共有し、今年度実施すべき事業と課題改善のための方策を導き、整理し、可視化する作業を行った。

今年度から支援プラットフォーム会議メンバーに地元出身の住民の方の参加を得たことで、地域の状況や住民の本取組に対しての思いや理解について把握することができた。

学生の学び、村の人たちの気づきを着実に積み重ね、ますます「泰阜ひとねる大学」の魅力が向上していることや、「泰阜での発見を都会の暮らしにどう取り入れるか」、「体験、学びをどう発信するか」といった次なる課題を明確に認識し、意見を交わす「自走の姿」を把握した。

<第2回 連絡会>

日時：平成31年1月8日（火）17:30～19:00

場所：泰阜村役場第2会議室

出席者：11名

連絡会メンバー 9名、EPO 中部2名（清本・新海）



【実施内容】

- 7月以降の取組を共有し、各取組の成果、課題について意見を交わした。
- 泰阜ひとねる大学の学習メニュー、カリキュラムの深みと広がり共有した。
- 基本スキームをベースに、泰阜村の新たな素材を取り入れた学習メニュー、プログラムについて協議をした。
- 横展開、参加大学の確保等を進めるための情報の在り方について協議をした。
- 追跡調査など数年後の評価検証作業の必要性について提案が出された。

【成果】

平成28年度、29年度、今年度の取組について各担当者の報告からふりかえり、成果と事業の価値を共有する場を設計し、泰阜ひとねる大学が次に何をめざすかについて意見を交わした。

泰阜ひとねる大学のスキームに、学生、村民のニーズや思いを大切にした「新たな価値」を加味し、学生や村民の変容を把握しながら、着実に次のステップに進みつつある現状を踏まえ、学生、村民の持つ潜在的ポテンシャルを、無理なく丁寧にコミュニケーションを交わしながら、「人を見て」進化する「泰阜ひとねる大学」を目指すことを確認していた。今後必要となる経年変化や評価検証の必要性についても議論がされ、EPO 中部に対して、「第三者として関わってほしい」という意見があった。

7.2.2. 揖斐川流域環境学習拠点等連携事業への伴走支援

7.2.2.1. アドバイザーとの打合わせ

日時：平成30年5月10日（木）16:00～17:30

場所：EPO 中部

出席者：大鹿 聖公氏（愛知教育大学教授/本事業アドバイザー）

神田 浩史氏（特定非営利活動法人泉京・垂井 副代表）

清本 三郎（EPO 中部）

新海 洋子（EPO 中部）

【実施内容】

- 今年度の本事業の内容の説明と、神田氏から今年度の揖斐川上中流域の活動についての説明を重ね、連携可能な事業について意見を交わした。
- 伴走支援の取組内容を以下とした。
 - 小学生を対象にした上流3拠点をまわるワンディの揖斐川流域ツアーの実施
日時：平成30年11月3日（祝日）
対象：小学生10名（各流域3名程度）
高校生6～8名（絵本読みスタッフ 昨年のツアーもしくはフォーラム参加者）

7.2.2.2. 支援プラットフォーム会議参加メンバー

平成 28 年度、29 年度の支援プラットフォーム会議メンバーとして継続参加の方と、新たなメンバーとして岐阜県の環境教育担当者、三重県の森林環境教育（木育）の担当者、下流域で子ども分野の活動をしている NPO 法人ネットワークくわっこの参加を得て構成した。

※敬称略

	氏名	所属
1	神田 浩史	NPO 法人泉京・垂井 副代表理事
2	小寺 春樹	NPO 法人山菜の里いび 理事長
3	野村 典博	NPO 法人森と水辺の技術研究会 理事長
4	安田 裕美子	NPO 法人ピープルズコミュニティ 理事長
5	堀内 千春	NPO 法人ネットワークくわっこ 理事長
6	寺本 豊	学校法人津田学園津田中学校・高等学校 学校長
7	中村 勇夫	岐阜県環境生活部環境企画課 環境教育係 係長
8	水上 知之	三重県農林水産部みどり共生推進課みどり推進班 主査
9	大鹿 聖公	愛知教育大学教授 本事業中部アドバイザー

7.2.2.3. 支援プラットフォーム会議の実施

<第 1 回支援プラットフォーム会議>

日時：平成 30 年 6 月 25 日（月）13:30～15:30

場所：EPO 中部

出席者：12 名

【実施内容】

- 平成 28 年度、29 年度の事業成果及び課題をふりかえり、本事業の有効性と可能性について確認をし、本取組が継続、自走するためのスキームや仕組みについての検討を行った。
- 意見交換した内容をできるだけ反映した企画を作成することとし、特に小学生の募集や高校生への案内等を中心に今後のスケジュールを確認した。

【支援した内容】

平成 28 年度、29 年度実施した事業の成果、課題を丁寧にふりかえり、成果を生かし、課題を改善するための事業の検討を促した。各参加メンバーの情報や強み、リソースを活かした企画となるよう、意見を抽出した。

【成果】

- 5 月にアドバイザー及びパートナー団体と打合わせをし、作成した今年度事業の企画案をたたき台に、実施の可能性について意見交換するための準備を進めることができた。
- 平成 28 年度に作成した教材と関係性を育んだ拠点との連携を強化し、平成 29 年度参加した高校生に今年度事業への参加を促し、「高校生が小学生に伝える」という世代間連携による学びあいの場づくりや、流域内という地域間連携、流域に暮らす世代間連携による ESD プログラムを作り出すこととした。

<第 2 回支援プラットフォーム会議>

日時：平成 30 年 12 月 10 日（月）13:00～15:00

場所：EPO 中部

出席者：12 名

【実施内容】

- 「揖斐川上流域『あれあれ』体験ワンディツアー」をふりかえり、その成果・効果、課題等事業の評価を行った。



- 今年度事業の成果を受け、今後の事業展開について意見を交わした。
- 今年度事業の改善点、今後の展開を踏まえての今年度事業の評価を行った。

【支援した内容】

今年度実施した「揖斐川上流域『あれあれ』体験ワンディツアー」をふりかえり、本事業のねらいである「地域の環境教育・学習拠点の教育機能を向上させ、ESDを推進し、地域コミュニティの持続的成長を促すこと」が可能になったかどうかをメインテーマとし、評価検証を促した。

【成果】

- 今年度は、上流域の3拠点を対象に、中下流域地域の小中学生が参加、さらに昨年参加した高校生・大学生がインタープリターとして参加するスキームでのツアーを実施した。上流域の3拠点の持つポテンシャルを活用した、地域間連携、世代間連携により、小中学生、高校生、大学生、参加スタッフすべての世代が深い学びと気づきを得ることができた。
- 本取組が「拠点連携によるESD取組の創出と地域コミュニティの持続的成長を促す取組である」ことを、参加メンバーの評価で明らかにした。すべての参加メンバーから事業継続は必須であるという意見があり、これまでの成果を蓄積、可視化し、さらに多くの主体を巻き込み、社会的影響力をいかに高めていくかが問われている、と発言があった。しかし、継続実施するための主体形成、資金調達ができておらず、必要性はあるが、継続実施が難しい状況にある。
- プラットフォームメンバーの持つネットワークや情報、ノウハウ、資源を持ち寄り、継続実施の可能性を検討することとした。

7.2.2.4. 評価会議の実施

日時：平成30年12月10日（月）15:00～16:00

場所：EPO 中部

出席者：12名

【実施内容】

- プラットフォームメンバーから本事業の目標に照らし、3年間の成果と課題を踏まえての評価を得た。
- 主に下記4点に関して意見を交わした。
 - 1) 地域資源を活かしあう新たなESDプログラムを作り、実施することができたか。
 - 2) プログラムづくり及び実施を通して各拠点の関係性が強化されたか。
 - 3) ネットワーク拠点が実施するESDプログラムにより、地域資源を活用した持続可能な社会の実現を担う人材の意識が変わったか。
 - 4) 作りだしたESDプログラムの継続・改善実施を担う主体が形成されたか。本事業が生み出した成果を活かした事業の継続は必要か。

【支援した内容】

事前に評価シートを送付し、当日の会議においては、シートの項目に基づき、考えや意見、提案を引き出し、本事業の成果と今後の課題、展開を明確に可視化できるよう意見を抽出した。

【成果】

- メンバー全員が、3年間の取組の成果を認識し、事業継続に向けて積極的な意思を示した。
- プログラムを開発し実施したことで各拠点の担当者の顔が見えてきたこと、人とつながることで各拠点が「流域」という視点で様々な事象を見るようになってきたこと、実施主体のつながりを意識できるようになったこと、が成果として共有された。
- 拠点間の関係性の強化、本事業の継続実施、継続するための主体形成、地域の人々の参加促進、等が共通の課題として出された。
- 今後の展開については、企業や教員、保護者をターゲットにしたプログラムの実施、ゴールを見据えての戦略的展開、イベントの成果の積み重ねと新たな方策の創出、流域思考の日常化を目指す作業、等が出された。

- 教材、ツアーの企画運営力やノウハウ、ツアー等の成果、緩やかなネットワーク等培った資源を活用した、誰が誰にどんな活動を展開するか、次の取組を図る場の必要性について提示された。
- 事業実施主体と資金調達の仕事の必要性について共有した。首長との連携、SDGs 関連事業と連携、揖斐川流域圏構想などの発想の具現化等の意見があった。学校教育との連携、副読本としての活用、流域にある小中学校での授業実施などをどう進めていくかの検討の必要性についても提示された。
- この3年間で育み、強化した揖斐川流域に関わるステークホルダーの関係性の継続活用について協議できる核となる基盤ができた。

7.2.2.5. その他、伴走支援した取組

<揖斐川上流域「あれあれ」体験ワンディーツアー>

日時：平成30年11月3日（祝日）

下流/桑名集合 7:30～桑名解散 18:30 中流/大垣集合 9:15～大垣解散 17:00

訪問先：揖斐川歴史民俗資料館/揖斐川町の森（旧坂内村）・坂内公民館/徳山ダム・徳山会館

参加者：39名（内小学生12名 中学生2名 高校生8名 大学生4名

プラットフォームメンバー7名 スタッフ 6名）

流域	小中学生 14名	高校生 8名
下流域 (桑名市)	小学4～中学2年生 12名	津田学園高等学校2名(2年生 2名)
中流域 (大垣市、垂井町)	小学4～5年生 2名	大垣東高等学校3名(3年生1名 2年生2名) 不破高等学校 3名(2年生2名 1年生1名)

[実施内容]

●事前準備

- 参加高校に依頼、説明（池田高等学校、不破高等学校、大垣東高等学校、津田学園高等学校）
- 参加者募集の協力依頼（津田学園小学校、NPO法人ピープルズコミュニティ、NPO法人ネットワークくわっこ、NPO法人くすくす、NPO法人山菜の里いび）
- 訪問する拠点と打合わせ
- 旅行代理店との打合わせ
- 流域の恵みたっぷりの昼食やお茶、お菓子の手配等

●ツアー当日

- 上流域の拠点を訪問し、展示見学、館長による説明、インタビュー等を行った。
- 昨年度参加した高校生による案内・説明・クイズ等を行った。
- ふりかえり、参加者アンケートを実施した。

●事後作業

- アンケートまとめなどの作業をした。

[ツアースケジュール]

Time	プログラム	内容
7:30	桑名駅集合	桑名駅西口改札・受付（7:42 発大垣行）
9:00	養老鉄道大垣駅改札	受付・グループ分け・トイレチェック
9:15	出発→移動	・趣旨説明自己紹介 ・揖斐川「あれあれ？」クイズ ～大垣東高等学校
10:30	揖斐川歴史民俗資料館	<お話>館長 古野幸博さん
11:30	出発→移動	ふりかえり・クイズ「揖斐川の森ってどんな森？」～不破高等学校
12:10	坂内公民館	・地域の人にインタビュー
13:00	昼食（坂内公民館）	揖斐川の自然の恵みをいただきます。
13:20	揖斐川町の森	<お話>田中正敏さん（旧坂内村村長）
13:50	出発→移動	ふりかえり

Time	プログラム	内容
		・徳山ダム・クイズ「徳山ダムはなぜできたのかな」～津田学園高等学校
14:30	徳山会館・徳山ダム	<お話・インタビュー>館長 中村治彦さん <ダム見学>
15:15	出発→移動	・ツアーのふりかえり/アンケート
16:45	養老鉄道大垣駅	
17:00	解散	
17:07	養老線桑名行	
18:19	養老線桑名駅着	

[ツアーの様子]



[支援した内容]

- 準備段階からパートナー団体と連携し、参加者、参加校募集、ツアー実施に関わる事務作業及び調整を行った。
- プログラムに関して、過去2年間の取組の成果を活かせる内容の提案をし、中下流域の小中学生が上流域を訪問すると同時に、小中学生と高校生、大学生、地域住民など世代間連携を可能にする支援を行った。

[成果]

- 上流域の3つの拠点と中下流域に暮らす小中学生をつなぐという新たなプログラムを実施した。2年目に行った流域全体を訪問するツアーと比較すると、出会った場や人が少なく、学びのインパクトは小さいかもしれないが、中下流域の小中学生は上流域についてはほぼ知らないという状況であったため、「上流と自分が暮らす地域とのつながりを感じる」という点においては十分な学びと気づきがあった。
- 高校生が小中学生に伝え、大学生がフォローをし、大人が見守るという体制の新たな学びあいの可能性を見出すことができた。
- この学びのフィードバックや、この経験を次に生かしていく具体策を見い出していないことが課題であることを共通認識とした。本事業の継続実施のための主体形成や資金調達も課題である。本取組の重要性と継続の必要性を感じたメンバーと継続検討をすることとした。
- 各拠点間の連携強化の必要性も共通課題とした。連携することによる学びの質や深さのフィードバック、連携したプログラムを自発的に実施していただけるような促しが十分にできていないため、作成したESD教材や、2年目の高校生を対象にした揖斐川流域ツアーの成果、今年度実施した小中学生及び高校生による上流域を対象にしたツアーの成果、「連携の価値」を伝える作業を進めることとした。
- 流域にある企業や自治体、教育委員会、学校の参加の促進を今後プラットフォームメンバーと着実に進めることとした。可能性を見出したこと、次の取組を実施する主体ができつつあることが成果である。

7.2.3. 高校生による環境・ESD活動拠点ネットワーク形成事業への伴走支援

7.2.3.1. アドバイザーとの打合わせ

日時：平成30年5月1日（火）16:00～17:30

場所：愛知県環境活動推進課

出席者：大鹿 聖公 氏（愛知教育大学教授/本事業アドバイザー）
 関 利春 氏（愛知県環境活動推進課）
 天野 晋吾 氏（同上）
 船越 響 氏（同上）
 清本 三郎（EPO 中部）
 新海 洋子（EPO 中部）

[実施内容]

- 今年度の本事業や「あいち未来クリエイト部」事業の説明を行い、連携可能な事業とプラットフォームメンバー候補について意見を交わした。

7.2.3.2. 支援プラットフォーム会議参加メンバー

平成 29 年度のメンバーに加えて、愛知県の自然環境課の生態系ネットワークとの連携、愛知県教育委員会生涯学習課ユネスコスクール支援との連携を鑑み、担当者に依頼し参加を得た。

※敬称略

	氏名	所属
1	長谷川明子	1 級ビオトープ計画管理士
2	白上 昌子	NPO 法人アスクネット代表理事
3	浅井 豊司	株式会社フルハシ環境総合研究所代表取締役所長
4	葛原 祐季	株式会社キャッチネットワーク ディレクター/アルト・ファシリテート
5	関 利春	愛知県環境部環境活動推進課
6	内藤 芳則	愛知県自然環境課
7	横井 尚美	愛知県教育委員会生涯学習課教育主事
8	大鹿 聖公	愛知教育大学教授 本事業中部アドバイザー

7.2.3.3. 支援プラットフォーム会議の実施

<第 1 回支援プラットフォーム会議>

日時：平成 30 年 6 月 6 日（水）18:30～20:30

場所：EPO 中部

出席者：11 名

[実施内容]

- 今年度の本事業の目的等を説明した。
- パートナー団体である愛知県環境活動推進課より、平成 29 年度の「あいちの未来クリエイト部」の成果と課題、今年度「あいちの未来クリエイト部」事業についての説明を行った。
- 昨年度の事業成果及び課題について意見を交わし、今年度の伴走支援の内容について検討した。

[支援した内容]

- プラットフォームメンバーの成果・効果、課題を抽出し、拠点ネットワークとして、今年度実施すべき取組の要素を抽出した。
- 高校間のみならず、高校と地域、高校と行政（自然環境課、生涯学習課）をつなぐネットワーク機能を、本取組を通して育むために、プラットフォームメンバーのポテンシャルや資源の持ち寄りを可能にする会議設計・運営をした。

[成果]

- プラットフォームメンバーの持つリソースを活用し、愛知県事業である「あいちの未来クリエイト部」に参加した昨年度の高校 5 校が継続的に情報交換や経験交流できる場を創出することとした。
- 今年度の参加校 3 校と連携し、愛知県内の高校生の拠点ネットワークの拡大、相互参照の場を提供することとした。



- 昨年度形成した高校間、高校と地域間をつないだ拠点ネットワークを活用し、交流・連携の機会をつくり、高校生が情報共有、経験交流の場、マッチングの場に参加できる状況を作ることとした。
- 今年度から参加校(3校)についても、交流会や相互参照の場への参加を可能にした。
- 高校・高校生のネットワーク拠点の拡充を図ることを目的とすることを共有した。

<第2回支援プラットフォーム会議>

日時：平成30年12月17日（月）13:00～15:00

場所：EPO 中部

出席者：12名

【実施内容】

- プラットフォームメンバーの近況を報告した。
- 1月13日に愛知教育大学で開催の「日本生物教育学会」「教員のための博物館の日」について大鹿氏に説明いただいた。参加するにあたっての留意点の確認を行った。
- 第4回交流会の内容や運営方法について意見を交わした。
- 今年度事業のふりかえりを行った。

【支援した内容】

- 「日本生物教育学会」「教員のための博物館の日」において、参加する高校生にとって有意義な時間、深い学びを得られるための方法について、プラットフォームメンバーの意見、提案を抽出した。
- 第4回交流会の企画内容を検討し、特に愛知県内の社会教育施設の専門家の参加を得られるため、高校生にとって意味のある交流会にするためのアイデア、提案を出し合うサポートを行った。
- 今年度実施した、先進的取組をしている高校への視察や、交流会、学会や博物館での取組を知る機会を提供した結果、どのような成果があったのかについて共有及び意見交換を促し、次の展開のために必要な要素を抽出した。

【成果】

- 拠点ネットワークが、各高校では得ることができない学びや経験を提供できることをプラットフォームメンバーと再確認した。
- 高校生間の情報や経験共有、多様な主体による多様な地域のイベントに参加した高校生や教員の変容、支援する大人の側の高校生への接し方や企画運営方法、高校生が必要とする現場を体感する企画の実施など、拠点ネットワークが今後活動を展開する上で重要となる要素を抽出できた。
- 外的力学によって仕掛けた拠点ネットワークが、自走するための内発的な力学が働くための役割を担えるよう、今後の展開を継続して検討することを共有した。

7.2.3.4. 評価会議の実施

日時：平成30年12月17日（月）15:00～16:00

場所：EPO 中部

出席者：12名

【実施内容】

- プラットフォームメンバーから本事業の目標に照らし、2年間の成果と課題を踏まえての評価を得た。
- 主に下記4点に関して意見を交わした。
 - 1) 地域資源を活かしあう新たなESDプログラムを作り、実施することができたか。
 - 2) プログラムづくり及び実施を通して各拠点の関係性が強化されたか。
 - 3) 拠点ネットワークが実施するESDプログラムにより、地域資源を活用した持続可能な社会の実現を担う人材の意識が変わったか。

4) 作りだしたESDプログラムの継続・改善実施を担う主体が形成されたか。本事業が生み出した成果を活かした事業の継続は必要か。

[支援した内容]

- 評価するにあたり、事前に評価シートを送付し、当日の会議においては、シートの項目に基づき、考えや意見、提案を引き出し、本事業の成果と今後の課題、展開を明確に可視化できるよう意見を抽出した。
- 2年間実施した本取組の全容を可視化し、各メンバーからの意見を促し、次の展開のための重要な要素を抽出した。

[成果]

- 拠点ネットワークによる取組は必要だが、形成段階にあるネットワーク拠点を管理運営する主体がなく、資金確保が難しい状況、継続が困難な状況にあることを共有し、今後の地域の検討課題とした。
- 2年間で見出した、高校間、高校と地域間、高校生間、世代間、地域間をつなぐ価値が、高校生の学びの深まりや能力開発に必要であることが明確となった。
- 高校が地域の核となり、高校生が地域課題の改善や地域の持続可能性を作り出す重要な人材であることを明確化した。

7.2.3.5. その他、実施した伴走支援取組

<昨年度参加校5校へのヒアリング>

昨年度の参加校5校を対象に、本年度の活動やスケジュールを把握するため、電話及びメールでのヒアリングを実施した。また、本取組の今年度の活動スケジュールの情報提供を依頼し、本事業と連携可能な活動への参加を依頼した。

- 愛知県立木曾川高等学校、愛知県立松平高等学校、愛知県立武豊高等学校、愛知県立安城南高等学校、愛知県立知立東高等学校

<あいちの未来クリエイイト部 2018 キックオフミーティング・第1回交流会>

日時：平成30年6月9日（土）10:00～15:00

場所：中日新聞社

参加者：64名（高校生40名 教員6名 他18名）

愛知県立海翔高等学校 6名 教員1名

愛知県立豊橋東高等学校 11名 教員1名

中部大学第一高等学校 11名 教員2名

愛知県立松平高等学校 6名 教員1名

愛知県立武豊高等学校 6名 教員1名

プラットフォームメンバー 4名

中部地方環境事務所 1名

EPO 中部2名（清本・新海）

他11名



[実施内容]

- 今年度から参加する3校のキックオフミーティング（愛知県主催）が開催され、その中で、第1回交流会として、昨年度の参加校2校（武豊高等学校、松平高等学校）と本年度の参加校が交流、学びあう場を設けた。

<参加校の教員のランチミーティング>

日時：平成30年6月9日（土）10:00～15:00

場所：中日新聞社

参加者：11名

教員 5 名、プラットフォームメンバー 3 名、アドバイザー 1 名、
中部地方環境事務所 1 名、EPO 中部 2 名（清本・新海）

【実施内容】

- 参加校の教員の参加を得て、昨年度の参加校の教員には昨年度の成果と今年度の取組の報告、今年度の参加校の教員には「あいちの未来クリエイト部」参加の動機と取組の紹介、経験交流の場を設けた。



＜愛知県立松平高等学校の取材＞

日時：平成 30 年 6 月 21 日（木）10:00～15:00

場所：愛知県立松平高等学校体育館

参加者：EPO 中部（新海）

【実施内容】

- 松平高等学校の平成 30 年度家庭クラブの総会での本取組報告に関する取材を行った。



＜愛知県立知立東高等学校の取材＞

日時：平成 30 年 7 月 3 日（火）10:00～15:00

場所：知立市立知立南小学校

参加者：プラットフォームメンバー 3 名 EPO 中部 2 名（清本・新海）

【実施内容】

- 昨年度作成した環境学習プログラム「すごろくカメマス」の、地元小学校での出前授業を視察、取材をした。



＜愛知県立佐屋高等学校の活動紹介・第 2 回交流会＞

日時：平成 30 年 8 月 20 日（月）13:00～16:30

場所：愛知県立佐屋高等学校

参加者：53 名（内 高校生 30 名 教員 7 名）

愛知県立佐屋高等学校 8 名（教員 2 名）

愛知県立武豊高等学校 5 名（教員 1 名）

愛知県立知立東高等学校 8 名（教員 1 名）

中部大学第一高等学校 9 名（教員 2 名）

愛知県立海翔高等学校 教員 1 名

プラットフォームメンバー 7 名

愛知県 2 名

愛知教育大学 2 名

関東 EPO 1 名

中部地方環境事務所 1 名

EPO 中部 2 名（清本・新海）

【実施内容】

- 佐屋高等学校活動紹介・現地視察（チェーンによる除草・ハスの再生・白文鳥の復活・アヒル農法）
- あいちの未来クリエイト部参加校の活動紹介
知立東高等学校「すごろくカメマス」/武豊高等学校「湧水湿地」/
中部第一高等学校「ウシモツゴの飼育」/海翔高等学校「三つ又池の生物調査」
- 交流会（「すごろくカメマス」体験/愛知教育大学大学生作成ゲーム「モツゴとブルーギル」体験）他



<Let's エコアクション in AICHI・第3回交流会>

日時：平成30年11月17日（土）10:00～15:30

場所：アスナル金山・ばんちゃんのLibertyHouse セミナールーム

参加者：48名（内 高校生32名 教員7名）

愛知県立海翔高等学校 生徒 3名 教員1名

中部第一高等学校 生徒 6名 教員1名

愛知県立豊橋東高等学校 生徒 6名 教員1名

愛知県立木曾川高等学校 生徒 2名（OG含む） 教員2名

愛知県立武豊高等学校 生徒 7名 教員1名

愛知県立知立東高等学校 生徒 8名 教員1名

プラットフォームメンバー 4名

中部地方環境事務所 1名

EPO 中部 3名（清本、新海、小松）

[実施内容]

- 平成30年度参加校：調査・研究発表
- 平成29年度参加校：活動報告
- 意見交換交流会
- グループワーク
平成30年度参加校：環境学習プログラム企画ミーティング
平成29年度参加校：1月13日企画ミーティング
- 共有・ふりかえり



<教員のための博物館の日 in 愛知教育大学1日博物館>

日時：平成31年1月13日（日）11:00～15:45

場所：愛知教育大学第一共通棟（刈谷市井ヶ谷町広沢1）

参加者：48名（内高校生29名 教員6名）

愛知県立木曾川高等学校 4名 教員2名

愛知県立武豊高等学校 4名 教員1名

愛知県立知立東高等学校 8名 教員1名

愛知県立海翔高等学校 1名 教員1名

愛知県立豊橋東高等学校 12名 教員1名

プラットフォームメンバー 7名

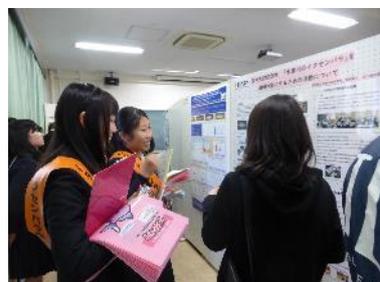
愛知県 2名

中部地方環境事務所 1名

EPO 中部 3名（清本、新海、葛谷）

[実施内容]

- オリエンテーション
- 公開講演「博学連携は何のために」（主催：博物館の日/日本生物教育学会）
演者：小川義和氏（国立科学博物館 連携推進・学習センター長）
- ランチミーティング
- ワークショップ/ポスターセッション（主催：博物館の日/日本生物教育学会）



<第4回交流会>

日時：平成31年1月13日（日）15:45～17:30

場所：愛知教育大学第一共通棟（刈谷市井ヶ谷町広沢1）

参加者：70名（内上記参加者48名、専門家12名、一般参加者10名）

<専門家> 12名

碧南海浜水族館 3名 日本モンキーセンター 2名 東山動物園 3名

豊田市自然観察の森 2名 蒲郡市生命の海科学館 1名

のんほいパーク（豊橋市動植物園） 2名

<一般参加者> 10名（愛教大附属高校 6名 教員 1名 他 3名）

[実施内容]

- 高校混合の7グループ、教員グループ計8グループで、「愛知の自然環境を守るために高校生にできること、したいこと」に対しての自分の意見、グループの意見を整理し、発表をした。
- 社会教育施設の専門家から高校生に向けてのメッセージを得た。



[支援した内容]

- ゆるやかに形成した高校の拠点ネットワークが、高校生や高校、地域にとっても、より利用価値のあるネットワークに進化するために、地域の多様なイベントの参加を促した。
- 参加校にヒアリングを行い、現状を把握した。状況を踏まえ、アドバイザーに相談し、今年度高校生、教員に提供すべきことを検討し、高校単独では実施しにくい、いくつかの企画（小学校での授業実施、先進校視察ツアー、日本生物教育学会・教員のための博物館の日への参加）を多様な主体、ステークホルダーとともに行った。
- 計4回実施した交流会では、自校の活動を紹介する→他校の活動を把握する→自校へのヒントになることを知る、他校へのヒントになることを提供する→愛知の自然環境保全のためにできること、したいことを抽出する、というプロセスに反復作業を組み入れながら実施した。
- 伴走支援とともに、ハブ機能の役割を担った。

[成果]

- 本拠点ネットワークが存在することにより、高校が単独では実施しにくい企画を実施し、高校生間、高校生と地域間による学びあい、相互参照の場を創出することができた。
- 特に、佐屋高等学校視察、日本生物教育学会・教員のための博物館の日においては、高校生及び教員のアンケート内容から、日常にはない学びを得ることができた、と記されていた。
- 交流会においては、「高校生同士が高校生の感性と言葉で対話をし、お互いの知識やスキル、活動状況を共有することで、自信を高め、アイデアを得て、自分の活動への刺激と活性化をもたらした」とアンケートから抽出した。
- 外的力学による、外の力によって動き出す面が強いが、自走できるよう、学校と地域の関係性強化をしつつ、各学校の取組の発展、活性化を促すネットワーク（媒体）の役割が重要であることをプラットフォームメンバーと共有することができた。さらなる方策を検討することとした。
- 事業継続のための主体形成と資金調達、今年度参加を得ることができなかった高校へのフォローアップや今年度事業の成果の可視化などの課題を共有し、どのように対応するかを検討し続けることを確認した。

＜第2回編集ワーキング会議＞

日時：平成30年9月12日（水）13:00～15:00

場所：地球環境パートナーシッププラザ

出席者：2名（清本・新海）

【実施内容】

- 本事業3年間の成果のとりまとめ方法及び内容及び成果共有会の企画内容について意見を交わした。

＜第3回編集ワーキング会議＞

日時：平成30年12月20日（木）13:00～15:00

場所：地球環境パートナーシッププラザ

出席者：2名（清本・新海）

【実施内容】

- 本事業3年間の成果のとりまとめ案の共有と改善点、成果共有会の企画・広報について意見を交わした。

7.2.4.4. 成果とりまとめ作業等

本業務の支援対象拠点の成果等をまとめ、全国事務局が指定したフォーマットに記述し、支援対象拠点のステークホルダーへのコメント依頼及び確認作業を行い、第3回の編集ワーキング会議での全体調整を踏まえて、提出した。

「泰阜ひとねる大学」の成果とりまとめ（おもて面のみ）

**「村」が育む世代を超えた学びあい
泰阜ひとねる大学**

■まちの魅力と課題
人口1633人、高齢化率39.8%、総面積の86%が山林の泰阜村。観光地でない、コンビニも信号もない山村である。魅力は山村で生き抜いた「村民」とその暮らしの中にある「教育力」である。都市の若者がこの「教育力」に触れ、住民とともに気づき学びあう場の提供に取り組んでいる。※人口は平成31年1月現在

■核となった拠点の強みと課題
泰阜村には村のもつ力を引き出し、子どもや若者、村の人々の育ちを支えるNPOや村の事業がある。都市の若者が泰阜村の教育力に触れる仕組みづくりを進めるため、これらの取り組みを体系的に整理しつつ、村の教育力を発揮する場である「泰阜ひとねる大学」(2016)を発足した。多様な巻き込みによる今後の展開が課題である。

■拠点のESD実践までの道すじ

仲間づくり

解説
泰阜村で自然体験教育を実践しているNPOやグリーンツーリズムを実施しているNPO、村づくりコーディネーター、地域おこし協力隊、村の職員、名古屋短期大学をメンバーに構成。平成28年には地域のメディア担当者、平成30年からは、村生まれ、村育ち、村在住の住民が加わった。

計画づくり

平成28年度は山村と都市の連携による学びと育ちのモデルカリキュラムをつくり、参加した学生や、泰阜村住民及びNPOから、学びの成果や自身の実感を把握した。平成30年度は、泰阜村での体験が日々の暮らしの中で感じられ、活かされるアプローチやプログラムを検討、実践した。
<SDGs>目標4・11・14・15・17

- *名古屋短期大学夏合宿でのヒアリング
- *泰阜村住民へのヒアリング
- *名古屋短期大学ゼミナールでのヒアリング
- *大学での泰阜村PR
- *泰阜村への報告会
- *愛知教育大学での講義
- *活動PRのためのパンフレット・パネル作成

強化したESD実践の力

生きるために必要なことを見抜く場の提供 泰阜村の風土や人々の価値観や暮らしのありようから自分に必要なことに気づかされた。 Pick up!	学びを提案にし、自分の言葉で伝える場の提供 村長や村民に、また愛知教育大学の講義で村の抱える課題を解決する提案を伝えた。 Pick up!	自己の変化に気づく機会の提供 3年間の村での学びあいによって、学生も村人も教員も自身の実感に気づいた。
--	--	--

「高校生環境・ESD活動拠点ネットワーク形成事業」の成果とりまとめ（おもて面）

地域課題に挑む高校生の学びあい 高校生による環境・ESD活動拠点ネットワーク

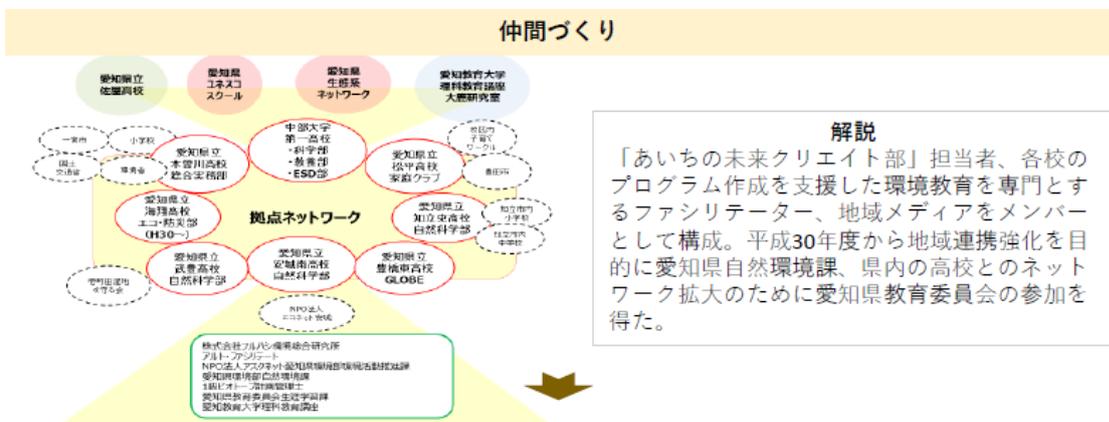
■まちの魅力と課題

愛知県では、愛知万博（2005）、CBD COP10（2010）、ESDユネスコ世界会議（2014）等が開催され、多様な主体によるESD実践、ここ数年は「次世代」によるESDの取組が活性化している。次世代の取組のネットワークを形成し、次世代間の学びあいや地域との連携による活動の創出が求められている。

■核となった拠点の強みと課題

愛知県は平成29年度から高校生が主体となって環境学習を進める「あいちの未来クリエイト部」をスタートし、調査・研究、環境学習教材の作成、実践を行っている。1年目が5校、2年目が3校の参加がある。計8校間の情報交換、経験交流等の学びあいの場づくりや、地域連携による高校生の活動の活性化が課題である。

■拠点のESD実践までの道すじ



計画づくり

高校を拠点としたネットワークを形成し、高校間の情報・経験の交流や地域連携による取組が継続的に行われる仕組みをつくる。
 <SDGs> 目標 4、11、14、15、17

- * 各高校へのヒアリング（環境学習プログラムについて）
- * 各高校のある自治体、NPO等へのヒアリング（主に各校の取り組みについて）
- * 地域での環境学習プログラム実践支援
 - ・愛知県ユネスコスクール交流会での実践
 - ・小中学校での授業実践
- * 環境学習プログラム交流会～あいちの未来を考えた！高校生が伝えたいこと
- * 平成30年度参加校オリエンテーションでのプレゼンテーション
- * 愛知県立佐屋高等学校の活動紹介と「あいちの未来クリエイト部」参加校交流会
- * 「あいちの未来クリエイト部」参加校 活動報告会・交流会
- * 「あいちの未来クリエイト部」ワークショップin教員のための博物館の日・交流会（愛知教育大学）

強化したESD実践の力

<p>つくったつながりを 活かしあうしくみづくり</p> <p>学びあい、自身の活動へのヒントを得るための高校（生）間のつながりをつくった。</p> <p style="text-align: center; background-color: #f96; border-radius: 50%; padding: 5px;">Pick up!</p>	<p>伝える力、伝わる力を育む 場の提供</p> <p>小中学校の出前授業や地域イベントで、多様な世代に環境学習プログラムを行った。</p> <p style="text-align: center; background-color: #f96; border-radius: 50%; padding: 5px;">Pick up!</p>	<p>自己の可能性を認知する（自己肯定感が高まる）機会の提供</p> <p>他校生徒と対話し、自身の活動の価値に気づき、自分の役割、存在価値を認識した</p>
---	---	---

「高校生の環境・ESD 活動拠点ネットワーク形成事業」の成果とりまとめ（うら面）

Pick up!

● 高校を拠点にネットワークができた。

平成29年度に「環境学習プログラム交流会」を開催し、各校の環境学習プログラムの紹介や体験、高校混合グループによるワークショップを行った。高校生の斬新なアイデアを抽出し、SDGsの紐づけ作業も行った。この場から、他校の高校生との交流、学びあう場の重要性が浮き彫りになった。平成30年度は新たな3校を加えた8校での活動紹介や報告会や先進活動校である佐屋高校への視察等を実施し、高校生間、教員間のつながり、関係性の育みを強めた。1月に開催する愛知教育大学でのイベントでは、高校生のアイデアによる高校生主体の企画を実施。あいちの未来クリエイティブ部に参加した高校（生）が日常的に情報交換し、学びあう場となる拠点ネットワークを形成した。

● 環境学習プログラムをツールに、高校生と地域、多様な世代をつないだ。

愛知県ユネスコスクール交流会、小中学校での出前授業、地域イベント等で作成した環境学習プログラムを実施し、高校生が伝えたいことを伝え、学びあう場をつくった。高校生が行う授業は貴重な機会であり、高校生にとっては成長につながり、小中学生は「お兄さんお姉さんの授業」と親近感をもち、真剣な姿で授業に向きあった。学校教育とのパイプを作り出すことができた。



高校混合グループによるWSの様子



佐屋高校への視察
～アヒル農法を学ぶ



中学生に授業を行う高校生

■ESD実践拠点づくり“変化のとき”

① 高校生の当事者意識による可能性の広がり

環境学習プログラムを紹介・実施する高校生の姿はたくましい。また、同じ経験をした高校生同士が学びあう場は生き活きとしていた。各校の経験を活かして「一緒にしたいこと」をテーマに対話を重ね、提案を作りだした。高校生がつくりあげた場やつながりは、高校生が当事者意識や「何とかしたい」という思いを強め、可能性を広げた。

② 非日常の学びの場をつくりだす

高校生が地域の小中学校で行う授業は非日常であり、高校生は緊張感のなかで、小中学生は親近感をもって授業に向き合っていた。高校生は対象に応じた伝え方を学び、対応力や現場力が育まれた。学習者は高校生の、生の言葉の力によって学びを得ていた。

■みんなの声

参加した高校間のネットワーク形成によって、学びあいや経験を共有する場づくり、先進的な活動をしている高校の視察などにつながった。ネットワークは刺激を与え続け、ネットワークがあることで、平成29年度の参加校間、平成29年度と30年度の参加校間、各高校と地域間（特に学校教育）の関係性を強めている。

関 利春さん（愛知県環境部環境活動推進課 課長補佐）

自分たちの活動の価値に気づくためには、他の存在が重要である。他校の取り組みを知ることで、自分の活動を振り返り、課題や可能性を見いだすことができる。高校が活動を発信する拠点となり、地域を巻き込みながら連携しネットワーク拠点へと変わっていく。拠点のネットワークは、さらにその広がりをつくる。多様な人との出会い、コラボの場、可能性を見出すことが重要である。

大鹿 聖公さん（愛知教育大学 教授）

「揖斐川流域環境学習拠点等連携事業」の成果とりまとめ（おもて面）

地域の未来をつくりだす「流域」に学ぶ

揖斐川流域 環境学習等連携拠点

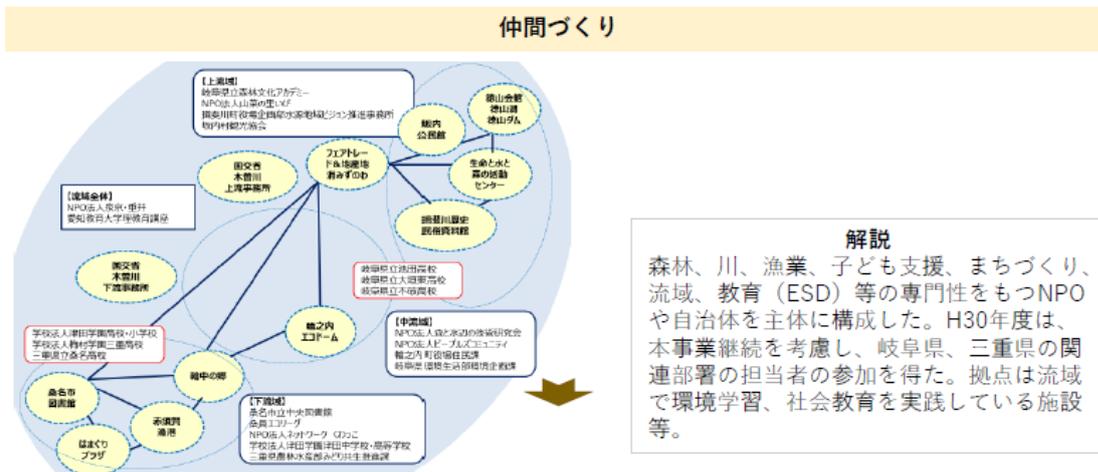
■まちの魅力と課題

揖斐川流域は、豊かな森林、広大で肥沃な平野、ハマグリやシジミ等が獲れる漁場がある。流域に暮らす人々はその恵みで生計を維持していた。かつては舟運が盛んであった。しかし、流域の第一次産業の衰退により、過疎化、高齢化、環境の悪化など地域の持続可能性が脅かされている。

■核となった拠点の強みと課題

揖斐川流域には、地域の特性や課題を学ぶ拠点や歴史や文化を伝える教育施設があり、NPOによる環境学習も盛んである。しかし、「流域」の各地域をつなぐ「つながり学習」が十分に実践されておらず、上・中・下流域の人材等交流の場や、共通で使う教材や学習プログラムが求められている。

■拠点のESD実践までの道すじ



計画づくり

「流域」を面として捉え、各拠点で実践されている取り組みをつなぐとともに、各地域が持つ資源や課題を共有財産として認識し、循環する経済や生業、社会システムを創出する。流域に暮らす人々が上流・中流・下流それぞれの持続可能な地域の将来像を描きながら、共生する地域にする。そのための学習（ESD）が実践されるよう、流域のどの施設でも活用できる教材、学習プログラムを作成する。
 <SDGs>目標3、4、6、7、8、9、11、12、14、15、16、17

- ・揖斐川流域ESD教材の作成
- ・教材の評価会議と自治体・教育委員会への説明
- ・教材を活用した高校生を対象とした揖斐川流域ESDツアー（1泊2日）の実施
- ・高校生の参加と対話による「揖斐川流域ESDフォーラム」の開催
- ・ESDとSDGsの視点による本事業の有効性と可能性の評価・検証
- ・小中学生を対象にした揖斐川上流域ESDワンディーツアーの実施

強化したESD実践の力

<p>教材やツアーを活用し、主体的に学ぶ機会の創出</p> <p>流域の様々な事象に触れ、問題意識をもち、参加・対話による学びの場をつくった。</p>	<p>未来を想像する機会の創出</p> <p>流域に暮らす人々や風土に出会い、過去から現状を理解し未来のありようを想像した。</p>	<p>関係性を育む、世代をつなぐ場の提供</p> <p>流域に暮らす人々との関係性を育み、世代をこえて伝える学習の場を展開した。</p>
---	--	--

Pick up!

Pick up!

「揖斐川流域環境学習拠点等連携事業」の成果とりまとめ（うら面）

Pick up!

● 支えあう関係性を育むESD教材とESDプログラム

揖斐川流域の特性をまとめた大型紙芝居/絵本、流域の風土や人の語りで綴った映像教材、様々な情報を掲載した資料集を作成した。学習者が体験を通して、揖斐川流域を感じ、当事者意識を育み、流域で支えあう関係性を育むことをねらいとした。学習者の主体的に学ぶ力を育むため、各拠点の思いや活動に応じて自由に使えるよう、アレンジ可能な内容とした。多様な価値観を理解し、選択する力を育むための要素も盛り込み、現在抱える問題の本質に触れる教材とした。

● 流域に暮らす「すべての世代」が学びあう場

H29年度は高校生を対象にした流域ツアーとフォーラムを実施。ツアーでは、出会った人々や場から過去に起きた揖斐川流域の様々な事象と現状の課題を学んだ。フォーラムでは、流域の未来を想像し、「自分たちが何をしたいか」について対話し、SDGsに関連付けた提案をつくった。H30年度は小中学生を対象にした上流域の人々や風土に出会うワンディーツアーを実施し、昨年度ツアーに参加した高校生がインタープリターを担った。高校生の体験に基づく言葉が小中学生の「揖斐川流域」への関心を高めた。また上流に暮らす住民とコミュニケーションを図り、揖斐川上流の魅力に触れた。多様な世代と多様なESDプログラムを実践した。



現場に触れ、人々の言葉から作成した教材



「揖斐川流域の未来」プレゼンテーション



森・川・まちの自慢についてインタビュー

■ ESD実践拠点づくり“変化のとき”

①教材作成を通しての、各流域拠点の資源の連結

関連施設や人々へのヒアリングをもとに、揖斐川で起きている様々なことに触れる紙芝居（絵本）、流域に暮らす人々の語りや風土を映し出したDVD、揖斐川のデータを収集した資料集を作成し、流域の魅力や課題を可視化した。作成過程で、地域間の交流やつながり、支え合う必要性を共有した。

②学びあう場づくりの多様な可能性の認識

高校生を対象にしたツアーを上流から下流まで1泊2日で、中学生を対象にしたツアーを上流域のみワンデイで行った。出会う人々や体験する内容は若干違うが、それぞれのツアーで参加者は「流域でつながる価値」に気づいた。次世代を対象に教材を活用し実施したツアー（ESDプログラム）では、「地域の持続性の創出へのヒント」を学びあう場づくりの多様な可能性を認識できた。

■ みんなの声

本事業によって揖斐川流域全体を俯瞰して見られるようになった。教員の協力によって実践的なESD教材の作成や高校生や小中学生を対象にしたツアーを実施できた。世代を変える等多様な形で事業を継続し、揖斐川流域の価値、可能性を浸透させたい。
神田 浩史さん（NPO法人泉京・垂井副代表理事）

流域には人の営みがあり、「川・水」という共通の話題がある。しかし、川を取り巻く地域の課題が他の地域には理解されていない。本事業では各地域の活動をつなぎ、伝えるための共通教材を作った。ツアーを行い、若者達が流域に暮らす人々の思いや風土に直接触れ、フォーラムでは彼らが未来を描いた。点であった拠点が揖斐川によって一本の線となり、流域として面になった。この面で展開される「持続可能な社会になるための学び」を充実させたい。
大鹿 聖公さん（愛知教育大学 教授）

7.2.4.5. 成果共有会への参加

日時：平成 31 年 2 月 18 日（月）13:00～16:00

場所：City Labo Tokyo 東京スクエアガーデン 6 階 京橋環境ステーション内

出席者：4 名

NPO 法人泉京・垂井 神田浩史氏

アドバイザー 大鹿聖公氏

EPO 中部（清本・新海）

【実施内容】

- 支援対象拠点の一つである「揖斐川流域環境学習拠点等連携事業」の成果について、当事業のパートナー団体であり、プラットフォーム会議メンバーの特定非営利活動法人泉京・垂井の神田浩史氏とともに報告をした。
- 各地方 EPO が伴走支援をした支援拠点のうち 1 拠点の成果報告と、支援対象拠点が変化した際のポイント等についての意見を交わすグループワークを行い、他地域のグループディスカッションへの参加、及び揖斐川流域環境学習拠点等連携事業グループディスカッションの進行、説明等をした。



7.3. 評価と総括

本業務の目的である「地域の環境教育・学習拠点の教育機能を向上させ、ESD を推進し、地域コミュニティの持続的成長を促す」を評価の視点として、以下に総括をする。

<評価項目>

※3段階評価を行う（◎とてもできた ○できた △ある程度できた ×できなかった）

- ①地域の環境教育・学習拠点の教育機能を向上させたか。
- ②ESD を推進したか。
- ③地域コミュニティの持続的成長を促したか。

また、各支援拠点の3年間の目標及び今年度の目標に照合し、評価をし、総括を行う。

7.3.1. 泰阜ひとねる大学

平成 28 年度のみ伴走支援を担ったが、それまで主体ごとに実施されていた環境教育・学習・ESD 事業をつなぎ、カリキュラム化をし、基本スキーム（泰阜ひとねる大学）を形成したことで、各主体の目的がより具体化し、それぞれの持つ強みの相乗効果により、泰阜村の持つ資源がより活かされ、名古屋短期大学を主とする大学生の学び、気づきがより広く、深くなった。泰阜村の地域住民の本事業への参加度が高まりつつあり、名古屋短期大学との関係性、信頼性が強くなった。

今年度の取組から、「食」をテーマとした泰阜村の新たな教材（教育資源）を発掘することができ、泰阜ひとねる大学のプログラムメニューが豊かになった。泰阜村にあまり関心のない学生が参加し、その変容によって、学びの課題や手法（当事者意識が育まれる課題の設定や現地・現場を見る、現場の生の声を聴く等）という ESD が重要としている要素が学生の学びに生かされていることを把握できた。

ほぼ自走しているが、今後については、いかに「泰阜ひとねる大学」というスキームに新たな価値や魅力を付加していくか、可能性を見い出していくか、新たな参加を得ていくか（地域住民、大学生等）がチャレンジとなる。

課題としては、地域内、地域以外への情報発信、「伝わる情報発信」が求められている。

そういった視点から、①については◎、②については◎、③については○とした。

評価項目	自己評価
①地域の環境教育・学習拠点の教育機能を向上させたか。	◎
②ESD を推進したか。	◎
③地域コミュニティの持続的成長を促したか。	○

また、本取組の3年間の目標、平成 30 年度の目標に関して以下のように評価した。

本取組3年間の目標について、①については上記のとおり、②については、平成 28 年度に本取組のPR 媒体(パンフレット)を作成、さらには全国事務局に提出した成果物(全国事務局 HP 掲載)を作成した。③についても、プラットフォーム会議メンバー(今年度から地域住民が参画)を中心に定期的会議を設けるなど、「泰阜ひとねる大学」をけん引する、支える体制を形成することができた。

<3年間の目標と自己評価>

評価項目	自己評価
①都市部の若者を対象に、泰阜村の暮らしや資源を活用した地域活性を可能にする学びのカリキュラムを作る。	○
②都市部の若者が、都市と農村の課題を学び、農村部での人口減少及び高齢化、産業衰退をくい止めるための地域の資源を活用した方策や魅力を外部の視点から見出し、発信する。	◎
③都市部の若者と一緒に村民が活動を実施することで、村民のモチベーションを高め、若者と村民との協働による ESD プログラム及び実施体制を形成する。	○

平成 30 年度目標については、第 2 回連絡会で、泰阜村にあまり関心のなかった都市部の学生の積極的参加が見られるようになったと報告を受け、本取組の有効性(泰阜村の教育力)がさらに明らかになった。

<平成 30 年度目標と自己評価>

評価項目	自己評価
課題の改善に向けてのプログラム企画の実施とそのプロセスを把握し、可視化する。	◎

7.3.2. 揖斐川流域環境学習拠点連携事業

平成 28 年度、29 年度、30 年度の 3 年間の伴走支援を行ったが、「流域」は非常に重要な視点であり考え方ではあるが、県境をまたぐ上に、上流・中流・下流という広域を対象としたため、拠点間の意見やステークホルダーの参加の調整に非常にエネルギーを費やした。丁寧なコミュニケーションを重ねることで、多様な拠点や主体、ステークホルダーとの連携を可能にし、「流域」という共通言語による取組の可能性が広がり、顔の見える関係の構築、本事業の目標達成に向けてアグレッシブな取組を実施することができた。

1 年目は、揖斐川流域にあるいくつかの環境学習拠点等をヒアリングし、本事業の説明、参加承諾、共通教材作成プロセスにおける意見調整等といったプロセスを踏まえ、ESD が重視する視点や手法を取り入れた教材（拡大紙芝居、DVD4 本、参考資料、使用マニュアル）を作成し、各拠点及びステークホルダーと共有した。各拠点の地域が抱える環境課題、地域課題を把握し共通教材とする過程及び作成された教材の活用によって、各拠点の環境教育・環境学習拠点の ESD が重視する視点や手法を取り入れた教育機能はある程度図られた。主な自治体(桑名市、大垣市、輪之内町)との連携を図った。「共通教材の作成」という共通目標の達成のために、各拠点及びステークホルダー、関係者との連携強化を図ることができ、本取組を推進する核となる体制を育むことができた。

2 年目は、作成した ESD 教材の活用と、活用による評価検証を目的とし、ESD 教材は現実に体験する高校生を対象とした揖斐川流域ツアーと、ツアーの成果を共有し、高校生による SDGs を踏まえての地域への発信を行うフォーラムを実施した。ツアー企画段階から実施に至るプロセスにおいて、各拠点と意見を交わし、各拠点の特性を生かした内容を組み入れた。プラットフォームメンバーのノウハウ、情報、経験知も取り入れた。

高校生の視点によって本取組が評価されることが ESD であり、本取組の教育的効果と課題が明らかになった。さらには、ESD 教材を活用し、多様な主体を対象とした（企業、教員、子どもなど）、研修や講座など様々なプログラムのアレンジが可能であることを確認した。また、SDGs 達成のための有効な手段になりうることも把握した。作成した拡大紙芝居の汎用性を高めるために、絵本化を行い、流域にある教育委員会、自治体、校長会等に ESD 教材の説明等を行い、汎用化を進めた。

3 年目である今年度は、ツアー自体の汎用性を高めるために、小学生を対象に中下流域の小学生(中学生も参加)が上流域を訪問する日帰り可能な内容とし実施した。昨年度の高校生の参加を得て、ツアーの案内、説明、子どもたちへのアプローチをすべて高校生が行うこととした。愛知教育大学学生の参加も得ることができ、小中学生、高校生、大学生、大人と多様な世代が参加し、高校生が核となってプログラムを実施するツアーとなった。

結果、揖斐川流域が抱える課題や、揖斐川流域の歴史や資源を、多様な世代の感性、手法が相互に響きあい学びあう場となり、各拠点が持つ教育機能をより高め、ESD が重視する視点や手法が十分に加味された内容となり、参加者アンケートにもあるように、有効な学びの場となった。中下流域の参加者の、上流地域への見方、考え方が変容した（上・中・下流で文化の違いを再認識した）のは確かであった。

上記に示したことから、①②については◎、③については、直接的な影響を図ることができなかつたため、△と評価した。しかし、各拠点及び参加者に、森林資源の活用、揖斐川の歴史、過疎化、ダム開発といった視点で、「地域の持続性」に関する気づきや学びをもたらした、と評価した。

評価項目	自己評価
①地域の環境教育・学習拠点の教育機能を向上させたか。	◎
②ESD を推進したか。	◎
③地域コミュニティの持続的成長を促したか。	△

本取組3年間の目標について、①②③については上記のとおり、ESD 教材開発、ESD 教材活用によるツアー・フォーラムの実施、それを可能にする実施体制の形成を可能にした。

しかし、資金確保、事務局機能の点において、地域の実情に応じた展開の検討を要する。

本取組で見出した多岐にわたる可能性を提示し、SDGs との関係性を明示したこともうまく活用し、継続性の確保が望まれる。

<3年間の目標と自己評価>

評価項目	自己評価
①流域各地域が抱える課題と、流域地域が持つ地域資源を共有する。	◎
②かつての流域の（自然、資源）循環の仕組みを学ぶ。	◎
③現状の課題を解決するための、地域の資源の利活用、「流域」を重視した持続可能な地域づくりの理解及び行動（SDGs の理解・達成のための行動）を促す学びの実施体制（ネットワーク）を構築する。	◎

平成30年度は、高校生を核とした中下流域の小中学生を対象にした上流域のツアーを実施したが、「流域」をテーマにしたツアー等プログラムの多様性と多様なプログラムによる教育効果を把握することができた。

本取組のステークホルダーであるプラットフォームメンバーと、今年度の目標である「各地域の拠点連携により各拠点の強みを活かした多様な世代を対象にしたESDプログラムが実践され、各地域の拠点、プログラム参加者が持続可能な地域をつくるための学習活動を発展し続けていること」を再確認し、特に、「発展し続けている」という点に関して、資金や運営マネジメントの部分で地域の実情に応じた事業を「継続」展開することや、3年間で育んだ各拠点、ステークホルダーとの関係性を強弱はあるものの維持すること、の重要性を共有した。

SDGs に関しては、本取組とSDGsの多角的なつながりを可視化しているため、今後いかに活用するかの必要性を再認識した。

評価項目については、上記を踏まえ、また具体策の検討、自走には至っていないため、以下とした。

<平成30年度目標と自己評価>

評価項目	自己評価
揖斐川流域で「流域」を重視したESDプログラムが継続的に実践される。	○
ESDプログラムを実施する流域の多様な主体の連携による体制が育まれる。	○
SDGsを意識した流域での活動が展開され、認知度向上、活性化を促す。	○

7.3.3. 高校生による環境・ESD活動拠点ネットワーク形成事業

平成29年度、30年度、2年間の伴走支援をしたが、愛知県事業である「あいちの未来クリエイト部」が生み出した成果を活かす、という補完的役割を担い、高校生間、高校と地域間の学びあいの場を提供する拠点ネットワークを創出した。

1年目は、「あいちの未来クリエイト部に参加した5つの高校を対象に、高校間、各高校と地域間の連携を図った。「あいちの未来クリエイト部」の成果の一つである、各校が作成した環境学習プログラムをツールに、「つなぐ」作業を行った。各高校がある地域の課題を把握し、課題を伝えるために、各高校の高校生がオリジナルの環境学習プログラムを作るプロセスを把握し、高校生が出会い、学び

会う「交流会」を実施した。交流会に参加し出会い、学びあうことで変容した高校生を可視化したパンフレットを作成した。

2年目は、1年目に参加した高校のその後の活動のヒアリング・取材をし、今年度の「あいちの未来クリエイト部」参加校3校との連携についての意見を把握した。「高校生同士がつながる」ことの有効性を意見され、全8校の参加を得て本取組をスタートさせた。計4回の交流会、他活動取材等を行ったが、交流会を重ねるたびに、1年目の参加校の高校生の変容（プレゼンテーション力、発言力、表現力、思考力の高まり、活動への積極的参加等）に教員、プラットフォームメンバーは驚かされた。また、今年度の参加校の高校生も、その様子や姿を見ることによって、毎回の交流会、環境学習プログラムを作り出す作業において非常にアクティブになった。

佐屋高等学校への視察ツアー・第2回交流会、第3回交流会、愛知教育大学での日本生物教育学会・教員のための博物館の日・第4回交流会では、各高校生徒混合によるグループワークを行い、「愛知の自然環境を守る」という共通課題を認識し、お互いが研鑽する場はまさにESDであった。

地域との連携においては、小中学校での出前授業や企業との連携等が各校で行われるようになり、各校の取組を地域で情報発信することで、地域のニーズが高まった。その成果を受けて、今後さらに、高校生が地域に向けて自校の取組をどう発信するか、伝えるかについての高校間、高校と地域間での議論が深まった。いかに地域課題を高校生が発信するか、伝えるかといった議論がされるようになった。

第4回の交流会で行われたグループワークにおいては、社会教育施設等地域との連携を視野にした協議が行われ、高校生がいかに伝えるか、高校生が作成したプログラムをどのように実施するか、についてアイデアや提案を出し合い、地域との連携の重要性と可能性を認識することができた。

昨年度からの課題であった教員間の情報共有、学びあいの場については、2回設定し、「部活にとどまらず学校全体での取組や、大学入試や生徒の進路に影響を与える取組に発展させる」といった各校が抱えている課題を共通課題として認識した。

2年間の伴走支援を通して各高校独自では実施しにくい活動を「拠点ネットワーク」が実施し、ESDが重視する視点や手法を取り入れた新しい学びの場を提供することができた。しかし、外部の力でけん引したため、自走には至らず、「拠点ネットワーク」の利用価値はあるものの、マネジメント・資金確保を可能にする状況にはまだなっていない。ステークホルダーであるプラットフォームメンバーと知恵と工夫を持ち寄り、いかに継続するか、自走をどう促すかを模索している。

上記を踏まえ、①②については◎、③については、高校と地域連携の必要性を認識することはできたが、（一部地域連携を可能にした活動もあるが）、「地域コミュニティの持続的成長」という変容には、直接的な影響を十分に図ることができなかつたため、△とした。

評価項目	自己評価
①地域の環境教育・学習拠点の教育機能を向上させたか。	◎
②ESDを推進したか。	◎
③地域コミュニティの持続的成長を促したか。	△

本取組3年間の目標について、①②については、高校生間において2年間に数度の交流会を実施し、相互参照、学びあう場を作り出し、次世代の担い手の創出を図ることができた。

しかし、各高校と地域住民、自治体との関係性という点では、必要性は認識したものの、十分には実施できず、さらなる展開が求められると同時に、可能にするための支援が必要である。③については、拠点ネットワークの機能であり、2年間は可能としたが、今後恒常的に展開されるには工夫が必要である。

<3年間の目標と自己評価>

評価項目	自己評価
①高校生が地域課題を自分事として捉えるために、地域住民や自治体職員との関係性を深め、地域の現状を把握し、学習する機会を創出する。	○
②高校間、高校と地域間のネットワークを形成し、多様な ESD 実践の場を高校生と地域のステークホルダーが作り出し、ネットワークによる学習効果を高め、地域を担う次世代の創出を図る。	◎
③地域課題を自分事として捉える次世代が増え、次世代間、次世代と地域の関係性が広がり深まり、多様な主体の参加による地域の課題を学習する場、機会が恒常的に展開され、情報の交流を可能にしている。	○

平成30年度の目標については、すべての高校の参加を得ることはできなかったが、交流会の開催(計4回)や、他校や社会教育施設、地域の小中学校、企業との連携活動、教員間のミーティングやグループワークの実施を行うことができた。

拠点ネットワークの価値と可能性を全国事務局が発信する成果物にまとめ、可視化した。一方で、「継続的実施のための主体形成」「汎用化とSDGsと連携したプログラムの実施」については、十分行うことができず、ネットワークを継続・発展させるための主体の形成、資金確保、運営マネジメントが課題であり、まだ自走には至っていない。さらなる検討を要する。SDGsに関しては、1年目に本取組とSDGsの多角的なつながりを可視化したが、2年目は十分にSDGsに触れる活動ができていないため、今後さらに意識した活動へと発展させる必要がある。

評価項目については、上記を踏まえ以下とした。

<平成30年度目標と自己評価>

評価項目	自己評価
8校(+α)が学びあう機会を創出する。	◎
多様な主体との連携を可能にするネットワークを形成する。	◎
教員間の学びあい、情報共有の場をつくる。	◎
高校(生)ネットワークの有効性を可視化する。	◎
本事業を継続的に実施するための主体の形成	△
本事業の汎用化とSDGsと連携したプログラム実施	△

7.3.4. アドバイザーによる評価

大鹿 聖公氏(愛知教育大学 理科教育講座 教授)

地域においてESDを実践していくための拠点事業として、中部地区では3パターンの取組を行ってきた。長野県の泰阜村を拠点とするもの、揖斐川の流域を拠点とするもの、そして愛知県の高校生の活動を拠点とするものである。

中部地区での拠点は施設に限定したものでなく、場所や人をつないだものを拠点としている所に独自性があり、またそれが価値となっている。点がつながり線となるように、またそれが面となるように広がる拠点である。

揖斐川では上流と下流をつなぎ、活動を他へ伝えると同時に、新たな課題や可能性を見い出していた。

高校生が他の高校生の活動から刺激を受け、また地元の活動へと取組を広げていた。

このように固定化された拠点でなく、流動的な拠点だからこそできる取組であった。

どの拠点事業においても世代をつなぐ活動が行われ、若者世代が自発的に積極的に活動する姿が印象的であった。いろいろな地域で、拠点を固定化せず、地域や課題に応じて、人や拠点を組み合わせ、新たな可能性を見い出してもらいたい。

7.3.5. 全体総括

本事業に3年間取り組み、すでに環境教育・学習は取り組んでいるものの、そのポテンシャルを有効に生かして、より効果的に展開するための「モデル」となる拠点像を描き、実施してきた。伴走支援をした3拠点は、その取組の違いを十分に認識したうえで、以下を共通項とした伴走支援に留意し、実施した。

- ①散在している教育活動をつなぐ。
- ②分断されている状況をつなぐ。
- ③実施する事業の必要性を鑑み、新たなステークホルダーの参加を得る。
- ④今実施されていないことに取り組む。
- ⑤既存の枠組にとらわれない。
- ⑥今あるものを有効に使う。
- ⑦拠点の意向を重視する一方、新たな取組の価値の認識を促す。

一番の課題は、「分断されている状況をつなぐ」ことであった。散在している教育活動をつなぐことは、すべての支援拠点において、その必要性和効果を示すことで、ある程度は可能となった。しかし、地域社会の仕組みにおいて、本業務の目標に掲げられている「地域コミュニティの持続的成長を促したか」という領域まで3年間という期間で到達することは非常に難しかった。

「泰阜ひとねる大学」においては、地域コミュニティの範囲が狭いため、外部資源を多様な形で投入することで、泰阜村、大学生の変容が近しく、地域コミュニティの持続的成長に必要な教育的要素を可視化することができた。そして、自走を可能にした。

「揖斐川流域環境学習拠点連携事業」においては、県境をまたぐなど地域コミュニティの範囲が広範囲なため、本事業に参加したステークホルダー（各拠点、プラットフォームメンバー、小中学生、高校生、大学生、自治体等）のみでは「流域」全体への地域コミュニティへの影響力を十分に持つことはできなかった。今は核となる基盤ができつつある段階である。3年間である程度の効果と成果、可能性を見出すことができた。今後、形成した主体が核になって、いかに拡充していくかが試される。拠点ネットワークとしてどのように発展し、存在し続けるかが問われている。

「高校生による環境・ESD活動拠点ネットワーク形成事業」もしかりである。高校が拠点になるのか、高校間のネットワークが形成されるのか、という点について毎回の会議で協議し、範囲が見えにくい拠点ネットワークとしての事業を展開してきた。

各地で高校、高校生が実践している環境活動・環境教育が発展し、高校生が地域の担い手として育まれるためにも、高校間、高校と地域間の連携を可能にするスキームの必要性を確認した。そして、「交流」「連携」をキーワードに、拠点ネットワークが果たす役割の重要性が明らかになった。

この2つの支援拠点については、自走にはまだ至っていない。評価項目である「地域コミュニティの持続的成長を促したか」に対しては、十分ではないが、「拠点ネットワークが果たす役割の必要性」が認識され、継続の必要性を確認したレベルである。まだまだ工夫が必要である。

環境教育・学習拠点における「ESD推進」のための実践拠点を支援するメニューについては、拠点ネットワークを活用して多様に作り出すことができる。

アドバイザーの評価に、「中部地区での拠点は施設に限定したものでなく、場所や人をつないだものを拠点としている所に独自性があり、またそれが価値となっている。点がつながり線となるように、またそれが面となるように広がる拠点である」との記述がある。

3年間、最も効果的に「地域コミュニティの持続的成長を促す教育、学習の展開を可能にするか、その視点での支援をどう企てるか」を念頭に、常に多様な価値観を持つ多様な世代と評価・検証・改善を繰り返し、既成にとらわれないチャレンジを行ってきた。

課題はまだ多々あるが、見出した可能性と、拠点ネットワークの役割が現状の地域社会に必要なことが明らかになったことを評価している。

「ESD 推進」のための実践拠点支援業務における EPO 中部の伴走支援のポイント

- 1 EPO 中部と中部事務所は以下 3 つの視点（ポイント）を意識し、伴走支援を行った。
 - ① 国（環境省）の EPO だからこそできる事業とすること
 - ② 国（環境省）の人材育成が、県・市の事業と重複しないよう、地元自治体の事業の取組を後押しするとともに、自治体の事業で育成した人材を国の事業につなげること
 - ③ 伴走支援は、EPO が行うだけでなく、環境事務所も協働して積極的に行うこととした

- 2 今年度伴走支援した事業
 - (1) 揖斐川流域連携拠点（岐阜県／三重県）
 - ・ EPO 中部は、揖斐川（一級河川）を題材とし、県域を超えた支援拠点をつなぎ、「国（環境省）の EPO だからこそできる事業」の仕掛けを意識した。
 - ・ 第五次環境基本計画で示された「地域循環共生圏」の「流域モデル（揖斐川流域地域循環共生圏）」を目指すとともに、「流域モデルの人材育成プログラム」として活用できるモデルとなることを目標とした。
 - ・ 上流・中流・下流の各流域拠点の文化をつなげるとともにそれぞれの流域の文化を題材にして「ESD」を学べる仕組みとした。また、小学生（下流域：三重県桑名市）、中学生・高校生（中流域：岐阜県大垣市）、大学生（愛知県の大学生）の幅広い世代や複数県が参画する事業であり、グループワークをしながら現地の方々（上・中流域の住民や拠点施設）と交流し、ESD の実践（インタビューや意見交換）する場とした。
 - ・ 中部事務所の伴走支援としては、当初実践拠点事業が開始された際に、地元の県や市町と EPO 中部との円滑な関係が築けるよう、自治体に対してアプローチをかけるとともに、年度ごとの事業の取りまとめに際し、環境省本省の施策の最新情報（地域循環共生圏の考え方が現場の取組につながるよう）の共有を積極的に行い、EPO 中部の ESD や協働の企画に盛り込めるよう意見交換をした。

 - (2) 高校生による ESD 拠点ネットワーク
 - ・ 本事業では、自治体（県）の環境分野の人材育成を後押しすることに焦点を当てて取組を進めた。また、国（環境省）の事業で実施する EPO が、県の事業で育成された人材との交流機会の場を創出することを積極的に行った。
 - ・ 今回、EPO 中部は、距離的にも近い、愛知県（環境部環境活動推進課）の事業（あいちの未来クリエイト部）の取組を後押しするとともに、事業の中で他校の高校生間をつなぎ、発表の機会の場を設けることで高校生自身の気づき、学ぶ場を設けた。
 - ・ 中部事務所では、県を後押し（つなぐ）だけでなく、環境省（国）の事業にもアウトプットとしてつなげることを意識した。環境省が主催した全国ユース環境活動発表大会（中部大会、平成 30 年 12 月 9 日）への参加を支援した学校に直接アポイントをとり促した。2 校（愛知県立木曾川高等学校、愛知県立知立東高等学校）が参加し、それぞれ中部大会において、優秀賞を受賞することで高校生の自信ややる気の醸成につながった。
 - ・ 中部大会では、環境学習の意識の高い北陸、信州、東海の学生が集まることから、県域を越えた学生同士の学び合いの場として活用し、それぞれの学校で進める取組を学び合い、意見交換できるよう後押しした。
 - ・ 中部事務所は、事業開始時、環境省という名前で自治体（県・市）と EPO を積極的につなぐことや、環境本省の施策（今年度から始まった地方大会）の最新情報が地方の現場の取組に反映できるよう積極的にアプローチすることにより、円滑な事業の進捗につなげた。

8. 環境基本計画に沿った環境教育支援業務

8.1. 実施概要

8.1.1. 業務内容

(ア) 対象地域の関係主体における SDGs の理解等に関する現状把握

ホームページ等の情報やヒアリングなどから SDGs を既に実践している、または関心を持っている自治体・企業・団体 20 団体を調査・抽出し、現状の施策・活動等と SDGs との関連性を整理し、SDGs への紐付けを行った。その結果、続く勉強会参加への強い関心を示す 11 団体を抽出することができた。

(イ) 対象自治体等向け勉強会（ワークショップ）の実施

上記調査の過程で、SDGs 促進へ強い関心を示した 11 団体に対し 2 回連続で実施。参加者の半数以上から「SDGs への理解が深まった」「今後役に立つ内容だった」との評価を得た（アンケート結果より）。

(ウ) 事後調査

上記勉強会の 2 ヶ月後に実施。勉強会で各団体が考えたアクションプランを 11 団体中 9 団体が「実践中」と回答した。残り 2 団体のうち 1 団体も、アクションプランとは別案を実践中と答えた。また、全ての団体において次年度の勉強会にも「是非参加したい」「内容によっては参加したい」という回答を得た。

8.1.2. 実施結果の考察

今年度最も大きな成果としては、当該地域（富山を中心とした北陸・信州地域）に今後も継続可能なネットワーク基盤が構築できたことである。その成因としては、環境省中部地方環境事務所（EPO 中部）の後ろ盾が得られたことが非常に大きい。自治体等とオフィシャルなやりとりが必要であった本件において、このことが信頼度の担保に大きく貢献し、強い求心力を保つことができた。

続く重要な成果としては、今後地域の SDGs 普及促進等において中核的存在となり得る団体を見出したことである。具体的には、次年度 SDGs 未来都市申請を予定している南砺市（エコビレッジ推進課）や積極的なアクションを起こし始めている黒部市社会福祉協議会、大高建設（いずれも黒部市）などが相当する。

以上の成果を踏まえ、次年度は南砺市と黒部市を重点地域と位置づけ、それぞれの地域でより実践的なテーマでの学習会をオープン形式で行い、今期メンバーのみならず新たなステークホルダーの巻き込みも図りながら、地域主体の SDGs 普及促進の深化、及び当該地域のネットワーク構築の更なる進展を目指したい。

8.2. 実施結果

8.2.1. 対象地域の関係主体における SDGs の理解等に関する現状把握

(1) 調査期間

平成 30 年 7 月～10 月

(2) 調査方法

ホームページ等の情報やヒアリングにより、各団体の SDGs への取組状況を「実践中」「計画中」「未定」の 3 つに分類し、それぞれにおいて現状の施策・活動等と SDGs との関連性を整理し、17 ゴールへの紐付けを行った。

№	区分	県	団体名	備考	SDGs取組状況	勉強会参加	①貧困	②飢餓	③健康・福祉	④教育	⑤ジェンダー	⑥水・衛生	⑦エネルギー	⑧成長・雇用	⑨イノベーション	⑩不平等	⑪都市	⑫生産・消費	⑬気候変動	⑭海洋資源	⑮陸上資源	⑯平和	⑰実施手段
1	自治体	富山	富山県（環境政策課）		未定	○						○						○	○				○
2	自治体	富山	富山市（環境政策課）	SDGs未来都市/モデル事業	実践中	○		○				○			○		○						○
3	自治体	富山	南砺市（エコビレッジ推進課）		計画中	○		○				○	○		○							○	○
4	自治体	富山	水見市（企画調整課）		未定	○	○	○	○			○	○				○		○	○	○		○
5	企業	富山	北酸株式会社		計画中	○		○		○	○	○	○		○		○	○	○	○	○		○
6	企業	富山	大高建設株式会社		計画中	○	○	○	○	○		○	○		○		○	○	○	○	○		○
7	団体	富山	富山県生活協同組合		実践中		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	団体	富山	黒部市社会福祉協議会		計画中	○	○									○						○	○
9	団体	富山	立山黒部ジオパーク協会		計画中	○			○								○						○
10	自治体	石川	金沢市		計画中	○	○								○		○						○
11	自治体	石川	白山市	SDGs未来都市	実践中					○	○												
12	自治体	石川	珠洲市	SDGs未来都市	実践中					○		○					○	○	○	○			
13	教育	石川	金沢工業大学	SDGsアワード受賞	実践中		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	企業	石川	コマネー株式会社		計画中		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			
15	団体	石川	国連大学サステイナビリティ高等研究所 OUIK	国連機関	実践中				○								○			○	○		○
16	自治体	福井	福井県（環境政策課）		未定	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○
17	自治体	福井	鯖江市		実践中					○	○												○
18	教育	福井	仁愛大学		実践中					○	○					○							○
19	自治体	長野	長野県	SDGs未来都市	実践中	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	団体	長野	里山ウェルネス研究会	環境省「同時解決事業」採択	実践中				○	○		○	○			○	○	○	○	○	○		○



団体名	富山県（環境政策課）		
団体区分	自治体	所在地	富山市新桜町5-3 第2富山電気ビルディング8階
調査日	平成30年8月	調査方法	資料調査及びヒアリング

SDGs 取組状況	未定
-----------	----

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
6(2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 浄化槽設置推進事業補助金 浄化槽の設置費用の一部補助を実施。
13(3)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 温暖化ストップ計画等の策定 地球温暖化対策推進法に基づく法定計画として温室効果ガス排出抑制等のための施策を定めた地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定。 また、富山県の事業活動に伴う環境負荷を軽減するため「新県庁エコプラン」を策定。 ○ 地球温暖化防止活動推進員の委嘱 民生部門における温室効果ガスの削減活動を普及・推進するため、「地球温暖化防止活動推進員」を委嘱。（保育園など地域での普及啓発活動を行う。）
14(1)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水の恵みと海岸清掃体験バスツアーの実施 海岸漂着物の8割が県内から出たごみであることを普及啓発するため、河川の上流から海岸をめぐるバスツアーを開催。 ○ みんなできれいにせんまいけ大作戦 毎年6～9月に県内全域で海岸清掃を実施。
備考	富山県のSDGs担当部署：企画調整課。本調査時期に企画調整課では公表できる計画がまとまっていないとのことから、現状でSDGsとの関連が多い「環境政策課」を対象とした。



団体名	富山市（環境政策課）		
団体区分	自治体	所在地	富山県富山市新桜町7-38
調査日	平成30年8月	調査方法	資料調査及びヒアリング

SDGs取組状況	実践中
----------	-----

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
11	公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりの実現：公共交通の整備などを通じて、高齢者の外出機会の創出や中心市街地の活性化を図り、地域生活拠点とのネットワーク機能を高める「コンパクトシティ」の形成を目指す。
3	ヘルシー&交流シティの形成と質の高いライフ・ワークスタイルの確立：乳幼児から高齢者、障害者やその家族など、地域住民が安心して健やかに生活できる拠点の整備などを通じて、地域が一体となり、健康・子育て・教育環境の充実を図る「ヘルシー&交流シティ」の形成を目指す。
9	産業活力の向上による技術・社会イノベーションの創造：植物用LED照明などの新技術を活用した「えごま」葉の工場を整備し、生産、加工、流通販売までを一体的に行う6次産業化を推進するなど、市内企業の活性化や新技術の活用を図る「技術・社会イノベーション創造都市」の形成を目指す。
7	セーフ&環境スマートシティの実現と地域エネルギーマネジメントの確立：環境に優しく、安全・安心な生活ができるモデル街区の整備などを通じて、安全・安心かつ環境負荷を低減した「セーフ&環境スマートシティ」の形成を目指す。
17	官民連携・国際展開の推進：市の知見やノウハウを国際展開し、市のイメージアップや市内企業の海外展開の後押しをすることで、都市ブランド力を高め、官民連携・国際展開を推進します。例）インドネシア・タバナン県と小水力発電事業等で協力協定を締結
備考	SDGs未来都市および自治体SDGsモデル事業に選定されている。担当課は環境政策課。



団体名	南砺市（市民協働部エコビレッジ推進課）		
団体区分	自治体	所在地	富山県南砺市苗島4880番地
調査日	平成30年8月	調査方法	資料調査及びヒアリング

SDGs 取組状況	計画中
-----------	-----

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
7 8 9	<p>【南砺市再生可能エネルギー促進事業】 豊かな森林を地域資源として有効活用し、森林整備の促進や森林保全をはじめ、二酸化炭素の排出抑制をすすめます。 森林資源のエネルギー活用により地域の中で需要と供給を結びつけ、化石燃料の削減を行い、地球温暖化の抑制を行います。</p>
8 11 17	<p>【南砺幸せ未来基金】 地域の思いを地域の知恵と資金で自ら実現する仕組みづくりを進めます。 人や自然、文化などの地域資源を活用しながら、若者のやる気に溢れる活動や地域が抱える諸課題を解決する活動などを応援することで、地域を元気にし、未来の南砺を創るための仕組みとして基金を活用します。基金の運営を通して、資金だけでなく、人と人をつなぐことで、支え合う地域の力を育てます。</p>
3 11 16	<p>【南砺市の地域包括ケアシステム】 南砺市は専門職が担う統合ケアの部門は整備されていますが、住民主体の支え合いの部門は不十分です。 住民が主体的に活動し、役割を持ち地域と繋がる体制の構築を進めます。 行政や専門職は住民を側面から支援する役割を担います。</p>
備考	<p>南砺市は、エコビレッジ推進課がSDGs担当部署となり、次年度（2019年）SDGs未来都市への申請を目指し、現在積極的に政策をとりまとめている。</p>



団体名	氷見市（企画政策部）		
団体区分	自治体	所在地	富山県氷見市鞍川1060番地
調査日	平成30年9月	調査方法	資料調査及びヒアリング

SDGs取組状況	未定
----------	----

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
4	「ぶり奨学プログラム事業」氷見市で育った子どもたちが、更なる成長のために進学し、氷見市に戻って未来のために活躍できるよう支援する事業。利子助成金交付、交流事業、就職支援事業等からなる。（H29交付実績 30件 106千円）
1,3,4,8,11,14,15,17	「おらっちゃ創生支援事業費補助金」豊かで住みよい個性あるふるさとづくりを推進するため、コミュニティ活動、コミュニティ施設整備等に対して助成。（H29交付実績 16件 10,086千円）
11,13,14,15,17	「世界農業遺産調査検討事業」世界農業遺産及び日本農業遺産の認定に向けた調査・検討等を実施。（H29実績 3,761千円）
11	「地域ぐるみ除排雪推進事業」中山間地域の公共用道路や高齢者世帯の除雪のために、自治会に対して除雪機を貸与する事業。（これまでの実績 20地区）
11,17	「協働のまちづくり推進事業」持続的な地域運営組織の市内21地区での設立を目指す事業。（21地区中6地区設立、2地区準備会設立 3,158千円）
7,11,13,14,15,17	「地域おこし協力隊事業」外部人材を活用して地域や団体等による地域づくり活動を支援するとともに、任期終了後の起業や定住を促進する事業。（H29実績 47,460千円）
3,7,11,17	「NPOバス運営推進事業」公共交通機関がなくなっても地域で暮らし続けることができるよう、地域のNPO法人が運営するNPOバス事業について、運行費・車両等購入費を支援するもの。（H29実績 25,262千円）
3,7,11,17	「生活路線バス運営推進事業」地域住民の生活を守るため、市内で運行する路線バスの維持確保を支援するもの。（H29実績 4,628千円）
備考	SDGsと絡打った取組はしていないが、企画政策部が関心を示している。



団体名	北酸株式会社		
団体区分	企業	所在地	富山県富山市本町11番5号
調査日	平成30年9月	調査方法	資料調査及びヒアリング

SDGs 取組状況	計画中
-----------	-----

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
2	木質バイオマスのカスケード利用末端を担う、木質発酵熱利用農法の確立により実現。
3	軽度認定者へのサービス拡充により、介護度の進行を抑制、介護保険制度の負荷低減。重油→LPGへの燃料転換推進により、排気ガスをクリーン化することで実現。
5	個人面談、人事評価、目標管理シート、現行体制で実施中。 性差に起因する従事可能業務や勤務形態の相異について、不平等感のないように実施、評価ができる人事体系の構築を進めている。
6	排水処理（曝気槽、炭酸中和）アプリケーションの展開により実現させる。 重油→LPGへの燃料転換推進により、排気ガス由来の酸性雨を減少させることにより実現させる。木質バイオマスの適性利用により里山保全を実現する。
7	太陽光発電力の自家消費、太陽光発電力へのアドレス付与による遠隔地消費、余剰再生可能エネルギーからの水素生成及び水素エネルギー利用体系の構築、木質バイオマスの生産地域内消費により実現。エネルギーの地産地消をポリシーとし、エネルギーの生産～移動～利用まで全て網羅し高効率利用を行うことで実現。日本国内の内需減少→海外に活路。インドネシア・スマラン、バリ等における低炭素事業の拡大発展により実現。JCMに基づく支援プログラムによる、インドネシア向け低炭素事業の拡大発展により実現。
8	人口減少が予想される中、男性を中心とした採用体系には限界が見えているため、体力の必要なガス事業以外での女性採用を実施する。

9	<p>海外からの資源搾取ではなく、エネルギーの地産地消システム構築により、エネルギー自立化地域の拡大を実現する。新たなガスアプリケーション展開によるレシピ変更、プロセス改善等により実現させる。衣類乾燥機は高熱量のLPガス利用により、短時間乾燥が可能。洗濯により生地が傷まず、省資源に資することが可能となる等、製品及びサービスのライフサイクル上、最適なアプリケーションの展開により実現する。環境配慮型商材（リサイクル樹脂）の拡販。顧客と共同で実施するVEの推進のうち、延命化による相対的コストダウンを実施する。環境配慮型商材（高性能クリーニング樹脂、高性能フィルター等）の拡販により実現する。</p>
11	<p>木質バイオマスのエネルギー化により、里山保全、水源地域保全、雇用確保など、農山村コミュニティを保全することで、食糧生産地域を持続させることの出来る循環を形成する。</p>
12	<p>実態調査を踏まえ、省エネルギー・エネルギー利用適正化を推進する。（環境省・省エネルギーポテンシャル診断事業等、公的支援策の積極活用） 産官学パートナーシップにより、日本の木質バイオマス利用に最適な少容量木質バイオマスガス化CHPの開発を進行中。その完成、拡販をもって実現し総合エネルギー効率80%のシステムで地産地消を実現。基礎化学品及び、その副生成物の利用用途開発を広く展開し、廃棄される化学物質を減じる。顧客のグリーン調達ガイドラインを遵守し、廃棄物の環境影響低減に寄与する。リサイクル材（フライアッシュセメント等）の拡販により実現する。再生樹脂の拡販により樹脂リサイクル循環を形成する。部品リサイクル、リストア事業の推進による廃棄物削減。医療器具、福祉用具のレンタル事業拡充により、廃棄物を大幅に削減する。</p>
13	<p>災害対応バルク等、LPGの有する分散貯蓄型エネルギーという特徴を活かし、近年の多発災害に備える。高効率エネルギー利用システム、高生産農法の確立と、それによるエネルギー・食料の地産地消により、レジリエンスの向上を実現。</p>
14	<p>高性能水処理剤の拡販により汚染物質の排出を削減する。燃料転換、排水処理、ガスアプリケーション等、ガスビジネス拡充によって実現する。重油→LPGへの燃料転換推進、省エネルギーによる利用量最適化等により実現する。化石燃料由来エネルギーからの脱却によって、排出する化学物質を低減することで実現。</p>
15	<p>木質バイオマスのエネルギー化と高効率利用によって、森林の持続可能な利用を実現。木質バイオマスの最適な利用形態の確立と、それに付随するサプライチェーンによって、森林間伐による健全化により実現。スギ・ヒノキを中心とした人工植林により失われた生態系の回復の為、地域特性に最適な植林の実施により実現。</p>

17	<p>富山市の進めるインドネシア・スマラン、バリ、マレーシア・イスカンダル等、自治体との連携や、バンドン工科大等、学術機関との連携、日本の国際協力機構の協力等をもって実現。SDGsの浸透と市民意識の向上から、「市民信託」の活用へと繋ぐことで実現。経済発展に伴い、更なる電力需要が求められるインドネシアに対し、PKS等、不要バイオマス資源の地産地消システム導入の展開により実現。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業内容：高圧ガス販売事業/医療品製造販売事業/液化石油ガス販売事業/一般建設業/毒物劇薬物一般販売事業/介護保険法による福祉用具貸与事業 ・ 従業員143名、資本金4700万円、設立：昭和12年10月2日 ・ CO2削減や再生可能エネルギー（水素エネルギー等）に関する取組を積極的に進めており、SDGsにも強い関心を示し、SDGs担当チームを設け、本業への本格的な導入を進めている。



団体名	大高建設株式会社		
団体区分	企業	所在地	富山県黒部市宇奈月温泉633-1
調査日	平成30年9月	調査方法	資料調査及びヒアリング

SDGs取組状況	計画中
----------	-----

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
9,11,12(b),13 (1),13(3),15	土木事業：北アルプスの山岳地帯から海浜まで、黒部川流域の電源開発、砂防堰堤、治山、トンネル、河川護岸、海岸整備などの土木工事への取組/道路が通じていない山岳地帯での大規模土木工事のノウハウや、自然景観との調和を図る独自工法の開発、DKポンド工法、ノンフレーム工法等の環境に有益な施工方法の応用
9,11,13	建築事業：地域のゼネコンとして、行政関係の施設、教育・文化施設、医療・福祉施設、宿泊・商業施設、一般住宅の建設
7,8(9),9(4),12	再生可能エネルギー事業(地熱・地中熱利活用/小水力発電)：地下水を空調や給湯、融雪に利用するための熱交換器を自社開発し、市販されている地中熱ヒートポンプシステムと組み合わせて様々な熱利用システムを提案・販売・施工
1,4,13,15, 17	海外事業(土木技術を海外で活用)：ミャンマーで現地法人を設立し、現地のメンテナンスや調査、診断といった周辺ビジネスから参入し、日本人と現地の技術者らをスタッフとし、現地企業との連携や事業展開の可能性を探る
3,5,8	「イクボズ宣言」「健康企業宣言」：男女ともに仕事と家庭の両立が可能な職場環境づくりを推進する「イクボズ宣言」を導入/労働生産性を高め企業価値の向上につながる従業員の健康経営への取組み
8,11,12	地域貢献への取組み：夏の草刈作業と冬の除雪作業の行い、地域の祭り、清掃活動やマラソン等の地域の活動への積極的な参加及応援
備考	●事業内容：総合建設業/工事の測量・設計及び監理/不動産業/再生可能エネルギー事業/海外事業●資本金2,002万円、従業員60名、設立：昭和29年4月1日●代表取締役社長の大橋氏が持続可能な社会形成へ強い関心を持っており、地域循環型の地域づくりを目指す一般社団法人「でんき宇奈月」も設立し、小水力充電による電気バスの運行や木質バイオマス燃料の検討などを進めている。SDGsに関しては、担当者を決め、本業に取り込むことを具体的に検討している。



団体名	富山県生活協同組合		
団体区分	団体	所在地	富山県富山市金屋555
調査日	平成30年7月	調査方法	資料調査及びヒアリング

SDGs 取組状況	実践中
-----------	-----

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
1	けんせいきょう祭りでフードドライブ※を実施 ※家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄りそれらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動
3	高齢化が進む地域の中で在宅サービスや住まいの支援サービスを提供
4	組合員活動各種講座 消費者市民社会活動
6	コアノンスマイルスクールプロジェクト：トイレットペーパーを1パック購入するとアンゴラ共和国の「子供にやさしい学校づくり：衛生的な給水施設ができ、手を洗うことの重要性を実感してもらう」ために1円が募金させる取組の普及
7	太陽光発電の運用の推進
8	ワークライフバランス：ノー残業デイ、リーダーへの代休取得の推進
9	商品カタログ、牛乳、たまごのパック等回収の推進、回収率向上
10	ユニセフ支援活動
11	地域見守り活動/被災者支援活動（保養プロジェクト他）
12	地産地消/環境配慮商品普及/エシカル消費推進
13	電気ダイエットコンテスト/食品ロス削減活動
14	海洋環境配慮食品の普及/海岸クリーン作戦
15	森林環境配慮食品の普及/各種環境学習会の開催
16	ピースアクションINヒロシマに参加/平和署名活動（ヒバクシャ国際署名）
17	地域団体、NPO、行政、自治体等との連携
備考	日本生活協同組合連合会が2018年6月に「コープSDGs行動宣言」を採択。それを受け、富山県生活協同組合も独自にSDGsへの対応方針（上記）をまとめた。



団体名	社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会		
団体区分	団体	所在地	富山県黒部市金屋464-1
調査日	平成30年9月	調査方法	資料調査及びヒアリング

SDGs 取組状況	計画中
-----------	-----

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
1 (2) 16 (2)	地域包括支援センター、 日常生活自立支援事業
11 (2.3.a)	黒部市全域での包括的な見守り体制「くろベネット」 わが事丸ごと地域共生社会
17 (17)	地域福祉推進の中核的存在である社協そのものの機能
備考	経営戦略係長の小柴氏がSDGsに関心が高く、「黒部市地域福祉活動計画」にSDGsのコンセプトを取り込む準備を進めている。



団体名	一般社団法人 立山黒部ジオパーク協会		
団体区分	団体	所在地	富山県富山市牛島新町5-5
調査日	平成30年8月	調査方法	資料調査及びヒアリング

SDGs 取組状況	計画中
-----------	-----

SDGs (ターゲット, 実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
4	自然と共生するための基礎として、ジオパークにおいて、自然、人の歴史・文化の土台となる大地（地球）の成り立ち、大地と自然・歴史・文化との関係を明らかにし理解することを重視している。学校や生涯教育で「ジオパーク教育」を実施している。
8	持続可能なツーリズムを目標にジオツアーを実施している。自然に負担をかけず、上記の要素を入れたツアーを実施している。自転車は自然に負荷をかけない移動手段で広域に回れるため、実施回数を増やしたい。
11	ジオパークは保全すべきものを、ジオサイト、自然サイト、文化サイトに指定し、地域の人に地域資源に誇りを持っていただき、行政とともに保全している。また、国立公園などでは法律によって禁止事項が決められている。
12	学校や生涯教育で持続可能な開発の基礎事項である地域資源の重要性を説明し保全意識を啓発している。ジオガイドは時給2,500円を頂き、小遣い稼ぎ程度にはなっている。
17	ジオパークは地域の住民、研究者、博物館、事業者、自治体等で作るパークであり、地域の協力体制、絆の形成に役立っている。また、国内外のジオパークとのネットワークがありノウハウ、情報を共有し相互のレベルアップを図っている。
備考	県東部9市町村からなる立山黒部ジオパークは、日本ジオパークにも認定されており、標高3,000m級の立山連峰から水深1,000mを超える富山湾まで、自然、歴史、生活、食、文化などを通して地球の多様な物語を楽しむことができる。本協会は民産官学が連携した取組みを行っている。



団体名	金沢市		
団体区分	地方自治体	所在地	石川県金沢市広坂1丁目1番1号
調査日	平成30年9月	調査方法	資料調査及びヒアリング

SDGs 取組状況 計画中

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
1	子どもの貧困対策基本計画（H31～H33）
9	新産業創出ビジョンを策定
11	文化芸術と産業経済との創造性に富んだ都市と定義づけられる創造都市について、各種施策を推進。ユネスコが2004年に創設した創造都市ネットワークについて、2009年に工芸分野で認定。ネットワークを生かして世界の創造都市との交流を実施。
17	連携中枢都市圏（石川中央都市圏）施策の推進
備考	SDGsと絡打った取組はしていない。



団体名	石川県白山市		
団体区分	自治体	所在地	石川県白山市倉光二丁目1
調査日	平成30年8月	調査方法	資料調査（「白山市SDGs未来都市計画」より）

S D G s 取組状況 | 実践中

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
4(4),8(2)	<p>① 「白山ソサエティ」の創出：「白山ソサエティ」全体の環境データの収集を行う為のIoT等通信網を整備すると同時に、水域・森林・生活空間にセンサーやカメラ等のデータ収集デバイスを設置することで、白山未来都市のデータレイクを構築し、データを活用した都市ソリューションを創出する企業を呼び込み、市民や大学の参画を含めたSDGsプロジェクトの実践を通じてSDGs未来都市に適用可能なソリューションを創出する。</p>
4(3)	<p>② 産学官民の共創：企業が取り組むソリューションの創出に市民・学生が参画する「SDGsプロジェクト」を発足し、健康寿命延伸や一次産業の生産性向上といったテーマに基づいた社会実践および実装の為に体制を構築するとともに、IoT・BD・AI・ロボット技術に関する最新の技術の動向やデータを活用した様々な社会課題解決に用いられるソリューションについて、座学及びハンズオン形式で学ぶ学習機会を全市民に対して提供し、産学官民共創で地域の社会問題の解決に取り組む。また、金沢工業大学との連携により、各国の学生が集い、現地滞在型によって社会課題解決に取り組むラーニングエクスプレスに、白山手取川ジオパーク推進協議会が取り組んできた教育の実績を関連させ、ASEAN諸国との市民レベルでの交流が深まりとともに、自然環境の保全および活用が推進され、白山手取川ジオパークの世界的価値が高まる。</p>

4(4),5(b),8(5)	<p>③ 女性の社会進出の礎：データ活用スキルを有した女性の活躍を目指すため、金沢工業大学と連携し、家庭や地域で多忙を極める環境を配慮した育成計画を策定し、方針を定めた上で、女性が学習しやすい環境整備を図る。金沢工業大学における学部の教養教育や問題発見解決型教育にAI等のデータ活用技術を盛り込んでいる教育実践のノウハウを活用し、本市全てのエリアの中で、女性を対象としたSDGsに関する知識修得を図る機会と、データ活用を推進する学習機会を継続的に提供する。組織に所属する女性社員や、自宅で子育て等によって社会への参画が難しいとされる方、さらには子供が育ち新たに社会参画を望んでいる方々等を対象に、自然言語等を扱うテキストマイニングを活用するスキルを提供する。働き方改革が推進される中において、組織内に蓄積される膨大なテキストデータを、組織の生産性を高めることや価値創造につなげることが求められる中で、SDGsへの理解を深めかつ、テキストマイニングのスキルを有した女性の方が、山間部から平野部・海岸部に所在する組織やコミュニティに参画することで、SDGsの普及促進およびデータ利活用スキルを身に付けた女性の社会進出に向けた礎を築く。</p>
備考	SDGs未来都市



団体名	石川県珠洲市		
団体区分	自治体	所在地	石川県珠洲市上戸町北方1-6-2
調査日	平成30年8月	調査方法	資料調査（「珠洲市SDGs未来都市計画」より）

SDGs取組状況

実践中

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
4(7),6(6),8(3,9),11(4),12(8)	① 課題解決型の人材養成事業の発展 の人材養成事業の発展 の人材養成事業の発展：過疎地でイノベーションを担う人材を育成する（能登里山里海マイスター育成プログラムの第4フェーズ）。
6(b),8(3,9),12(8),15(c)	② 地域循環共生圏（持続的な地域保全活動）の構築：地域の自然資本、社会資本を増強するビジネスの推進を通じ、地域循環共生圏の構築を目指す。
4(7),6(6),8(3,9),11(4),12(8),15(1,5)	③ 能登SDGsラボ（仮）の設立運営
6(6),8(3,9),12(8)	④ 域学連携の推進：過疎地の年齢別人口グラフの“谷”である20歳前後世代の「学生」の交流・滞留を促進し、関係人口及びUターン者の促進を目指し、珠洲市内のSDGsに理解のある企業を組織し、学生のインターンシップを受け入れる。県内の日本青年会議所（JC石川）などとの連携で地域の課題解決に学生を参画させ、大学コンソーシアム石川の単位取得項目に掲載することや学生を対象にした里山里海ビジネスコンテスト（仮称）などを実施する。また、奥能登国際芸術祭など先端アートプロジェクトの関連行事、サイドイベントなどに大学が参画、またはバリアフリー、ジェンダーフリーの企画を提案する。
8(9),12(8)	⑤ 先端アートプロジェクトによる地域の魅力発信及びインバウンド促進

11(4),15(1,5)	<p>⑥ 国内外地域との連携支援の拡大：G I A H S 認定エリア（19 か国、49 地域）相互の情報交換や連携を進めていくことにより、関係人口の拡大や国際交流を進め、地域資源の活用（商品開発、流通など）や異文化交流を通じた国際貢献を進める。また、国際的なネットワークでの交流を通じ、商業的な観光視点としてではなく、能登G I A H S の価値の普遍性を地域が国際社会と共有する仕組みを構築する。国際交流及びインバウンド事業に理解のある能登里山里海マイスター育成プログラムに関連する人材を巻き込むことで、地域循環共生圏構想の持続的な観光シーズを創り出す。</p>
備考	SDGs未来都市



団体名	金沢工業大学		
団体区分	教育機関	所在地	石川県野々市市扇が丘7-1
調査日	平成30年7月	調査方法	資料調査 (K.I.T. SDGs Report より)

SDGs 取組状況	実践中
-----------	-----

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
10	障害者スポーツ支援の為に危機・装置の開発
1,7,13	モザンビーク無電化村での小規模電化プロジェクト推進による、生活向上。
9,11	災害に強い建築物を実現する素材の開発。普及
3(6)	地域における交通安全対策 野々市市交通安全協会と協力して学生の自転車マナー向上の呼びかけや安全意識向上の取組を行い内閣府のH29年度交通安全功労者表彰を受賞した。
3,4,5	女性職員の7働きやすい職場づくり。
1,6	アジア諸国の農村部における課題解決のための取組。
10,11	外国人住民の生活サポート
17	SDGs ビジネスの活性化。 (公社)金沢青年会議所、国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット、JICA北陸、(株)フロムファーイースト、(一社)BoP Global Network Japan等さまざまな組織とのパートナーシップで協働し、学生がSDGs ビジネスの実践者としての能力を養う機会を創出。
備考	学部・学科を超えた全学体制によりSDGsに貢献することを明言している。SDGsの研究者、平本督太郎氏が所長を務めるSDGs推進センターも設置されている。第1回「ジャパンSDGsアワード」SDGs推進副本部長(内閣官房長官)賞を受賞。



団体名	コマニー株式会社		
団体区分	企業・土木業	所在地	石川県小松市工業団地一丁目93番地
調査日	平成30年9月	調査方法	資料調査（ホームページ等より）

SDGs 取組状況	計画中
-----------	-----

SDGs (ターゲット、実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
8,9,11	<p>間仕切商品の発売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高耐震間仕切Synchron ・避難安全検証法対応ドア『FCD』 ・耐火ファクトリーブース『まもっ太郎』
12	<ul style="list-style-type: none"> ・お取引先様への満足度調査の実施
7,15	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全委員会による目標設定と実践 ・廃棄物処理の低減活動 ・分別の徹底によるリサイクル率向上 ・照明LED化や400kWの太陽光発電設置
5, 10	<ul style="list-style-type: none"> ・育児休暇、時短制度などの育児対応 ・介護に対する各制度 ・一切区別のない人事評価制度
1, 3, 4, 6	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地ボランティア活動 ・平和を考えるピースフレームムーブメント ・カンボジア井戸、図書館支援 ・各種募金
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・パーティション（間仕切り）の製造・販売・設計等のリーディングカンパニー。オフィスビル、工場、教育、医療、福祉、商業、公共施設などあらゆる空間で、機能性やデザイン性を追求した空間・間仕切製品のご提供を日本をはじめ、中国や東南アジアなどグローバルに展開。 ・2018年4月に「コマニーSDGs宣言」を発表し、SDGsに貢献することを明言。9月には事業とSDGsの各Goalとの関係性や繋がりを明確に示すリンクージュ図「コマニーSDGs∞（メビウス）モデル」を発表。



団体名	国連大学サステナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット		
団体区分	国連機関	所在地	石川県金沢市広坂2-1-1 石川県政記念しいのき迎賓館3階
調査日	平成30年7月	調査方法	資料調査（ホームページより）

SDGs取組状況	実践中
----------	-----

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
11,14,15	世界的に見ても豊かな自然と文化が残る石川を生物文化多様性保全モデルとして、石川の里山里海や食文化、伝統工芸、建築、景観、歴史、金沢の都市文化等をそれぞれの地域の水平連携を促進するだけでなく、従来の原料供給地と消費地という関係を超えた、都市と里山里海の創造的で新しい関係性を模索し、研究活動を通じ国際社会に発信することで、地方レベルから国際社会への貢献を目指して活動している。
17(16,17)	国際ネットワーク –草の根の活動と国際社会をつなぐ-/各地域との連携 –地域の多様な主体との協働–
4(7)	人材育成 –地域資源の価値を国際的に提供できる人材育成–
備考	石川県、金沢市そして国連大学が共同で設立・運営している機関。地域のフィールドからの学びを国際的な議論に直接結びつけることで、地域の生物文化多様性保全に関する協働研究、人材育成など様々な事業を実施している。なかでも、地域の様々な関係者が共通の価値を共有しつつ、政策対話を行えるプラットフォームとなる「石川かなざわモデル」の構築を目指している。



団体名	福井県環境政策課		
団体区分	自治体	所在地	福井県福井市大手3丁目17-1
調査日	平成30年8月	調査方法	資料調査及びヒアリング

SDGs取組状況	未定
----------	----

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
4,6,11,17	<p>せせらぎ定点観測</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者：幼稚園～小学生（中学生も参加） ・福井県内8河川において、水質調査・水生生物調査※環境省みずしるべ利用 ・川流れ体験 Eポート・SUP体験など
4,12,14,17	<p>漂着物調査・漂着物アート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者：小学生（H30：小学4年生1クラス） ・福井県内の砂浜で、漂着物（人工物）調査・マイクロプラスチック調査※NPEC協賛 ・授業時間を利用し、漂着物アート教室
4,5,7,8,9,10,16,17	<p>若手環境教育リーダー育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者：大学生、短大生 ・福井県内の大学生が小中学生を対象に環境教育プログラムを企画・実施。 ・プログラム審査会を行い採択された5団体に支援。報告会も実施
備考	SDGsと銘打った取組はしていない。



団体名	福井県鯖江市		
団体区分	自治体	所在地	福井県鯖江市西山町13-1
調査日	平成30年9月	調査方法	資料調査（市ホームページ、市長ブログより）

SDGs取組状況 実践中

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
4,17	「持続可能な地域モデル"めがねのまちさばえ"」の確立のために、SDGs推進本部を設置し、セミナー等の啓発活動や、経済界、市民団体、大学等とのパートナーシップ構築を進めている。
5	特に、「女性が輝くめがねのまちさばえ」と謳い「ジェンダー平等実現」を目指している。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ★「持続可能な地域モデル"めがねのまちさばえ"研究チーム」の設置（2017年5月） ★「持続可能な地域モデル"めがねのまちさばえ"キックオフミーティング」の開催（2017年12月） ★「持続可能な地域モデル"めがねのまちさばえ"研究チーム」研究報告会（2018年5月） ★"めがねのまちさばえ"SDGs推進本部設置（2018年5月） ★2018国連ニューヨーク本部SDGs推進会議において市長スピーチ（2018年5月） ★さばえ男女共同参画ネットワークSDGs研修会（2018年7月） ★鯖江市内の郵便局と鯖江市との包括連携協定の締結（2018年8月） ★（株）TBMと慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、鯖江市による相互連携協定の締結（2018年8月） ★エコネットさばえ主催「SDGsってなあに？Parts2」の開催（2018年8月） ★地方創生SDGs官民連携プラットフォームキックオフイベントでの事例発表（2018年8月）



団体名	仁愛大学		
団体区分	教育機関	所在地	福井県越前市大手町3-1-1
調査日	平成30年8月	調査方法	資料調査（ホームページより）

SDGs 取組状況 実践中

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
4	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
5	女性の参画およびリーダーシップの促進と、多様な性を尊重し、マイノリティへの差別のない社会の構築をめざす。
10	犯罪や格差の少ない安心安全な社会を実現するために、産官学が連携したICTを用いた地域活性化課題に取り組む。
12	シェアリング・エコノミーや観光まちづくり等の取組を通じて、地域を活性化する。
17	グローバルパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。
備考	仁愛大学人間学部コミュニケーション学科では、2018年度学長裁量経費による活動として、「コミュニケーション学科型SDGsの開発～地域連携教育の実践と体系化～」に取り組んでいる。



団体名	長野県（環境部環境政策課）		
団体区分	自治体	所在地	長野県長野市南長野幅下692-2
調査日	平成30年9月	調査方法	資料調査及びヒアリング

SDGs取組状況	実践中
----------	-----

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
4,12	<p>【幼児期における環境教育の推進】 豊かな自然環境を活用し、屋外を中心とした体験活動を積極的に行う県内の保育・幼児教育施設等を県が独自の基準で認定する「信州型自然保育認定制度」の運用（信州やまほいく）により、幼児期の子どもの豊かな育ちを推進。</p>
7,8,9	<p>【環境エネルギー分野の産業の促進】 省エネ性能の高い建築物に使用する断熱部材や再生可能エネルギー事業の普及に資する発電システム、地域への再生可能エネルギーによる電気の供給など、県内事業者による環境エネルギー分野での技術やノウハウの製品化・サービス化の取組を促進。</p>
2,9,11,13	<p>【気候変動への適応対策】 行政、企業、研究機関等の49機関で設立した「信州・気候変動適応プラットフォーム」において、気候変動の影響予測・評価や適応策に関する多様なニーズ・シーズを共有し、適応策の検討及び社会実装を分野横断的に推進するとともに、県民・企業とのリスクコミュニケーションを活性化。</p>
8,15	<p>【自然保護センターの機能強化】 自然公園の利用指導や情報提供を中心に行ってきた自然保護センター等について、「ネイチャーセンター」としての機能を高め、エコツーリズムや自然保護活動の拠点として、誰もが気軽に自然を学び楽しめる環境を整備するとともに、研究活動の場の提供や地域活動の支援を推進。</p>
6,8,14,15,17	<p>【諏訪湖創生ビジョン】 「諏訪湖創生ビジョン」に基づき、地域住民、関係機関と連携し、諏訪湖の水質保全や生態系保全、観光振興の取組を進めるとともに、自然環境に配慮した水辺整備、サイクリングロード等の整備を推進。</p>
3,8,11	<p>【光害（ひかりがい）対策】 星空観察など信州の美しい星空を活かした県内の取組を支援し、旅行商品造成の促進に取り組むとともに、県内各地の星空観光の魅力を全国に向けて発信。</p>
2,12	<p>【食品ロスの削減】 家庭で不要な食品や規格外等の食品をフードバンク等へ円滑に提供する仕組みづくりを進め、食品ロスを削減するとともに、生活困窮者等を支援。</p>
備考	SDGs未来都市



団体名	里山ウェルネス研究会		
団体区分	任意団体	所在地	長野県飯山市大字豊田1105
調査日	平成30年9月	調査方法	資料調査（ホームページより）

SDGs 取組状況 実践中

SDGs (ターゲット・実施手段)	関連する現状の施策・事業内容
3	森林セラピー等による認知症予防促進事業
8(5,6)	里山体験を通じた障がい者雇用促進事業
4(7)	里山体験を通じた環境教育事業
7,11,12, 13,15,17	里山に関わるライフスタイルから、エネルギー、循環型社会を考慮した地域づくり・街づくりを応援するために行政や企業と連携、意見交換、支援、政策提言を行う。
備考	エコロジーオンラインが中心になって立ち上げた団体。2018年8月、環境省の「持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」を受託。

8.2.2. 対象自治体等向け勉強会（ワークショップ）の実施

【第1回】

- ① 日時：平成30年10月10日（金）13:30～16:30
- ② 場所：富山県民共生センター「サンフォルテ」304室
- ③ タイトル：「地域におけるSDGs実践セミナー」【Input Day】
- ④ 講師：蟹江憲史（かにえのりちか）氏
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授。国連大学サステイナビリティ高等研究所シニアリサーチフェロー。SDGs策定過程で研究者の立場から提言し、政府のSDGs推進本部円卓会議構成員も務める。
- ⑤ 参加者：（ア）の調査を経てSDGsの理解促進に高い関心を示した自治体・企業等12団体19名
 - 富山県環境政策課企画係 主任 長勢香苗
 - 富山市環境政策課 主査 竹田法信/主任 室井宏友
 - 南砺市エコビレッジ推進課 課長 久保剛志/主査 藤田智晃
 - 氷見市 企画政策部地域振興課 主任 坂下洋昭/企画秘書課 主任 中野隆介
 - 黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係長 小柴徳明/高村千恵美
 - 大高建設株式会社 土木部 田 恵芬/フロンティア事業部 町野美香
 - 北酸株式会社 総合企画部企画開発室リーダー 藤井 晃/管理本部 総務部 黒川智子
 - （一社）立山黒部ジオパーク協会 専務理事 今堀喜一/シニアアナリスト 小谷智志
 - 金沢市都市政策局企画調整課 主査 弥村圭一
 - 福井県環境政策課 企画主査 小柳雅史
 - 長野県環境政策課 企画経理係 係長 松井 博
 - 社会福祉法人 賛育会豊野病院 事務長 松村 隆
[オブザーバー]
 - 平本督太郎氏（金沢工業大学）
- ⑥ 内容：

◇講義1「基礎編：SDGs概論（本質を理解する）」 [60分]

（要約）

SDGsの特徴：193カ国全ての国が合意している凄さ。2030年にはこういう世界にしようという形が集約されている。法的な義務はない。進捗のレビュー・評価システムはある。我々に丸投げにされている。理念は、誰一人取り残されない、世界を変革する。一歩ずつでなく一気に変える（リープフロッグ）。169のターゲットから成る。解くべき問題集が169ある、とも見立てられる。経済、環境、社会の3つのカテゴリーから成る。MDGsからの転換点：「深掘り」「量から質へ」「個別の状況に対応（テイラーメイド）」

背景：①環境問題の深刻化（プラネタリーバウンダリー）：図の真ん中の円をこえると地球のシステムがまわらなくなるとされている。今年出たIPCCらの報告書では限界を超えたかなり危険な状態との認識。②社会変化（情報技術、医療、テロ等々）も絡み合っている。

経緯：持続可能な開発：1972国連環境会議から 議長モーリスストロング（カナダ）国連人間環境会議 「人間環境宣言」人間と環境を扱う動きがでてきた。「原因は経済活動にある」と。「成長の限界」（ローマクラブの報告）：このままでは100年後に成長は限界を迎える。トランス報告に「持続可能な開発」という言葉が初めて紹介された。1992年の地球環境サミットなどを経て、環境と開発をはじめて一体化し具体的に動き出したのがSDGs。

策定過程：オープンワーキンググループ（2年）、多様なステークホルダーの意見が反映されたプロセス。セミナー形式でおこなった。皆で「OK」が出せた事柄を残した。皆が賛同できる形、ポジティブな形に落とし込めた。

特徴：①グローバルガバナンスとして新しい。ルールベースでない「目標ベース」であること。ルールはなく大きな目標だけをつくった。ビジョンが具体的に共有されている。ミライの姿・骨組みが示されている。骨組みから逆算して、今ないことを考える「発想の転換」ができる。一歩ずつの積み

上げではみえないことが、大きな目標を掲げることでみえてくる。法的拘束力がないため、様々な人たちが主体性を持って取り組める。宣言することが大事（例：トヨタは「チャレンジ」と表現している）。スマートフォンやインターネットが普及した自律分散的な現代社会には共通目標が必要。②包括的。システム思考：システムでアプローチ。すべてのターゲットが芽づる式になんらかのターゲットとつながっている。すべてのものにうまく叶うように新たに考える。つながりや全体を見る。入り口が 17 個ある、ととらえると良い。やっけていくと他とのつながりに気づき結果的に他にも取り組むことになる。ステップバイステップでだんだん全体に叶うようになっていく。③ものさしが新しい：ミライを基準にはかる、今を考える、どこまでその状態に近づいたか？どれだけ進化したか。数字で測る（ビッグデータ等）、衛星からみた地図を使う等、いろいろなはかり方で。数字に乗ってこないものにも配慮する（誰も取り残さないの理念で）：フィールドワークの情報など。SDGs 未来都市：進捗をどう測るかがテーマになっている、全国一律にしようとするのが難しい（例：文化水準＝図書館の数で良いのか？）。個別性と普遍性を考慮したものが検討されてきている。

【質疑応答】

- SDGs を機能させる力は、競争原理と考えて良いか？⇒競争原理と自然淘汰
- 企業だけ頑張ってしまうようにもとらえられるが、誰一人取り残さない、との整合性はどうかとらえたら良いか⇒結果もプロセスも「誰一人取り残さない」。やれる人がやれるところからやれるように始める、のが最初。そうすると、とりこぼしがでるかもしれないので、「誰一人取り残さない」というメッセージが必要になる。
- 同じ目標における企業間の連携、利害関係が絡むが、そこは SDGs に織り込まれているか？⇒織り込まれていない。いろんな主体がいまやりながら模索している状態。
- 行政の取組は、公平性を重視するあまり、そこに叶わずにこぼれる方々がいることがしばしば見受けられる。公平性と個別性（誰一人取り残さない）のバランスはどう考えたら良いか。⇒だからルールをつくっていない。目標ベースだからルールでの取りこぼしにも焦点を当てられる。SDGs には、マイノリティへの配慮が読み取れる。SDGs を用いれば、今まで光が当たってなかったところへ光を当てることができる。地方創生、限界集落なども取り残しととらえられるのではない。

(15:00～15:15 休憩)

◇講義 2 「実践編：SDGs を地域・本業に活かす」 [60 分]

世界の状況：ハイレベル政治フォーラム（毎年7月）様々な人々が集まりレビューする場、ショーケースを出す場。来年は首脳級のレビュー。いろんな国がベストプラクティスを出す。最初の4年はスタートアップ扱いだったので、いよいよ本格稼働に入る。

日本の状況：伊勢志摩サミットの直前に推進本部設置。実施指針をつくった。全ての省庁の羅列との声もある。来年改訂する予定。法律（基本法のようなもの）を作ったらどうかとも話をしている（行政を動かしていくために）。円卓会議、推進本部も設置。アワードも始めた。アクションプランも作成。3つの柱：society5.0、地方創生、ジェンダーと次世代。SDGs 未来都市の選定は、経済・社会・環境の3つがいかに織り込まれているかが審査のポイントになっている（統合的に）。補助金は1年しかない。いかに事業化できるかを考えるかが勝負。官民連携プラットフォームの設立。マッチング、分科会あり。

自治体の SDGs：自分たちのやっていることが 2030 年を先取りしている、自分たちは正しかったんだ、と誇りにつながる。公共性が保証された。共通言語：広がり、企業からの魅力。アイコンのタグ付けは広がり・連携につながる。日の当たっていなかったところへスポットライトを当てる効果がある。縦割り体質に横串をさすきっかけになる。できなかったことがやりやすくなる：プラスチック、再生可能エネルギー、ジェンダーなど。

産業界の SDGs：ヨーロッパでは ESG 投資がかなりのボリュームで増えている。SDGs へ貢献する企業を応援する風潮。中小企業ではもともと経営理念で SDGs に親和性の高い企業もある。社会的インパクト投資。産業界（特に中小企業）の行方を知ることができる。例：関東・車関係の企業が9割⇒ガソリン自動車EVに変わったら失業者が大量に…。そういうことを考えるヒントになる。経団連：企業行動憲章 存在意義を示すツールとして。共通言語として見やすくする。CSR におけるマッピングから始めている：バリューチェーン全体で。マッピングのみのところが現状まだ多い。リスクの管理として：命取りにもなる⇒SDGs に対応している企業との取引なら安心、ヨーロッパではかなり活発になっている。投資：責任投資原則（投資する側の責任）。ESG 投資、インパクト投資、SDG 投資。日本のこれから（金融行政）：オリンピック⇒万博⇒うまくつながるチャンス。ますます SDGs はやって損はない（むしろやらないと損をする？）。認証商品の普及：キリン（レインフォレストアライアンス）等。楽天：認証製品だけを扱うショップもある。買うときに値段しか今のところ情報がない：情報を出して、判断できる人に選んでもらう。ユニリーバは SDGs ターゲットに石けんを入れた。商品売るポテンシャルになっている。中長期形成戦略に盛り込む：ダイワハウス 2055 年のゴール。蟹江研究室でまとめた「日本への処方箋」：アクションへ向け、企業、自治体、いろんなレベルで活用できるのでは。コーヒーブアクションの創出に。静岡県は 5 大構想という総合ビジョンに SDGs を取り入れている。やる気があればいろんなことができる。

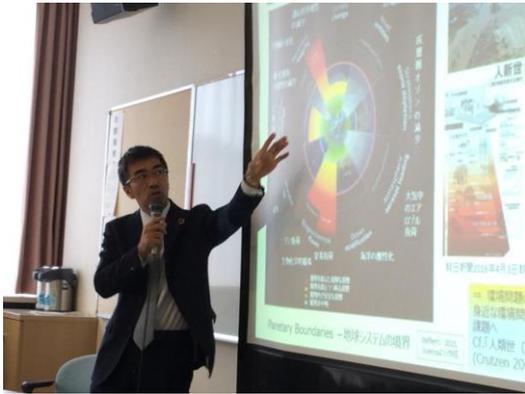
SDGs 大事なこと：行動すること。手元にあることを（まずは良いところの再認識を）。たとえば会議はペットボトルでなく水差しをつかう等。少しずつやる、測る、そして連携・広がり・ビジネス創出・持続可能な社会創出へとつなぐこと。

【質疑応答】

- 組織が大きいと担当レベルでは難しくなるが、どのようにやっていくのか。リーダーシップや横串の刺し方など。⇒神奈川県例：SDGs 担当理事はぶっとんだ人。知事がお墨付きを与えている。自治体はやる気のある人がいると変わる！という例。一人の人から始まる。とはいえ、難しい。反発もある。旗を立てていると周りが動き出す、レジリエントになっていく。
- 氷見鳩麦茶：地域資源だがペットボトルを使っているジレンマがある。⇒キリン：何かやりたがっているから、市とキリンとで宣言すると SDGs 的でよいのでは。ステップを踏む（何割かはペットボトル以外にする）。一気にやることにとられずに。少しずつやっていくとスタンプが増えその結果花丸になるように。
- バックキャストをどう説明したらよいか？目標設定をどういう風に伝えれば良いか？理想設定をどの程度にしたらよいか。⇒大きな理想像・ビジョンを設定してそれを達成するステップを設定する。ワークショップをすると良い。兵庫県長岡市の例（限界集落）：どう限界集落でなくすか、村の人口 800 人、議論をして全体として収斂していく。「いまがちょうどいい」「1000 人ぐらいがいい」「子供が戻ってこれるようにすればいい」等々、みんなで話すとビジョンが収斂される。意見が割れたら、それをまとめようとせずにそれぞれで具体化させてみる。そうするとおのずと全体最適がみえてきて収斂される。

◇グループシェア（8分）：感想などをグループで話し合った。

宿題：次回までにアクションプラン「次の一歩」を作成（5分プレゼン用スライド作成）



【第2回】

- ① 日時：平成30年11月15日（木）13:30～16:30
- ② 場所：富山県民共生センター「サンフォルテ」305室
- ③ タイトル：「地域におけるSDGs実践セミナー」【Output Day】
- ④ 参加者：11団体17名
 - 富山県環境政策課企画係 主任 長勢香苗
 - 富山市環境政策課 主査 竹田法信/主任 室井宏友
 - 南砺市エコビレッジ推進課 副主幹 寺田俊一/主査 藤田智晃
 - 氷見市 企画政策部地域振興課 主任 坂下洋昭/企画秘書課 主任 中野隆介
 - 黒部市社会福祉協議会 総務課 経営戦略係長 小柴徳明/高村千恵美
 - 大高建設株式会社 土木部 田 恵芬/フロンティア事業部 町野美香
 - 北酸株式会社 総合企画部企画開発室リーダー 藤井 晃/管理本部 総務部 黒川智子
 - (一社)立山黒部ジオパーク協会 シニアアナリスト 小谷智志
 - 金沢市都市政策局企画調整課 主査 弥村圭一
 - 福井県環境政策課 企画主査 小柳雅史
 - 長野県環境政策課 企画経理係 係長 松井 博
- ⑤ 内容：アクションプラン「次の一歩」発表
 (各団体：発表 [5分] +講師フィードバックと意見交換 [8分])

発表団体（発表者）	実践プラン「次の一歩」
黒部市社会福祉協議会（小柴氏）	黒部市地域福祉活動計画にSDGsのコンセプトを取り込む。 （NPOとして）NPOとJCとのコラボで教育コンテンツを開発する
氷見市企画調整課（坂下氏）	市職員へ向けたSDGs研修の企画・実施
福井県環境政策課（小柳氏）	既存の環境教育事業におけるSDGsとの紐付けと中高生向けの新規事業考案
北酸株式会社（黒川氏）	縦割りの事業部門をSDGsをキーに横串を刺す。

発表団体（発表者）	実践プラン「次の一歩」
金沢市企画調整課（弥村氏）	市としてSDGsに即した3つの目標（創造都市/新産業創出ビジョン/広域連携）を設定する。
一般社団法人 立山黒部ジオパーク協会（小谷氏）	持続可能なジオツーリズムの実現（お金を稼げるツアーの商品化）
富山県環境政策課（長勢氏）	環境教育等行動計画へのSDGsの取込・反映
南砺市エコビレッジ推進課（藤田氏）	エコビレッジ構想とSDGsを関連付け、SDGs未来都市へ応募する
大高建設株式会社（田氏）	①SDGs目線での事業内容優先課題決定 ②従業員へのSDGs研修実施
長野県環境政策課（松井氏）	SDGs啓発活動の実施（市民、企業等）
富山市環境政策課（竹田氏）	SDGs未来都市ビジョンを着実に実行していく。

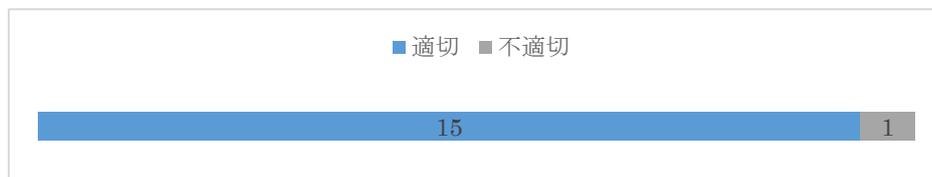


8.2.3. 勉強会開催時のアンケート結果

(回答数：16名/17名、回収率：94%)

8.2.3.1. 集計結果

(1) 開催時期について (第1回：10月10日 / 第2回：11月15日)



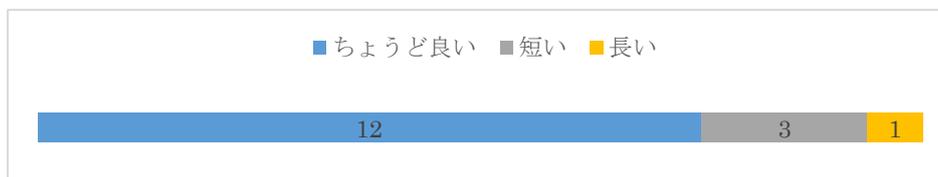
(2) 会場について



(3) 講師について



(4) 当日の時間配分について



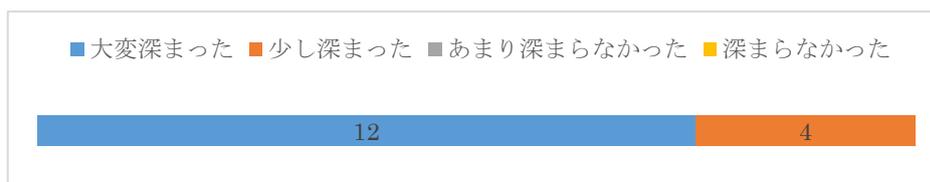
(5) 当日の進行・運営について



(6) セミナーの内容・構成について



(7) 本セミナーによる SDGs への理解度



(8) 本セミナーが所属団体の SDGs 実践・推進に役立つ内容だったか。



【大変役立つ】

- 各参加団体の取組はもとより、自団体に限らず、蟹江先生のコメントも 11 通りの回答があり、大変勉強になりました。
- 講師だけでなく、出席者たち（特に富山市さん、氷見市さん）の熱量に刺激を受けました。
- 受講により自信ができましたので、次のステップに進めそうです。
- 他の自治体、特に富山市さんのような先進地の状況を知ることができたのは大変有意義でした。

【少し役立つ】

- 自治体の方が多く参加されていたこともあり、どちらかという自治体向けの感じとなっていたので。
- 連携できそうな事項が見えた。

【あまり役立たない】

- 各市町の実践は大変参考になったが、「推進」となると、県の場合、他にも課題はまだあると思う。

【その他】

- 「わからない」と感じます。自分自身の勉強には非常になり、有意義でしたが、これを自治体レベルでどう実践に繋げるかとなると、もう少しかみくだく必要があると感じます。

(9) 本セミナー全体に対する意見・感想等

- 蟹江先生をお呼びするのは、大変な苦労があったはずですが、本当に本当に、イベントを企画された PEC さんに敬意を表したいと思います。他の役所や企業の方々と情報交流することで、相互的な刺激の授受があり、興味深かったです。
- 各団体の SDGs に対する取組みが勉強できて大変参考になりました。
- 3 回目として、2 回目の内容を実際に動いてみてどうなったかを話す機会があってもよいかと思う。
- 3 県はじめ多くの自治体が参加していたことは求心力、自治体の関心の高さを感じました。それに比べ、民間企業の参加が少ないのは意外でした。民間企業での取組実態はもっとあるのではないかと思いますのですが……。
- SDGs について、ほぼ全く知識のない状態での参加であったので、個人的な理解は深まったと感じています。ただし、講義や他の団体の事例等において、どのような取組が行われているかについてはイメージが持てましたが、事業を SDGs のゴールと結びつけることで具体的にどのような効果が期待できるか、または効果が現れたかについてはいま一つイメージが掴めず、今後取組を広めていくためにはそういった点での啓発が重要なのではないかと感じました。
- SDGs を学ぶ非常によい機会となった。参加者は当然ですが、実施者の皆様からも熱を感じることができ、よい刺激を受けることができた。感謝の気持ちでいっぱいである。

- とても勉強になりました。SDGs の担当を会社の上から指示されましたが、SDGs をゼロから勉強して、会社で SDGs をどう取り組むべきか全然アイデアが無くて、もやもやしてきました。このセミナーのきっかけで、これからどうすればいいかなんとなく分かるような気がしました。セミナーは前編と後編を分けて、前編で知識を勉強して、後編で実践を挑戦することができて、とても良かったと思います。
- 蟹江先生と近い距離でざっくばらんに話をすることが出来る機会には中々ないので、非常に良い体験が出来ました。
- 蟹江先生の講義にもありましたが、広域連携という観点は、SDGs を自治体が推進する上で大切だと思いますので、今後もこのような場を設けていただければと思います。
- 各自治体では、SDGs の理解を深めたいという潜在的なニーズは、これからも多く出てくるのではないかと思います。大変有意義なセミナーだと思いますので、継続していただくと幸いです。
- 自治体の比率が高く、自治体のプレゼン大会になっていたように思えます。一般企業は、SDGs をどうビジネスに展開するかを考えており、他社の事例を参考にしたいと思って参加した場合、不満を感じたかもしれません。バランスの改善を要検討と思います。
- 自分はまだまだ知識不足であったため、InputDay から始まり、1 か月開けて OutputDay があることで、入っていきやすくよかったです。ありがとうございました。
- 取組の妥当性についての悩みが解消された。
- 発表することで学びが深まるとともに、先生から客観的なアドバイスをいただくことで視野の狭さにも気づくことができた。
- 立ち止まっていた状態から、一步を踏み出すことができそうです。ありがとうございました。
- 初日は都合で出られなかったが、各市、事業所等のいろいろな考えが聞けたのでよかったと思う。
- 少しでも「SDGs」に関心を持っている人であれば間違いなく響く内容ですが、これを全体に広げる手法とすると、少し高度すぎる印象があります。特に自治体職員は「自分たちの業務が増えるのか」というところに重点を置いてしまう人も多いため、やり方には工夫が必要でしょう。むしろ、県を動かして「担当部課長向けセミナー」とか「市長・副市長セミナー」みたいに、トップを動かす手法を検討された方が、近道な気がします。
- 他の自治体や団体の行っている（もしくは行おうとしている）活動、事業がわかり参考になった。

(10) 今後、EPO 中部や PEC とやまに期待することや実施してほしいこと

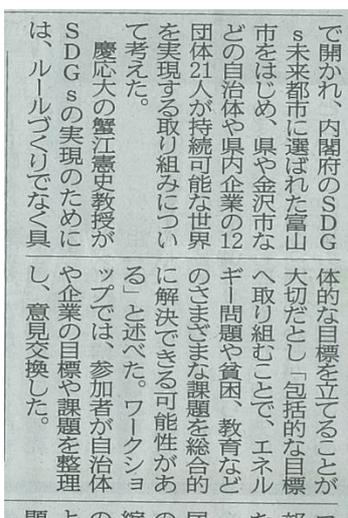
- ①認知度が低い理由は、SDGs に取り組まなければならない状況の説明・理解が前提であるが、それがなされていないと感じた。②環境省の西田主査の質問にあったように例えば「自治体はプラットフォームを用意し企業が利用する」構図になるよう誰かが仕向ける必要がある。自治体では動かないので、それを促す役割を担えばよいのではないのでしょうか。③企業・団体単独の活動に加え、連携があればその内容も発表したほうが良い。また、事業別、産業別、テーマ別の連携パターンを示し、実現すればもっと良くなることを理屈や、先進事例で説明するとよいのではないのでしょうか。この点は経済学の出番ではないのでしょうか。また、実現に向け働きかける役割を担うとよいと思う。
- SDGs に関するセミナーをもっと紹介して頂ければありがたいです。
- SDGs の取組がまだまだスタート地点ですので、有識者の方のセミナーを実施していただけると助かります。
- 一般企業限定の回があれば興味深いです。
- これから実際に会社内で実施していくことになるので、それに対するフォローアップをよろしく願いいたします。
- 気候変動教育に関して
- 今後の情勢、情報等がわかれば随時教えていただけたらと思います。
- 参加者募集型でなく、企業への派遣型でのセミナー開催を期待します。

- 次世代を担う学生にこそ SDGs を普及するためには、SDGs を教育現場に根付かせることが重要だと感じています。一方、学校現場では余裕がない状況であることも事実です。このようなジレンマに苦しみつつ、出る杭が突き抜けている、都立武蔵高校の山藤旅聞（さんとうりょぶん）先生に、SDGs 教育にかける熱い思いを語っていただくワークショップを開いていただき、県内の教育関係者（富大都市デザイン学部のESD担当教員、第一高校、国際大付属高校、ユネスコスクールの先生方など）にお聞きいただく、そんな場があれば、ワクワクします！！（私が市役所で企画しましたが潰されたヤツで、これは、本当にハードルが高くて、私の能力不足で。。。）
- 自治体、住民にとっては SDGs の概念がわかりにくいところがある。普及啓発を住民向けに行ってもらえると助かります。
- 自治体レベルではやりにくいこと、例えば、県境を越えた交流の場の創出など、各県のカウンターパートと連携していただければ、機運の醸成にも良いかもしれません。
- 長野県内の自治体でも、こうしたセミナーのニーズがあるのではないかと感じています。

8.2.3.2. 報道関係



(平成 30 年 10 月 11 日 北日本新聞)



(平成 30 年 10 月 11 日 富山新聞)





(平成 30 年 11 月 15 日 BBT テレビ「プライムニュース」)

8.2.4. セミナー参加者への振り返り調査

8.2.4.1. 調査概要

(1) 調査期間

平成 31 年 1 月

(2) 調査方法

セミナーに参加した 11 団体に、アクションプラン「次の一歩」の実現状況について下記のようなアンケートを取った。

環境省 EPO 中部『地域における SDGs 実践セミナー』事後調査票
(調査担当：一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま)

所属団体： _____ 役職： _____ 氏名： _____

1、昨年 11 月 15 日の標記セミナーにてご発表いただいたアクションプラン「次の一歩」の実践状況についてお教え下さい（下記 3 つからお選び下さい）。

【 実践中（または実践予定） / 実践できそうにない / 未定 】

2、1 の詳細についてお教え下さい。（具体的にどのような状況か、実践困難な要因等）
※もし参考資料がございましたら、併せて別添送付いただけると幸いです。

3、次年度も、地域における SDGs のさらなる推進を目指した研修会を企画しております。現時点での参加希望をお聞かせ下さい（下記 4 つからお選び下さい）。

【 ぜひ参加したい / 内容によっては参加したい / 参加しない / 未定 】

ご協力ありがとうございました。今後の活動に活用させていただきます。

8.2.4.2. 調査結果

(1) アクションプラン「次の一步」実践状況



(2) 詳細

団体名	事後調査	詳細
富山市環境政策課	実践中	平成30年8月に策定した「富山市SDGs未来都市計画」の事業を推進中/市役所内で課を超えたSDGsカードゲームセミナーを実施した。
南砺市エコビレッジ推進課	実践中	市の施策、事業をSDGsに紐つけ2030年モデルの構築を進めている。特に本市の施策の基礎となる「エコビレッジ構想」とSDGsの17のゴールを関連付け、実現可能性を高めている。また、内閣府の「SDGs未来都市」への応募に向けて作業中。
氷見市企画調整課	未定	庁内での調整等（担当部署がどこになるか、どうやって進めていくか等一般的にはまだできておらず、実施の可否については未定の状況。 アクションプランとは別の形で、地域おこし協力隊を下記のように支援する形で推進中である。 →H30.12.2 氷見市地域おこし協力隊員が運営するコミュニティスペース「ヒミヒラク」にて、富山市役所の竹田さんを講師に招いて「What's SDGs? カードゲームで考えよう!」という勉強会を開催。 →隊員の1名が現在ミッションの一つで実施している、「氷見市の魚の皮を「フィッシュレザー」として加工し、新たな産業・ブランドを立ち上げる」ミッションにおいて、SDGsの軸からブランドの構築を考え直す。具体的には、これまで魚屋等で捨てられていた魚の皮を再利用し、革製品として付加価値をつけてビジネスとすることで、地球環境に優しい越中式定置網等の文脈とあわせたエコブランド的なイメージを展開することを検討中である。まずはその普及に向けた身近な取組として、フィッシュレザーを使った「SDGsバッジ」の制作を助言している。 このように、庁内の動きとしてはまだ何も進んでいないが、自らできることとして地域おこし協力隊による普及活動を支援し、それをきっかけとして市内外で拡散していくことで、近い将来に庁内でもSDGsを勉強していこうという機運が生じていくのではないかと考えている。
黒部市社会福祉協議会	実践中	【黒部社協の活動として】SDGsも意識した「黒部の福祉を良くする活動計画」（第3次黒部市地域福祉活動計画）づくりは、3月中の完成にむけて準備を進めている。（塚さんにもオブザーブでご参加いただいた） 【NPOとして】日本青年会議所（JCI）が作成したSDGs workbookを活用しての富山県立桜井高校でのワークショップを開催予定。1月16日、23日（2時間×2回）生活環境科2年生対象。
大高建設株式会社	実践中	1. 11月から12月まで社内でSDGsの認知度についてアンケート調査を行いました。SDGsを知る人は44%を占めて、SDGsを知らない人は56%を占め、SDGsに関心を持つ人は66%を占めることがわかりました。 2. SDGsの認知度と理解度を高めるため、社内で2月と3月に役員・管理職員を対象として、4月に全社員を対象とするSDGsに関する勉強会を行う予定です。これらの勉強会を通じて、会社の既存の取組をSDGsと関連付け、会社はSDGsに対してできることのアイディアベースを作ることを目指します。今はSDGsに関する勉強会の計画書を作成中です。現在の段階に特に困難はないですが、実践中に困難があるかどうか、または結果としてどこまで達成できるかわかりません。
北酸株式会社	実践中	11/15の時点で、実際の事業とSDGsの結びつきは概ね見えており、今後の進め方を模索中です。2月の役員会で北酸版SDGsを発表し、活動の承認を得る予定です。

団体名	事後調査	詳細
立山黒部ジオパーク協会	実践中	本年5月以降の発売に備えて、研修の準備を行っています。確定している研修は1月と2月に1回ずつ。3月以降にも担当者で勉強会を実施したいと考えています。また、コンテンツの充実に備え、富山大学の先生の協力を得て着手した段階です。
金沢市企画調整課	実践中	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果（アウトプット）として、アクションプラン「次の一歩」で発表した「金沢独自の目標」を「5つの方向性」として設定することを予定しています。 ・「金沢独自の目標」については、行政機関（金沢市）のみを対象にした目標ではなく、金沢のあらゆる主体を対象とした目標とする予定です。 ・設定した「金沢独自の目標」については、年度末に市内で開催するイベントの場で発表することを予定しています。 ・設定にあたっては、金沢市、金沢青年会議所、国連大学 OUIK で検討を重ねてきました。 ・次年度以降の取組についても、上記の3者で検討を重ねており、多様な主体が連携してSDGsを推進できるような、プラットフォームを構築することを目指していく予定をしています。
福井県環境政策課	実践中	<p>次年度も継続事業として計画中です。今年度の成果について報告します。</p> <p>○せせらぎ定点観測について：平成30年7月～8月県内8河川にて実施。幼稚園～中学生合計156名の参加があった。SDGs17の目標のうち「4. 質の高い教育をみんなに」の『ターゲット4.7、4.a』の『持続可能な開発を推進するための知識とスキルの獲得』へのきっかけづくりや、『効果的な（環境）学習環境を提供』できていたと思われる。また、「6. 安全な水とトイレを世界中に」の『ターゲット6.6』の『河川の水に関連する生態系の保護・回復』につながる活動ができた。</p> <p>○漂着物調査・漂着物アート事業について：平成30年9月下旬、県内小学4年生20名を対象に実施。SDGs17の目標のうち「4. 質の高い教育をみんなに」、「14. 海の豊かさを守ろう」の『ターゲット14.1』の、将来、『海洋堆積物等あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に減少させる』ことへの意欲づけにつながる活動が、漂着物調査やマイクロプラスチック調査等を通してできた。</p> <p>○若手環境教育リーダー育成事業について：SDGs17の目標の中でも特に、「17. パートナーシップで目標を達成しよう」に関連して、大学生が環境教育プログラムを作成する上で、小中学生はもちろんのこと、環境系の専門家ともつながりを深められたことがよかった。</p>
長野県環境政策課	実践中	SDGsに関心を持ってもらうための啓発活動（SDGsを学ぶ機会の提供）について、来年度に実現すべく予算要求しているところです。
富山県環境政策課	未定	個人的に提案したプランだったので、実際に組織として取り入れるということには現状では至っていない。ただ、富山県としてSDGsへ対応していく動きは別部署（企画調整課）で検討されているようではあるが、具体的な内容はまだ環境政策課には届いていない。

（3）次年度の参加希望



9. 関係主体との連携及び協働に関する業務

9.1. 中部地方環境事務所との打合せ

9.1.1. 中部地方環境事務所担当官との定期的な打合せ

- 中部地方環境事務所との協働による円滑な運営を確保するため、情報共有及び意見交換を下記の通り、月1回以上実施した。

	実施日	主な打合せ協議事項
第1回	04月03日	1. 業務計画書の確認 2. その他確認事項等 ○次回打ち合わせについて ○事務手続きに関わるお願い事項 ○その他
第2回	04月20日	1. 平成30年度業務スケジュール等について ○平成30年度業務図 ○スケジュール表 ○プロジェクトの概要・定量指標フォーマット案 2. 第5期計画案について 3. EPO/ESD連絡会議の開催について ○開催日程、タイムスケジュール、委員出席状況等 ○委嘱状の送付、謝金振込先の確認 ○議事内容（議事次第案） ○会議資料の準備 ※議事録：議事要旨 ※ESD松本先生からの連絡事項 4. その他確認事項等 ○次回打ち合わせについて（協働コーディネーター連絡会の開催等） ○WEBサイト更新状況、更新記録フォーマットの有無について確認 ○メルマガ原稿作成について ○要提出の日報等記録についての確認 ○四半期報告のフォーマットについて（後日データで） ○外部委員・会議等のEPO招聘状況について ○名刺についての確認 ○CD返却 ○その他
第3回	05月11日	1. EPO/ESD運営会議について ※ESD伊藤先生との事前打合せについて ○会議資料（及び新委員用の外部資金関係資料）、事務局進行等の確認 ○ESD委員への資料送付 ○承諾書：6/7名の委員分着 ○5/16(水)17:00千頭先生事前打合せについて ○ESD会議後/EPO会議前の打合せ等実施の有無 EPO会議資料の委員への事前送付タイミング確認 2. 同時解決ヒアリング等について ○5/18(金)ヒアリング ○作成したヒアリングシート提出 ○委員へのシート送付など、その後の必要作業等 ○審査員への謝金 3. その他確認事項等 ○次回打合せについて ・協働コーディネーター連絡会の開催 ・ケーススタディ、ESDチェックリスト作成（WG）の展開設計 ○メルマガ（EPOサイトのみ掲載）位置づけ ○外部委員・会議等のEPO招聘状況について ○その他

	実施日	主な打合せ協議事項
第4回	06月27日	1. 金沢3イベントについて (1) 3イベントの開催案内(チラシ原稿)の確認 (2) 関係者(登壇者)との調整状況についての報告 (3) 開催案内の送付について (4) 各プログラム、配布資料等の確認 2. 同時解決事業について (1) 今後の進め方の確認 (2) 仕様書、「2か年事業計画」の作成 (3) 仕様書、事業計画についての打合せの設定:7/中下旬頃 3. 三つ折リーフレットの作成について 4. 6/28 チェックリスト作成WGについて 5. 四半期報告での要提出物について 6. その他確認事項等 (1) 次回打合せについて (2) ウェブサイトへのESD議事録掲載の報告 (3) その他
第5回	07月23日	1. 金沢3イベントについて (1) 各イベントの参加申込状況等の報告 (2) 事務局側の運営・進行方法等に関わる報告・確認 2. 秋の信州イベントについて 3. 同時解決事業について (1) 7/6開催・事業形成会議の報告 (2) 7/26打合せ内容について (3) 仕様書、「2か年事業計画」について 4. ESD/SDGsコンテンツ(PRツール)の作成について ・サムネール展開イメージ案(第2回チェックリスト作成WGに提示予定)の確認 5. その他 (1) 次回打合せについて (2) ウェブサイトへのESD、EPO議事録掲載の報告 (3) その他
第6回	08月23日	1. EPO・ESDS共通リーフレットについて 2. 10/5開催・協働コーディネーター連絡会(第2回)、協働フォーラム(第2回)、10/13-14開催・ESDダイアログ(第2回)について 3. 第3回(協働コーディネーター連絡会、協働フォーラム、ESDダイアログ)開催について ※政策協働ガイドを用いた協働促進ワークショップの開催について ※ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催について 4. 同時解決事業について 5. EPO・ESD運営会議(第2回)について ・議題内容 ・準備する会議資料 ・委員への連絡等のスケジュール/座長打合せの設定について 6. その他 (1) 次回打合せについて:9/19(水) (2) その他
第7回	09月19日	1. EPO・ESD運営会議(第2回)について ・会議資料の確認 ・座長レクの進め方等確認(9/20伊藤先生、9/25千頭先生) 2. 10月開催催事について (・9/21チェックリスト作成WG) ・10/5開催・第2回協働コーディネーター連絡会 ・10/5開催・第2回協働フォーラム ・10/13-14開催・第2回ESDダイアログ ※10/6山ノ内町・観光協会等と打合せ 3. 1月以降開催予定の催事について ・第3回協働コーディネーター連絡会:1/15午前開催 ・第3回協働フォーラム:1/15午後開催 ・第3回ESDダイアログ:1/18午後開催 ・政策協働ガイドを用いた協働促進ワークショップ:2/22開催予定 ・ESD推進ネットワーク地域フォーラム:1/25開催予定 4. 同時解決事業について ・9/18第1回協議会 ・10/4現地視察 5. その他

	実施日	主な打合せ協議事項
第8回	10月26日	<ol style="list-style-type: none"> 今後開催する主催催事の準備状況について【報告】 <ul style="list-style-type: none"> 第3回協働コーディネーター連絡会：1/15（火） a m 第3回協働フォーラム：1/15（火） p m 第3回 ESD ダイアログ：1/18（金） ESD 推進ネットワーク地域フォーラム：1/25（金） 政策協働ガイドを用いた協働促進ワークショップ：2/22（金） 11/30-12/1 開催・ESD 全国フォーラムへの登壇・出展予定について 損保ジャパン日本興亜環境財団のCSO ラーニング制度（インターンシップ制度）について 意見交換 <ul style="list-style-type: none"> 協働コーディネーターのあり方について 活動見える化プログラムについて 「ESD/SDGs ポイントチェックリスト」について 「同時解決事業」の今後の進め方について その他 <ul style="list-style-type: none"> (1) 外部評価委員会（事務所主催）の日程について (2) 次回打合せ日時について (3) その他
第9回	11月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1月開催催事について <ul style="list-style-type: none"> 1/15 第3回協働コーディネーター連絡会 1/15 第3回協働フォーラム 1/18 第3回 ESD ダイアログ 1/25 ESD 推進ネットワーク地域フォーラム 2/22 政策協働ガイドを用いた協働促進ワークショップ 11/30-12/1 開催・ESD 全国フォーラムの出展パネル原稿について 協働コーディネーターのあり方について 「同時解決事業」について その他 <ul style="list-style-type: none"> (1) 活動見える化プログラム（坂本氏事例）について (2) ESD/SDGs ポイントチェックリスト（仮称）について (3) 次回打合せ日時について (4) その他
第10回	12月21日	<ol style="list-style-type: none"> 協働コーディネーターのあり方について <ul style="list-style-type: none"> 12/25 千頭先生との打合せ 1/15 第3回協働コーディネーター連絡会での検討事項の確認 1月開催催事について <ul style="list-style-type: none"> (1) 1/15 第3回協働コーディネーター連絡会の出席者数の報告 (2) 2/22 政策協働ガイドを用いた協働促進ワークショップのWG内容 (3) ESD ダイアログ、ネットワークフォーラムの参加申込状況の報告 「活動見える化プログラム」について <ul style="list-style-type: none"> 1/15 協働フォーラムでのケーススタディ実施・発表 「ESD/SDGs ポイント」チェックリストについて EPO/ESDC 運営会議資料について 「同時解決事業」について <ul style="list-style-type: none"> 12/19 事業形成会議の報告 1/10 中間報告書提出、自己評価シート（2カ年計画）の提出、1/30 中間評価会議 「ESD 拠点支援業務」「環境基本計画に沿った環境教育支援業務」の進捗状況について（報告） 2/13 外部評価委員会について SDGs 人材研修事業の GEOG からの調査依頼について その他 <ul style="list-style-type: none"> (1) 次回打合せ日時など今後の予定について (2) EPO カードキーの確認 (3) その他
第11回	01月24日	<ol style="list-style-type: none"> EPO 中部運営会議、ESD センター企画運営会議について <ul style="list-style-type: none"> 資料の最終確認 進め方の確認 2/22 政策協働ガイドを用いた協働促進ワークショップについて <ul style="list-style-type: none"> 参加申込状況（報告） 参加者アンケートの設問変更 2/13 外部評価の資料作成について 業務報告書（3/8 原稿確認）について <ul style="list-style-type: none"> 3/8 までに初稿確認、3/末までに製本を納品 「同時解決事業」について

	実施日	主な打合せ協議事項
		<ul style="list-style-type: none"> ・2/5 連絡会実施 ・2/下旬～3/初旬 セミナー開催 ・3/8 業務完了報告書の初稿提出 6. その他 (1) 次回打合せ日時など今後の予定について (2) その他
第12回	02月27日	1. 要提出物の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・運営会議の議事録 ・1/25ESD ネットワークフォーラムの開催結果報告 ・2/22 協働セミナーの開催結果報告 2. 業務報告書について <ul style="list-style-type: none"> ◆ESD 実践拠点支援、環境教育支援業務のとりまとめ状況の報告 ◆業務報告書 3. 「同時解決事業」について 4. 次年度仕様書等について 5. WEBビデオ会議について 6. その他 (1) 次回打合せ：業務報告書の初稿確認・提出に合わせた日程 (2) その他
第13回	03月06日	<ul style="list-style-type: none"> ・年間業務報告書の確認 ・その他
第14回	03月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・年間業務報告書の確認 ・その他

9.1.2. 日々の業務についての報告

- 毎月の来館者数、問い合わせ件数、スタッフ数、及び毎日の作業内容等を、所定のフォーマットの日報にとりまとめ、毎月提出した。（前項「3 基本業務」参照。）

9.1.3. EPO 中部が出席した会議・イベント等についての報告

- EPO 中部が出席した地域（自治体等主催）の会議等については、本報告書「3.2.2 対話の体制の構築」でとりまとめを行っており、いずれも中部地方環境事務所へ報告を行った。
- その他、GEOC・全国センター関連の会議、EPO 中部／中部 ESD センター主催会議・イベント等について、中部地方環境事務所提示のフォーマットに則った整理を行い、前項「9.1.2. 日々の業務についての報告」資料の提出に併せて関係会議の一覧表の提出を行った。

【提出した関係会議一覧表（一部を抜粋）】

No.	会議名	開催日	主なメンバー等	開催頻度
1	第1回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会	5月10日	ESD 活動支援センター（全国・地方）	1回目/ 年3回
2	第1回全国 EPO 連絡会	6月18日-19日	地方環境事務所、EPO 受託者	1回目/ 年2回
3	第1回同時解決事業事業形成会議	7月6日	EPO 各事務所の同時解決事業の担当者	1回目/ 年2回
4	第1回 ESD 実践拠点支援事業の編集ワーキング	5月9日	EPO 各事務所の ESD 実践業務の担当者	1回目/ 年3回
5	同時解決支援事業全国キックオフ	8月7日	EPO 各事務所の同時解決事業の担当者	—
6	地球環境基金主催 EPO 連絡会	8月8日	EPO 各事務所の地球環境基金の担当者	—

No.	会議名	開催日	主なメンバー等	開催頻度
7	第2回 ESD 実践拠点支援事業の編集ワーキング	9月12日	EPO各事務所のESD実践業務の担当者	2回目/年3回
	ネットワーク可視化報告・交流会	10月17日	地方センターの参加は任意	—
8	第1回地域循環共生圏ブロック研究会	10月17日	EPO各事務所	2回目/年2回
9	第2回ESD活動支援センター（全国・地方）連絡会	10月18日	ESD活動支援センター（全国・地方）	2回目/年3回
10	ESD全国フォーラム	11/30-12/1	ESD関連ネットワーク主体等 ※分科会1で原がコメンテーター	—
	地球環境基金ユース大会（中部大会）	12月9日	（EPO中部：任意で参加）	—
11	第2回同時解決事業事業形成会議	12月19日	EPO各事務所の同時解決事業の担当者	2回目/年2回
12	第3回 ESD 実践拠点支援事業の編集ワーキング	12月20日	EPO各事務所のESD実践業務の担当者	3回目/年3回
13	第3回ESD活動支援センター（全国・地方）連絡会	1月9日	ESD活動支援センター（全国・地方）	3回目/年3回
14	同時解決事業中間評価会議	1月30日	地方環境事務所、EPO受託者	—
15	第2回全国EPO連絡会	1月31日	地方環境事務所、EPO受託者	2回目/年2回
16	第2回地域循環共生圏ブロック研究会	2月14日	EPO各事務所	2回目/年2回
17	SDGs人材研修事業成果報告会	2月17日	一般参加公募 （EPO中部：任意で参加）	—
18	ESD実践拠点事業成果共有会	2月18日	一般参加公募 ※EPO中部：発表	—
	森里川海からはじめる地域づくりシンポジウム～「地域循環共生圏」の創造に向けて～	3月12日	一般参加公募 （EPO中部：任意で参加）	—

※No.欄に数字のないものは任意参加の会議等。

9.2. 中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等

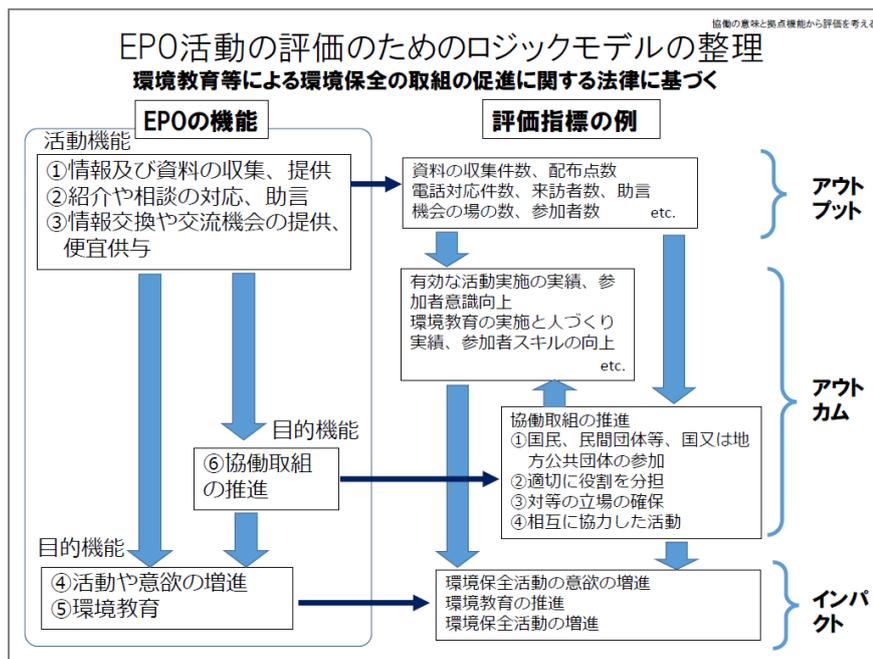
9.2.1. 業務・活動の評価方法に関わるヒアリング及び資料の作成

- EPO中部（及び中部地方ESD活動支援センター）の業務・活動に対する評価を外部有識者等により行う「外部評価会議」に向けた、業務・活動の評価方法についての考え方等についてのヒアリングを有識者3名に行った。
- また、有識者ヒアリングにおいて提示するための、EPO等業務・活動の評価方法（アウトカム評価方法）に関する考え方を整理した資料を作成した。

【実施ヒアリング】

10月23日実施	伊藤 博 氏	名古屋商科大学経済学部教授
11月6日実施	水野 晶夫 氏	名古屋学院大学現代社会学部教授
1月8日実施	加藤 義人 氏	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 政策研究事業本部 名古屋本部 執行役員 ※EPO中部運営会議委員

【業務・活動の評価方法（アウトカム評価方法）に関する考え方】



評価指標の考え方とアウトカム評価方針(案)

分野	アウトプット (評価指標)	アウトカム (評価指標)	アウトカム評価方針
EPO活動 環境保全活動の促進	①情報及び資料の収集、提供 ②紹介や相談の対応、助言 (資料の収集件数、配布点数、 電話対応件数、来訪者数、助 言数)	有効な活動実施の実績 (聞き取りによる対象者のニーズ満足度)	対象者反応の記録 に基づく満足度の 性的評価記述
	③情報交換や交流機会の提供、 便宜供与 (機会の場の数、参加者数)	参加者意識向上 (アンケートによる意識測定)	アンケート実施と 性的評価記述
ESD活動 環境教育の推進	④活動や意欲の増進、⑤環境 教育、⑥協働取組の推進 ○各種活動の伴走支援 (活動経緯と支援実績)	環境教育の実施と人づくり実績 (機会の場の記録や参加者のアンケート 程度の定的評価)	アンケート実施と 性的評価記述
	○チラシ、パンフレット作成 (作成ツールの作成・配布・ 用数)	参加者スキルの向上 (参加者の気づきなどアンケートによる 評価、聞き取り等による定的評価)	アンケート実施と 性的評価記述
協働の促進	○見える化プログラム、C.I. ツールの作成、活用 (作成ツールの作成・配布・ 用数)	様々な主体の参加(参加主体リスト) 適切な役割分担、対等の立場の確保(役 の明示) 相互に協力した活動(資源の提供状況)	活動記録のとりま めによる評価視点 からの定的評価 記述
ツール作 開発		参加当事者に対するツールの活用に伴 効果や所感のアンケートやヒアリング する定的評価	ツールの有効性の 定的評価記述

* アウトカム評価については有識者の評価を受ける

9.2.2. 外部評価会議への対応

- 2月13日に実施されたEPO中部の外部評価会議において、作成した「自己評価シート」(所定の書式あり)及び「業務報告資料」(自由書式)を提出した。

9.3. 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター（全国・地方）のネットワーク確保・強化

- 全国の地方 EPO・GEOC・全国センター等から招請のあった会議・イベント等は次の通りであり、いずれについても出席した。

【関連会議】

開催日	会議	参加状況	備考
5月10日	第1回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会	出席	
6月18日 ～19日	第1回全国 EPO 連絡会	出席	連絡会開催前に、地方 EPO 同士、ESD に関わる情報交換のミーティングが予定されていた、震災のため中止になった。
8月7日	（同時解決支援事業全国キックオフ開催前に）EPO 会合	出席	同時解決事業の位置づけ確認と第五次環境基本計画で目指すことの説明打合せ
8月8日	（地球環境基金主催 EPO 連絡会開催前に）EPO 統括会議	出席	EPO 統括による災害対策等 EPO 間の連携・支援についての検討会議
10月17日	ESD 推進ネットワーク可視化報告・交流会	出席	ESD 各地方センターがオブザーバー参加
10月17日	第1回地域循環共生圏ブロック研究会	出席	
10月18日	第2回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会	出席	
11月30日 ～12月1日	ESD 全国フォーラム	参加、 登壇・出展	
1月9日	第3回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会	出席	
1月31日	（第2回全国 EPO 連絡会開催前に）ESD 地方センター担当者の会合	出席	連絡会開催前に、ESD 地方センター担当者の会合があり、全国企画運営会議での議事・検討内容等を確認
1月31日	第2回全国 EPO 連絡会	出席	連絡会開催前に、地方 ESD センター担当者の会合があり、参加
2月14日	第2回地域循環共生圏ブロック研究会	出席	
2月17日	SDGs 人材研修事業成果報告会	出席	

※同時解決事業関連の会議、ESD 推進業務関連の会議は各該当章に記載。

10. 外部資金を活用した事業

10.1. グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト

- 年間予算：900,000円
- 前期イベント、後期イベントともそれぞれ2団体が実施し（後期1イベントは台風のため中止）、イベント実施団体が作成した実施報告シートを確認の上、日本NPOセンターへ提出した。
- また、後期イベント実施後は、プロジェクトを主宰する東京海上日動火災保険、イベントの主催・実施団体、EPO中部の3者によるふりかえり会を実施し、ふりかえりシート、及び来期・年間実施計画シートを作成し、日本NPOセンターへ提出した。

10.1.1. 前期イベントの開催

- 前期に、特定非営利活動法人もりの学舎自然学校（愛知県）、NPO法人やまぼうし自然学校（長野県）の2団体がイベントを実施し、開催日当日はEPO中部も立ち合った。

【もりの学舎自然学校のイベント実施報告シート】

主催団体名	特定非営利活動法人もりの学舎自然学校
イベントタイトル	げんきの森づくり～みんなの森をしよう～
開催日	2018年5月12日(土曜日) 10:00～14:00 (活動実施時間数 計4時間)
開催場所	愛知県長久手市 愛・地球博記念公園
イベント概要	<p>これまでは、植物に注目して、手入れをしてきた。森には植物だけではなく、その植物を支える生きものや植物に支えられている生き物がある。森にどんな生き物がすんでいるのか、自分たちで探し採集した。そこから森と生き物のつながりを考えてもらうことをねらいとした。</p> <p>9:30 受付開始 10:00 あいさつ 関係者あいさつ 10:15 みんなで生きものマネをしよう グループに分かれて、森の生きものマネをする 10:45 生きものを探そう もりの学舎の周辺の森にすむ生きものを探して、採集をする。 12:00 みんなでお昼ご飯 12:45 生きもの図鑑づくり 森で見つけた生きものを観察して、図鑑シートに記載していく。 13:55 ふりかえり 14:00 解散・アンケート記入</p>
活動内容	<p>5月のげんきの森づくりは、対象とするエリアを広げました。これまでのげんきの森づくりを行ったエリアやその周辺にどんな生き物がすんでいるのか調べるためです。人工林ではない森の手入れを行って行くには、そこに棲む生きものことも考えることが大切です。そのために今回は参加者のみなさんに、森の生き物探しをしていただきました。生き物探しの時間は、こどもはもちろん、大人も一生懸命になって生き物を探し、捕まえたりしました。参加者のみなさんは、思っていたよりもたくさんいることや初めて見る生き物がたくさんいたことにおどろいていました。</p> <p>採集した生き物は記録を残すために、観察して図鑑シートを作るようにしました。森にすむ生き物たちがどんなところにいたのか、どんな姿をしているのか観察し、図鑑シートを描きあげました。50枚のシートができました。観察している最中に、その生き物が好きになり、ずっと手にのせているこどももいました。森という場所でそこにすむ生き物たちに出会えたことがうれしかったようです。身近な森にも色々な生き物がすんでいることを知ってもらう事ができました。</p>

【NPO やまぼうし自然学校のイベント実施報告シート】

主催団体名	NPO 法人やまぼうし自然学校
イベントタイトル	森林（もり）は宝の山、森林（もり）を楽しもう
開催日	2018年5月13日(日曜日) 9:30~15:00 (活動実施時間数 計5時間)
開催場所	塩尻市片丘北熊井市有林(熊の井塾エリア)
イベント概要	<p>森林の資源を工作とパン作りを通じて知る。 森林野中は、楽しい工作材料の山です。そんな宝の山で、世界にひとつの素晴らしい作品を作って遊ぶ。炭火を使ったパン作りで、木のエネルギーについても体験する。</p> <p>8:00 スタッフ集合、準備 9:30 受付開始 10:00 開始、主催者あいさつ、協賛者あいさつ 関係団体紹介 アイスブレイクゲーム 10:30 森の探検開始 11:00 クラフト作り開始 竹パン作り 集合写真 あいさつ アンケート 12:30 解散 ※降雨のため</p>
活動内容	<p>受付時間より早く集まって来た参加者の皆さんは、パン用の火の手伝いや、沢でサワガニを探したりと、イベント前から「森」を楽しんでいました。 天気予報通り、途中から雨になってしまいましたが、新緑の清々しいフィールドで、ご参加された皆さまとは有意義な時間を共有することができました。 最初はじゃんけんゲームからスタート、初めてのお友だちとも徐々に仲良しになりました。続いて森の探検では、一期会の古田会長から地域の森の事をまなびました。森探検から戻るとお楽しみの工作です。何を作ろうか、皆さん真剣に取り組んでいました。完成した作品はどれも素敵なものばかりでした。途中でパンの生地も醗酵し、工作と並行してパン焼きも始まりました。炭火でじっくり、根気よく焼き上げ、焼き上がったパンを美味しくそうにほおぼっていました。</p>

10.1.2. 後期イベントの開催

- 9月30日に、NPO 法人やまぼうし自然学校（長野県）がイベントを実施する予定であったが、台風のため中止となった。
- 11月17日に、特定非営利活動法人もりの学舎自然学校（愛知県）がイベントを実施し、下記・実施報告シートが提出された。

【もりの学舎自然学校のイベント実施報告シート】

主催団体名	特定非営利活動法人もりの学舎自然学校
イベントタイトル	げんきの森づくり その5
開催日	2018年11月17日(土曜日) 10:00~14:15 (活動実施時間数 計4.25時間)
開催場所	愛・地球博記念公園 親林楽園及びもりの学舎
イベント概要	<p>今回の企画の概要</p> <p>げんきの森づくり その5は、げんきの森が今年の台風でできた倒木などにより、荒れてしまったので、改めて森の手入れを行いました。参加者のみなさんに、手入れを通して森に関わりたいという気持ちが芽生えるのが目的です。森の手入れを行い、たきぎを集めて、お昼にたき火も行いました。</p> <p>10:00 あいさつ 10:25 森の手入れ① 台風で荒れたところを手入れする 12:00 お昼ごはん たき火に挑戦 13:00 森の手入れ②</p>

	<p>生きもののすみかを作る</p> <p>13:55 ふりかえり・わかちあい</p> <p>14:15 解散</p>
活動内容	<p>今回のげんきの森づくりでは、その1(2017年6月)で行った道作り、植物保護に再度チャレンジ、そして新しく生きものたちがすみやすい森にするために生きもののすみかづくりを行いました。手入れを行ってから年月もたったことと台風が重なり、改めて手入れが必要になっていました。</p> <p>午前中は台風で壊れた倒木や倒木によって壊れたものなどのその1で行ったところを中心に再手入れです。子どもたちは、保護する植物のカンアオイの仲間に目印をつけたほか、森に作った小径のガイドロープを張り直したり、倒木をのこぎりで小さく切ったりして、大人と協力して手入れを行っていました。カンアオイを探すことにはまった子もいました。その後、お屋のたき火のために、たき火に使える枯れ枝探しを行いました。お屋にはたき火でマシュマロを焼いて食べました。</p> <p>午後は生きもののすみかづくりです。午前中の手入れで出来た丸太を積み重ねたり、鳥の巣箱を木に取り付けて、げんきの森のなかに生きものが隠れることが出来る場所を増やしました。</p> <p>■成果</p> <p>森の小径修繕約 30メートル カンアオイの仲間の目印約 60株 野鳥の巣箱 12箇所</p>

10.1.3. 来期・年間実施計画シート

- 今年度の3者ふりかえり会を、やまぼうし自然学校(長野県)、もりの学舎自然学校(愛知県)それぞれについて実施し、来期の展開についても確認を行った。
- なお、来期の計画については、新たに福井県の取組も加わるようになった。

【もりの学舎自然学校の来期・年間実施計画シート】

開催予定のフィールド	もりの学舎(愛知県長久手市 愛・地球博記念公園)
地域や環境の課題	自然と触れ合う場所、体験が減少している。
Green Gift の3つの目的に関する3年後の成果イメージ	<p>1) 子どもたちが環境について考え行動を変えるきっかけをつくる(次世代へのギフト)</p> <p>例:生き物を大切にすることが増えている、森と海のつながりを伝える など</p> <p>【子どもたちが遊ぶことができる森が増えている】</p> <p>森は危ないからいつかはいけない、森には虫がいるから行きたくない</p> <p>↓</p> <p>あの森は遊びに行っても大丈夫、あの森に行きたい</p> <p>子どもたちが自由に遊べる森が増えている</p>
	<p>2) 多様なステークホルダーによる協働取組の機会とモデルをつくる(SHへのギフト)</p> <p>例:地域の担い手となりうる協力関係者が増えている など</p> <p>【新しい地域の担い手同士のつながりが出来ている】</p> <p>すでに地域で活動している団体などがあるので、地域で活動している担い手同士の新しい繋がりが増えている</p>
	<p>3) 持続可能な環境をまもる地域の担い手を育てる(地域へのギフト)</p> <p>例:新しい地域の魅力が発見されている、地域の中で環境保全に取り組む動きが起きている など</p> <p>【子どもたちのための森を作る人が増えている】</p> <p>モリコロパークの森だけでなく、新しい地域の森を見直す人が増え、森づくりを行う、森づくりに関わろうと考える人が増えている</p>
成果達成のための工夫	<p>・実施場所を公園内にすることで、参加しやすくなり、手入れの成果を一般の方にも見えやすくする。</p> <p>・多様な担い手や多くの参加者が関わりやすいおまつり型のイベントを開催する。</p>
開催時期のイメージ(年2回)	<p>おおよその開催スケジュールを設定します。(企画・広報・準備・開催・ふりかえり会など)</p> <p>調整 10月上旬</p> <p>企画 10月上旬</p> <p>広報 10月中旬</p>

	<p>準備 11月上旬</p> <p>第1回:「森の手入れ」11月17日頃(予備日:11月18日) 内容:げんきの森づくりで手入れをした森を、継続して森の手入れを行う。 実施場所:愛・地球博記念公園内</p> <p>企画 3月下旬</p> <p>広報 4月上旬</p> <p>準備 4月下旬</p> <p>第2回:「こどもの森フェス2019」5月中旬頃(予備日:5月下旬頃) 内容: 手入れをした森を会場に、自由にあそべる森のエリアを提供する。 実施場所: もりの学舎</p> <p>ふりかえり会 6月</p> <p>回数に変更がある場合は、EPO 経由、日本 NPO センターへお知らせください。 予備日を予め策定ください。</p>
役割分担のイメージ	<p>現時点ではそれほど具体的でなくて構いません。どのような役割が想定され、各者でどのようなことができるか、何名ほど必要かなどをご確認ください。</p> <p>東京海上日動火災保険株式会社: 広報 EPO 中部: 調整 愛知県: 場所提供・広報 特定非営利活動法人もりの学舎自然学校: 企画・調整</p>

【やまぼうし自然学校の来期・年間実施計画シート】

開催予定のフィールド	上田市 菅平高原一帯
地域や環境の課題	<p>子どもたちの自然体験活動(実体験)の不足</p> <p>ハンディキャップのある子どもの自然体験活動の機会の不足</p> <p>人口の減少と高齢化</p> <p>里山の活用と新たな価値の提唱</p>
Green Gift の3つの目的に関する3年後の成果イメージ	<p>1) 子どもたちが環境について考え行動を変えるきっかけをつくる(次世代へのギフト) 例: 生き物を大切にしている子が増えている、森と海のつながりを伝える など 森の働きを理解し、人間にとって欠かすことのできない存在だと知る</p> <p>2) 多様なステークホルダーによる協働取組の機会とモデルをつくる(SH へのギフト) 例: 地域の担い手となりうる協力関係者が増えている など 東京海上日動さん、代理店さんとの継続的なつながり 里山を巡る人々のつながりと活用、それに関わる地域の方と係わる機会が増える</p> <p>3) 持続可能な環境をまもる地域の担い手を育てる(地域へのギフト) 例: 新しい地域の魅力が発見されている、地域の中で環境保全に取り組む動きが起きている など 地域の宝を住民が再認識し、守り、発信することで、交流人口の増加と移住者の増加</p>
成果達成のための工夫	<p>無理の無い範囲の協働</p> <p>コミュニケーション</p> <p>お互いにメリットある係わりを持つ</p> <p>早めの準備</p>
開催時期のイメージ(年2回)	<p>おおよその開催スケジュールを設定します。(企画・広報・準備・開催・ふりかえり会など) ※様式3「イベント企画シート」は開催日の2か月前までの提出をお願いします。</p> <p>第1回: 6月8日(土) 予備日9日(日) 内容: 初夏の森でデイキャンプ 実施場所: 菅平高原自然体験の森予定</p> <p>第2回: 9月28日(土) 予備日29日(日)</p>

	<p>内容:秋の森でデイキャンプ 実施場所:菅平高原自然体験の森予定</p> <p>回数に変更がある場合は、EPO 経由、日本 NPO センターへお知らせください。 予備日を予め策定ください。</p>
役割分担のイメージ	<p>現時点ではそれほど具体的でなくて構いません。どのような役割が想定され、各者でどのようなことができるか、何名ほど必要かなどをご確認ください。</p> <p>やまぼうし自然学校:企画、準備、当日運営 東京海上日動:広報、当日補助 EPO:協働に関するアドバイス 上田市:後援団体として広報 長野県:後援団体として広報</p>

新規【小原ECOプロジェクト（福井）の来期・年間実施計画シート】

開催予定のフィールド	福井県勝山市北谷町小原地係 集落周辺及び赤兎山(駐車場・登山口含む)
地域や環境の課題	山間、豪雪地、過疎化という地域環境の中で集落の限界化が進んでいる。その中で地域に残る貴重な自然資源を次世代へと繋げる地域管理の担い手育成が望まれている。
Green Gift の3つの目的に関する3年後の成果イメージ	<p>1) 子どもたちが環境について考え行動を変えるきっかけをつくる(次世代へのギフト) 例:生き物を大切にすることが増えている、森と海のつながりを伝える など</p> <p>・森の育みから清流(きれいな水)を五感で感じ(冷たさ、透明度など)触れてほしい。 ・貴重な植物(環境)と人々との関わり、環境負荷についての学び、行動</p> <p>2) 多様なステークホルダーによる協働取組の機会とモデルをつくる(SH へのギフト) 例:地域の担い手となりうる協力関係者が増えている など</p> <p>・地域・活動の担い手(応援隊)の増加、モデル化</p> <p>3) 持続可能な環境をまもる地域の担い手を育てる(地域へのギフト) 例:新しい地域の魅力が発見されている、地域の中で環境保全に取り組む動きが起きている など</p> <p>・新たな地域魅力、環境保全、環境学習などの活動モデルの創出や体制構築</p>
成果達成のための工夫	<p>・専門家、環境コンサルタントへの依頼</p> <p>・広報、メディアなどの活用</p> <p>・詳細な打ち合わせや会議</p>
開催時期のイメージ(年2回)	<p>おおよその開催スケジュールを設定します。(企画・広報・準備・開催・ふりかえり会など) ※様式3「イベント企画シート」は開催日の2か月前までの提出をお願いします。</p> <p>第1回:7月6日頃(予備日:7月7日頃) 内容:(仮)川遊び・アウトドアキッチン 実施場所:勝山市北谷町小原</p> <p>第2回:9月7日頃(予備日:9月8日頃) 内容:(仮)登山・外来種除去 実施場所:勝山市北谷町小原</p> <p>回数に変更がある場合は、EPO 経由、日本 NPO センターへお知らせください。 予備日を予め策定ください。</p>
役割分担のイメージ	<p>現時点ではそれほど具体的でなくて構いません。どのような役割が想定され、各者でどのようなことができるか、何名ほど必要かなどをご確認ください。</p> <p>(7月) 参加者募集 事前準備(3日前まで) = 必要品等買出し(小原ECO) 事前準備(前々日) = 現地準備(5名程度) 開催日 = 5名以上</p> <p>(9月) 参加者募集 事前準備(3日前まで) = 必要品等買出し(小原ECO) 現地踏査(前日迄) = 3名 事前準備(前日) = 2名 開催日 = 5名以上</p>

10.2. 地球環境基金

- 年間予算 150,000 円

10.2.1. 地球環境基金 EPO 連絡会への出席

- (独法)環境再生保全機構との協定書の締結(6月1日付)を経て、8月8日開催の地球環境基金 EPO 連絡会に出席し、今年度の EPO への依頼事項等について説明をうけた。
- 今年度の EPO の実施事項としては、①「全国ユース環境活動発表大会」中部地方大会(12月9日開催)の審査委員の推薦、②「平成31年度地球環境基金説明会」の開催及び広報に関する協力とすることが確認された。

10.2.2. 「全国ユース環境活動発表大会」中部地方大会への協力

- 上記①中部地方大会については、協働コーディネーターである、野村典博氏(特定非営利活動法人森と水辺の技術研究会理事長)を審査委員として推薦した。
- また、当日、EPO 中部から1名が参加した。

10.2.3. 平成31年度地球環境基金説明会の開催運営

- 上記②説明会の開催については、10月25日開催のための実施概要・企画内容等についての検討を行った。
- 説明会では、基金に関する説明と併せて、EPO 中部スタッフが登壇して SDGs 概論紹介プログラムを盛り込んだ。
- また、下記の開催案内チラシを作成して参加者募集広報を展開した。

【説明会の開催案内広報チラシと EPO による SDGs 概論紹介 PPT 資料(表紙)】



平成31年度地球環境基金助成金説明会 in中部
地球環境活動におけるSDGsの意義と展望

【開催日時】 2019年10月25日(木)18:00~20:30(開催18:00)
【開催会場】 ウィンクあいち 会議室1209
(名古屋市中村区名駅4丁目4-31)

主催: 独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部
協力: 環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

地球環境基金

■プログラム

18:00~ 開会・講演
SDGsに向けた社会で期待される地域環境活動を考える
原 理史 (EPO中部/中部大学中部高等学術研究所)

19:00~ 地球環境基金助成金説明会
環境再生保全機構 地球環境基金担当者

20:00~ 地球環境基金助成金についての質疑応答・個別相談

20:30 閉会

地域の環境活動とSDGsに関わる講演、及び、
民間団体による環境保全活動を支援する
「地球環境基金」の助成金説明会を開催します。
助成金の応募・申請に関わる個別相談も行います。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

参加費 無料

2018年度地球環境基金助成金説明会in中部
地球環境活動におけるSDGsの意義と展望

SDGsに向けた社会で期待される
地域環境活動を考える

平成30年10月25日



中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)
中部大学中部高等学術研究所研究員
原理史

- 説明会には、16名(9団体)が参加し、開催後は参加者アンケートの集計と共に、開催結果報告資料をとりまとめ、(独法)環境再生保全機構へ提出し、受理された。

10.3. 愛知県コーディネーター業務

- 年間予算 1,010,000 円
- 愛知県コーディネーター業務については、規定の 20 件の依頼を実施した。
- それぞれの依頼について、指定期日以内に報告書を作成し、愛知県環境部環境活動推進課へ提出したほか、業務全体の進捗状況について月次で報告打合せを行った。

	事例	担当	依頼日	実施日	招聘講師	まとめ	
						依頼書 確認	報告書 提出済
1	扶桑町高雄小学校	清本	4月	5月10日	堀田英夫氏	○	○
2	扶桑町栢森小学校	原	4月	5月15日	堀田英夫氏	○	○
3	扶桑町山名小学校	富田	4月	5月17日	堀田英夫氏	○	○
4	東浦町石浜西小学校①	原	5月1日	6月4日	新海洋子氏	○	○
5	名古屋市立松原小学校	原	4月	6月6日	池本氏	○	○
6	北名古屋市防災環境部	清本	4月25日	6月21日	堀田英夫氏	○	○
7	稲沢市三宅小学校①	橋本	5月7日	6月1日	フジクリーン工業	○	○
8	刈谷市亀城小学校	橋本	5月30日	9月14日	気象予報士 早川氏	○	○
9	東浦町石浜西小学校②	橋本	5月1日	9月5日	アースネットなごや今井氏	○	○
10	稲沢市片原一色小学校	橋本	6月11日	7月18日	河川財団名古屋 小野氏	○	○
11	稲沢市三宅小学校②	橋本	6月1日	10月9日	(株)太陽機構 星野氏	○	○
12	一宮市環境保全課	橋本	6月15日	10月27日	愛知服育研究会 松田氏	○	○
13	あま市生涯学習課	橋本	7月10日	8月17日	もりの学舎 水谷氏	○	○
14	名古屋市旭丘小学校①	橋本	7月30日	10月4日	NACS 消費生活研究所 浅野智恵美氏	○	○
15	名古屋市旭丘小学校②	橋本	7月30日	10月10日	(株)山田組 山田厚志氏	○	○
16	新城市役所環境政策課①	橋本	8月8日	10月20日	気象予報士 早川敦子氏	○	○
17	一宮市総合政策課	橋本	10月19日	12月10日	山陽学園大学 白井信雄教授	○	○
18	豊田市立根川小学校	橋本	12月4日	2月13日	大須賀哲夫氏	○	○
19	新城市役所環境政策課②	橋本	12月21日	3月9日	省エネルギーセンター	○	○
20	小牧市外山幼稚園	清本	1月21日	2月26日	犬山里山学研究所	○	○
21	アクティオ株式会社	橋本	1月8日	3月11日	アースネットなごや 今井氏	○	○

11. 今後に向けて

11.1. 課題の整理

11.1.1. 基本業務

(1) EPO 施設利用・相談対応について

- EPO 中部における年間の相談件数、来館者数はともに前年度の実績を下回る結果となった。
- 今年度、運営団体に変更になり、前・運営団体とつながりのあった主体のリスト等が何もない状態からのスタートであったため、以前なら EPO から資料が送付されてきていたが、現在は送られてこなくなっているという申し出があるなど、従前からあった EPO と地域団体とのつながりづくりが課題になっている。
- また、EPO で配架資料等の情報収集が可能であること、打合せスペースを外来者も利用できること、環境関連・ESD 関連の照会・相談が可能になっていることなどが、広くは認知されていないことなども、EPO の施設利用の低下の要因にあるものと考えられる。

(2) ウェブサイトのアクセス数

- 今年度の EPO 中部ウェブサイトの年間アクセス数（ページビュー数）は、前年度の実績を下回る結果となっていた。（中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトは、2017 年 7 月開設のため、アクセス数は前年から継続して増加してきている。）
- ウェブサイトは長くとも 3 年ごとにリニューアルをしなくては常連閲覧者にも飽きられると言われており、現在のウェブサイトは 2016 年にリニューアルされたサイトであり、3 年目を迎えてアクセス数の伸び悩みが見られる。
- また、現サイトは、限定された定常的なコンテンツ（コーナー）のみを掲載する構成・システムになっていることから、新たに作成したツールや取組等をトピック的に（トップページで目立たせる方法などで）掲載することや、掲載コンテンツに適した内容・デザイン等の工夫を行った掲載が不可となっているなど、維持管理上の制約や課題も多いといえる。

情報発信・広報関係について
例) EPO 中部ウェブサイトでは

■ 現状サイトの主な内容

- ① EPO 中部の組織紹介: EPO の理念や設立経緯等
- ② 事務局業務関連: 運営会議の開催報告、第 5 期・年度計画 等
【仕様書に掲載・公開の記載あり】
- ③ EPO 事業の報告 (EPO アクション): 主催イベントの案内、事業実施・イベント開催結果の報告記事の掲載
- ④ 外部団体等のお知らせ (みんなのアクション): NPO・企業等のイベント開催 (参加者募集)、助成金等の応募団体募集等の記事

第 3 回 EPO 中部運営会議への諮問資料

(3) その他広報・情報発信等

- 今年度、EPO 業務では協働コーディネーターの PR ツールを作成し、さらに、今後は協働コーディネーターの照会対応等も行っていくことが協働コーディネーター連絡会などで検討・確認された。また、ESD 業務においても、「ESD/SDGs チェックリスト」の作成と共に、チェックリストの公開・

頒布と併せて、チェックリスト活用者の意見収集などを経て検証・改善を実施していくことがチェックリスト作成WGにおいて検討・確認された。

- これらの新たな業務展開においてもウェブサイトの活用は重要となるが、現状のウェブサイトでは新規コンテンツなどをアピールする機能が乏しく、新たな業務展開及びインターネットを取り巻く環境・技術等の変化にも留意し、今後ウェブサイトが必要とされる機能、デザイン、構成やシステムについて、そのあり方の検討が必要とされている。
- また、EPO・ESDの両運営会議においては、パブリシティやSNS活用が実施されていないことを課題として指摘されており、ウェブサイトのあり方のみでなく、EPO及びESDセンターにおける広報展開の全般的なあり方に対する検討が求められている。

11.1.2. EPO業務

(1) 協働コーディネーター連絡会の開催について

- 協働コーディネーター連絡会では、全3回の会議で情報交換、意見交換等が有意義な形で行われたと出席者からも評価いただいた。
- しかし、会議の中で扱われる情報量が多く、事務局による資料説明等にも時間が多く割かれるなど、協働コーディネーター同士の意見交換、情報共有のための時間の確保が毎回課題となっていた。

(2) 協働コーディネーターのあり方検討について

- 協働コーディネーター連絡会においては、協働コーディネーターのあり方についての議論の中で、「EPO中部・協働コーディネーター」のEPO中部による照会対応や、「地域循環共生圏づくり研究会（仮称）」の設立などの新たな展開が議論された。
- そのため、照会対応や研究会（準備会等）の設立・運営に向けた体制・環境整備づくりがEPO中部に求められる。

(3) 今年度構築した「活動見える化プログラム」

- 今年度構築した活動見える化プログラムは、EPO中部運営会議、協働コーディネーター連絡会、協働フォーラム等で様々な評価、意見をいただいたが、現案は複雑なチャート図となっており、行政機関や関係者に説明する資料としては十分な資料であると評される一方で、一般市民にも理解できるわかりやすい資料になるべきとの意見も寄せられた。そのため、EPO中部として構築する必要がある活動見える化プログラムがどのようなものであるか、改めて整理し検討する必要がある。
- また、現案プログラムは、活動等の「現状」を分析できるツールとなっており、活動等の将来展開を考える上での検討材料となるツールとしていく必要があるとの指摘もされている。
- さらに、「評価」をするプログラムであるならば「指標」が必要との指摘もあり、引き続きケーススタディを実施するなどして分析事例を蓄積しつつ、構築のための検討を積み重ねていく必要がある。

(4) 今年度実施した「活動見える化プログラム」のケーススタディについて

- 今年度、ケーススタディとして、3事例の活動見える化プログラムによる分析を行っており、うち2事例は協働コーディネーターが携わっている事例となっているが、協働コーディネーター自身が分析及びチャート作成にも関係した事例は1事例のみとなっている。
- 活動見える化プログラムは協働コーディネーターによる活用ツールとしていくことも想定されており、実際に協働コーディネーターが分析、チャート作成を行うケーススタディを積み重ね、協働コーディネーターが使えるプログラムとしての構築も必要とされている。

(5) 協働フォーラム等イベント開催について

- 今年度開催した3回の協働フォーラムのうち、2回はウェブサイト等で参加者募集広報を行うのみで、参加者数はそれほど多くなかった。
- 第3回協働フォーラム（東海開催）、及び協働取組促進ワークショップについては、募集広報と併せて前者は東海3県、後者は中部7県の全自治体にチラシを送付し、どちらも多くの自治体職員から参加申込や問合せがあった。また、アンケートでは「協働に関わる全ての職員がこのフォーラムを聴講すべき」等の意見をいただいております、「協働」をテーマにしたセミナー、フォーラム等開催に対する自治体（職員）の参加ニーズがあるものと考えられる。

11.1.3. ESD業務

(1) 「ESD/SDGs チェックリスト」の作成について

- 今年度作成した「ESD/SDGs チェックリスト」の【基本段階版】と【事業所 SDGs 版（案）】の2種類に対しても、検討WG及びESD企画運営会議での議論の場などで様々な意見や課題が提示されている。
- SDGs等に詳しくない人もチェックリストへの記入ができる気軽なツールとすべきである、SDGsとのつながりを認識する「気付き」のツールになると良い、事業者がSDGsと本業・CSR事業等との関連付け作業を行う本格的なWGツールが必要とされている、或いは「ESD」としてのツールであるべきであるなど、チェックリストに求められる機能、位置づけは様々となっている。
- そのため、作成したチェックリストの現案を用いた試行を重ね、検証し、より実務的な活用が可能なツールとなるよう改善していく必要がある。

(2) ESD ダイアログ等イベント開催について

- 第1回・第2回 ESD ダイアログは、企画運営会議・委員と連携したことにより、地域のニーズに即したテーマ、企画で開催することが可能だったことから、多くの参加申込があり、参加者アンケートでも非常に高い評価を得た。また、第3回 ESD ダイアログ、ESD ネットワーク地域フォーラムにおいても、企業や自治体など、ESD・SDGsをテーマにしたセミナー等では登壇が少ない主体が取組事例の紹介を行ったことで、想定していた以上の申込数と高い評価をいただいた。
- 今後も、企画運営会議・委員等と連携するなどして、「地域の ESD」に即したイベント開催が求められるものと考えられる。
- また、企画運営会議、フォーラム参加者からは「若者」「女性」の参加が少ないとの指摘があり、今後の開催に際しては、参加対象等に留意したテーマ設定やプログラムの工夫などを行っていく必要がある。

11.2. 今後の展開

11.2.1. 基本業務

(1) EPO 施設利用・相談対応、及び基本業務と広報（情報の受発信）について

- 年間の相談件数、来館者数の増加策として、EPO 施設や役割等を外部者（特に自治体、NPO 等）に周知する広報に注力する必要がある。
- アクセス数が伸び悩んでいると共に、前回リニューアルから3年が経過している EPO 中部ウェブサイトについては、求められる機能やデザイン性など、次期リニューアルの必要性を含めた全般的な検討が必要とされている。（中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトは、2017年7月に開設されたばかりであり、全国センターのフレームが用いられており、早急なりリニューアルは難しいと考えられる。）

- また、協働コーディネーターのPRなど、新たな情報の発信、役割・取組がEPO中部に求められているほか、運営会議では、パブリシティの積極的展開、SNSの活用も指摘されている。
- 今後、これらの新たな情報の受発信、広報展開に取り組むにあたり、既存の各種ツールや媒体等も活用しながら、効果的に業務を実施していくために、EPO中部（及び中部地方ESD活動支援センター）の総合的な広報のあり方の検討に取り組む必要がある。

情報発信・広報関係について

■ 2018年度にEPO中部独自の人材活用・ツール作成を実施

- 協働コーディネーター
- 活動見える化プログラム
- 中間支援に資するデータ集

今後（次年度以降）
これらの発信・PR

➢ 協働コーディネーター：協働コーディネーター・PRツールをウェブに公開して、コーディネーターの紹介、照会対応

➢ 活動見える化プログラム：ケーススタディを公開、実施したい地域・団体の募集（→協働コーディネーターの派遣）

➢ 中間支援に資するデータ集：活用方法を検討した上で、ウェブへの掲載・公開（検索可能なシステム）などを行う

▼ ▼ ▼

**EPO中部ウェブサイトのリニューアルを含めた
EPO中部の広報計画・広報戦略の検討の必要性**

第3回 EPO 中部運営会議への諮問資料

11.2.2. EPO業務

(1) EPO 中部・協働コーディネーターの展開について

- 今後、「EPO 中部・協働コーディネーター」及び「地域循環共生圏づくり研究会（仮称）」が本格的に稼働していくに際し、協働コーディネーターのネットワーク機能の確保、研究会等における十分な意見・情報交換が可能な会議運営などに留意し、会議運営等を実施していく必要がある。
- また、「協働コーディネーター」（及びその職能）に関する一般的な認知度が低いことから、今年度作成した協働コーディネーターPRツール等を活用し、協働コーディネーターの周知にも取り組む必要がある。

今後の展開；EPO中部の役割として

普及・啓発関係

- ・（協働）コーディネーター、協働、SDGs、地域循環共生圏、及びそれらの関連する主に環境省の事業等に関するPR
- ・ EPO中部コーディネーターの人材リスト、職能メニュー例などの整理とその情報発信
- ・ 上記を念頭に置いたEPO中部ウェブサイトのリニューアル検討

制度・環境整備

- ・ ロールモデルになりそうな資格や制度等の事例調査・研究を行った上で、EPO中部コーディネーターの位置づけ・仕組み等の整理
- ・ コーディネーターの前提・要件の整理（例：倫理）
- ・ 行政機関・NPO等からの照会対応のための体制整備

その他

- ・ 「地域循環共生圏づくり」関連事業等において、中部ではコーディネーターが活用される事業展開を図る

第3回協働コーディネーター連絡会の会議資料

- EPO 中部運営会議（第 3 回）での指摘事項として、協働コーディネーターの位置づけ（EPO 業務として人件費確保等を行うものではないこと等）について、改めて各コーディネーターに確認し、次年度以降のコーディネーター照会対応の展開等に取り組む必要がある。

(2) 「活動見える化プログラム」の構築とケーススタディ実施について

- EPO 中部として構築すべき活動見える化プログラムがどのようなものであるかについて、改めて整理・検討した上で、協働コーディネーター活用ツールとして、また、「現状」のみでなく「今後（将来）の展開」の検討材料ツールとなるよう、構築を進めていく必要がある。
- また、今後の作業では、「指標」設定の可否の検討、及び協働コーディネーターによるケーススタディ分析の実践等の展開も求められている。

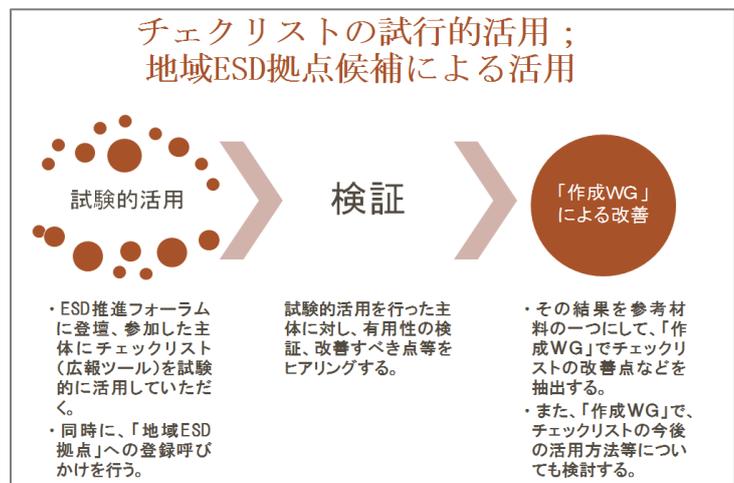
(3) 協働フォーラム等イベント開催について

- 協働フォーラムについても、ESD ダイアログ同様、地域ニーズに即した開催が求められており、運営会議委員や協働コーディネーターと連携したイベントの企画・開催が考えられる。
- また、セミナー等の募集広報では、自治体等の協働をテーマにした内容への受講ニーズがうかがえたことから、自治体の関連部署等へは直接的に開催案内を送付するなど、特に開催地及びその周辺地域を対象にした積極的な広報展開、情報提供を行う必要がある。

11.2.3. ESD 業務

(1) 「ESD・SDGs チェックリスト」の作成について

- チェックリストに対するニーズ、チェックリストの活用者、使用状況などの想定は様々であり、中部地方 ESD 活動支援センターとして完成させるべきツールがどのようなものであるか、今後は実際に現案チェックリストの試行を重ね、検証、及び改善を図っていく必要がある。
- また、チェックリストの試行活用では、「地域 ESD 拠点」（及びその候補主体）へ協力を呼びかけるなどして、地域 ESD 拠点との連携、または候補主体への拠点登録の呼びかけ等も同時に展開していくことが考えられる。



第 3 回中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議への諮問資料

(2) ESD ダイアログ等イベント開催について

- 企画運営会議・委員等と連携するなどして「地域の ESD」に即したセミナー、交流会等の開催を継続していくことが求められている。
- また、今年度ダイアログ、フォーラム等で参加対象として積極的に捉えられていなかった「ユース」等を対象にしたイベント、多世代間交流イベントなどの企画により、多様なセグメントや年代による参加、連携・協力、つながりが得られる展開を図っていくことも求められている。

平成 30 年度
中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年間報告書
(平成 31 年 3 月)

発行： 環境省中部地方環境事務所
〒460-0001 名古屋市中区三の丸 2-5-2
TEL : 052-955-2134 / FAX : 052-951-8889
URL : <http://chubu.env.go.jp>

作成： 中部環境パートナーシップオフィス
(運営受託：一般社団法人環境創造研究センター)
〒460-0003 名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル 4F
TEL : 052-218-8605 / FAX : 052-218-8606
URL : <http://www.epo-chubu.jp>